

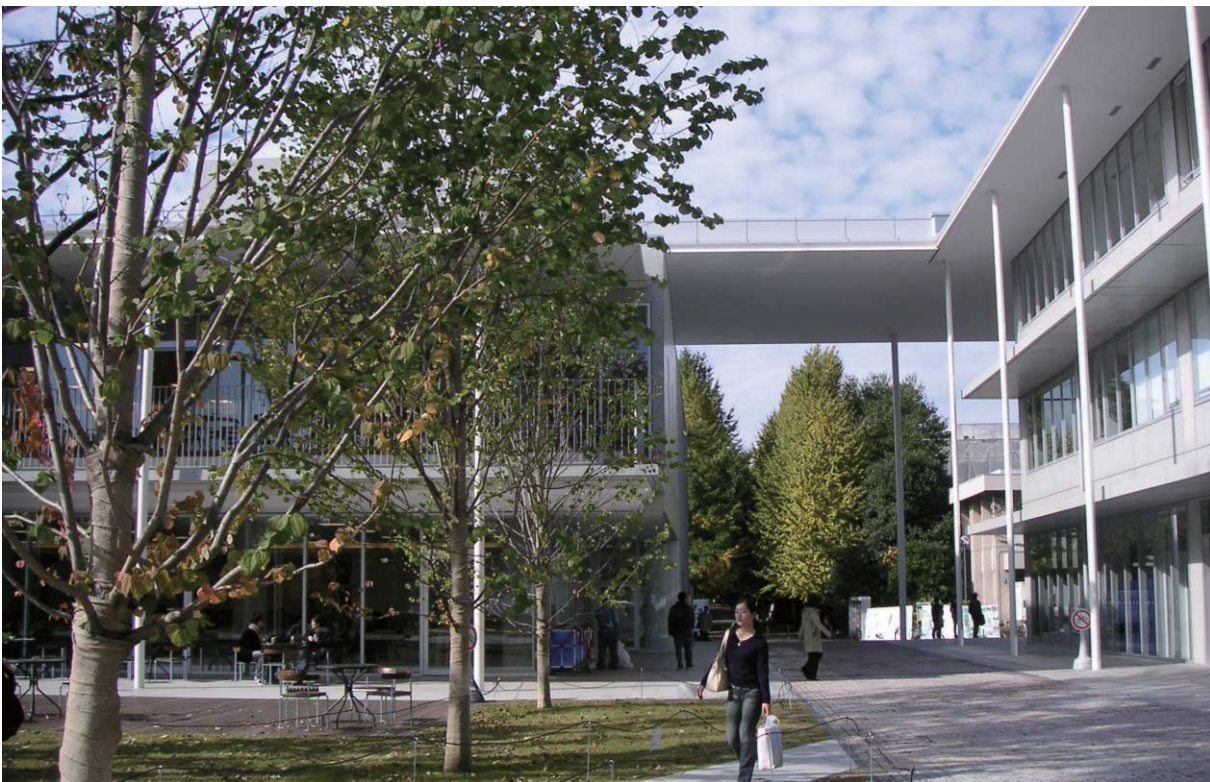


学内広報

No.1348

2006.12.7
東京大学広報委員会

2005年（第55回）学生生活実態調査の結果



駒場コミュニケーション・プラザ

まえがき

昨年度に実施された第55回学生生活実態調査の結果を、学内広報の場を借りてご報告します。第54回調査は大学院学生を対象としたものですから、学部学生を対象とした調査としては一昨年の第53回調査報告以来となります。

55回も調査を続けてきたといったことだけでなく、調査票を送る学生数の多さや、質問内容の多岐に渡る点など、本調査は大学として誇りうるものです。しかし、その反面、マンネリになる恐れもあります。それを避けるために、学生生活調査室は学生生活実態調査が直面している問題について議論を重ねています。その中で、学生生活実態調査の進むべき道のひとつとして、調査を大学運営に役立てるという観点をもっと追求するといったことが浮かび上がってきました。法人化した大学の中で、こうした調査をもとに学生に対するサービスの質が高まればと思います。報告書があまりに詳しくてかえって読まれないのではないかと。そうした心配もあります。それについても議論しています。

調査の結果については、本文をご一読していただくしかありませんが、大学院進学率が高まっている、学生の学習時間が増えているといった興味ある事実が多く書かれています。関係者の皆様のご参考になることを願っています。

調査の企画、実施、分析を担当された室員と学生部キャリアサポートグループのご努力に深く感謝いたします。小職も不十分ながら特殊分析（増える学習時間、減る睡眠時間）を担当して、数字の背後に懸命に生きる若者たちの姿を垣間見たように思います。皆様方がこうした調査を通じて学生諸君の生活にいっそう関心をもたれば幸いです。

東京大学学生生活委員会学生生活調査室室長 森 建資

目 次

調査の概要……………	2	第2部 学生生活の背景	
調査の結果……………	2	1 家庭の状況……………	20
第1部 学生生活の評価と将来の選択		2 生活費の状況……………	23
1 入学・進学・学業……………	5	3 通学・住居……………	26
2 就職……………	11	4 奨学金……………	27
3 不安・悩みについて……………	13	5 アルバイト……………	28
4 大学への要望……………	14	6 生活時間について……………	29
5 国際交流について……………	15	資料1 (集計表)……………	31
6 特殊分析……………	17	具体的記述 (抜粋)……………	97
		資料2 (調査票)……………	123
		学生生活委員会学生生活調査室	

調査の概要

1. 調査票の作成

2005年(平成17年)5月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2005年(平成17年)11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部・科類別無作為抽出法で、在籍者数の1/4を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する(自記式)方法。

5. 調査の内容

I. 基本的事項、II. 入学・進学・学業、III. 就職、IV. 不安・悩み、V. 大学への要望、VI. 国際交流、VII. 家庭の状況、VIII. 生活費の状況、IX. 通学・住居、X. 奨学金、XI. アルバイト、XII. 生活時間、XIII. 具体的記述

調査の結果

今回は、2003年(第53回)と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。

集計結果の分析に当たっては、学部学科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。

グラフと表について

1. 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1971年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表1」に1971年以降の調査の実施状況を表示した。
2. 本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100%に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
3. 各表の2005年の集計結果は、太枠で示してある。

表1 学生生活実態調査実施状況一覧表

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
第21回	1971年12月	学部男子	1/4・1/15	797人	67.3%	郵送自記式
第22回	1972年11月	学部男子・女子	男子 1/15 女子 1/5	648 107	68.2 78.5	〃
第23回	1973年12月	学部男子・女子	男子 1/15 女子 1/2	794 340	76.2 75.0	〃
第24回	1974年11月	学部男子	1/5～1/15	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学部男子	1/5～1/15	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学部男子	1/5～1/15	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学部女子	全数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大学院学生	男子 1/4 女子 全数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学部男子	1/5～1/15	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学部男子	1/5～1/15	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学部男子	1/5～1/15	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学部女子	全数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学部男子	1/5～1/15	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大学院学生	男子 1/2～1/4 女子 1/2 OM・OD 1/2	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大学院学生	男子 1/2～1/6 女子 1/2	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部男子・女子	男・女 1/10	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大学院学生	男・女 1/4 OM・OD 1/4	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部男子・女子	男・女 1/8	1,900	49.6	〃
第52回	2002年11月	学部男子・女子	男・女 1/4	3,749	37.2	〃
第53回	2003年11月	学部男子・女子	男・女 1/4	3,700	40.6	〃
第54回	2004年11月	大学院学生	男・女 1/4	2,539	40.6	〃
第55回	2005年11月	学部男子・女子	男・女 1/4	3,534	38.7	〃

(注1) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

(注2) 1971年調査で、抽出率に2つの数字が掲げられているのは、前者は医学部であり、後者は医学部を除く他の学部である。また、1974年以降の調査で抽出率に幅がある場合は、学部（大学院）の規模により、その数字の範囲内で抽出率をそれぞれ定めている。

表2 2005年(第55回)学生生活実態調査回収状況一覧

学 部	男 子				女 子				全 体			
	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率
男女別	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
教養学部(前期)	5,232	1304	525	40.3	1,249	312	171	54.8	6,481	1616	696	43.1
文科小計	1,896	472	193	40.9	754	188	108	57.4	2,650	660	301	45.6
文科一類	657	164	81	49.4	209	52	31	59.6	866	216	112	51.9
文科二類	646	161	52	32.3	116	29	16	55.2	762	190	68	35.8
文科三類	593	147	60	40.8	429	107	61	57.0	1,022	254	121	47.6
理科小計	3,336	832	332	39.9	495	124	63	50.8	3,831	956	395	41.3
理科一類	2,283	570	237	41.6	182	46	19	41.3	2,465	616	256	41.6
理科二類	897	223	83	37.2	285	71	39	54.9	1,182	294	122	41.5
理科三類	156	39	12	30.8	28	7	5	71.4	184	46	17	37.0
法 学 部	1,169	293	105	35.8	307	77	29	37.7	1,476	370	134	36.2
経 済 学 部	687	172	57	33.1	114	29	12	41.4	801	201	69	34.3
文 学 部	546	137	41	29.9	288	72	30	41.7	834	209	71	34.0
教 育 学 部	150	38	16	42.1	85	22	14	63.6	235	60	30	50.0
理 学 部	575	144	47	32.6	62	16	5	31.3	637	160	52	32.5
工 学 部	1,778	445	144	32.4	133	34	7	20.6	1,911	479	151	31.5
農 学 部	499	126	43	34.1	159	41	19	46.3	658	167	62	37.1
薬 学 部	107	27	14	51.9	69	17	4	23.5	176	44	18	40.9
医 学 部	387	97	33	34.0	94	24	14	58.3	481	121	47	38.8
教養学部(後期)	294	74	25	33.8	132	33	12	36.4	426	107	37	34.6
合 計	11,424	2,857	1,050	36.8	2,692	677	317	46.8	14,116	3,534	1,367	38.7
2003年(第53回)調査	12,128	3,035	1,142	37.6	2,625	665	359	54.0	14,753	3,700	1,501	40.6

注) 「在籍者数」は2005年(平成17年)8月1日現在の学生数(休学者、留学者、外国人留学生を除く)である。

第1部 学生生活の評価と将来の選択

1-1. 入学・進学・学業

1-1-1. 入学について

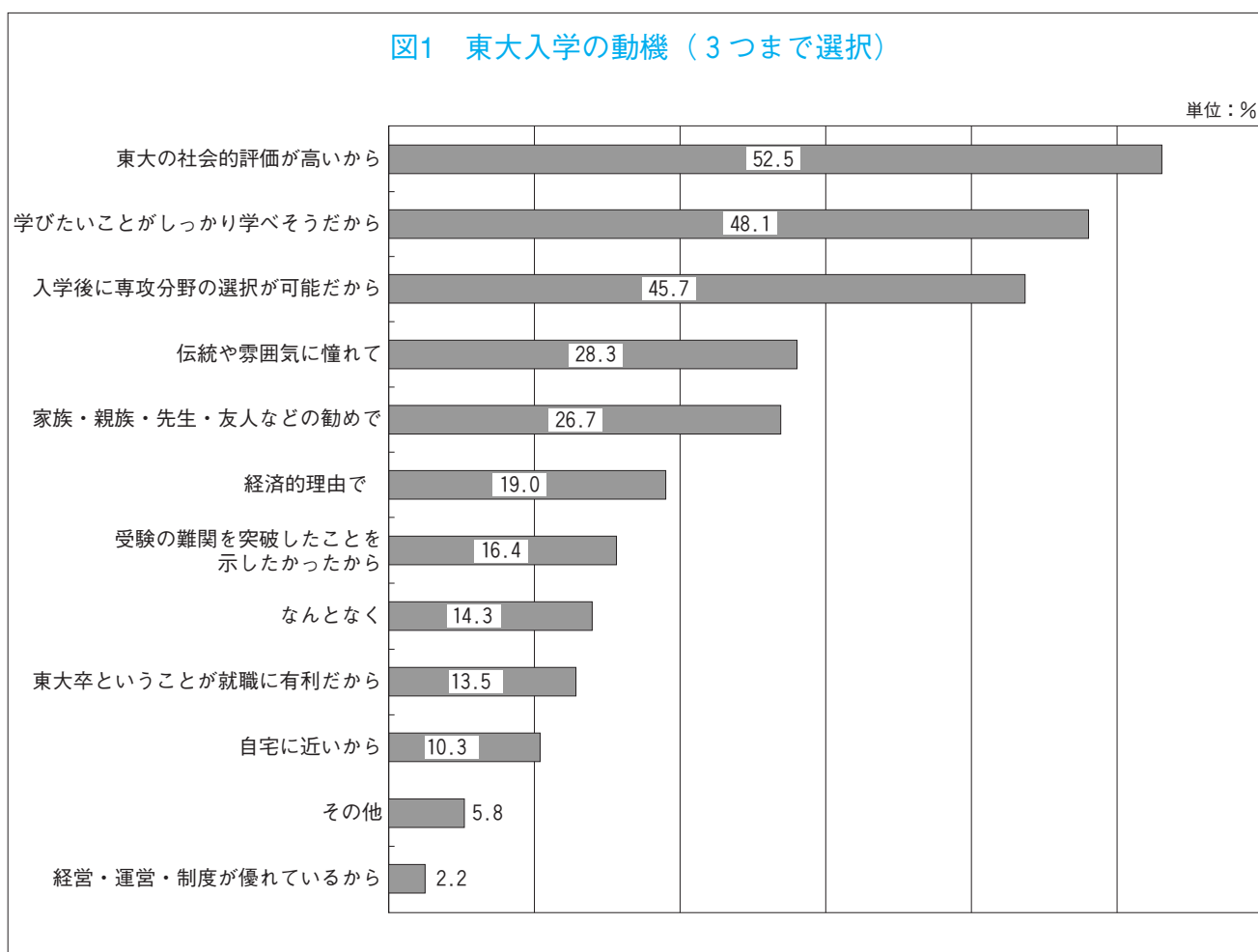
入学の希望は「東大にどうしても入りたかった」59.0%
入学の動機は「東大の社会的評価が高いから」52.5%、「学びたいことが
しっかり学べそうだから」48.1%
入学時に進学希望学部を決めていたのは61.7%

「東大に入学することをどの程度希望していましたか」の問では、「東大にどうしても入りたかった」という回答は、男子が60.8%で女子の53.3%を7.5ポイント上回り、「東大がダメなら他大学でもよいと思った」という回答は、女子が44.1%で男子の36.9%を7.2ポイント上回った。また、「どうしても入りたかった」という回答は、わずかな差ではあるが、男女共に文科系の方が理科系より高い割合となっている（資料1-I-1表）。

「東大入学の動機」については、選択肢の見直しを行い、「東大の社会的評価が高いから」52.5%、新たな選択肢の「学びたいことがしっかり学べそうだから」48.1%、「入学後に専攻分野の選択が可能だから」45.7%が上位となっている。しかし、女子では、「入学後に専攻分野の選択が可能だから」49.2%、「学びたいことがしっかり学べそうだから」47.3%、「東大の社会的評価が高いから」45.4%と順位が逆転している（図1、資料1-I-2表）。

「入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか」の問いに対しては、「学科等まで決めていた」27.0%、「学部のみを決めていた」34.7%、「学部学科等は決めていなかった」38.3%となっている。学部あるいは学科等まで「決めていた」学生は、文科系では73.2%で、理科系の51.8%より21.4ポイント多く、前回（2003年）調査の2倍になっている（資料1-I-3表）。

図1 東大入学の動機（3つまで選択）



1-1-2. 進学について

「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは93.7%
在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」している学生は73.0%
進学振分け制度「現行のままでよい」は38.0%

「学部・学科等の選択に際してどのような点を重視しましたか」の問いに対しては、七つの選択肢の中から二つを選ばせた。「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答が81.1%で、次に続く「就きたい職業に必要な能力を磨けること」31.8%、「社会に役立つ度合いの大きい分野であること」22.8%等の回答を大きく引き離しているのが注目される（資料1-I-4表）。

また、「最先端の学問が学べること」という回答は、男子理科系では28.3%であるのに対し、男子文科系では5.9%と極めて低い割合であり、女子でも同様の傾向がある。文科二類ではさらに低割合で2.9%しかない。後期課程文科でも軒並み低割合である。前期課程文科でも同様の傾向がある。これに対し理科系では、前期課程でも後期課程でも、医学部の8.5%、農学部の17.7%以外は概ね20%以上の水準にある。

この結果と関連するであろうが、「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答も、文科一・二類やその上の法学部・経済学部では60%台・50%台の割合であるのに対し、文科三類や理科一・二類とその上の専門学部では70%台から100%の高い割合である。

「その学部・学科等の教員に魅力を感じる」という回答は、全体では13.2%の低割合であるが、前期課程では文科三類の27.0%が際立って高く、他は概ね20%以下の水準である。後期課程でも、文科三類の上の教養学部文系が52.2%と高い水準にある。理系では、教養学部理系の28.6%が目立つが、他は10%以下の水準であって、理科三類では0%であるが目立つ。

「社会に役立つ度合いの大きい分野であること」という回答は、全体では22.8%で、学部間・男女間の相違は目立たないが、法学部・経済学部・薬学部・医学部で30数%の比較的高い割合であるのに対して理学部で2.0%、文学部で2.8%と際立って低割合なのが目立つ。

「就きたい職業に必要な能力を磨けること」という回答は、全体では31.8%であるが、文科一類・理科三類とその上の法学部・医学部で40%以上の高い割合であるが目立つ。

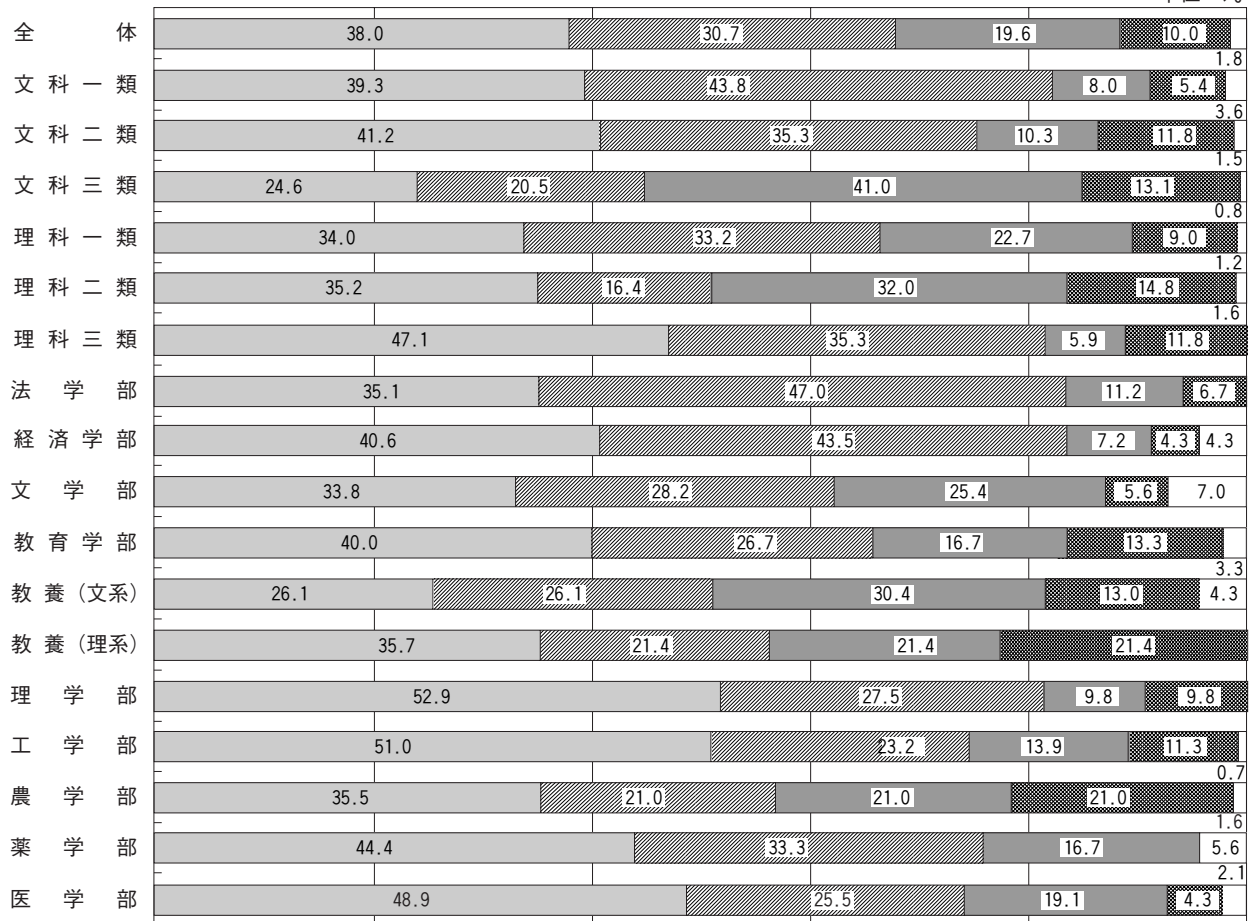
「進学の決定（内定）について」の問いでは、「希望通り決定した」「ほぼ希望通り決定した」「希望通りでなかった」の三つの選択肢から一つを選ばせたが、「希望通り決定した」81.2%と「ほぼ希望通り決定した」12.5%を合わせると、総じて希望通り進学したと回答した学生が93.7%に達した。「希望通りでなかった」という回答は、全体では4.4%であるが、理科二類の19.2%と農学部の19.4%が高い割合が目立つ（資料1-I-5表）。

「現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか」の問に対しては、「満足している」が36.1%、「まあ満足している」が36.9%で、これらを合わせると73.0%となり、総じて満足している学生が、94年調査以降70%前後の水準を保っている。男女間・文理系間の相違は目立たない（資料1-I-6表）。

「進学振分け制度についてどのように考えていますか」の問に対しては、前回（2003年）調査では、「現行のままでよい」が36.1%で、「特にない」12.0%を合わせても48.1%で、半数に近い学生が何らかの変更を希望していたが、今回は、「現行のままでよい」が38.0%で、「特に考えていることはない」30.7%で合わせると68.7%で20.6ポイント増加した（図2、資料1-I-7表）。

図2 進学振分け制度についての要望

単位：%



- 現行のままでよい
- 点数だけでない選択方法も取り入れてほしい
- 無回答
- 特にない
- 入学時からある程度進路が決まっていた方がよい

1-1-3. カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は55.3%
カリキュラムの消化が「できる・まあまあできる」は79.1%

「現在のカリキュラムに満足しているか」の問いに対しては、「総じて満足」55.3%が「総じて不満」24.6%を上回っている。90年調査では「不満」が20ポイント程上回ったが、94年調査以降は逆転し、次第に「満足」が多くなった。前回（2003年）調査ではその差が16.2ポイント、今回の調査ではその差はさらに広がり30.7ポイントになった。「総じて満足」が理科三類で76.4%と高いこと、「総じて不満」が理科二類で33.6%の高い割合であること、「不満」が教育学部、法学部で10%程度であるのに対し経済学部、文学部で1.4%であることなどが目立つ（図3-1、資料1-I-8表）。

「カリキュラムは消化できるか」の問いに対しては、「総じてできる」と回答した学生は79.1%になり、前回調査より1.3ポイント上がり、84年調査以降でもっとも高い割合となっている。他方、カリキュラムの消化に困難を感じる学生は20.4%で、前回調査より0.6ポイント下がり、84年調査以降でもっとも低い割合となっている。「多少困難」という回答が薬学部で33.3%の高い割合なのが目立つ（図3-2、資料1-I-9表）。

「カリキュラムの消化が総じて困難な理由」については、前回調査と同様に「講義の内容が高度すぎて理解できない科目がある」53.6%が第一位で、これに「授業への自分の意欲や努力が足りない」46.8%、「授業の予習と復習の時間が十分とれない」41.4%、「教育上の指導助言が十分でない」33.6%が続き同順となっている（資料1-I-10表）。

図3-1 現在のカリキュラムに満足していますか

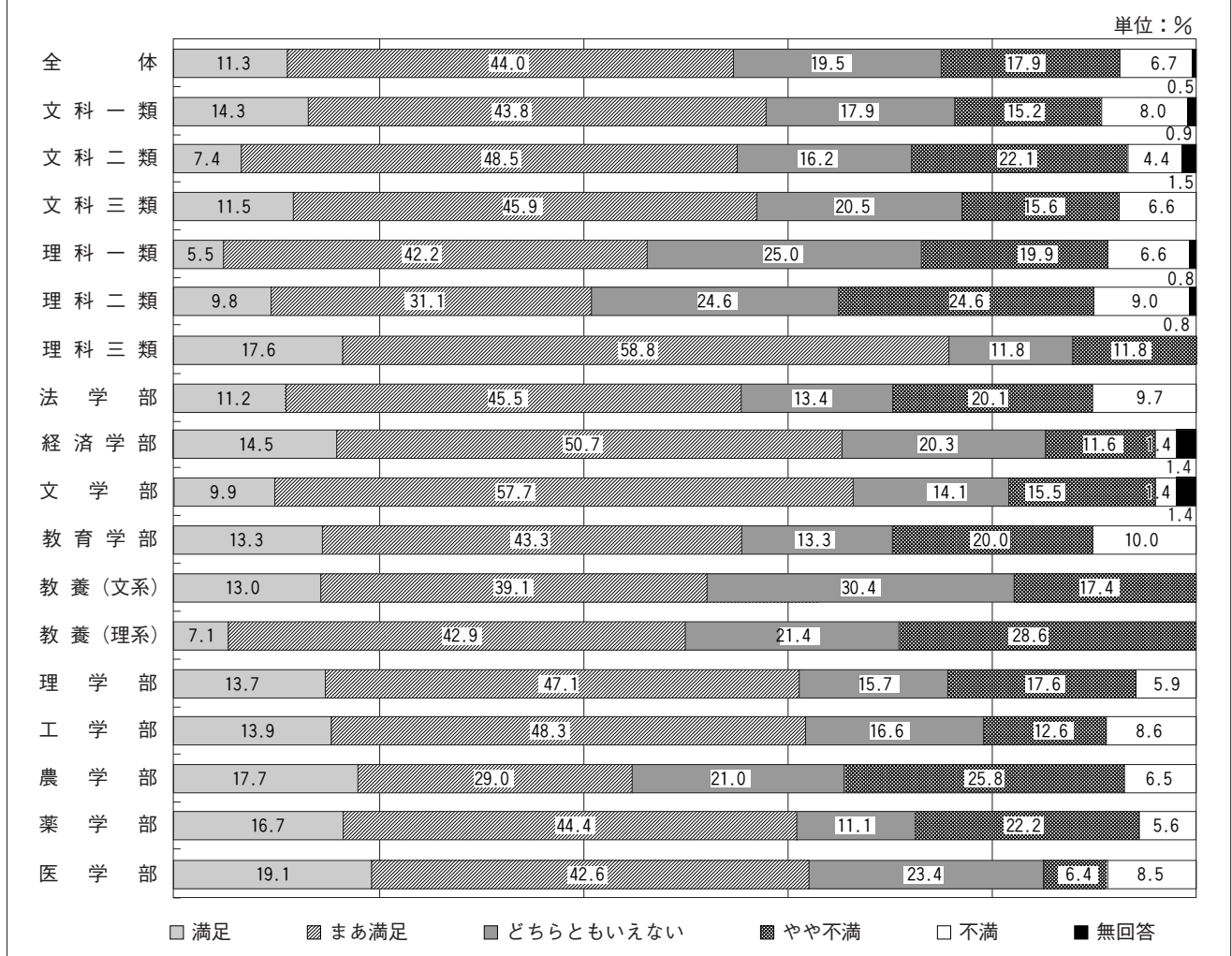
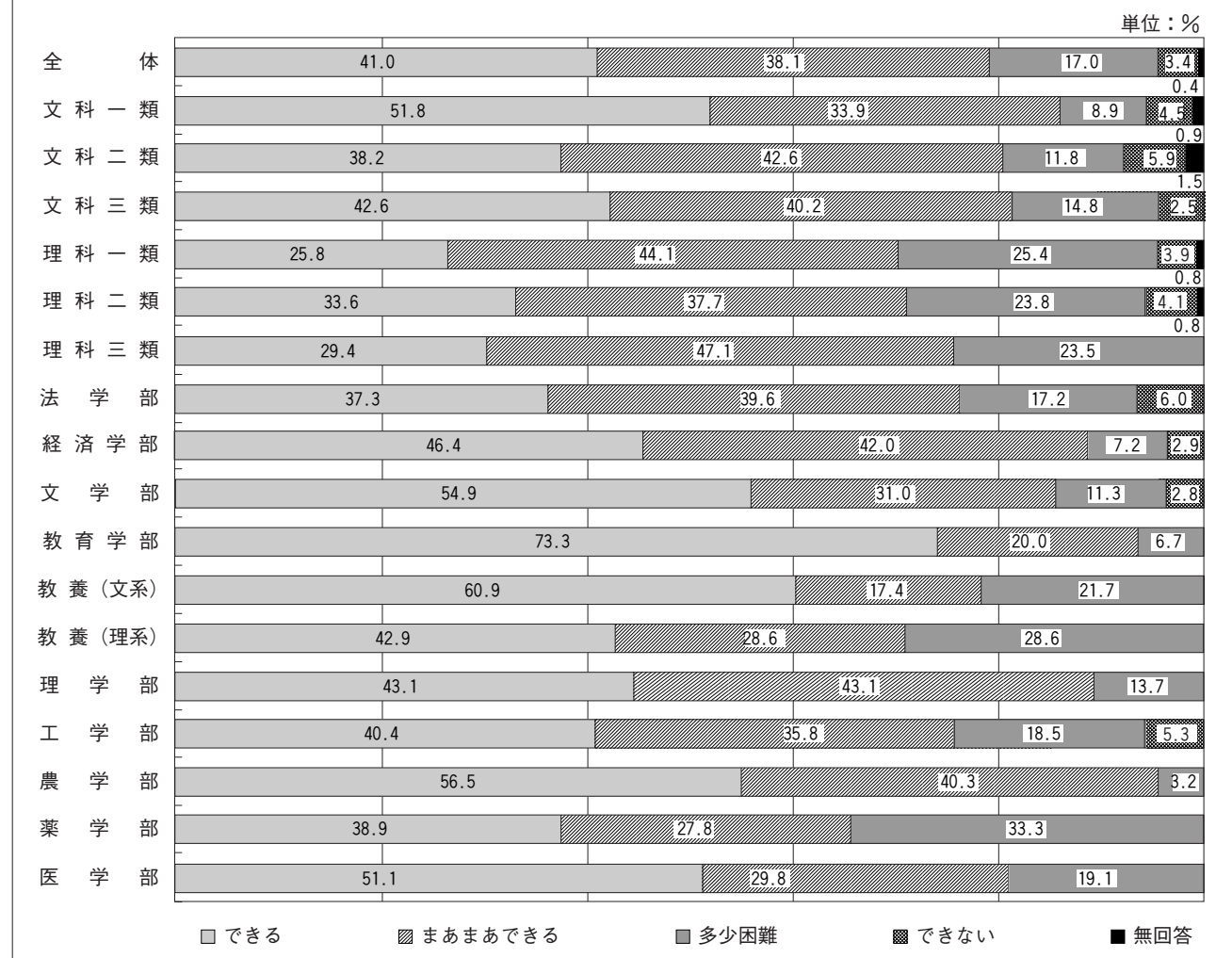


図3-2 現在のカリキュラムは消化できますか



1-1-4. 学部卒業後の進路等について

文科系は就職希望者が5割、理科系では大学院進学希望者が5割を超える
 大学院進学希望者では、文科系、理科系共に博士課程までが約3割、理科系は修士課程までが6割を超える
 主な大学院進学の理由第1位は、「より高度の知識・技術を身に付けるため」で69.6%

「学部卒業後、どのような進路を予定しているか」については「大学院に進学する」50.5%、「就職する」31.1%、「まだ決めていない」15.1%で、前回調査より「学士入学をする」を含めた「進学する」が4.9ポイント、「就職する」が3.3ポイント増加し、「まだ決めていない」が8.6ポイント減少している。文科系と理科系の比較では、「進学する」は理科系69.1%に対し文科系28.6%、「就職する」は文科系50.2%に対し理科系14.8%と、割合が逆転している（図4、資料1-I-1-1表）。

「学部卒業後の進学予定者の進学予定」については、「大学院修士課程」までが61.7%、「大学院博士課程」までが29.6%となっており、文科系、理科系ともに同様な傾向にある（資料1-I-1-2表）。

「大学院に進学する理由」については、二つまでを選択させたが、「より高度の知識・技術を身に付けるため」が69.6%で最も多く、「良い就職先を得るため」16.1%、「大学外で研究職に就くため」14.6%、「大学の教育職に就くため」14.1%と続き、前回調査と同順位となっている。「大学の教育職に就くため」が文科系男子に多く、「まだ社会に出たくないから」が後期課程の男女に多いのが目立つ（図5、資料1-I-1-3表）。

図4 学部卒業後の進路

単位：%

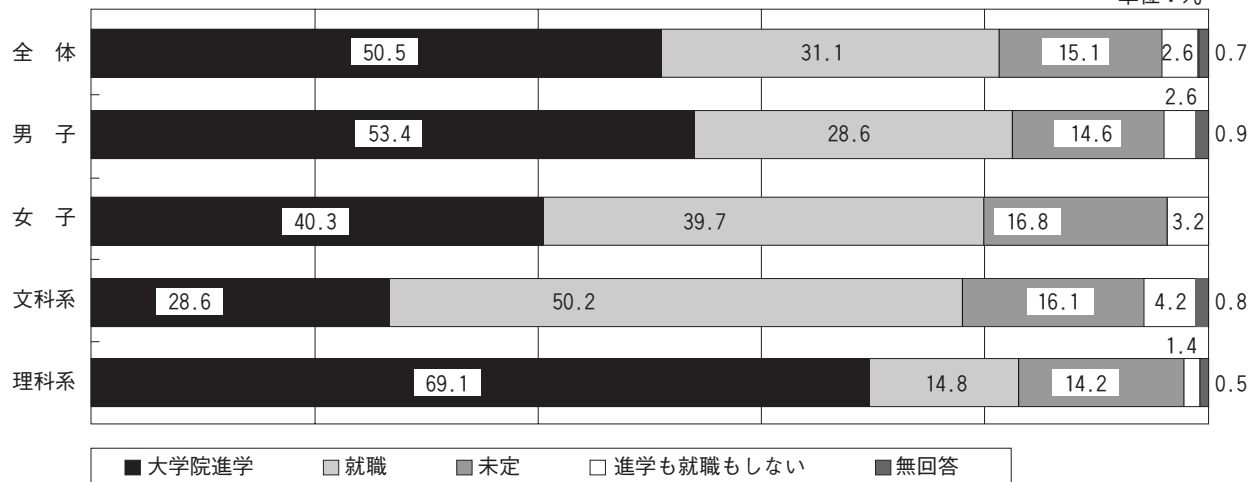
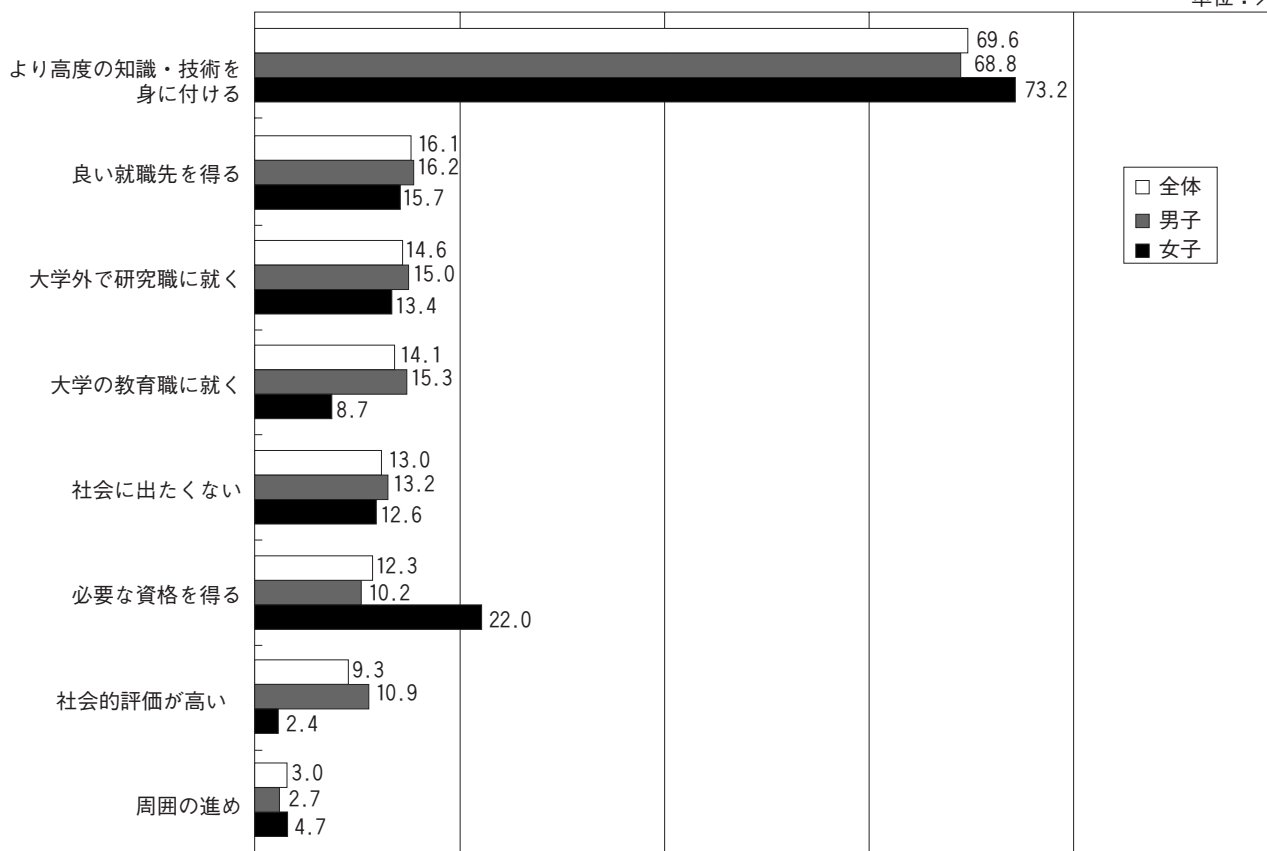


図5 大学院進学理由の上位（2つまで選択）

単位：%



1-2. 就職

希望職種は「大学・公的機関の教育・研究職」41.1%
 希望職種に就きたい理由は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」63.2%
 仕事や職場を選ぶ際に重視することは「やりがいがある」70.6%

どのような職業に就きたいかの問は、前回(2005年)調査と同様「大学・公的機関の教育・研究職」が41.1%で最も多く、これに「企業等の研究職」39.2%が続いている。また、「教育・研究職」を除くと、「専門職（医師、法曹、公認会計士等）」が33.5%、「行政職（公務員）」が31.6%が続いている。特に理科系は「企業等の研究職」を望む学生が男子64.3%、女子54.9%、「大学・公的機関の教育・研究職」を望む男子が54.4%、女子50.4%と文科系よりかなり多いが、文科系は男子が「専門職」49.9%を、女子が「専門職」42.1%、「行政職（公務員）」41.6%と理科系よりかなり多い。理科系では第1位、第2位とも「企業等の研究職」、「大学・公的機関の教育・研究職」と研究職志向が高い。文科系では「専門職」「行政職（公務員）」への志向が高くなっている（図6-1～2、資料1-II-1表）。

その職業に就きたい理由も前回調査と同順で、「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が63.2%で最も多く、「人を助けたり社会に奉仕する」42.4%、「独創性や創造性を発揮できる」31.2%、「安定した生活が保証されている」30.7%がそれに続いている。職種の希望で文系・理系の差が大きかったのに比べ、ここでは両者の差が小さいことが特徴である（資料1-II-2表）。

仕事や職場を選ぶ際に重視するものも前回調査と同順で、「やりがいがある」が70.6%で7割を超え、「能力が発揮できる」39.1%、「給料がよい」36.4%、「技術や知識を身につけられる」22.2%と続いている（資料1-II-3表）。

新たな設問の就職活動をしたことがありますかの問いは、「ある」と回答した学生が全体では19.9%と2割を切ったが、後期課程では女子が47.9%、男子が37.2%となっている（資料1-II-4表）。

就職活動としては、「インターネット等で、情報を収集する」95.6%、「企業等のセミナーや説明会に参加する」86.8%が他の選択肢を大きく離している。また、前回調査との比較でも、「インターネット等で、情報を収集する」が50.5ポイント、「企業等のセミナーや説明会に参加する」が64.3ポイントの大幅増となっている（資料1-II-5表）。

就職する場所としては、前回調査と同様に「東京圏（東京近郊）を希望する」が54.0%と過半数を超え、前回は0.2ポイント上回った。男女別では、男子の51.4%に対して女子が62.5%で6割を超えている（資料1-II-6表）。

ニート、フリーターの評価は、「本人に責任がある」46.4%が2位の「社会に責任がある」35.0%を11.4ポイント離している（資料1-II-7表）。

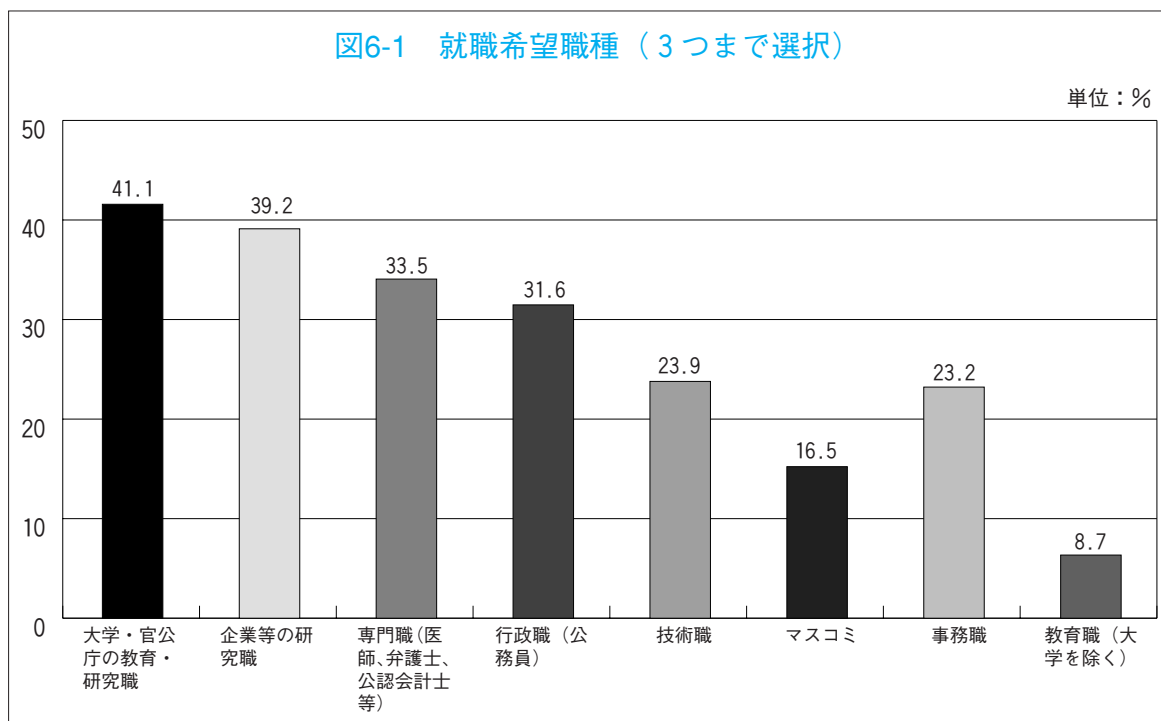
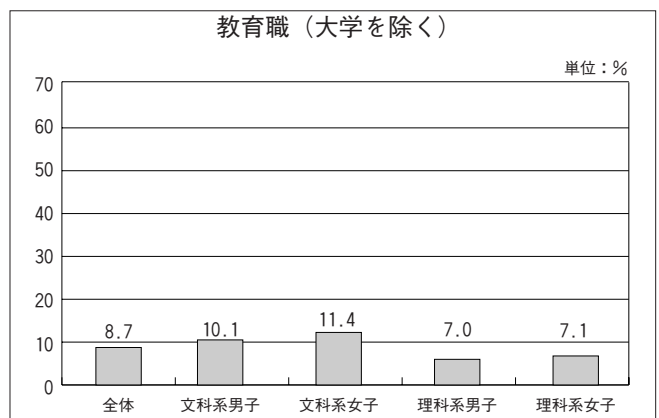
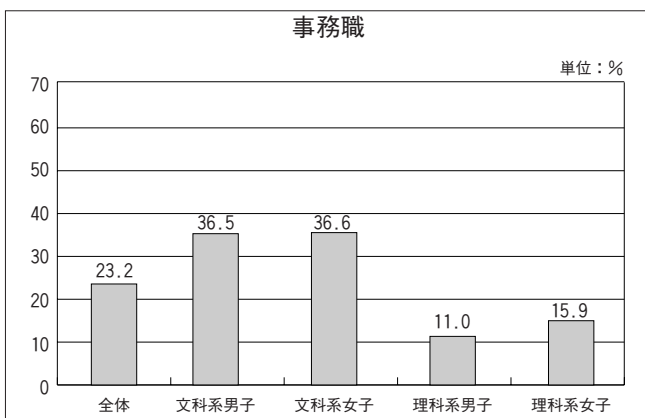
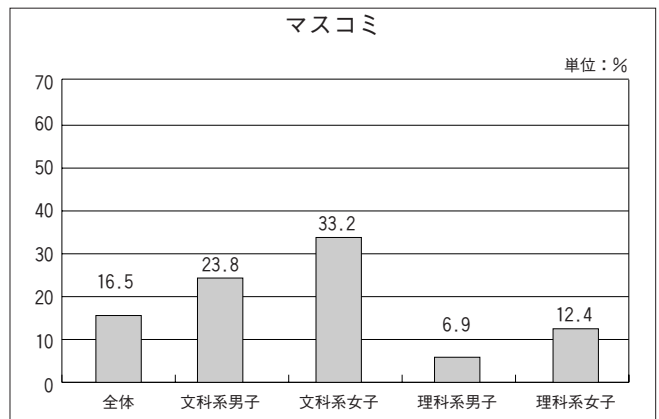
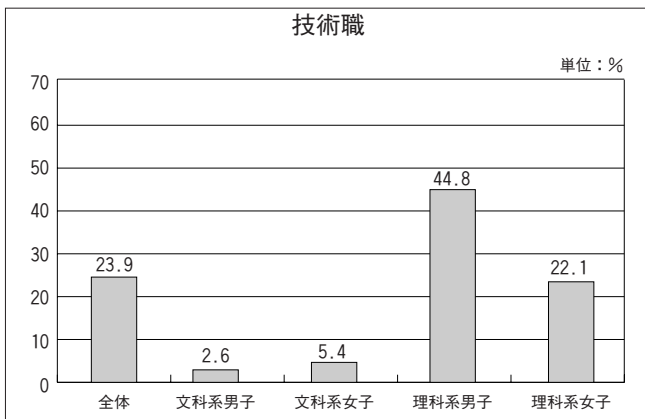
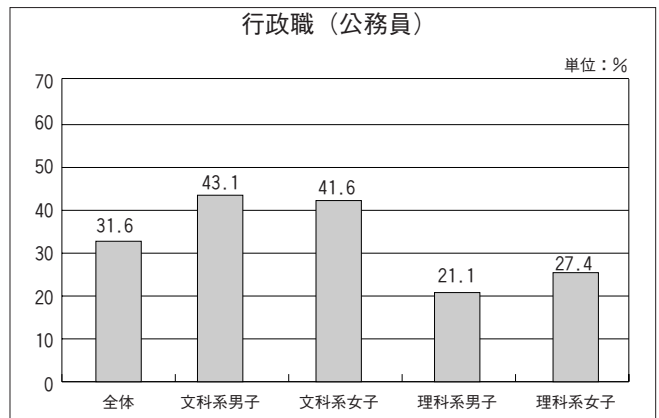
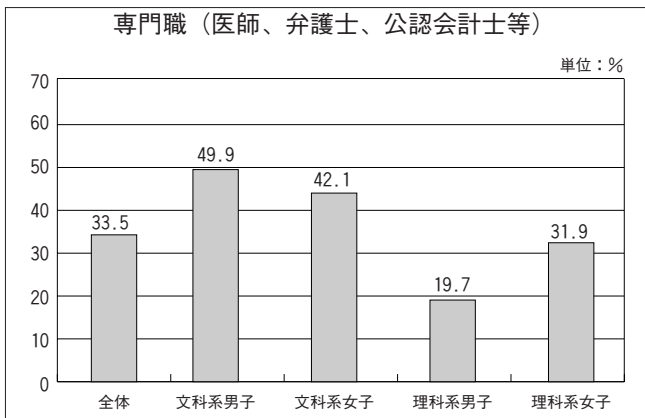
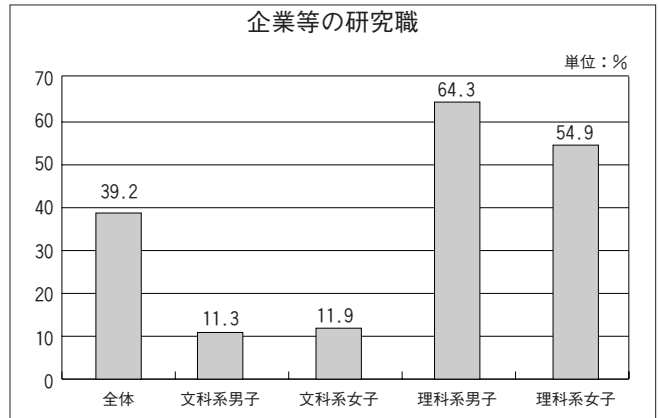
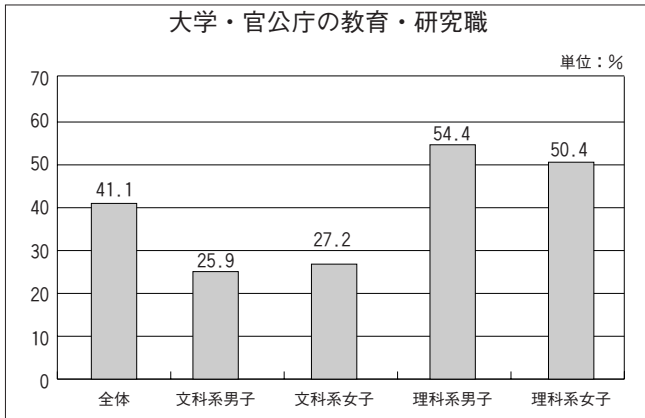


図6-2 就職希望職種（職種別内訳）



1-3. 不安・悩み

「将来の進路や生き方」に83.3%の学生が悩みや不安を感じている
 「よく相談する」相談相手は、大学外の友人、恋人、父母
 「就職指導や進路相談の機能を充実させる」を68.2%の学生がそう思っている

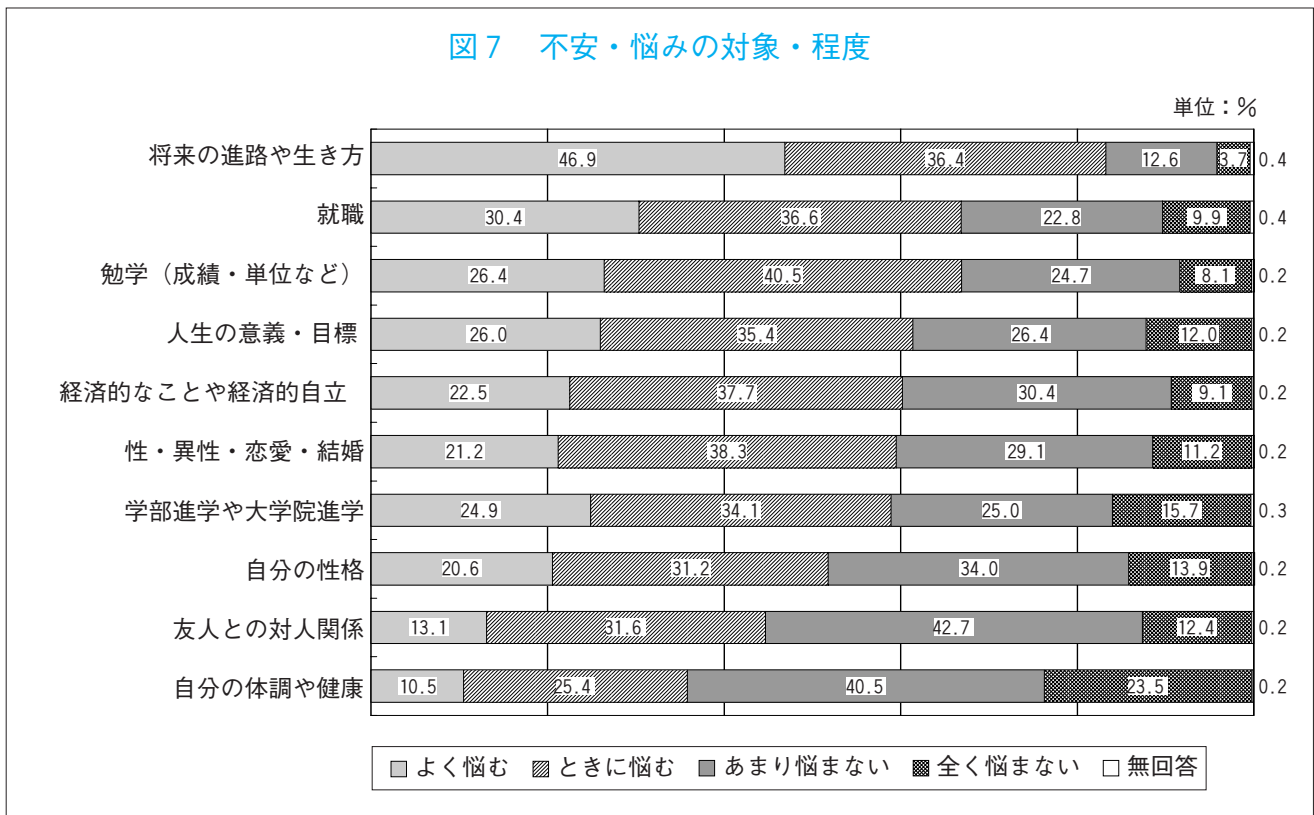
学生生活の中で、悩みや不安を感じたりしているものとして、「よく悩む」と答えたものをみると、「将来の進路や生き方」が46.9%で最も多く、「就職」30.4%、「人生の意義・目標」26.0%、「性・異性・恋愛・結婚」21.2%と続き、「ときに悩む」を加えると実に83.3%学生が「将来の進路や生き方」に悩んでいることになっている。また、「よく悩む」「ときに悩む」と答えた学生の男女の比較では、全ての項目で女子が上回っている。特に、「就職」については、9.0ポイント上回っている（図7、資料1-III-1表）。

不安や悩みの相談相手では、「よく相談する」相手は、「恋人」が15.5%と1位で、「大学内のサークルや団体の友人」が15.3%、「父・母」14.9%、「大学外の友人」が14.0%、と続き、「大学の教職員」は0.2%で最下位となっている。また、「ときどき相談する」「たまに相談する」と答えた学生を合わせると、「父・母」78.2%、「大学外の友人」73.4%、「大学内の同じ学科や研究室の友人」70.6%、「大学内のサークルや団体の友人」68.9%と続くが、「恋人」については、恋人がいない学生は答えようがないので43.0%と順位を下げている（資料1-III-2表）。

最近6ヶ月の間に、体験したり悩んだりしたこととしては、「よく体験する」「ときに体験する」と答えた学生を合わせると、「強い不安に襲われた」51.5%、「気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった」43.3%、「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」39.3%が上位となっている（資料1-III-3表）。

悩みや不安を解消するための大学の対応として「全くそう思う」「まあそう思う」と答えた学生を合わせると、「就職指導や進路相談の機能を充実させる」68.2%、「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する」67.1%、「学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる」64.7%、「健康相談や保健センターの機能を充実させる」50.8%が50%を超えている（資料1-III-4表）。

図7 不安・悩みの対象・程度



1-4. 大学への要望

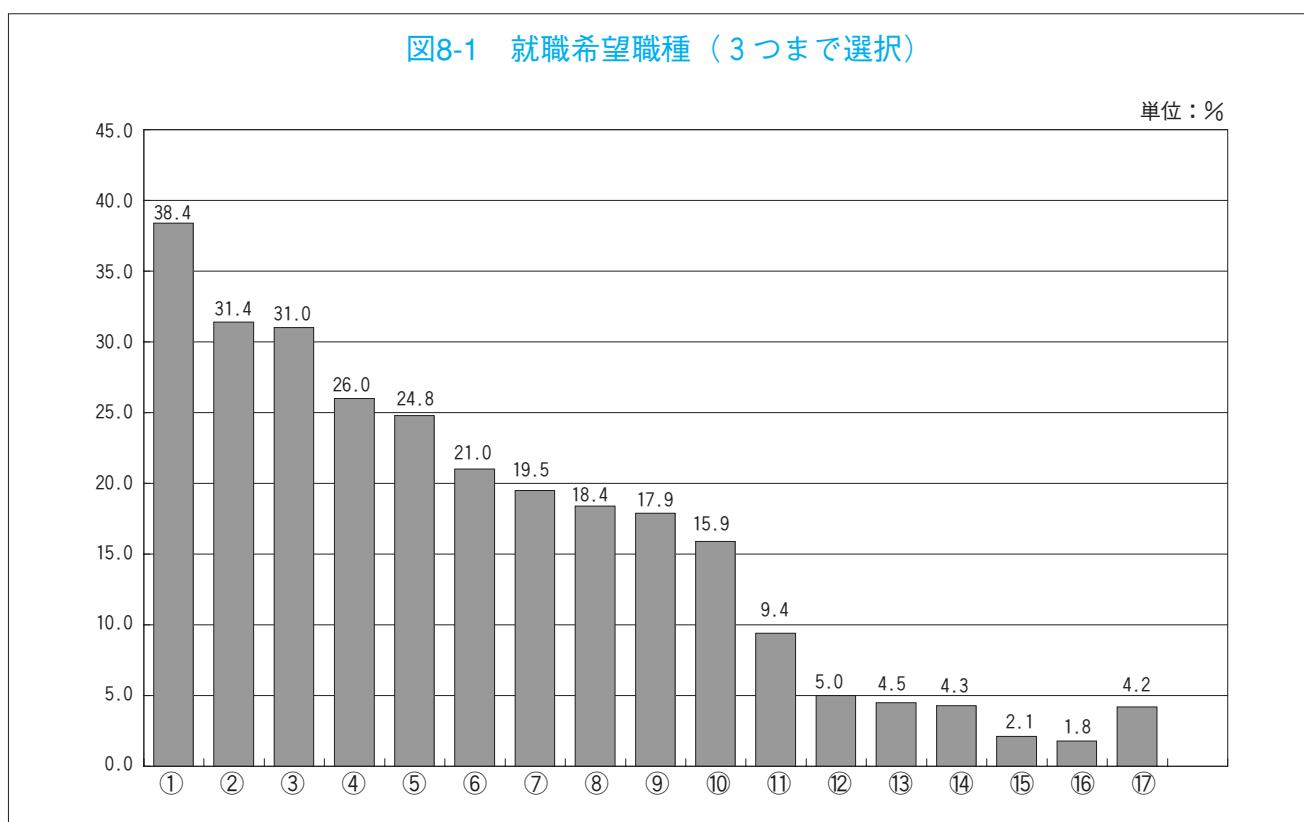
「授業の方法の工夫・改善」が第1位、「カリキュラムの改革」が第2位
 「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」「教室の充実」「就職対策の充実」「図書館の充実」が続く

大学への要望や期待することは、第1位に限って比較すると、「授業の方法の工夫・改善」が38.4%で前回（2003年）調査同様最も多く、次いで「カリキュラムの改革」31.4%、「奨学金・育英貸付金などの拡充や増額」31.0%、「教室の充実」26.0%、「就職対策の充実」24.8%、「図書館の充実」21.0%が上位で20%以上を示している。

学部・科類別の第1位の要望項目は、文科一類・文科二類・理科一類・理科三類・経済学部・工学部・農学部が「授業の方法の工夫・改善」を、文科三類・理科二類・教養学部（理系）が「進学振分け制度の改善」を、法学部が「小人数教育の実施」を、文学部・教養学部（文系）が「図書館の充実」を、教育学部が「就職対策の充実」を、教養学部（文系）（上記と同率）・医学部が「カリキュラムの改革」を、教養学部（文系）（上記と同率）・教養学部（理系）（上記と同率）・理学部・薬学部が「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」をそれぞれ第1位に挙げている（図8、資料1-IV-1表）。

大学の社会的貢献を促進または国際化を推進するための関連する事項は、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を総じてみると、社会的貢献を促進するための事項は、「基礎研究を充実させる」84.5%、「産学協同をより推進する」79.2%が上位となっている。また、研究の国際化を推進するための事項では、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせると、全4項目が8割を超えた。特に、「研究者の交流をより積極的に進める」94.1%、「国際共同研究をより推奨する」及び「外国へ留学する機会をもっと拡大する」が90.6%と9割を超える結果となっている（資料1-IV-2表）。

図8-1 就職希望職種（3つまで選択）



- ①授業の方法の工夫・改善 ②カリキュラムの改革 ③奨学金等の拡充や増額 ④教室の充実
- ⑤就職対策の充実 ⑥図書館の充実 ⑦小人数教育の充実 ⑧単位認定や学年試験を厳しく
- ⑨進学振り分け制度の改善 ⑩教育スタッフの充実 ⑪実験室や実習室の充実 ⑫カウンセリング・相談体制の充実
- ⑬単位認定や学年試験を厳しく ⑭キャンパスの拡大・移転・統合 ⑮学生自治の尊重 ⑯学生自治に対する適切な助成と助言
- ⑰その他

1-5. 国際交流について

「海外旅行」が56.3%
「外国人留学生の友人がいる（いた）」女子が54.0%
「異文化理解・国際交流を目的とした授業にでたことがある」が20.8%
外資系企業等への就職については、「希望する」が37.1%
「留学したい」「どちらかといえば留学したい」が65.7%

この項目は、学生の国際交流に対する関心度を探るため第38回（1988年）調査に設け、第41回（1991年）調査、第46回（1996年）調査に引き続き、4回目を数える。今回の調査では、前回行った「海外渡航の経験」「外国人とのつきあい」に加え、「国際交流の経験」「外資系企業等への就職」「海外留学の希望」の項目を追加した。

まず、海外渡航の経験については、「海外旅行」がもっとも多く（56.3%）、次いで「ホームステイ」（17.8%）、「家族の海外赴任に同行」（11.4%）の順となっている（図9、資料1-V-1表）。

外国人とのつきあいでは、「外国人留学生の友人がいる（いた）」がもっとも多く（43.0%）、次に「手紙、電子メール、電話などで連絡をとりあう外国人がいる（いた）」（24.4%）、「留学生以外に外国人の友人がいる（いた）」（21.0%）となっている。とくに女子では、それぞれ54.0%、36.8%、28.3%と際立って高い。また、前回の調査と比較すると、「外国人留学生の友人がいる（いた）」は28.9%から43.0%に、「手紙、電子メール、電話などで連絡をとりあう外国人がいる（いた）」は8.9%から24.4%に大幅な増加となっている。「留学生以外に外国人の友人がいる（いた）」が、前回21.7%、今回21.0%と横這いであることを考えると、主として大学内での学生個人間の国際交流がここ数年で盛んになってきているものの、あくまで学内での交流に限定されていることが推測される（資料1-V-2表）。

国際交流の経験については、「異文化理解、国際交流を目的とした授業にでたことがある」が20.8%ともっとも多く、「異文化理解、国際交流を目的とするサークルなどに加入している（いた）」（5.3%）、「国際ボランティア活動、NGO・NPO活動に参加したことがある」（4.8%）は低い割合にとどまっており、無回答が69.6%と大半を占めている（資料1-V-3表）。留学生との個人間の交流は広がっているとしても、学外活動にもつながる形で実際に国際交流を行うまでには至っていないということであろう。そのための機会や情報の不足も考えられる。

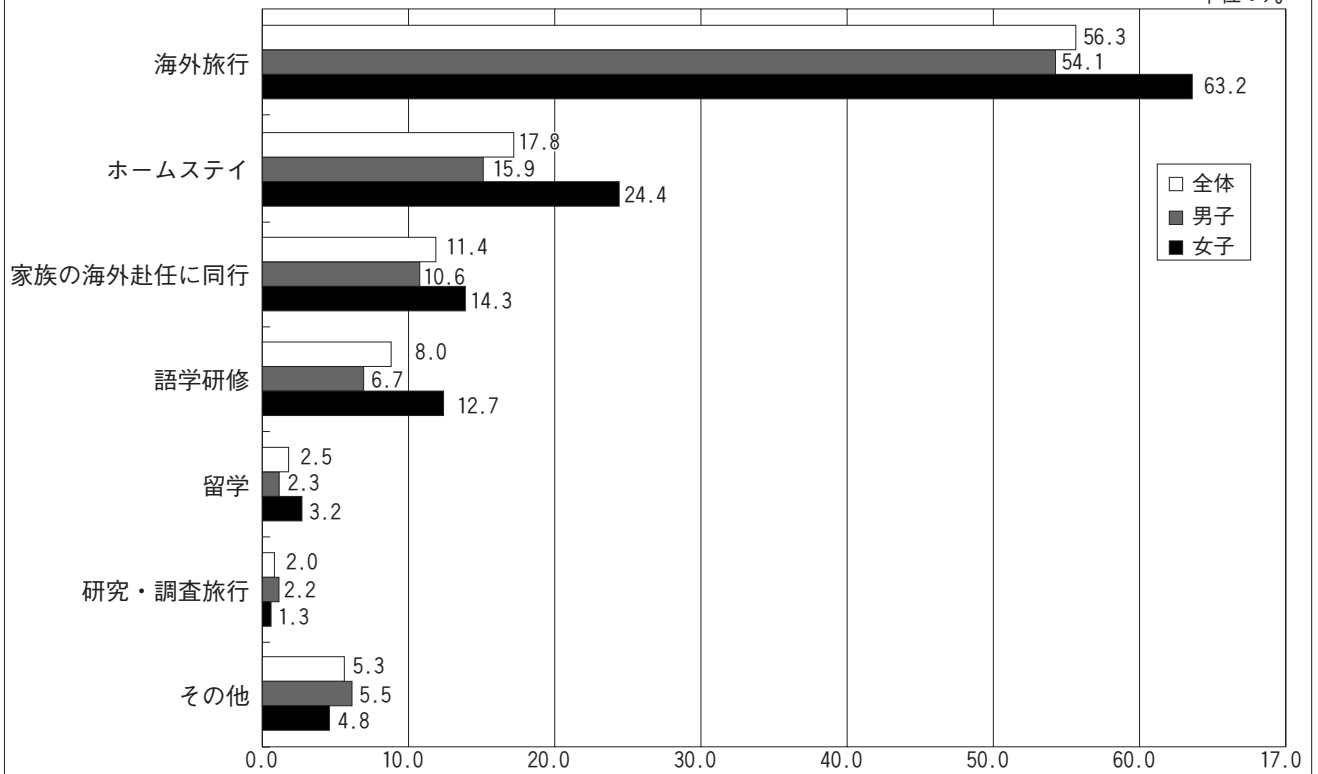
外資系企業等への就職については、「希望する」が37.1%、「希望しない」61.8%となっている。男女差が大きく、男子では「希望する」が34.7%に対し、女子では45.1%と大きな開きがある（資料1-V-4表）。この傾向は文系、理系にかかわらず同様である。雇用慣行の違い、女子社員への待遇の違いなどが背景にあると推測されるが、その理由についてはさらなる調査が必要である。

海外留学については、「留学したい」「どちらかといえば留学したい」が65.7%を占め、男子（63.4%）よりも女子（73.3%）の方が、理科系（61.9%）よりも文科系（70.2%）の学生の方が留学を希望する割合が高い（資料1-V-5表）。

また、留学の時期については、「就職後」（36.4%）がもっとも多く、次いで「大学院（修士課程）在籍中」（23.2%）、「学部（後期課程）在籍中」（15.4%）の順となっている（資料1-V-6表）。つまり、今すぐに行きたい・今計画中であるという学生よりも、何年かして学部卒業後にという学生が多い。漠然とした希望としては過半数の学生が将来の留学を望んでいるが、それをただちに現実化させようとしているわけではないように思われる。

図9 海外渡航の経験（3つまで選択）

単位：%



1-6. 特殊分析（増える学習時間、減る睡眠時間）

1-6-1. はじめに

生活時間は生活全体の活動にあてられる時間であり、一日24時間や週、月といった期間をとって、それぞれの活動にどれだけの時間があてられているのかを調べれば、生活がどのような構造をもっているのかが明らかになる。学生生活実態調査ではこれまで、一日24時間をどのように使っているかを尋ねてきた。勤労者の生活時間は、仕事、家事、睡眠、余暇活動などに分けられるが、学生は仕事の代わりに学習時間が大きな比重を占めている。そこに注目すれば、生活時間を学習時間とそれ以外に分けて、それぞれに起きた変化を明らかにすることを通して、学生生活の変貌の一端をとらえることが出来るのではない。

生活時間については、最近では1994年、1997年、2000年に調査が行われ、それぞれ翌年に結果が発表されている。今回の調査結果をみると、前回調査（2000年調査）に比べて、睡眠、食事・団らん、アルバイト、大学以外の教育機関での学習、課外活動の時間が減っており、それに対して大学での学習、自宅・図書館等での学習が増えている。また家事やインターネット・ゲームに費やす時間も増えている。大学での学習が14.2分、自宅・図書館等での学習が12.3分、あわせて26.5分も増えているのは注目すべきことであろう。寝食を削って勉学に励む、とまではいかななくても、それに近い傾向が看取される。

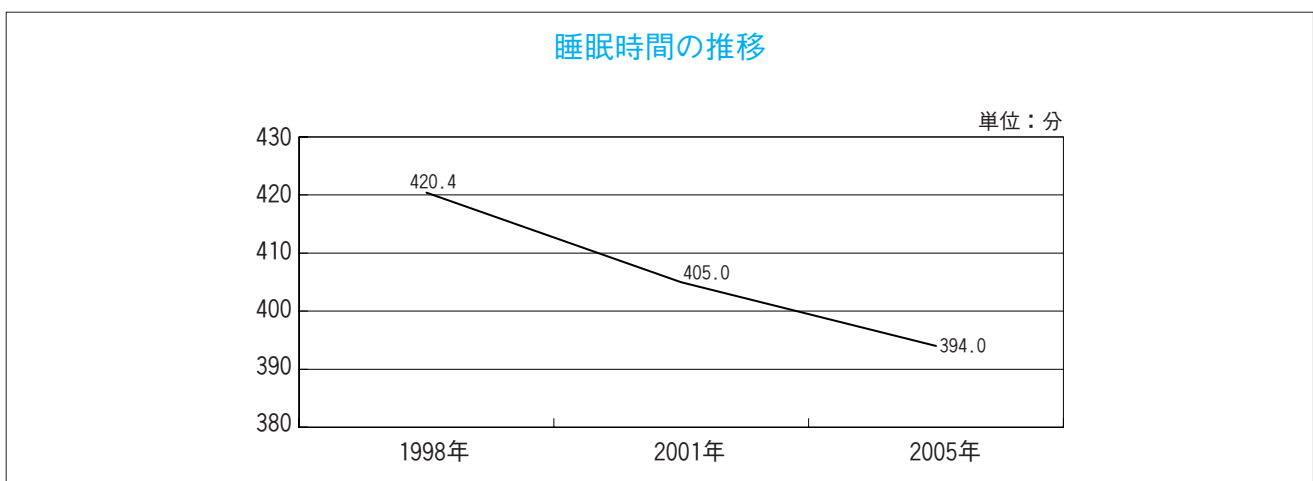
こうした傾向は前々回（1997年調査）まで視野に入れると一層顕著である。前々回の大学での学習時間は264.8分、前回は276.1分、今回は290.3分である。睡眠が前々回420.4分、前回405.2分で、今回394.8分である。前々回に比べて、睡眠が25.6分削られる一方、大学での学習は25.5分伸びている。

こうした結果を予想された読者も多いかもしれない。学生は（アンケートの数字を見る限り）以前にまして勉強に時間をさいているのである。まずは学習時間の延長を率直に歓迎する。しかし、睡眠を削って勉強に振り向けるといった単純なことではなさそうである。アンケートから読み取れる事実を踏まえて、学生の生活におきている変化をとらえてみたい。

ひとまず、調査項目を睡眠・食事といった生理的時間と調理や洗濯などの家事的な生活時間、学習時間、余暇時間（課外活動、電話からインターネット・ゲームまでの各項目）、アルバイト、通学時間に分けてみたい。アルバイトは労働時間とっていいのかもしれない。ここでは、アルバイト、通学時間は扱わない。はじめに睡眠、食事・団らん、身の回りの用事といった生理的生活時間や家事的な生活時間を考えてみよう。

1-6-2. 短くなる眠り

睡眠 前々回、前回に比べて、睡眠時間が減っているのが目を引く。前々回（1998年）は、全体で420.4分であり、前回（2001年）は405分であったものが、今回は394分になっている。前回に比べて11分、前々回と比べれば約26分も短縮されている。前回と比べて、男子では12.2分、女子では4.3分短縮したために、前回女子のほうが15.2分も短かったのが、今回は男子396.5分、女子389.2分と7.3分差に縮まっている。睡眠については、いままでも自宅生と自宅外生の間に差がみられた。前は11.5分であったものが今回は20分と差が広がっている。全体としての睡眠時間の減少、男女差の縮小、自宅・自宅外の差の拡大が特徴的である。



食事・団らんの時間も前回の93.9分から88.7分へ、身の回りの用事も65分から62.8分へと短くなっている。男女差で見れば、前回食事・団らんで26.1分男子のほうが短かったものが今回は13.7分に縮まっている。身の回りの用事も31.4分が29.6分とわずかながら差がなくなった。

家事 睡眠や食事の時間は削られているが、家事に振り向けられる時間は多少増えている。全体としては前回41.2分が今回44.4分に伸びている。その大きな理由は、男子学生の家事時間が増えたためである。前回、家事に割く時間は男子38.5分、女子49.5分であったが、今回はそれぞれ43.3分、47.4分である。男子が伸びる一方で、女子は縮小して、結果として男女の差が縮まった。また前回、自宅生は32.3分、自宅外は45.9分であったものが、今回は33分、49.8分と自宅外のもの家事時間が増えている。

生理的・家事的な生活時間 各項目それぞれの特徴を踏まえたうえで、これらの項目をまとめてみると次のような傾向が見られる。

家事時間が多少増えたものの、睡眠、食事・団らん、身の回りの用事、家事の合計時間の減少は止まらない。1994年調査633分、1997年調査623.1分、2000年調査605.3分に対して、今回は590.7分である。なかでも、睡眠時間は94年の432.1分から今回の394.8分と10年ほどで37分も減った。睡眠を削った分の一部が家事に回った程度で、生理的・家事的な生活時間は縮小される一方である。睡眠時間の減少は一体いつまで続くのだろうか。

睡眠時間では女子のほうが7.3分短く、食事・団らんで13.7分、身の回りの用事では29.6分女子が長い。このように男女差は残っているものの、前回と比べるならば男女の差は確実に縮まっている。

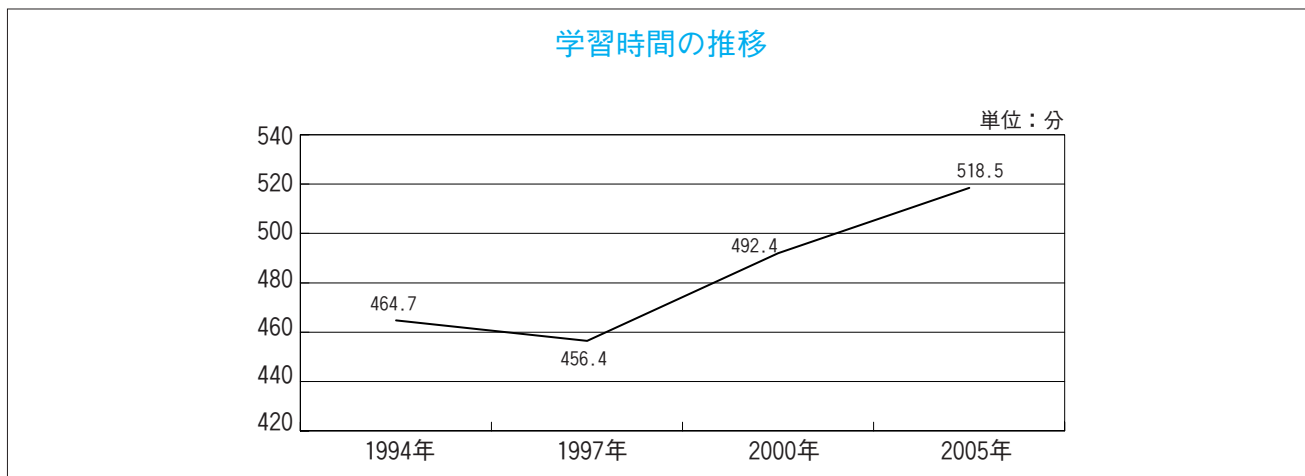
これと対比されるのが、自宅生と自宅外生の違いである。睡眠や家事時間などで自宅生と自宅外生の生活パターンの違いが目につく。食事・団らんや身の回りの用事では縮まったものの、睡眠では前回の11.5分から20分へ、家事では7.7分から16.8分へと差が広がった。

1-6-3. 増える学習時間

大学での学習、自宅・図書館等での学習、大学以外の教育機関での学習をあわせて学習時間としてとらえてみると、1994年調査464.7分が、1997年調査で456.4分に減ったあと、2000年調査が492.4分、今回518.5分と増えている。272.5分、264.8分、276.1分、290.3分と1997年調査以降、大学での学習時間は増加傾向にある。自宅・図書館は106.4分、102.7分、98.8分、111.1分、と2000年調査までは減っていたが、今回は増えた。反対に、学外での学習は85.6分、88.9分、122分、117分となり、いったん増えたものが今回は減った。世にいうダブルスクールへの流れが止まったといえるのかもしれない。1994年調査と比べれば、学習時間の総計は53.8分も増えている。同じ期間の睡眠時間37.3分短縮を上回る数字である。

1994年調査では大学での学習、自宅・図書館では女子は男子をはるかに上回り、学外の学習でやや男子を下回っていた。回答数が少ない学外学習を除けば、大学での学習、自宅・図書館共に男女差が少なくなっている。生活時間に見られた男女差の解消傾向がここにも見られる。

自宅、自宅外の区分で見ると、2000年調査と同様に、大学での学習、自宅・図書館での学習で自宅外が自宅を上回り、学外の学習時間は自宅が自宅外よりも多い。しかし、1997年調査では自宅のほうが自宅外よりも大学での学習時間が長いといったこともあり、男女差に見られたような一定の傾向は看取できない。



1-6-4. 変わらない余暇時間

課外活動、電話、会話・交際、レジャー・スポーツ、テレビ・ラジオ、新聞・雑誌、読書、CD・ビデオ・映画など、インターネットやゲームといった各項目の時間は、インターネットとゲームが11分ほど伸びているくらいで前回とあまり変わらない。合計時間は、前回は465.6分、今回は471分である。テレビ・ラジオ、インターネットとゲームで男子が女子を上回る程度で、男女の差も大きくない。ちなみに1994年調査の合計は、460.6分であり、そのときに調査項目にインターネットとゲームが入っていなかったためか、各項目の数字は今回に比べて1994年調査の方がわずかに上回っているくらいである。インターネットとゲームは2000年から調査項目に入った。その影響を除けば、余暇時間のあり方は、非常に安定しているといえそうである。

1-6-5. まとめ

睡眠・食事・家事、学習時間、余暇時間を取り出してみると、余暇時間はほとんど変わらず、睡眠・食事・家事が減って、学習時間が伸びているといえる。睡眠が減った部分は余暇時間に回るといよりもむしろ学習時間に振り向けられているのである。かつての大学レジャーランド論とは違う調査結果に安堵の念をもたれた方も多いただろう。

学習時間が伸びる影響が、余暇時間の削減には向かわずに睡眠・食事・家事時間、特に睡眠時間の減少となっていることは、勤労者の生活実態調査の結果と符合している。山本潔著『日本の労働調査』（2004年、東京大学出版会）は1950年代から70年代にかけて行われた労働科学研究所の生活時間調査を紹介している。それによれば、社会的・文化的な生活時間が延長される一方で、睡眠時間は減りつづけている。山本によれば、一日24時間のうち、まず労働時間が決まり、ついで睡眠時間が確保され、残りの時間が社会的・文化的な生活時間となるといった理解は実態と異なっており、労働時間や社会的・文化的な生活時間が伸びた分、そのしわ寄せが睡眠時間の減少となって現れていた。時代は異なるものの、学生生活でも睡眠時間はその他の活動の増大の影響を受けているように思われる。



第2部 学生生活の背景

1. 家庭の状況

家庭の所在地は57.8%が関東
 主たる家計支持者は「父」が88.5%、職業は「専門的、技術的職業」が27.2%
 年収額は950万円以上が50.7%

家庭の所在地は、「東京都」25.5%、東京都以外の「関東」が32.3%、合計すると57.8%で、前回（2003年）調査と比較して2.4ポイントの増加となっている。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の56.7%に対し、女子は61.6%で前回調査と同様男子を上回っている（図10-1・2、資料1-Ⅶ-1表）。

主たる家計支持者は「父」が88.5%を占め、「母」は6.6%となっている（資料1-Ⅶ-3表）。その職業は例年と異なり、「管理的職業」26.2%に変わって「専門的、技術的職業」27.2%が1位となり、「教育的職業」11.5%と続いている（表3、資料1-Ⅶ-4表）。これは、今回、質問項目がやや簡略化されたために、第1位と第2位の職業がこれまでとは異なる判断基準で選択されたためかもしれない。

家計支持者の年収の分布状況は、「750万円未満」が34.1%、「750万円以上1,050万円未満」が37.0%、「1,050万円以上」が28.9%となっている。前回調査との比較では、「750万円未満」は34.3%から0.2ポイント、「750万円以上1,050万円未満」は38.4%から1.4ポイント減少し、「1,050万円以上」が27.3%から1.0ポイント減少している（図11、資料1-Ⅶ-5表）。

家計支持者の年収額のうち「950万円以上」は、前回調査で、1990年の調査以来13年ぶりに半数を割り49.2%であったが、今回は50.7%と半数を若干超えた。男女別に見ると、男子における「950万円以上」の比率が48.5%であるのに対し、女子における比率は58.5%であり、男女差が顕著である（図12-1・2）。

図10-1 家庭の所在地の推移（男子学生）

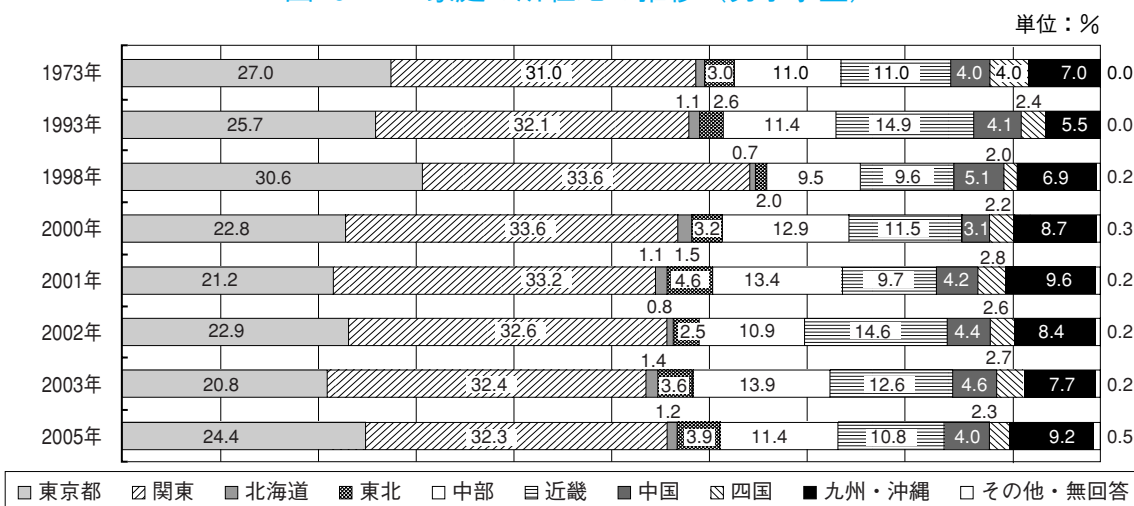


図10-2 家庭の所在地の推移（女子学生）



表3 「家計支持者の職業分類」三重クロス集計の一元表 (「職業」×「勤務先の規模」×「雇用形態」)

区分	専門的・技術的職業		教育的職業				管理的職業					事務	販売	農・林・漁業	生産工程・採掘作業	運輸・通信・保安・サービス	無職	その他・分類不能	無回答	合計	事例数
	被雇用者	単独又は、雇用主	小計	小・中・高校の校長・教頭	の教授・助教授 大学院(研究科、短大) 高専	一般教員	小計	民間企業大規模 (従業員1,000人以上)	民間企業中規模以下 (従業員1,000人未満)	雇用主・経営者大規模 (従業員1,000人以上)	雇用主・経営者中規模以下 (従業員1,000人未満)										
1984年全体	6.9	3.6	10.5	2.4	5.2	6.7	14.3	19.1	9.2	9.2	1.6	7.7	8.6	46.2	6.4	5.6	5.6	2.8	1.4	100.0	1,050
男子	6.5	3.2	9.7	2.4	5.0	7.0	14.4	19.1	9.1	9.1	1.7	7.8	8.6	46.3	6.5	5.9	5.6	2.5	1.2	100.0	962
女子	10.2	8.0	18.2	2.3	8.0	3.4	13.7	19.3	10.2	10.2	1.1	6.8	8.0	45.4	4.5	2.3	5.7	5.7	3.4	100.0	88
1997年全体	10.7	6.1	16.8	1.8	5.8	2.8	10.4	22.9	9.9	9.9	1.8	5.2	5.8	45.6	6.9	4.6	4.7	2.4	2.6	100.0	1,198
男子	10.8	6.7	17.5	1.7	5.1	2.2	9.0	23.6	9.6	9.6	1.8	5.2	5.5	45.7	7.2	4.8	5.3	2.1	2.5	100.0	950
女子	10.1	3.6	13.7	2.4	8.5	4.8	15.7	20.2	11.3	11.3	1.6	5.2	7.3	45.6	6.0	3.6	2.4	3.6	2.8	100.0	248
1998年全体	11.4	5.7	17.1	1.6	4.6	3.6	9.8	21.9	9.5	9.5	1.6	4.5	6.6	44.1	6.5	5.3	5.1	2.6	2.4	100.0	1,185
男子	10.6	6.1	16.7	1.4	4.7	3.5	9.6	22.1	9.8	9.8	1.0	4.6	6.5	44.0	6.6	5.4	5.2	2.2	2.4	100.0	918
女子	14.2	4.5	18.7	2.2	4.5	4.1	10.8	21.3	8.6	8.6	3.7	4.1	6.7	44.4	6.0	4.9	4.5	4.1	2.6	100.0	267
2000年全体	5.5	10.7	16.2	2.0	6.0	3.5	11.4	18.5	12.7	12.7	0.7	5.7	8.2	45.7	7.4	4.0	3.2	3.4	2.3	100.0	1,042
男子	5.2	11.7	16.9	2.4	5.1	3.2	10.7	19.1	13.0	13.0	0.5	5.3	7.7	45.7	8.1	3.6	3.3	3.2	1.6	100.0	806
女子	6.4	7.6	14.0	0.8	8.9	4.2	14.0	16.5	11.4	11.4	1.3	6.8	9.7	45.8	5.1	5.5	2.5	3.8	4.7	100.0	236
2001年全体	10.7	6.6	17.3	2.9	5.2	4.4	12.5	18.9	10.7	10.7	0.8	4.9	6.2	41.5	8.3	4.5	5.4	2.7	2.9	100.0	942
男子	10.3	6.7	17.0	3.2	3.8	4.2	11.2	19.2	11.1	11.1	0.4	4.9	5.9	41.5	8.8	4.2	5.9	2.8	3.0	100.0	741
女子	12.4	6.0	18.4	1.5	10.4	5.0	16.9	17.9	9.5	9.5	2.5	5.0	7.0	41.9	6.5	5.5	3.5	2.0	2.5	100.0	201
2002年全体	12.1	4.7	16.8	1.6	4.2	4.0	9.8	23.0	10.8	10.8	1.0	3.8	7.1	45.7	6.2	3.9	4.4	3.6	2.4	100.0	1,395
男子	11.6	4.8	16.4	1.6	3.5	4.2	9.2	22.0	11.1	11.1	0.6	3.9	7.1	44.7	6.8	4.3	4.5	3.5	2.5	100.0	1,082
女子	14.1	4.5	18.5	1.6	6.7	3.5	11.8	26.5	9.6	9.6	2.2	3.5	7.0	48.9	4.2	2.9	3.8	3.8	1.9	100.0	313
2003年全体	11.6	5.9	17.5	1.7	5.3	5.8	12.8	18.7	11.2	11.2	1.0	4.7	6.3	41.9	7.2	4.0	5.4	3.1	2.9	100.0	1,501
男子	10.1	5.1	15.2	1.8	4.8	6.0	12.6	18.7	12.1	12.1	0.8	3.9	6.5	42.0	7.8	4.1	5.8	3.2	3.1	100.0	1,142
女子	16.4	8.4	24.8	1.1	6.7	5.0	12.8	18.9	8.4	8.4	1.7	7.0	5.6	41.6	5.3	3.6	4.2	2.8	2.2	100.0	359
2005年全体	27.2						11.5							26.8	9.5	5.0	1.8	2.6	2.0	100.0	1,333
男子	25.8						11.6							26.8	10.2	5.2	1.9	3.0	2.0	100.0	1,029
女子	32.1						11.1							27.8	7.3	4.4	1.6	1.3	1.9	100.0	302

注) 2003年調査で、「専門的・技術的職業」で雇用形態の不明者が2名。「教育的職業」で勤務先の規模の不明者が1名。「管理的職業」で雇用形態の不明者が7名。
 職業・規模・雇用形態の何れか無回答の者が33名。各不明者を「その他・分類不能」の欄へ移行し集計した。従って「職業分類」のみを挙げたⅢ-4表とでは、集計数値に若干の相違がある。
 2004年調査で、未婚・既婚者の不明が1名、全体の合計と独身者・既婚者合計に相違があるため、全体の性別不明者が2名。主たる家計支持者の職業不明が34名います。

図11 主たる家計支持者の年収額分布

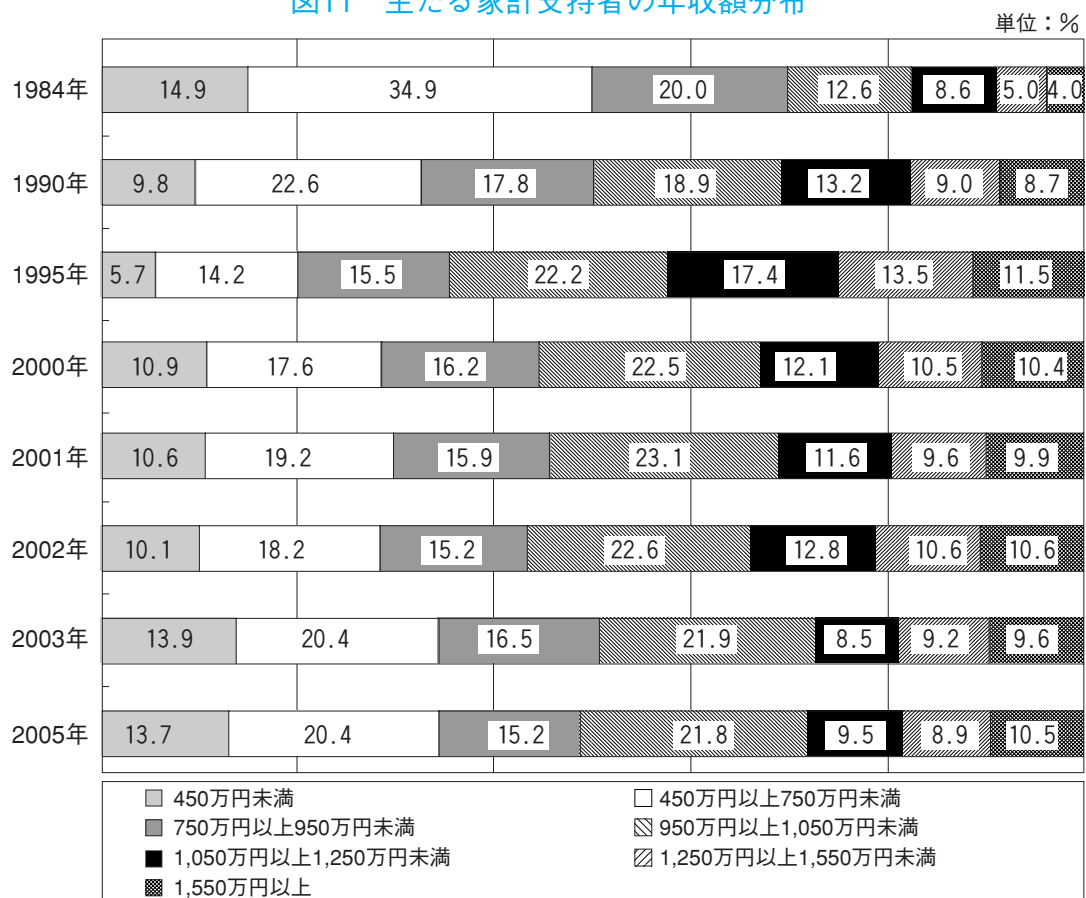


図12-1 主たる家計支持者の年収額分布（男子学生）

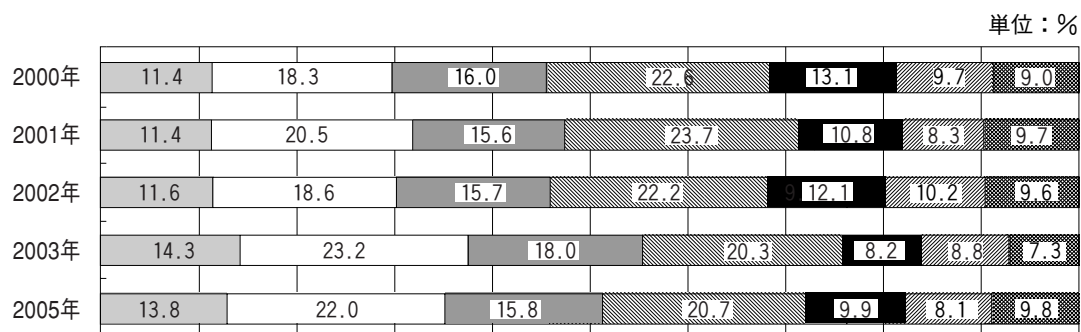
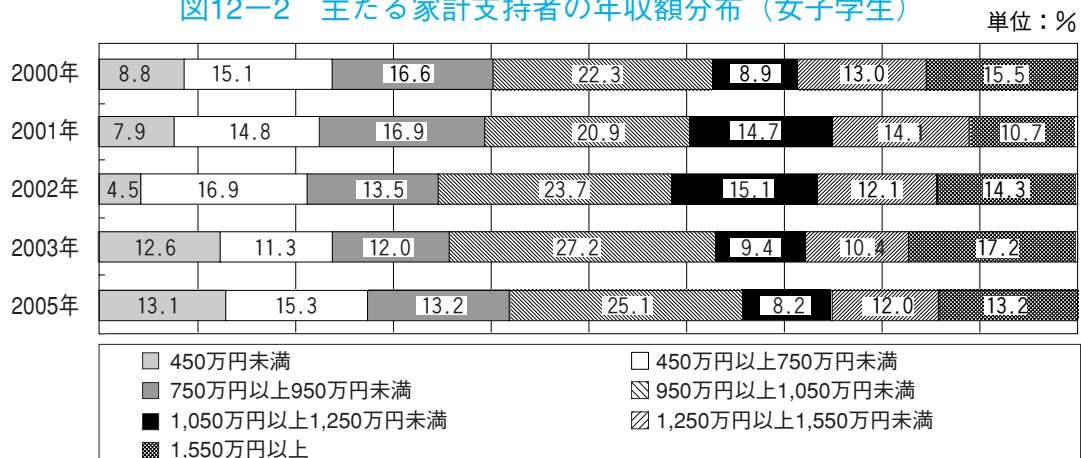


図12-2 主たる家計支持者の年収額分布（女子学生）



2. 生活費の状況

生活費は自宅生73,500円、自宅外生149,500円
 自宅外生の「住居費」は支出総額の45.2%
 収入で大きな割合を占めるのは、自宅生が「奨学金」「アルバイト・雑収入」、
 自宅外生が「家庭からの仕送り」

1か月当たりの生活費（100円未満四捨五入）をみると、「支出総額」は、自宅生73,500円、自宅外生149,500円で、前回（2003年）調査と比較すると自宅生が1,100円、自宅外生が2,500円増えている。（表4、資料1-Ⅷ-1表、図13）。

自宅外生の「住居費」は、67,500円で、前回調査と比べ300円増えているが、支出総額に占める割合は0.5ポイント減って45.2%になっている。「通学費」は、自宅生10,300円、自宅外生5,300円で、支出総額に占める割合は自宅生が14.0%、自宅外生は3.5%である（資料1-Ⅷ-1表）。

一方、「収入総額」は、自宅生66,200円、自宅外生149,500円で、前回調査と比較すると、自宅生で2,700円、自宅外生で6,900円減っている。自宅外生の生活費は自宅生に比べ、支出総額では前回調査と同じ2.0倍、収入総額も前回調査と同じ2.3倍となっている（資料1-Ⅷ-2表）。

収入のうち、「家庭からの仕送り・小遣い」は、自宅生34,000円、自宅外生112,800円で、前回調査と比較すると、自宅生が2,900円、自宅外生が5,000円減っている。「アルバイト・雑収入」は逆に、自宅生45,600円、自宅外生47,000円で、前回調査と比較すると自宅生が900円、自宅外生が4,700円増えている（資料1-Ⅷ-2表）。

収入形態の推移をみると、「仕送り+アルバイト・雑収入」が最も大きな割合を占めている（表5）。

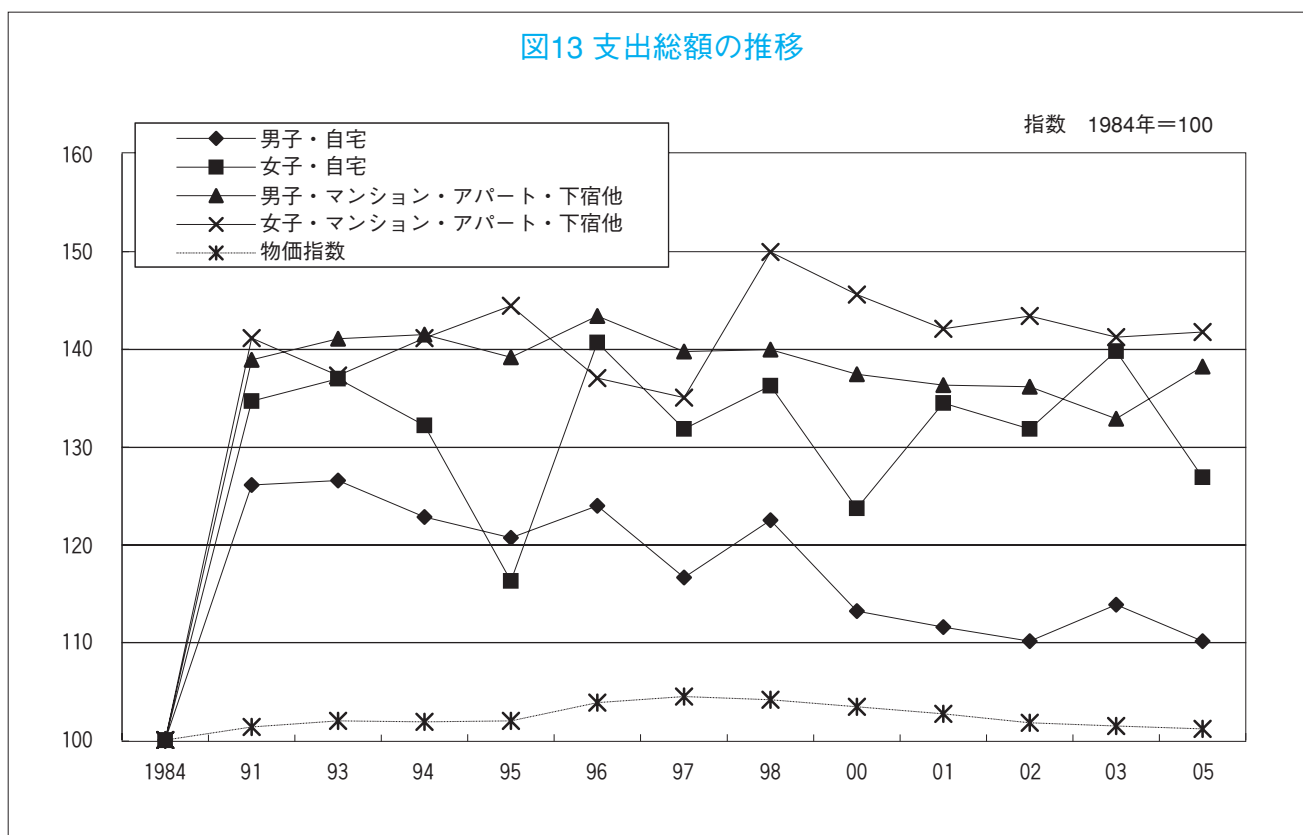


表4 生活費の状況の推移（支出総額・収入総額）

区 分	支 出 総 額				収 入 総 額			
	自 宅	マンション・ア パート・下宿他	学 寮	その他の寮	自 宅	マンション・ア パート・下宿他	学 寮	その他の寮
	円	円	円	円	円	円	円	円
1971年 (男子)	15,600	37,600	25,100	30,400	16,800	39,000	27,500	32,100
1972年 (男子)	20,100	40,900	27,600	31,400	21,100	42,200	29,900	32,200
1976年 (男子)	32,600	73,500	49,400	59,300	35,900	76,900	55,100	63,900
1977年 (女子)	31,000	76,700	51,000	85,300	36,200	82,000	56,900	92,000
1979年 (男子)	41,000	88,100	61,000	77,700	45,600	93,100	68,500	83,600
1980年 (男子)	41,100	92,900	62,600	78,300	48,100	100,200	66,800	84,400
1981年 (男子)	44,300	100,500	69,900	82,200	50,100	107,000	75,500	91,300
1982年 (女子)	41,700	105,400	64,900	108,700	49,600	115,400	75,500	119,200
1983年 (男子)	54,900	110,900	71,300	86,700	60,800	118,600	78,600	96,700
1984年 (男子)	61,300	116,100	77,700	85,500	67,600	124,200	86,100	95,300
〃 (女子)	56,500	114,900	64,700	107,200	56,700	125,400	78,300	112,800
1991年 (男子)	77,300	161,300	81,000	115,100	86,900	175,100	109,100	132,300
〃 (女子)	76,100	162,200	91,400	134,000	81,300	182,500	90,600	141,000
1993年 (男子)	77,600	163,800	97,700	108,500	82,300	176,000	103,000	126,400
〃 (女子)	77,400	157,800	133,000	147,500	77,000	172,600	151,500	168,300
1994年 (男子)	75,300	164,300	91,400	119,100	82,000	173,200	116,400	131,800
〃 (女子)	74,700	162,200	92,600	127,300	82,000	180,300	115,600	142,900
1995年 (男子)	74,000	161,600	96,400	130,300	80,500	176,200	109,500	156,200
〃 (女子)	65,700	166,000	94,800	143,000	74,900	187,000	130,100	156,800
1996年 (男子)	76,000	166,500	105,900	111,300	83,000	176,800	129,500	130,900
〃 (女子)	79,500	157,500	115,300	142,100	81,500	169,600	119,500	173,600
1997年 (男子)	71,500	162,300	96,800	126,500	78,400	175,200	117,300	149,200
〃 (女子)	74,500	155,200	94,000	148,300	83,900	177,100	116,400	161,900
1998年 (男子)	75,100	162,500	99,500	113,600	75,400	171,100	114,800	123,400
〃 (女子)	77,000	172,300	83,800	154,300	73,800	182,300	125,800	161,300
2000年 (男子)	69,400	159,600	65,900	108,200	76,500	172,000	100,100	129,000
〃 (女子)	69,900	167,300	79,500	158,300	72,300	182,800	104,300	175,000
2001年 (男子)	68,400	158,300	82,800	107,800	68,500	169,100	103,300	129,200
〃 (女子)	76,000	163,300	91,100	170,300	77,100	175,400	116,700	176,600
2002年 (男子)	67,500	158,100	95,200	119,200	69,700	168,800	114,700	130,900
〃 (女子)	74,500	164,800	86,500	142,800	73,900	168,400	129,900	140,200
2003年 (男子)	69,800	154,300	84,900	110,600	68,800	162,700	100,000	127,000
〃 (女子)	79,000	162,300	69,100	156,300	69,400	168,000	96,900	169,100
2005年 (男子)	72,500	160,500	85,300	117,500	65,650	157,400	109,100	132,600
〃 (女子)	76,200	162,900	88,000	133,500	67,860	158,100	112,500	128,800

表5 収入形態の推移

区分	仕送りのみ	奨学金のみ	アルバイトのみ	アルバイト・雑収入のみ	仕送り＋奨学金	仕送り＋アルバイト	奨学金＋アルバイト	仕送り＋奨学金＋アルバイト	仕送り＋アルバイト・雑収入	奨学金＋アルバイト・雑収入	仕送り＋奨学金＋アルバイト・雑収入	その他	雑収入	無回答	合計	事例数
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
1971年(男子)	36.0	1.0	5.0	—	7.0	36.0	3.0	14.0	—	—	—	—	—	—	100.0	536
1972年(男子)	38.0	—	7.0	—	11.0	29.0	2.0	13.0	—	—	—	—	—	—	100.0	442
1976年(男子)	30.9	0.3	8.2	—	6.7	39.0	3.4	11.6	—	—	—	—	—	—	100.0	803
1977年(女子)	28.6	0.2	10.9	—	4.7	38.9	3.1	6.3	—	—	—	—	—	7.3	100.0	615
1979年(男子)	31.1	0.4	7.3	—	7.4	38.6	2.7	10.8	—	—	—	—	—	1.7	100.0	840
1980年(男子)	30.6	0.1	9.6	—	7.6	37.1	3.4	9.4	—	—	—	—	—	2.2	100.0	785
1981年(男子)	32.0	0.1	8.6	—	6.7	36.3	2.8	9.9	—	—	—	—	—	3.5	100.0	765
1982年(女子)	24.8	0.3	17.0	—	2.8	41.1	3.5	5.8	—	—	—	—	—	4.7	100.0	706
1983年(男子)	28.4	0.1	7.4	—	4.9	42.5	3.2	10.3	—	—	—	—	—	3.2	100.0	756
1984年(男子)	25.5	—	8.0	—	6.1	45.7	3.3	8.8	—	—	—	—	—	2.5	100.0	962
〃(女子)	25.0	—	12.5	—	1.1	52.3	2.3	5.7	—	—	—	—	—	1.1	100.0	88
1991年(男子)	18.7	5.3	—	—	3.3	50.4	3.1	12.5	—	—	—	5.5	—	1.3	100.0	819
〃(女子)	12.1	4.5	—	—	3.8	48.5	1.5	16.7	—	—	—	9.1	—	3.8	100.0	132
1993年(男子)	22.3	0.2	3.1	—	5.2	51.1	2.2	9.8	—	—	—	4.8	—	1.4	100.0	871
〃(女子)	14.9	0.6	5.0	—	3.1	55.9	1.9	11.2	—	—	—	5.6	—	1.9	100.0	161
1994年(男子)	23.8	0.3	3.6	—	4.4	49.6	1.9	9.7	—	—	—	5.6	—	1.2	100.0	1,008
〃(女子)	25.6	—	4.8	—	2.9	48.3	1.0	10.6	—	—	—	4.3	—	2.4	100.0	207
1995年(男子)	20.5	0.4	3.2	—	3.7	40.4	1.8	7.5	—	—	—	—	19.6	2.9	100.0	1,056
〃(女子)	17.7	0.4	6.5	—	3.0	35.8	1.7	6.5	—	—	—	—	26.7	1.7	100.0	232
1996年(男子)	20.9	0.3	—	3.9	5.5	—	—	—	53.1	2.4	10.3	—	—	3.6	100.0	974
〃(女子)	18.7	0.8	—	5.7	2.8	—	—	—	57.3	1.2	11.4	—	—	2.0	100.0	246
1997年(男子)	22.7	0.5	—	4.2	5.8	—	—	—	53.6	1.2	9.6	—	—	2.4	100.0	950
〃(女子)	20.2	0.4	—	4.8	1.2	—	—	—	53.6	4.0	12.5	—	—	3.2	100.0	248
1998年(男子)	22.0	0.3	—	6.6	5.1	—	—	—	51.5	2.1	9.2	—	—	3.2	100.0	918
〃(女子)	23.6	0.7	—	9.0	4.1	—	—	—	49.8	0.7	10.5	—	—	1.5	100.0	267
2000年(男子)	27.2	0.9	—	5.2	5.6	—	—	—	43.9	1.6	11.5	—	—	4.1	100.0	806
〃(女子)	22.9	0.4	—	7.2	3.0	—	—	—	47.9	3.4	11.4	—	—	3.8	100.0	236
2001年(男子)	23.9	0.9	—	4.0	6.3	—	—	—	45.6	2.6	12.7	—	—	3.9	100.0	741
〃(女子)	19.9	—	—	2.0	6.0	—	—	—	54.2	3.0	10.9	—	—	4.0	100.0	201
2002年(男子)	23.3	0.8	—	3.4	8.0	—	—	—	47.3	2.6	11.6	—	—	3.0	100.0	1,082
〃(女子)	20.8	0.3	—	5.8	4.5	—	—	—	56.2	1.6	8.9	—	—	1.9	100.0	313
2003年(男子)	25.6	1.2	—	4.2	6.3	—	—	—	44.6	3.3	11.4	—	—	3.4	100.0	1,142
〃(女子)	21.4	1.4	—	5.0	6.1	—	—	—	53.2	3.9	7.2	—	—	1.7	100.0	359
2005年(男子)	22.2	1.2	—	5.3	6.9	—	—	—	45.2	3.4	10.5	—	—	5.2	100.0	995
〃(女子)	19.4	1.6	—	8.3	3.2	—	—	—	48.6	3.8	8.3	—	—	7.0	100.0	293

2-3. 通学・住居

現在の居住地は71.7%が「都内」、59.6%が「23区内」
 自宅外生では、「賃貸マンション・アパート」が70.2%、「寮や下宿」が22.7%
 「通学所用時間」は平均47.0分、自宅生は自宅外生の2倍の65.0分

都内在住者は71.7%で、「23区内」59.6%、「23区外」12.1%となっている（資料1-IX-1表）。

自宅生の現住所分布は、東京都47.6%（23区内36.0%、23区外11.6%）、神奈川県26.9%、千葉県11.9%、埼玉県11.5%の順で、前回(2003年)調査との比較でおのおのについてみると、23区内で4.0ポイント、神奈川県で0.6ポイント、埼玉県で2.4ポイント増加し、23区外で5.1ポイント、千葉県で1.7ポイント減少している（資料1-IX-1表）。

自宅外生の住居区分は「賃貸マンション・アパート」が70.2%で最も多く、他は「その他の寮」12.0%、「東大寮・三鷹国際学生宿舎」8.0%が続いている(図14-1・2、資料1-IX-2表)。

通学に利用する交通機関では、後期課程の学生で「自転車」の利用が比較的多く、とくに後期課程の男子では「電車」57.3%に次いで31.0%となっている（資料1-IX-3表）。

通学所用時間は、片道平均47.0分で前回調査より若干短くなっている。自宅生は自宅外生30分の倍の65分を要している(資料1-IX-4表)。

図14-1 自宅外生の住居区分の推移（男子学生）

単位：%

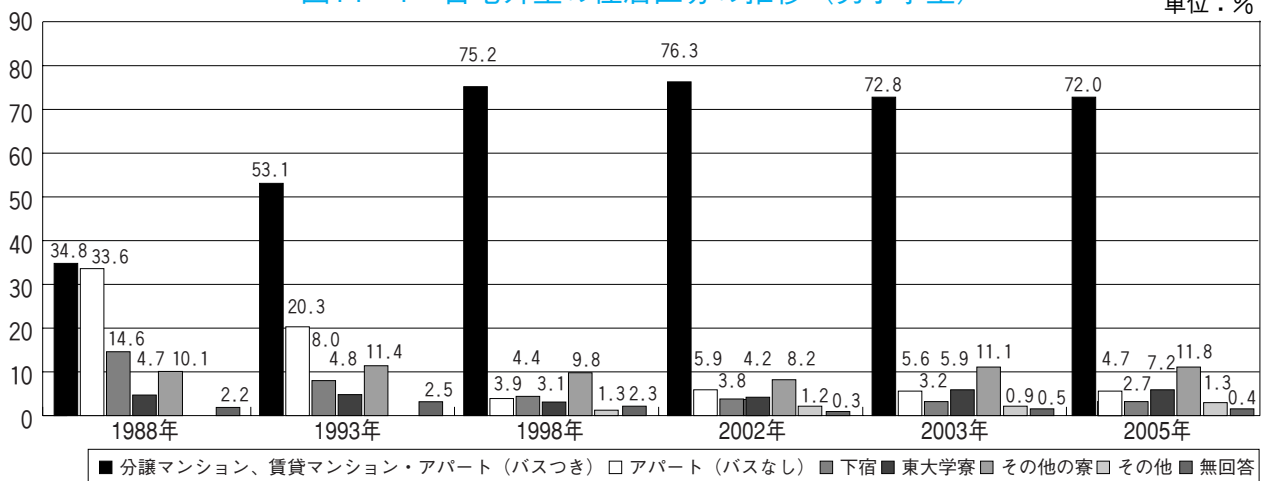
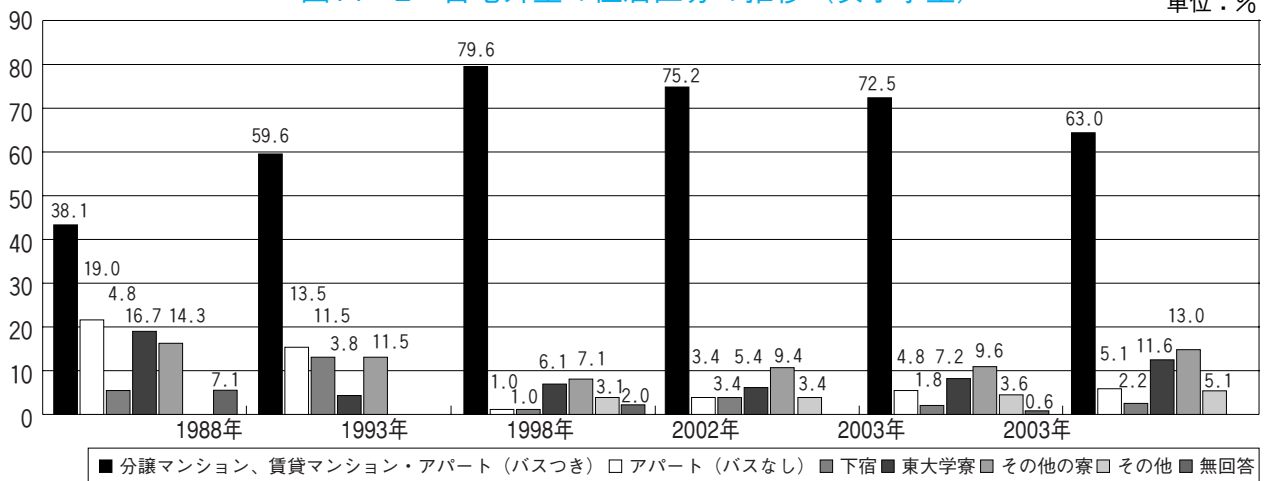


図14-2 自宅外生の住居区分の推移（女子学生）

単位：%



2-4. 奨学金

奨学金を希望している学生が37.1%
 奨学生のうち83.9%が日本学生支援機構から貸与を受けている
 用途は「生活費」、「勉学費」、「教養・娯楽費」、「授業料」が中心

奨学金を希望している学生は、「受けている」22.2%「受けたいが受けられなかった」14.9%合わせて37.1%となり、前回（2003年）調査との比較では変化はみられない（図15、資料1-X-1表）。

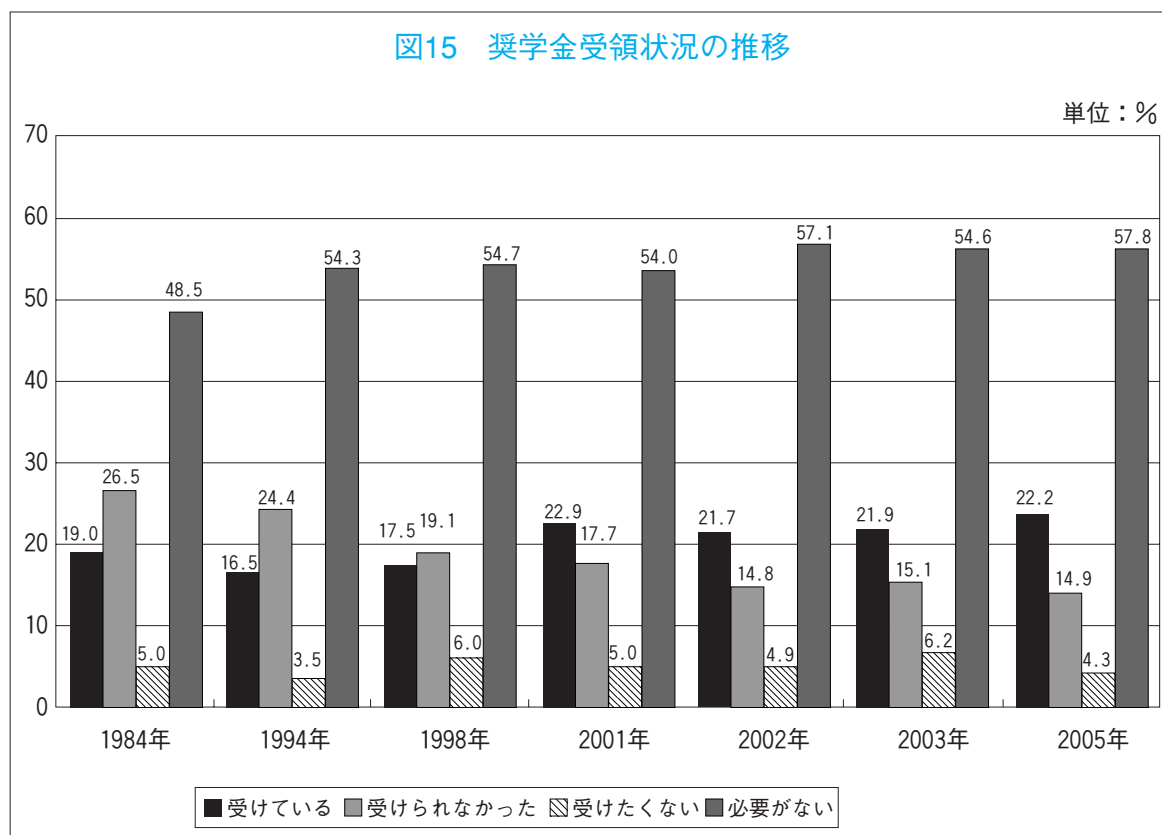
「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由としては、「貸与なので申請しなかった」26.0%が最も多く、次いで、「出願はしたが採用されなかった」19.1%、「資格がない」18.7%、「事務手続きが煩雑だから」13.0%、「掲示等に気が付かなかった」10.3%の順となっている（資料1-X-2表）。

また、「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した学生の62.6%がこれから受けたいと答えている（資料1-X-3表）。

受領している奨学金の内訳は、「日本学生支援機構のみ」が70.0%で、これに「他の奨学金との併用」13.9%を含めると日本学生支援機構から貸与を受けている奨学生は83.9%を占め、前回調査と比べると0.9ポイント増加している（資料1-X-4表）。

奨学金はどんな面で役立っているかについては（2つまで選択可）、例年どおり「家庭の経済的負担が軽減される」が77.9%で最も多く、次いで「奨学金があるので生活が成り立っている」31.4%、「多少ともゆとりのある生活ができる」27.7%が上位になっている（資料1-X-5表）。

奨学金の主たる支出目的（用途）は（3つまで選択可）、前回調査と同順で「生活費（衣・食・住居費）」77.2%、「勉学費」46.9%、「教養・娯楽費」34.3%、「授業料」32.3%、「貯金」14.2%の順となっている。また、前回調査との比較では、「生活費（衣・食・住居費）」が0.9ポイント、「授業料」が3.0ポイント、「勉学費」が8.7ポイント、「教養・娯楽費」が6.1ポイント減少している（資料1-X-6表）。



2-5. アルバイト

アルバイトをしている学生が80.2%
 アルバイトの紹介者は「インターネット」が27.0%
 アルバイトの主な目的は「学生生活を楽しむため」「生活費を稼ぐため」「社会経験のため」「家庭の経済的負担を軽減するため」
 週に11.4時間、月額で45,800円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体の80.2%（「継続的」54.3%、「臨時的」11.9%、「継続的+臨時的」14.0%）で、前回（2003年）調査との比較では全体で4.2ポイントの増加となっている。また、男子学生の78.3%に対し、女子学生は86.4%で、前回調査と同様女子が男子を上回っている（資料1-XI-1表）。

アルバイトの種類は（2つまで選択可）「家庭教師」45.3%、「塾講師」31.1%、「販売・セールス・サービス業」26.2%が上位で、男子の場合は「家庭教師」42.5%、「塾講師」32.6%、「販売・セールス・サービス業」23.0%、「肉体労働」14.5%と続き、女子では「家庭教師」54.0%、「販売・セールス・サービス業」35.7%、「塾講師」26.5%、「試験監督・採点」16.5%と続いている（資料1-XI-2表）。

アルバイトの従事時間数は1週間当たり11時間、1か月当たりの収入額は47,200円で、前回調査と比べると、時間では週当たりほぼ同時間で、収入では月額1,400円の増加となっている（資料1-XI-3表）。

アルバイトの紹介者（2つまで選択可）は「友人・知人等」40.5%、「インターネット」27.0%、「アルバイト先と直接」25.2%、「新聞広告・アルバイト広告誌」18.0%、「大学の担当事務」11.2%と続いている（資料1-XI-4表）。

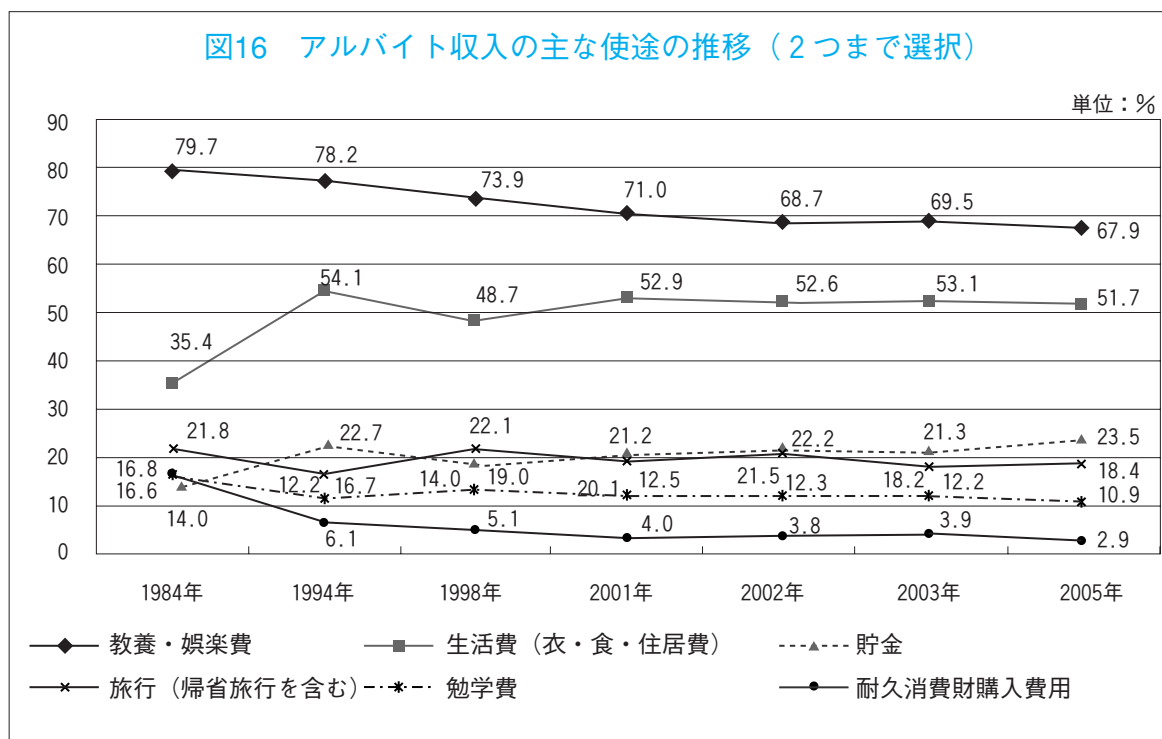
アルバイトをした理由では、「学生生活を楽しむため」を挙げている学生が33.9%で最も多いが、前回調査より4.3ポイント下がっている。次いで、「生活費を稼ぐため」33.0%「社会経験のため」24.6%と続いている（資料1-XI-5表）。

アルバイト収入の主たる用途は（2つまで選択可）「教養・娯楽費」が67.9%で前回調査と同様最も多く、次いで、「生活費（衣・食・住居費）」51.7%、「貯金」23.5%、「旅行（帰省旅行も含む）」18.4%、「勉学費」10.9%の順となっているが、「旅行（帰省旅行も含む）」では女子が男子を5.2ポイント上回っている。この10年間で大きな変化は生じていないが、「教養・娯楽費」が10ポイント強減少した点が注目される（図16、資料1-XI-6表）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんか」という問に、「かなり妨げになった」と回答した学生と「多少妨げになった」と回答した学生を合わせると55.8%になり、前回調査より2.7ポイント増加している（資料1-XI-7表）。

現在の暮らし向きについては、81.1%の学生が普通以上であると答えている（「かなり楽な方」25.7%、「やや楽な方」20.9%、「普通」34.5%）。反面、17.2%の学生が苦しいと答えており（「やや苦しい方」14.1%、「大変苦しい方」3.1%）、前回調査より2.2ポイント減少している（資料1-XI-8表）。

図16 アルバイト収入の主な用途の推移（2つまで選択）



2-6. 生活時間

生活必需行動（睡眠、食事、身の回りの用事等）が約10時間
勉学時間は約8.6時間

図17に、各生活行動内容に該当する平均的な生活時間が示されている。ただし、それらは各生活行動について回答した学生の平均時間であり、本学学生全体の平均的な生活行動像を示しているというわけではない。

「睡眠」約6.6時間をはじめ、「食事・団らん」「身の回りの用事」等といった生活必需行動が約10時間、「大学での学習」「自宅・図書館等での学習」及び「大学以外の教育機関での学習」を合わせた勉学時間はおよそ8.6時間となっている。

前回（2000年）調査の男女別の比較では、男子が「睡眠」「アルバイト」「大学以外の教育機関での学習」「テレビ・ラジオ」「パソコンでの通信・情報収集・ゲーム」及び「その他」の6項目で10ポイント以上多く、女子は「食事・団らん」「身の回りの用事」及び「家事」の3項目で10ポイント以上多くなっていたが、今回調査では、男子が「課外活動」「インターネットやゲーム」の2項目、女子が「食事・団らん」「身の回りの用事」2項目で10ポイント以上多くなっている。

自宅と自宅外との比較では、自宅生の方が往復の「通学」でおおむね1時間、「食事・団らん」「大学以外の教育機関での学習」で比較的多くの時間を費やしている。他方、自宅外生では「睡眠」「アルバイト」、「大学での学習」、及び「家事」等が多くなっている。

前期・後期課程別の勉学時間をみると、後期課程学生の方が前期課程学生より「大学での学習」、「自宅・図書館等での学習」及び「大学以外の教育機関での学習」の3項目の学習総時間が1時間50分程多くなっている。また、同様に文科系・理科系別の勉学時間をみると、「大学での学習」では理科系学生の方が文科系学生より2時間程多くなっているのに対して、「自宅・図書館等・大学以外の教育機関での学習」では文科系学生の方が理科系学生より1時間20分程多くなっている（資料1-XII-1表）。

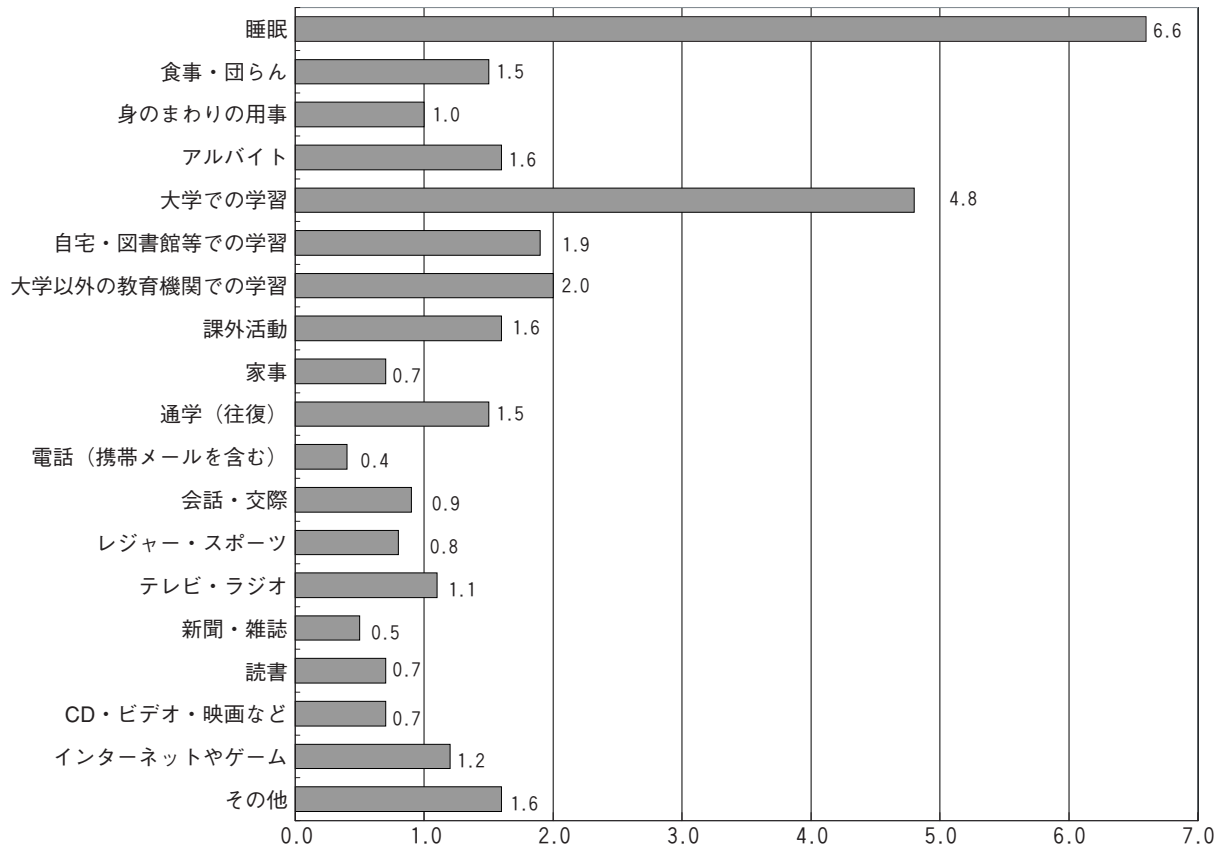
どのくらい外食をしているかの問では、15.1%の学生が「平日で一日2回以上」とると答えている。また、自宅生と自宅外生の比較では自宅生の8.4%に対し、自宅外生は3倍弱の21.5%となっている（資料1-XII-2表）。

平均的な下校時間は17時55分で、男子と女子、自宅と自宅外、前期課程と後期課程では殆ど差が見られないが、理科系が文科系より30分強下校時間が遅くなっている（資料1-XII-3表）。



図17 生活時間分布（全体）

単位：時間



集 計 表

ここでは、「調査票」のそれぞれの設問項目と、所要な基本項目とのクロス集計を行ったものを一括して順次掲載した。また、比較のため2001年（第51回）で、今回調査と同じ設定をしている調査項目の数値を、適宜、各集計表の中で（ ）内に示した。

表の見方

- 百分率（パーセント）表示については、小数点第一位までを有効数字として算出した。
- 作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。
 - 「全体」……………回答者全員の比率を示す。
 - 「自宅」……………自宅通学者（親と同居）の者を示す。
 - 「自宅外」……………賃貸マンション、アパート、下宿、学寮、他寮を一括して示す。
 - 「東大寮」……………本学の学生寮、三鷹国際学生宿舎の居住者を示す。
 - 「その他の寮」……………地方公共団体等が設置した学生寮の居住者を示す。
 - 「前期課程」……………1、2年生を示す。
 - 「後期課程」……………3、4年生（医学部医学科・農学部獣医学課程は5、6年生を含む。）を示す。
 - 「文科系」「理科系」…在籍する学部、学科等により二つの系に区分したものを示す。

1-1表 東大入学をどの程度希望していましたか

区 分		東大にどうしても 入りたかった	東大がだめなら他大 でもよいと思った	他大学がだめなら東 大でもよいと思った	なんとなく	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)		(48.6)	(35.7)	(—)	(15.3)	(0.4)	(1,501)	(100.0)
全 体		59.0	38.6	2.0	—	0.4	1,367	100.0
男 子		60.8	36.9	2.0	—	0.4	1,050	76.8
女 子		53.3	44.1	2.2	—	0.3	315	23.0
男 子	前期課程	62.5	35.6	1.5	—	0.4	528	38.6
	後期課程	59.0	38.1	2.5	—	0.4	522	38.2
女 子	前期課程	56.8	40.8	1.8	—	0.6	169	12.4
	後期課程	49.3	47.9	2.7	—	—	146	10.7
男 子	文 科 系	61.2	37.6	0.7	—	0.5	425	31.1
	理 科 系	60.5	36.3	2.9	—	0.3	625	45.7
女 子	文 科 系	54.5	42.6	2.5	—	0.5	202	14.8
	理 科 系	51.3	46.9	1.8	—	—	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-2表 東大入学の動機

(3つまで選択)

区 分	東大の社会的評価が高いから	東大卒ということが就職に有利だから	受験の難関を突破したことを示したかったから	家族・親族・先生・先輩・友人などの勧め	学びたいことがしっかり学べそうだから	入学後に専攻分野の選択が可能だから	経営・運営・制度が優れているから	伝統や雰囲気は憧れているから	自宅に近いから	経済的理由で	なんとなく	その他	無回答	事 例 数		
														人	%	
全 体	% 52.5	% 13.5	% 16.4	% 26.7	% 48.1	% 45.7	% 2.2	% 28.3	% 10.3	% 19.0	% 14.3	% 5.8	% —	1,367	100.0	
男 子	54.6	13.8	16.7	25.0	48.3	44.8	2.2	26.8	9.6	19.0	15.4	5.7	—	1,050	76.8	
女 子	45.4	12.1	15.6	32.4	47.3	49.2	2.2	33.7	12.7	19.4	10.5	6.0	—	315	23.0	
男 子	前期課程	56.3	13.3	16.1	23.1	50.6	45.5	2.5	26.9	9.1	18.2	15.5	5.7	—	528	38.6
	後期課程	52.9	14.4	17.2	26.8	46.0	44.1	1.9	26.6	10.2	19.7	15.3	5.7	—	522	38.2
女 子	前期課程	49.1	12.4	17.8	32.5	42.6	48.5	1.2	37.9	11.2	16.0	10.7	4.7	—	169	12.4
	後期課程	41.1	11.6	13.0	32.2	52.7	50.0	3.4	28.8	14.4	23.3	10.3	7.5	—	146	10.7
男 子	文科系	62.8	19.8	18.8	30.1	44.7	26.1	1.2	35.1	8.7	16.0	16.0	6.6	—	425	31.1
	理科系	49.0	9.8	15.2	21.4	50.7	57.4	2.9	21.1	10.2	21.0	15.0	5.1	—	625	45.7
女 子	文科系	50.0	12.4	16.8	34.7	47.0	45.0	1.5	38.1	9.9	17.3	8.9	7.4	—	202	14.8
	理科系	37.2	11.5	13.3	28.3	47.8	56.6	3.5	25.7	17.7	23.0	13.3	3.5	—	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

2003年調査 (53回)													
区 分	社会的評価が高いから	将来の就職を考えて	難関を突破したかったから	スタッフ・設備が優れているから	親・兄弟・姉妹の勧め	入学後に学部の選択が可能だから	高校の先生や友人などの勧め	東大の伝統や雰囲気に憧れているから	私大に比べて授業料が安いから	その他	無回答	事 例 数	
全 体	48.7	29.9	23.1	36.0	7.2	39.0	15.7	24.7	49.6	8.3	0.5	1,501	100.0

1-3表 入学時に進学する学部・学科等を決めていましたか

区 分	学科等まで決めていた	学部のみを決めていた	学部、学科等は決めていなかった	無回答	事 例 数	
2003年調査 (53回)	% (30.1)	% (32.6)	% (36.9)	% (0.3)	人 (1,501)	% (100.0)
全 体	27.0	34.7	38.3	—	1,367	100.0
男 子	26.3	35.0	38.7	—	1,050	76.8
女 子	29.2	33.3	37.5	—	315	23.0
文 科 系	25.8	47.4	26.9	—	629	46.0
	28.0	23.8	48.1	—	738	54.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-4表 学部・学科等の選択に際してどのような点を重視しましたか

(2つまで選択)

区 分	最先端の学問・技術が学べること	自分が惹きつけられた分野であること	その学部・学科等の教員に魅力を感じること	社会に役立つ度合いの大きい分野であること	就職の際に企業等から高く評価されること	就きたい職業に必要な能力を磨けること	特に重視した(する)点はない	無回答	事例数	
2003年調査(53回)	% (12.8)	% (79.4)	% (9.9)	% (21.6)	% (13.4)	% (30.1)	% (6.5)	% (0.5)	人 (1,501)	
全 体	16.9	81.1	13.2	22.8	7.4	31.8	5.9	0.1	1,367	
男 子	19.2	80.6	12.2	22.5	7.3	31.0	6.4	0.2	1,050	
女 子	9.2	82.5	16.5	23.5	7.6	34.6	4.1	—	315	
男子 前期課程	19.5	82.0	14.0	19.9	7.4	32.8	5.5	0.2	528	
後期課程	19.0	79.1	10.3	25.1	7.3	29.3	7.3	0.2	522	
女子 前期課程	10.1	84.0	18.9	22.5	7.7	37.3	2.4	—	169	
後期課程	8.2	80.8	13.7	24.7	7.5	31.5	6.2	—	146	
男子 文科系	5.9	70.4	15.3	24.5	11.1	41.2	9.9	0.5	425	
理科系	28.3	87.5	10.1	21.1	4.8	24.2	4.0	—	625	
女子 文科系	5.0	78.7	17.8	22.3	9.4	38.1	4.0	—	202	
理科系	16.8	89.4	14.2	25.7	4.4	28.3	4.4	—	113	
前期課程	文科一類	5.4	58.0	9.8	27.7	12.5	63.4	7.1	—	112
	文科二類	2.9	67.6	16.2	25.0	16.2	39.7	10.3	—	68
	文科三類	8.2	94.3	27.0	11.5	3.3	27.0	3.3	0.8	122
	理科一類	26.6	88.3	13.3	16.4	6.3	26.2	3.5	—	256
	理科二類	21.3	91.0	13.9	26.2	5.7	25.4	4.1	—	122
	理科三類	47.1	70.6	—	41.2	—	41.2	—	—	17
後期課程	法 学 部	5.2	57.5	6.0	39.6	15.7	59.7	5.2	—	134
	経済学部	2.9	66.7	4.3	37.7	18.8	30.4	15.9	1.4	69
	文 学 部	4.2	94.4	26.8	2.8	1.4	12.7	14.1	—	71
	教育学部	10.0	86.7	13.3	20.0	—	30.0	6.7	—	30
	教養(文系)	8.7	78.3	52.2	8.7	8.7	8.7	4.3	—	23
	教養(理系)	35.7	100.0	28.6	7.1	—	7.1	—	—	14
	理 学 部	43.1	90.2	7.8	2.0	—	13.7	3.9	—	51
	工 学 部	30.5	86.1	6.6	26.5	6.6	19.2	4.6	—	151
	農 学 部	17.7	83.9	9.7	25.8	1.6	21.0	9.7	—	62
	薬 学 部	33.3	100.0	5.6	33.3	5.6	16.7	—	—	18
医 学 部	8.5	83.0	6.4	34.0	—	53.2	2.1	—	47	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-5表 進学決定(内定)について

区分		希望通り 決定した	ほぼ希望通り 決定した	希望通りで なかった	無回答	事例数	
2003年調査 (53回)		% (79.4)	% (13.9)	% (4.9)	% (1.8)	人 (1,096)	% (100.0)
全	体	81.2	12.5	4.4	1.9	1,070	100.0
男	子	81.9	12.2	4.3	1.6	818	76.4
女	子	78.8	13.6	4.8	2.8	250	23.4
前期課程 (進学内定者)	文科一類	92.3	1.5	3.1	3.1	65	6.1
	文科二類	82.9	9.8	2.4	4.9	41	3.8
	文科三類	73.9	17.4	7.2	1.4	69	6.4
	理科一類	82.4	12.7	2.1	2.8	142	13.3
	理科二類	61.6	19.2	19.2	—	73	6.8
	理科三類	100.0	—	—	—	10	0.9
後期課程	法学部	97.0	3.0	—	—	134	12.5
	経済学部	89.9	7.2	1.4	1.4	69	6.4
	文学部	67.6	21.1	2.8	8.5	71	6.6
	教育学部	80.0	20.0	—	—	30	2.8
	教養(文系)	78.3	21.7	—	—	23	2.1
	教養(理系)	78.6	14.3	7.1	—	14	1.3
	理学部	84.6	7.7	5.8	1.9	52	4.9
	工学部	80.8	16.6	1.3	1.3	151	14.1
	農学部	56.5	24.2	19.4	—	62	5.8
	薬学部	94.4	5.6	—	—	18	1.7
医学部	87.2	6.4	2.1	4.3	47	4.4	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-6表 現在在籍している学部・学科等(科類)に満足していますか

区分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満 である	無回答	事例数	
2003年調査 (53回)		% (35.4)	% (36.0)	% (12.3)	% (9.9)	% (4.3)	% (2.0)	人 (1,501)	% (100.0)
全	体	36.1	36.9	14.0	7.9	4.2	1.0	1,367	100.0
男	子	33.8	37.5	13.9	8.5	5.0	1.3	1,050	76.8
女	子	43.2	34.9	14.3	6.0	1.6	—	315	23.0
男子	前期課程	30.3	37.3	18.4	8.3	3.4	2.3	528	38.6
	後期課程	37.4	37.7	9.4	8.6	6.5	0.4	522	38.2
女子	前期課程	42.6	35.5	14.2	6.5	1.2	—	169	12.4
	後期課程	43.8	34.2	14.4	5.5	2.1	—	146	10.7
男子	文科系	35.1	36.7	11.3	11.3	4.9	0.7	425	31.1
	理科系	33.0	38.1	15.7	6.6	5.0	1.8	625	45.7
女子	文科系	44.6	34.7	14.4	5.9	0.5	—	202	14.8
	理科系	40.7	35.4	14.2	6.2	3.5	—	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-7表 進学振分け制度についてどのようにかんがえていますか

区 分		特に考えて いることは ない	現行のまま でよい	入試時にも う少し細か く進路を決 める制度の 方がよい	点数以外の 振り分け基 準を取り入 れた方がよ い	無 回 答	事 例 数	
全 体		% 30.7	% 38.0	% 10.0	% 19.6	% 1.8	人 1,367	% 100.0
男 子		30.4	39.3	10.3	18.1	1.9	1,050	76.8
女 子		31.7	33.0	9.2	24.8	1.3	315	23.0
前期課程	文科一類	43.8	39.3	5.4	8.0	3.6	112	8.2
	文科二類	35.3	41.2	11.8	10.3	1.5	68	5.0
	文科三類	20.5	24.6	13.1	41.0	0.8	122	8.9
	理科一類	33.2	34.0	9.0	22.7	1.2	256	18.7
	理科二類	16.4	35.2	14.8	32.0	1.6	122	8.9
	理科三類	35.3	47.1	11.8	5.9	—	17	1.2
後期課程	法 学 部	47.0	35.1	6.7	11.2	—	134	9.8
	経 済 学 部	43.5	40.6	4.3	7.2	4.3	69	5.0
	文 学 部	28.2	33.8	5.6	25.4	7.0	71	5.2
	教 育 学 部	26.7	40.0	13.3	16.7	3.3	30	2.2
	教養(文系)	26.1	26.1	13.0	30.4	4.3	23	1.7
	教養(理系)	21.4	35.7	21.4	21.4	—	14	1.0
	理 学 部	27.5	52.9	9.8	9.8	—	51	3.7
	工 学 部	23.2	51.0	11.3	13.9	0.7	151	11.0
	農 学 部	21.0	35.5	21.0	21.0	1.6	62	4.5
	薬 学 部	33.3	44.4	5.6	16.7	—	18	1.3
	医 学 部	25.5	48.9	4.3	19.1	2.1	47	3.4

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

2003年調査 (53回)								
区 分	現行のまま でよい	点数だけ でない選択 方法も取り 入れてほしい	入学時から ある程度 進路が 決まってい た方がよい	特 に ない	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
全 体	36.1	31.0	13.7	12.0	5.7	1.5	1,501	100.0

1-8表 現在のカリキュラムに満足していますか

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満 である	無回答	事 例 数	
2003年調査 (53回)		% (11.1)	% (36.5)	% (19.9)	% (22.9)	% (8.5)	% (1.2)	人 (1,501)	% (100.0)
全 体		11.3	44.0	19.5	17.9	6.7	0.5	1,367	100.0
男 子		10.2	43.2	19.7	18.5	7.8	0.6	1,050	76.8
女 子		15.2	46.7	19.0	15.9	2.9	0.3	315	23.0
前期課程	文 科 一 類	14.3	43.8	17.9	15.2	8.0	0.9	112	8.2
	文 科 二 類	7.4	48.5	16.2	22.1	4.4	1.5	68	5.0
	文 科 三 類	11.5	45.9	20.5	15.6	6.6	—	122	8.9
	理 科 一 類	5.5	42.2	25.0	19.9	6.6	0.8	256	18.7
	理 科 二 類	9.8	31.1	24.6	24.6	9.0	0.8	122	8.9
	理 科 三 類	17.6	58.8	11.8	11.8	—	—	17	1.2
後期課程	法 学 部	11.2	45.5	13.4	20.1	9.7	—	134	9.8
	経 済 学 部	14.5	50.7	20.3	11.6	1.4	1.4	69	5.0
	文 学 部	9.9	57.7	14.1	15.5	1.4	1.4	71	5.2
	教 育 学 部	13.3	43.3	13.3	20.0	10.0	—	30	2.2
	教 養 (文系)	13.0	39.1	30.4	17.4	—	—	23	1.7
	教 養 (理系)	7.1	42.9	21.4	28.6	—	—	14	1.0
	理 学 部	13.7	47.1	15.7	17.6	5.9	—	51	3.7
	工 学 部	13.9	48.3	16.6	12.6	8.6	—	151	11.0
	農 学 部	17.7	29.0	21.0	25.8	6.5	—	62	4.5
	薬 学 部	16.7	44.4	11.1	22.2	5.6	—	18	1.3
医 学 部	19.1	42.6	23.4	6.4	8.5	—	47	3.4	
文 科 系		11.8	47.2	17.3	17.0	6.0	0.6	629	46.0
理 科 系		11.0	41.3	21.4	18.7	7.2	0.4	738	54.0
男子	前 期 課 程	7.2	40.5	22.9	20.3	8.1	0.9	528	38.6
	後 期 課 程	13.2	46.0	16.5	16.7	7.5	0.2	522	38.2
女子	前 期 課 程	15.4	47.3	18.3	16.0	3.0	—	169	12.4
	後 期 課 程	15.1	45.9	19.9	15.8	2.7	0.7	146	10.7

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-9表 現在のカリキュラムは消化できますか

区分		できる	まあまあ できる	多少困難	できない	無回答	事例数	
2003年調査 (53回)		% (39.8)	% (38.0)	% (17.9)	% (3.1)	% (1.2)	人 (1,501)	% (100.0)
全体		41.0	38.1	17.0	3.4	0.4	1,367	100.0
男子		41.6	37.2	17.0	3.5	0.6	1,050	76.8
女子		39.0	41.0	16.8	3.2	—	315	23.0
前期課程	文科一類	51.8	33.9	8.9	4.5	0.9	112	8.2
	文科二類	38.2	42.6	11.8	5.9	1.5	68	5.0
	文科三類	42.6	40.2	14.8	2.5	—	122	8.9
	理科一類	25.8	44.1	25.4	3.9	0.8	256	18.7
	理科二類	33.6	37.7	23.8	4.1	0.8	122	8.9
	理科三類	29.4	47.1	23.5	—	—	17	1.2
後期課程	法学部	37.3	39.6	17.2	6.0	—	134	9.8
	経済学部	46.4	42.0	7.2	2.9	1.4	69	5.0
	文学部	54.9	31.0	11.3	2.8	—	71	5.2
	教育学部	73.3	20.0	6.7	—	—	30	2.2
	教養(文系)	60.9	17.4	21.7	—	—	23	1.7
	教養(理系)	42.9	28.6	28.6	—	—	14	1.0
	理学部	43.1	43.1	13.7	—	—	51	3.7
	工学部	40.4	35.8	18.5	5.3	—	151	11.0
	農学部	56.5	40.3	3.2	—	—	62	4.5
	薬学部	38.9	27.8	33.3	—	—	18	1.3
医学部	51.1	29.8	19.1	—	—	47	3.4	
文科系		46.6	36.6	12.6	3.8	0.5	629	46.0
理科系		36.2	39.4	20.9	3.1	0.4	738	54.0
男子	前期課程	35.4	40.3	19.1	4.2	0.9	528	38.6
	後期課程	47.9	34.1	14.9	2.9	0.2	522	38.2
女子	前期課程	36.1	41.4	19.5	3.0	—	169	12.4
	後期課程	42.5	40.4	13.7	3.4	—	146	10.7

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-10表 「多少困難」・「できない」と答えた理由

(3つまで選択)

区 分		進学・卒業に 必要な単 位数が多過 ぎる	講義の内容 が高度すぎ て理解でき ない科目が ある	カリキュラ ムの組み方 が不適切で ある	教育上の指 導助言が十 分でない	入試科目で ないのに勉 強しなかつ た科目があ る	高校までの 勉強の仕方 ではうまく 適応できな い	授業の予習 と復習の時 間が十分と れない	授業への自 分の意欲や 努力が足り ない	その他	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)		(31.4)	(47.0)	(30.8)	(31.7)	(6.7)	(20.3)	(41.6)	(45.1)	(8.6)	(0.6)	315	100.0
全 体		26.8	53.6	23.9	33.6	13.6	18.9	41.4	46.8	6.8	—	280	100.0
男 子		27.3	52.3	23.1	32.9	9.3	17.1	41.7	49.5	6.9	—	216	77.1
女 子		25.4	58.7	27.0	34.9	28.6	25.4	39.7	38.1	4.8	—	63	22.5
前 期 課 程	文科一類	6.7	53.3	26.7	53.3	—	33.3	33.3	40.0	—	—	15	5.4
	文科二類	16.7	66.7	—	50.0	8.3	33.3	33.3	58.3	—	—	12	4.3
	文科三類	28.6	52.4	42.9	33.3	19.0	14.3	47.6	42.9	4.8	—	21	7.5
	理科一類	20.0	64.0	22.7	32.0	2.7	20.0	54.7	44.0	6.7	—	75	26.8
	理科二類	8.8	67.6	17.6	23.5	61.8	—	38.2	58.8	2.9	—	34	12.1
	理科三類	—	25.0	—	25.0	25.0	25.0	100.0	—	—	—	4	1.4
後 期 課 程	法学部	41.9	35.5	29.0	38.7	6.5	25.8	35.5	45.2	6.5	—	31	11.1
	経済学部	57.1	57.1	42.9	28.6	—	—	28.6	28.6	—	—	7	2.5
	文学部	20.0	60.0	20.0	40.0	—	20.0	30.0	60.0	10.0	—	10	3.6
	教育学部	—	—	50.0	50.0	—	50.0	—	100.0	—	—	2	0.7
	教養(文系)	80.0	20.0	40.0	20.0	—	60.0	40.0	—	—	—	5	1.8
	教養(理系)	25.0	75.0	25.0	25.0	50.0	50.0	—	50.0	—	—	4	1.4
	理学部	42.9	28.6	14.3	28.6	—	14.3	57.1	42.9	28.6	—	7	2.5
	工学部	41.7	44.4	22.2	38.9	5.6	16.7	25.0	55.6	16.7	—	36	12.9
	農学部	—	50.0	—	50.0	50.0	50.0	—	100.0	—	—	2	0.7
	薬学部	16.7	66.7	16.7	16.7	33.3	—	66.7	33.3	—	—	6	2.1
医学部	55.6	33.3	33.3	11.1	—	11.1	44.4	33.3	11.1	—	9	3.2	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

1-11表 学部卒業後の進路予定

区 分	大学院に 進学する	学士入学 をする	就職する	進学も就職 もしない	まだ決め ていない	起業する	その他	無回答	事 例 数		
全 体	% 50.5	% 0.4	% 31.1	% 0.1	% 15.1	% 0.6	% 1.5	% 0.7	人 1,367	% 100.0	
男 子	53.4	0.3	28.6	0.1	14.6	0.7	1.5	0.9	1,050	76.8	
女 子	40.3	1.0	39.7	0.3	16.8	0.3	1.6	—	315	23.0	
前期課程	48.1	0.4	24.8	0.1	23.5	1.0	1.0	1.0	697	51.0	
後期課程	53.0	0.4	37.6	0.1	6.3	0.1	2.1	0.3	670	49.0	
文 科 系	28.6	0.6	50.2	0.3	16.1	0.8	2.5	0.8	629	46.0	
理 科 系	69.1	0.3	14.8	—	14.2	0.4	0.7	0.5	738	54.0	
男 子	文科系	29.6	0.5	49.9	0.2	14.6	1.2	2.8	1.2	425	31.1
	理科系	69.6	0.2	14.1	—	14.6	0.3	0.6	0.6	625	45.7
女 子	文科系	25.7	1.0	51.5	0.5	19.3	—	2.0	—	202	14.8
	理科系	66.4	0.9	18.6	—	12.4	0.9	—	—	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

2003年調査 (53回)						
全 体	進学する	就職する	進学も、就 職もするつ もりはない	まだわか らない	無回答	事 例 数
	46.0	27.8	1.2	23.7	1.3	1,501 100.0

1-12表 学部卒業後の進学予定

区 分	大学院 修士課程	大学院 博士課程	専門職 学位課程	無回答	事 例 数	
全 体	% 61.7	% 29.6	% 8.1	% 0.6	人 690	% 100.0
男 子	61.3	29.9	8.0	0.7	561	81.3
女 子	64.6	28.3	7.1	—	127	18.4
前期課程	60.6	33.1	5.7	0.6	335	48.6
後期課程	62.8	26.2	10.4	0.6	355	51.4
文 科 系	40.6	30.6	28.3	0.6	180	26.1
理 科 系	69.2	29.2	1.0	0.6	510	73.9

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

2003年調査 (53回)					
全 体	大学院 修士課程	大学院 博士課程	その他 (学士入学等)	無回答	事 例 数
	63.4	33.3	3.0	0.3	691 100.0

1-13表 大学院進学理由

(2つまで選択)

区分	より高度の知識・技術を身に付けるため	大学の教育に就くため	大学外で研究職に就くため	必要な資格を得るため	良い就職先を得るため	まだ社会に出たくないから	就職先が決まらないから	周囲に勧められたから	大学院修了と いうことの社会的評価が高いから	学部での進路指導に従って	その他	無回答		事例数
												%	人	
全体	69.6	14.1	14.6	12.3	16.1	13.0	2.5	3.0	9.3	3.2	3.5	9.1	690	100.0
男子	68.8	15.3	15.0	10.2	16.2	13.2	2.7	2.7	10.9	3.2	3.7	8.7	561	81.3
女子	73.2	8.7	13.4	22.0	15.7	12.6	1.6	4.7	2.4	3.1	2.4	10.2	127	18.4
前期課程	67.2	15.3	18.3	7.8	18.7	8.2	2.2	3.4	9.7	2.6	3.7	12.3	268	38.8
後期課程	70.3	15.4	11.9	12.3	14.0	17.7	3.1	2.0	11.9	3.8	3.8	5.5	293	42.5
前期課程	71.6	9.0	13.4	23.9	17.9	9.0	—	4.5	1.5	3.0	4.5	9.0	67	9.7
後期課程	75.0	8.3	13.3	20.0	13.3	16.7	3.3	5.0	3.3	3.3	—	11.7	60	8.7
文科系	57.1	25.4	4.0	37.3	4.8	10.3	3.2	1.6	2.4	—	2.4	17.5	126	18.3
理科系	72.2	12.4	18.2	2.3	19.5	14.0	2.5	3.0	13.3	4.1	4.1	6.2	435	63.0
文科系	71.2	11.5	1.9	46.2	5.8	9.6	3.8	3.8	—	—	1.9	9.6	52	7.5
理科系	74.7	6.7	21.3	5.3	22.7	14.7	—	5.3	4.0	5.3	2.7	10.7	75	10.9

注2005年調査では、性別不明者が2名います。

2003年調査 (53回)													
全体	高度の専門知識・技術を身に付けるため	大学で教職に就くため	将来研究者になるため	良い就職先を得るため	まだ社会に出たくないから	周囲すすめられたから	社会的評価が高いから	友人・先輩の意見	大学での進路指導	その他	無回答		事例数
											%	人	
全体	75.9	12.7	44.2	20.8	13.8	3.0	5.7	1.2	1.0	3.7	0.3	668	100.0

II-1表 就職希望種

(3つまで選択)

区 分		大学・公 的機関の 教育・研 究職	企業等の 研究職	技術職	事務職	教育職 (大学を除く)	行政職 (公務員)	専門職 (医師、弁 護士、公認 会計士等)	マスコミ(新聞記 者、放送記者、ア ナウンサー、プロ デューサー等)	その他	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)		(46.4)	(38.4)	(27.0)	(17.5)	(9.2)	(32.9)	(37.1)	(17.9)	(6.2)	(0.9)	(1,501)	(100.0)
全 体		41.1	39.2	23.9	23.2	8.7	31.6	33.5	16.5	6.9	1.1	1,367	100.0
男 子		42.9	42.9	27.7	21.3	8.3	30.0	31.9	13.7	6.9	1.2	1,050	76.8
女 子		35.6	27.3	11.4	29.2	9.8	36.5	38.4	25.7	7.0	0.6	315	23.0
男子	前期課程	48.5	45.5	29.9	17.8	8.0	32.4	32.0	14.0	7.6	0.8	528	38.6
	後期課程	37.2	40.2	25.5	24.9	8.6	27.6	31.8	13.4	6.1	1.7	522	38.2
女子	前期課程	39.6	27.2	13.6	25.4	8.9	42.6	42.0	27.2	6.5	0.6	169	12.4
	後期課程	30.8	27.4	8.9	33.6	11.0	29.5	34.2	24.0	7.5	0.7	146	10.7
男子	文科系	25.9	11.3	2.6	36.5	10.1	43.1	49.9	23.8	9.9	1.4	425	31.1
	理科系	54.4	64.3	44.8	11.0	7.0	21.1	19.7	6.9	4.8	1.1	625	45.7
女子	文科系	27.2	11.9	5.4	36.6	11.4	41.6	42.1	33.2	9.9	0.5	202	14.8
	理科系	50.4	54.9	22.1	15.9	7.1	27.4	31.9	12.4	1.8	0.9	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-2表 その職業に就きたい理由

(3つまで選択)

区 分		社人 を助 けたり する	安 定し た生 活が 保証 され てい る	十 分な 収入 が得 られ る	自 分の 特長 を活 かす こと がで きる	自 分の 専 門知 識が 活か され る	華 やか な世 間は もて られ る	社 会的 な地 位が 得ら れる	組 織に しぼ られ ない 自由 な活 動が でき る	人 や組 織を 動か すこ とが でき る	独 創性 や創 造性 を発 揮で きる	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)		(42.5)	(31.8)	(29.2)	(65.6)	(3.7)	(13.0)	(23.9)	(10.3)	(32.4)	(4.7)	(1.1)	(1,501)	(100.0)	
全 体		42.4	30.7	29.7	63.2	3.7	12.8	20.9	13.1	31.2	3.7	0.9	1,367	100.0	
男 子		40.1	29.0	30.3	63.7	3.7	13.3	21.4	14.4	33.2	3.2	1.0	1,050	76.8	
女 子		49.5	36.2	27.9	61.6	3.5	10.8	19.0	8.9	24.8	5.1	0.6	315	23.0	
男子	前期課程	36.7	29.7	32.0	65.0	3.8	13.6	22.5	12.7	33.1	2.3	0.6	528	38.6	
	後期課程	43.5	28.4	28.5	62.5	3.6	13.0	20.3	16.1	33.3	4.2	1.3	522	38.2	
女子	前期課程	45.6	37.3	30.2	60.9	4.1	13.0	20.1	8.9	23.1	4.1	0.6	169	12.4	
	後期課程	54.1	34.9	25.3	62.3	2.7	8.2	17.8	8.9	26.7	6.2	0.7	146	10.7	
男子	文科系	44.2	33.4	36.0	48.7	5.4	19.3	25.2	22.4	24.9	3.3	1.2	425	31.1	
	理科系	37.3	26.1	26.4	73.9	2.6	9.3	18.9	9.0	38.9	3.2	0.8	625	45.7	
女子	文科系	52.5	32.7	31.7	55.0	4.5	13.4	19.8	10.9	20.8	6.4	0.5	202	14.8	
	理科系	44.2	42.5	21.2	73.5	1.8	6.2	17.7	5.3	31.9	2.7	0.9	113	8.3	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-3表 仕事や職場を選ぶ理由

(3つまで選択)

区分	給料がよい	休みをとりやすい	責任が軽い	失業の心配がない	福利厚生が充実している	出世の見込みが多い	技術や知識を身につけられる	権限が大きい	やりがいがある	能力が発揮できる	人から評価される	仕事をを行う上で男女の差別がない	将来発展する見込みがある	職場が都心のオフィス街にある	職場が自然環境のよい郊外にある	
2003年調査(53回)	% (39.0)	% (9.0)	% (2.1)	% (13.3)	% (6.2)	% (2.9)	% (24.7)	% (3.5)	% (70.6)	% (41.8)	% (9.9)	% (6.9)	% (12.7)	% (1.8)	% (1.7)	
全体	36.4	8.9	2.2	10.9	6.2	3.2	22.2	2.6	70.6	39.1	8.2	4.8	12.2	1.0	0.4	
男子	38.9	9.4	2.6	11.7	5.0	3.8	23.0	3.0	69.9	41.0	8.9	0.4	12.7	1.0	0.4	
女子	28.3	7.0	1.0	8.3	10.5	1.3	19.4	1.3	72.7	33.0	6.0	19.7	10.8	1.0	0.6	
男子	前期課程 後期課程	42.0 35.6	9.5 9.4	2.7 2.5	12.9 10.5	4.4 5.6	3.6 4.0	18.2 27.8	3.2 2.7	67.2 72.6	42.2 39.8	9.3 8.4	0.6 0.2	13.8 11.5	0.6 1.3	0.8 —
女子	前期課程 後期課程	32.5 23.3	7.7 6.2	1.2 0.7	8.3 8.2	8.3 13.0	1.2 1.4	13.6 26.0	1.8 0.7	77.5 67.1	33.7 32.2	8.3 3.4	20.1 19.2	10.1 11.6	0.6 1.4	1.2 —
男子	文科系 理科系	37.6 39.7	8.9 9.8	2.6 2.6	13.2 10.7	5.9 4.3	6.1 2.2	18.8 25.8	4.9 1.6	69.2 70.4	34.4 45.6	10.4 7.8	0.5 0.3	6.8 16.6	0.9 1.0	0.2 0.5
女子	文科系 理科系	28.2 28.3	5.4 9.7	— 2.7	7.9 8.8	11.4 8.8	1.5 0.9	14.4 28.3	1.5 0.9	73.8 70.8	32.7 33.6	6.9 4.4	21.3 16.8	8.9 14.2	1.0 0.9	0.5 0.9

区分	海外勤務の機会が多い	転勤が少ない	いろいろな人と知り合える	オフィスが新しくきれいな	職場の人間関係がよい	職場に近い	残業が少ない	雇用が安定している	世界的な仕事ができる	英語(外国語)を使う機会が多い	公務員である	その他	無回答	事例数		
2003年調査(53回)	% (5.0)	% (3.5)	% (14.7)	% (0.4)	% (18.1)	% (-)	% (-)	% (-)	% (-)	% (-)	% (-)	% (1.9)	% (0.5)	人 (1,501)	% (100.0)	
全体	2.8	2.1	11.0	0.3	13.2	1.5	2.4	7.4	11.9	1.8	3.1	1.4	0.1	1,367	100.0	
男子	2.7	1.5	10.6	0.1	11.9	1.7	2.6	7.1	11.6	1.3	3.2	1.5	0.2	1,050	76.8	
女子	3.2	4.1	12.1	1.0	17.8	1.0	1.9	8.3	12.7	3.2	2.5	1.0	—	315	23.0	
男子	前期課程 後期課程	1.3 4.0	2.1 1.0	9.1 12.1	0.2 —	11.9 11.9	2.1 1.3	2.7 2.5	7.6 6.7	12.1 11.1	1.3 1.3	2.5 4.0	0.9 2.1	0.2 0.2	528 522	38.6 38.2
女子	前期課程 後期課程	2.4 4.1	3.6 4.8	10.7 13.7	— 2.1	16.0 19.9	1.2 0.7	1.8 2.1	6.5 10.3	14.2 11.0	3.0 3.4	2.4 2.7	0.6 1.4	— —	169 146	12.4 10.7
男子	文科系 理科系	4.7 1.3	1.4 1.6	16.9 6.2	0.2 —	8.9 13.9	1.6 1.8	2.1 2.9	9.9 5.3	11.3 11.8	1.6 1.1	4.2 2.6	1.9 1.3	0.2 0.2	425 625	31.1 45.7
女子	文科系 理科系	3.5 2.7	5.4 1.8	12.9 10.6	0.5 1.8	18.8 15.9	1.5 —	1.5 2.7	8.9 7.1	13.4 11.5	4.5 0.9	2.0 3.5	0.5 1.8	— —	202 113	14.8 8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-4表 就職活動をしたことはありますか

区 分		ある	ない	無回答	事例数	
全 体		% 19.9	% 79.9	% 0.2	人 1,367	% 100.0
男 子		19.1	80.6	0.3	1,050	76.8
女 子		22.5	77.5	—	315	23.0
男 子	前 期 課 程	1.3	98.3	0.4	528	38.6
	後 期 課 程	37.2	62.6	0.2	522	38.2
女 子	前 期 課 程	0.6	99.4	—	169	12.4
	後 期 課 程	47.9	52.1	—	146	10.7
男 子	文 科 系	31.1	68.2	0.7	425	31.1
	理 科 系	11.0	89.0	—	625	45.7
女 子	文 科 系	29.7	70.3	—	202	14.8
	理 科 系	9.7	90.3	—	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-5表 就職活動として、どのようなことをしていますか

(複数選択)

区 分		インターネット等で、情報を収集する	企業等のセミナーや説明会に参加する	就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
2003年調査 (53回)		% (45.1)	% (22.5)	% (11.5)	% (19.9)	% (3.7)	% (42.7)	人 (1,501)	% (100.0)
全 体		95.6	86.8	19.5	20.2	3.7	0.7	272	100.0
男 子		96.0	88.1	19.9	22.4	3.0	1.0	201	73.9
女 子		94.4	83.1	18.3	14.1	5.6	—	71	26.1
男 子	前 期 課 程	71.4	71.4	—	14.3	28.6	—	7	2.6
	後 期 課 程	96.9	88.7	20.6	22.7	2.1	1.0	194	71.3
女 子	前 期 課 程	100.0	—	100.0	—	—	—	1	0.4
	後 期 課 程	94.3	84.3	17.1	14.3	5.7	—	70	25.7
男 子	文 科 系	96.2	93.2	18.9	26.5	3.0	0.8	132	48.5
	理 科 系	95.7	78.3	21.7	14.5	2.9	1.4	69	25.4
女 子	文 科 系	96.7	88.3	21.7	15.0	5.0	—	60	22.1
	理 科 系	81.8	54.5	—	9.1	9.1	—	11	4.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-6表 就職する場所はどこを希望しますか

区分	東京圏(東京近郊)を希望する		東京圏(東京近郊)以外を希望する		出身地に近いところを希望する		東京圏、東京圏以外どちらでもよい		海外を希望する		その他		無回答		事例数		
	%	(538)	%	(1.9)	%	(6.1)	%	(33.6)	%	(-)	%	(3.3)	%	(1.3)	人	%	(100.0)
2003年調査(53回)	54.0		5.4		33.1		3.7		1.7		0.9		1,050		1,367		100.0
全	51.4		5.7		35.5		3.7		1.7		1.0		1,050		1,367		76.8
男	62.5		4.1		25.4		4.1		1.9		0.6		315		315		23.0
女	47.7		7.0		35.6		5.3		2.1		0.9		528		528		38.6
前期課程	55.2		4.4		35.4		2.1		1.3		1.0		522		522		38.2
後期課程	57.4		6.5		25.4		6.5		1.8		1.2		169		169		12.4
男子	68.5		1.4		25.3		1.4		2.1		—		146		146		10.7
女子	56.0		4.9		33.2		2.8		1.4		1.2		425		425		31.1
文科系	48.3		6.2		37.1		4.3		1.9		0.8		625		625		45.7
理科系	62.9		5.4		23.8		4.0		2.0		1.0		202		202		14.8
女子	61.9		1.8		28.3		4.4		1.8		—		113		113		8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-7表 ニート、フリーターに関するあなたの評価をお聞かせください。

(2つまで選択)

区分	ニートもフリーターも望ましくない		ニートは許せないが、フリーターは自分の適切な職が見つかるまでは仕方ない		ニートやフリーターは存在は今の世の中では許容される		ニートやフリーターは本人に責任がある		ニートやフリーターを生む現在の社会に責任がある		その他		無回答		事例数		
	%	33.6	%	26.6	%	24.1	%	46.4	%	35.0	%	6.7	%	0.6	人	%	100.0
全	34.0		24.7		47.6		33.5		6.3		0.6		1,050		1,050		76.8
男	31.7		22.2		42.2		39.7		7.9		0.6		315		315		23.0
女	35.4		24.2		48.9		35.8		4.7		0.4		528		528		38.6
前期課程	32.6		27.6		46.4		31.2		7.9		0.8		522		522		38.2
後期課程	33.7		27.8		42.6		37.3		8.9		1.2		169		169		12.4
男子	29.5		30.8		41.8		42.5		6.8		—		146		146		10.7
女子	35.1		22.8		43.8		36.0		7.3		0.5		425		425		31.1
文科系	33.3		28.0		50.2		31.8		5.6		0.6		625		625		45.7
理科系	28.7		30.7		41.6		46.5		9.4		—		202		202		14.8
女子	37.2		26.5		43.4		27.4		5.3		1.8		113		113		8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

II-8表 ニート、フリーターに関するあなた自身の関わりをお聞かせください。

(2つまで選択)

区 分	自分は絶対ニートやフリーターにはならないように思う	自分はニートはならないが、フリーターになるかもしれない	自分はニートやフリーターになるように思う	自分の周りにニートやフリーターをやっている人がある	自分の周りにはニートやフリーターはいない	その他	無回答	事例数	
								人	%
全 体	% 62.0	% 20.9	% 7.4	% 35.3	% 41.3	% 3.6	% 1.2	人 1,367	% 100.0
男 子	61.9	19.5	8.3	34.9	41.5	3.6	1.1	1,050	76.8
女 子	62.2	25.7	4.1	36.8	40.6	3.5	1.3	315	23.0
男子	前期課程	19.7	7.2	31.8	46.4	2.7	1.1	528	38.6
	後期課程	59.8	19.3	9.4	37.9	4.6	1.1	522	38.2
女子	前期課程	66.9	21.3	1.8	33.1	47.9	2.4	169	12.4
	後期課程	56.8	30.8	6.8	41.1	32.2	—	146	10.7
男子	文科系	59.3	20.5	9.4	34.4	39.5	1.6	425	31.1
	理科系	63.7	18.9	7.5	35.2	42.9	0.8	625	45.7
女子	文科系	60.9	26.2	4.5	39.6	37.1	1.5	202	14.8
	理科系	64.6	24.8	3.5	31.9	46.9	0.9	113	8.3

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

III-1表 現在の学生生活の中で、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。

※平均値の算出は該当者平均を求めた(無回答を除く)

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
勉学(成績・単位など)	2001年調査(51回)	% (21.8)	% (44.9)	% (22.0)	% (11.0)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.8)	
	全体	26.4	40.5	24.7	8.1	0.2	1,367	100.0	2.9	
	男子	24.9	39.1	26.3	9.5	0.2	1,050	76.8	2.8	
	女子	31.4	45.4	19.4	3.5	0.3	315	23.0	3.1	
	男子	前期課程	26.1	40.3	25.8	7.6	0.2	528	38.6	2.9
		後期課程	23.6	37.9	26.8	11.5	0.2	522	38.2	2.7
	女子	前期課程	33.7	46.2	16.0	3.6	0.6	169	12.4	3.1
		後期課程	28.8	44.5	23.3	3.4	—	146	10.7	3.0
	男子	文科系	23.5	38.6	26.8	11.1	—	425	31.1	2.7
		理科系	25.8	39.5	25.9	8.5	0.3	625	45.7	2.8
	女子	文科系	32.2	42.6	21.8	3.0	0.5	202	14.8	3.0
		理科系	30.1	50.4	15.0	4.4	—	113	8.3	3.1
	男子	自宅	27.3	37.6	25.9	8.8	0.4	487	35.6	2.8
		自宅外	22.9	40.1	26.7	10.2	—	558	40.8	2.8
	無回答	—	80.0	20.0	—	—	5	0.4	2.8	
女子	自宅	26.1	46.0	24.4	3.4	—	176	12.9	2.9	
	自宅外	38.4	44.2	13.0	3.6	0.7	138	10.1	3.2	
	無回答	—	100.0	—	—	—	1	0.1	3.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
学部進学や大学院進学	2001年調査(51回)	% (23.9)	% (35.0)	% (19.6)	% (21.1)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.6)	
	全体	24.9	34.1	25.0	15.7	0.3	1,367	100.0	2.7	
	男子	22.7	34.2	26.2	16.8	0.2	1,050	76.8	2.6	
	女子	32.4	33.7	21.3	12.1	0.6	315	23.0	2.9	
	男子	前期課程	22.9	35.2	30.5	11.2	0.2	528	38.6	2.7
		後期課程	22.4	33.1	21.8	22.4	0.2	522	38.2	2.6
	女子	前期課程	32.5	39.6	19.5	7.7	0.6	169	12.4	3.0
		後期課程	32.2	26.7	23.3	17.1	0.7	146	10.7	2.7
	男子	文科系	21.6	27.1	25.2	25.9	0.2	425	31.1	2.4
		理科系	23.4	39.0	26.9	10.6	0.2	625	45.7	2.8
	女子	文科系	29.7	32.7	23.3	13.4	1.0	202	14.8	2.8
		理科系	37.2	35.4	17.7	9.7	—	113	8.3	3.0
	男子	自宅	23.8	31.0	27.9	16.8	0.4	487	35.6	2.6
		自宅外	21.7	37.1	24.6	16.7	—	558	40.8	2.6
	無回答	20.0	20.0	40.0	20.0	—	5	0.4	2.4	
女子	自宅	33.0	30.7	23.9	11.9	0.6	176	12.9	2.9	
	自宅外	31.9	37.0	18.1	12.3	0.7	138	10.1	2.9	
	無回答	—	100.0	—	—	—	1	0.1	3.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
就職	2001年調査(51回)	% (29.0)	% (31.4)	% (23.8)	% (15.5)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.7)	
	全体	30.4	36.6	22.8	9.9	0.4	1,367	100.0	2.9	
	男子	29.0	35.9	24.0	10.8	0.4	1,050	76.8	2.8	
	女子	35.2	38.7	18.7	7.0	0.3	315	23.0	3.0	
	男子	前期課程 後期課程	21.6 36.4	36.4 35.4	31.1 16.9	10.8 10.7	0.2 0.6	528 522	38.6 38.2	2.7 3.0
	女子	前期課程 後期課程	26.6 45.2	40.2 37.0	24.3 12.3	8.3 5.5	0.6 —	169 146	12.4 10.7	2.9 3.2
	男子	文科系 理科系	36.7 23.7	36.5 35.5	16.2 29.3	10.1 11.2	0.5 0.3	425 625	31.1 45.7	3.0 2.7
	女子	文科系 理科系	37.1 31.9	42.1 32.7	13.9 27.4	6.4 8.0	0.5 —	202 113	14.8 8.3	3.1 2.9
	男子	自宅 自宅外 無回答	28.1 29.7 20.0	36.8 34.9 60.0	22.8 25.1 20.0	11.7 10.0 —	0.6 0.2 —	487 558 5	35.6 40.8 0.4	2.8 2.8 3.0
	女子	自宅 自宅外 無回答	31.8 39.9 —	41.5 35.5 —	18.8 18.1 100.0	8.0 5.8 —	— 0.7 —	176 138 1	12.9 10.1 0.1	3.0 3.1 2.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
将来の進路や生き方	2001年調査(51回)	% (46.0)	% (34.9)	% (13.4)	% (5.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(3.2)	
	全体	46.9	36.4	12.6	3.7	0.4	1,367	100.0	3.3	
	男子	44.7	37.3	13.2	4.6	0.2	1,050	76.8	3.2	
	女子	54.3	33.3	10.5	1.0	1.0	315	23.0	3.4	
	男子	前期課程 後期課程	41.3 48.1	38.6 36.0	16.1 10.3	3.6 5.6	0.4 —	528 522	38.6 38.2	3.2 3.3
	女子	前期課程 後期課程	48.5 61.0	35.5 30.8	13.6 6.8	0.6 1.4	1.8 —	169 146	12.4 10.7	3.3 3.5
	男子	文科系 理科系	48.2 42.2	35.3 38.7	11.8 14.2	4.5 4.6	0.2 0.2	425 625	31.1 45.7	3.3 3.2
	女子	文科系 理科系	54.0 54.9	34.7 31.0	8.9 13.3	1.0 0.9	1.5 —	202 113	14.8 8.3	3.4 3.4
	男子	自宅 自宅外 無回答	42.3 46.6 60.0	39.6 35.5 20.0	12.5 13.8 20.0	5.3 3.9 —	0.2 0.2 —	487 558 5	35.6 40.8 0.4	3.2 3.2 3.4
	女子	自宅 自宅外 無回答	51.1 58.7 —	34.1 31.9 100.0	14.2 5.8 —	0.6 1.4 —	— 2.2 —	176 138 1	12.9 10.1 0.1	3.4 3.5 3.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
友人との対人関係	2001年調査 (51回)	% (14.6)	% (32.8)	% (37.7)	% (14.5)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.5)	
	全 体	13.1	31.6	42.7	12.4	0.2	1,367	100.0	2.5	
	男 子	12.1	30.1	44.2	13.4	0.2	1,050	76.8	2.4	
	女 子	16.5	36.5	37.8	8.9	0.3	315	23.0	2.6	
	男子	前期課程	13.6	30.9	43.6	11.7	0.2	528	38.6	2.5
		後期課程	10.5	29.3	44.8	15.1	0.2	522	38.2	2.4
	女子	前期課程	21.3	34.3	32.5	11.2	0.6	169	12.4	2.7
		後期課程	11.0	39.0	43.8	6.2	—	146	10.7	2.5
	男子	文 科 系	9.9	30.1	46.1	13.9	—	425	31.1	2.4
		理 科 系	13.6	30.1	42.9	13.1	0.3	625	45.7	2.4
	女子	文 科 系	16.3	36.1	38.1	8.9	0.5	202	14.8	2.6
		理 科 系	16.8	37.2	37.2	8.8	—	113	8.3	2.6
	男子	自 宅	11.3	25.9	48.5	14.0	0.4	487	35.6	2.3
		自 宅 外	12.9	33.7	40.3	13.1	—	558	40.8	2.5
無 回 答		—	40.0	60.0	—	—	5	0.4	2.4	
女子	自 宅	15.3	36.4	37.5	10.8	—	176	12.9	2.6	
	自 宅 外	18.1	37.0	37.7	6.5	0.7	138	10.1	2.7	
	無 回 答	—	—	100.0	—	—	1	0.1	2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
性・異性・恋愛・結婚	2001年調査 (51回)	% (24.3)	% (38.2)	% (27.2)	% (10.0)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.8)	
	全 体	21.2	38.3	29.1	11.2	0.2	1,367	100.0	2.7	
	男 子	20.9	37.8	29.7	11.4	0.2	1,050	76.8	2.7	
	女 子	22.2	39.7	27.3	10.5	0.3	315	23.0	2.7	
	男子	前期課程	23.1	35.2	31.6	9.8	0.2	528	38.6	2.7
		後期課程	18.6	40.4	27.8	13.0	0.2	522	38.2	2.6
	女子	前期課程	25.4	40.2	22.5	11.2	0.6	169	12.4	2.8
		後期課程	18.5	39.0	32.9	9.6	—	146	10.7	2.7
	男子	文 科 系	19.5	37.9	31.1	11.5	—	425	31.1	2.7
		理 科 系	21.8	37.8	28.8	11.4	0.3	625	45.7	2.7
	女子	文 科 系	23.8	36.6	30.2	8.9	0.5	202	14.8	2.8
		理 科 系	19.5	45.1	22.1	13.3	—	113	8.3	2.7
	男子	自 宅	20.7	35.3	31.0	12.5	0.4	487	35.6	2.6
		自 宅 外	21.1	39.6	28.7	10.6	—	558	40.8	2.7
無 回 答		—	80.0	20.0	—	—	5	0.4	2.8	
女子	自 宅	22.2	42.0	25.0	10.8	—	176	12.9	2.8	
	自 宅 外	22.5	37.0	30.4	9.4	0.7	138	10.1	2.7	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
経済的なことや経済的自立	2001年調査(51回)	% (21.9)	% (35.4)	% (30.0)	% (12.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.7)	
	全体	22.5	37.7	30.4	9.1	0.2	1,367	100.0	2.7	
	男子	22.1	38.0	29.8	10.0	0.1	1,050	76.8	2.7	
	女子	24.1	36.5	32.7	6.0	0.6	315	23.0	2.8	
	男子	前期課程	20.5	37.7	31.4	10.2	0.2	528	38.6	2.7
		後期課程	23.8	38.3	28.2	9.8	—	522	38.2	2.8
	女子	前期課程	22.5	33.7	33.7	8.9	1.2	169	12.4	2.7
		後期課程	26.0	39.7	31.5	2.7	—	146	10.7	2.9
	男子	文科系	21.2	37.2	30.4	11.3	—	425	31.1	2.7
		理科系	22.7	38.6	29.4	9.1	0.2	625	45.7	2.8
	女子	文科系	23.3	37.6	33.2	5.0	1.0	202	14.8	2.8
		理科系	25.7	34.5	31.9	8.0	—	113	8.3	2.8
	男子	自宅	17.9	39.8	30.2	11.9	0.2	487	35.6	2.6
	自宅外	26.0	36.2	29.4	8.4	—	558	40.8	2.8	
	無回答	—	60.0	40.0	—	—	5	0.4	2.6	
女子	自宅	22.2	31.3	38.1	8.0	0.6	176	12.9	2.7	
	自宅外	26.8	43.5	26.1	2.9	0.7	138	10.1	2.9	
	無回答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事例数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
自分の性格	2001年調査(51回)	% (19.9)	% (28.2)	% (34.8)	% (16.8)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.5)	
	全体	20.6	31.2	34.0	13.9	0.2	1,367	100.0	2.6	
	男子	18.6	30.4	35.1	15.7	0.2	1,050	76.8	2.5	
	女子	27.3	34.3	30.2	7.9	0.3	315	23.0	2.8	
	男子	前期課程	20.1	31.8	32.2	15.7	0.2	528	38.6	2.6
		後期課程	17.0	28.9	38.1	15.7	0.2	522	38.2	2.5
	女子	前期課程	26.6	34.3	31.4	7.1	0.6	169	12.4	2.8
		後期課程	28.1	34.2	28.8	8.9	—	146	10.7	2.8
	男子	文科系	16.0	32.9	34.1	16.9	—	425	31.1	2.5
		理科系	20.3	28.6	35.8	14.9	0.3	625	45.7	2.5
	女子	文科系	27.2	33.7	31.2	7.4	0.5	202	14.8	2.8
		理科系	27.4	35.4	28.3	8.8	—	113	8.3	2.8
	男子	自宅	17.0	30.0	33.1	19.5	0.4	487	35.6	2.4
	自宅外	20.1	30.5	36.9	12.5	—	558	40.8	2.6	
	無回答	—	60.0	40.0	—	—	5	0.4	2.6	
女子	自宅	27.3	34.1	29.0	9.7	—	176	12.9	2.8	
	自宅外	27.5	34.8	31.2	5.8	0.7	138	10.1	2.8	
	無回答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
自分の体調や健康	2001年調査(51回)	% (11.4)	% (21.0)	% (41.5)	% (25.8)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.2)	
	全 体	10.5	25.4	40.5	23.5	0.2	1,367	100.0	2.2	
	男 子	9.2	25.4	39.9	25.2	0.2	1,050	76.8	2.2	
	女 子	14.3	25.1	42.5	17.8	0.3	315	23.0	2.4	
	男子	前期課程	10.2	26.5	39.0	24.1	0.2	528	38.6	2.2
		後期課程	8.2	24.3	40.8	26.4	0.2	522	38.2	2.1
	女子	前期課程	14.8	23.7	43.8	17.2	0.6	169	12.4	2.4
		後期課程	13.7	26.7	41.1	18.5	—	146	10.7	2.4
	男子	文 科 系	11.1	26.1	37.9	24.9	—	425	31.1	2.2
		理 科 系	8.0	25.0	41.3	25.4	0.3	625	45.7	2.2
	女子	文 科 系	15.3	23.3	44.1	16.8	0.5	202	14.8	2.4
		理 科 系	12.4	28.3	39.8	19.5	—	113	8.3	2.3
男子	自 宅	9.4	21.6	40.2	28.3	0.4	487	35.6	2.1	
	自 宅 外	9.1	28.7	39.4	22.8	—	558	40.8	2.2	
	無 回 答	—	40.0	60.0	—	—	5	0.4	2.4	
女子	自 宅	12.5	26.1	39.2	22.2	—	176	12.9	2.3	
	自 宅 外	16.7	23.9	47.1	11.6	0.7	138	10.1	2.5	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
人生の意義・目標	2001年調査(51回)	% (24.5)	% (33.5)	% (27.2)	% (14.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.7)	
	全 体	26.0	35.4	26.4	12.0	0.2	1,367	100.0	2.8	
	男 子	25.8	33.9	27.7	12.4	0.2	1,050	76.8	2.7	
	女 子	26.3	40.6	22.2	10.5	0.3	315	23.0	2.8	
	男子	前期課程	27.1	32.6	29.0	11.2	0.2	528	38.6	2.8
		後期課程	24.5	35.2	26.4	13.6	0.2	522	38.2	2.7
	女子	前期課程	25.4	41.4	20.1	12.4	0.6	169	12.4	2.8
		後期課程	27.4	39.7	24.7	8.2	—	146	10.7	2.9
	男子	文 科 系	25.6	34.6	28.7	11.1	—	425	31.1	2.7
		理 科 系	25.9	33.4	27.0	13.3	0.3	625	45.7	2.7
	女子	文 科 系	25.7	40.1	21.8	11.9	0.5	202	14.8	2.8
		理 科 系	27.4	41.6	23.0	8.0	—	113	8.3	2.9
男子	自 宅	25.5	34.1	26.5	13.6	0.4	487	35.6	2.7	
	自 宅 外	26.3	33.7	28.5	11.5	—	558	40.8	2.7	
	無 回 答	—	40.0	60.0	—	—	5	0.4	2.4	
女子	自 宅	23.3	43.2	22.2	11.4	—	176	12.9	2.8	
	自 宅 外	30.4	37.0	22.5	9.4	0.7	138	10.1	2.9	
	無 回 答	—	100.0	—	—	—	1	0.1	3.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

III-2表 あなたは、不安や悩みを感じたとき、だれと相談したり、話し合ったりしますか。

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
父 ・ 母	2001年調査 (51回)	% (10.5)	% (19.0)	% (39.4)	% (30.7)	% (0.4)	人 (942)	% (100.0)	(2.1)	
	全 体	14.9	24.7	38.6	21.4	0.4	1,367	100.0	2.3	
	男 子	10.8	24.4	40.8	23.6	0.5	1,050	76.8	2.2	
	女 子	28.9	25.1	31.4	14.3	0.3	315	23.0	2.7	
	男子	前期課程	11.2	23.7	40.0	24.6	0.6	528	38.6	2.2
		後期課程	10.3	25.1	41.6	22.6	0.4	522	38.2	2.2
	女子	前期課程	30.8	24.9	27.8	16.0	0.6	169	12.4	2.7
		後期課程	26.7	25.3	35.6	12.3	—	146	10.7	2.7
	男子	文 科 系	11.8	25.6	40.7	21.6	0.2	425	31.1	2.3
		理 科 系	10.1	23.5	40.8	25.0	0.6	625	45.7	2.2
女子	文 科 系	32.2	24.8	28.2	14.4	0.5	202	14.8	2.8	
	理 科 系	23.0	25.7	37.2	14.2	—	113	8.3	2.6	
男子	自 宅	12.3	22.6	42.9	21.4	0.8	487	35.6	2.3	
	自 宅 外	9.5	26.2	38.9	25.3	0.2	558	40.8	2.2	
	無 回 答	—	—	40.0	60.0	—	5	0.4	1.4	
女子	自 宅	31.3	25.0	31.3	12.5	—	176	12.9	2.8	
	自 宅 外	26.1	25.4	31.2	16.7	0.7	138	10.1	2.6	
	無 回 答	—	—	100.0	—	—	1	0.1	2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
兄 ・ 弟 ・ 姉 ・ 妹	2001年調査 (51回)	% (3.3)	% (8.5)	% (22.6)	% (64.6)	% (1.0)	人 (942)	% (100.0)	(1.5)	
	全 体	4.3	9.7	21.9	62.1	2.0	1,367	100.0	1.6	
	男 子	2.9	8.1	21.8	65.3	1.9	1,050	76.8	1.5	
	女 子	8.9	15.2	22.2	51.4	2.2	315	23.0	1.8	
	男子	前期課程	2.5	8.0	21.0	66.3	2.3	528	38.6	1.5
		後期課程	3.3	8.2	22.6	64.4	1.5	522	38.2	1.5
	女子	前期課程	8.3	16.0	19.5	53.3	3.0	169	12.4	1.8
		後期課程	9.6	14.4	25.3	49.3	1.4	146	10.7	1.8
	男子	文 科 系	2.4	8.5	20.9	66.4	1.9	425	31.1	1.5
		理 科 系	3.2	7.8	22.4	64.6	1.9	625	45.7	1.5
女子	文 科 系	7.9	15.8	20.3	54.0	2.0	202	14.8	1.8	
	理 科 系	10.6	14.2	25.7	46.9	2.7	113	8.3	1.9	
男子	自 宅	2.7	8.0	22.2	64.9	2.3	487	35.6	1.5	
	自 宅 外	3.0	8.2	21.3	65.8	1.6	558	40.8	1.5	
	無 回 答	—	—	40.0	60.0	—	5	0.4	1.4	
女子	自 宅	8.5	12.5	23.3	52.3	3.4	176	12.9	1.8	
	自 宅 外	9.4	18.8	21.0	50.0	0.7	138	10.1	1.9	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
学生相談所・保健センター	全 体	% 0.8	% 1.0	% 5.9	% 92.0	% 0.4	人 1,367	% 100.0	1.1	
	男 子	0.7	0.6	5.5	92.8	0.5	1,050	76.8	1.1	
	女 子	1.3	2.2	7.0	89.2	0.3	315	23.0	1.2	
	男子	前期課程 後期課程	0.9 0.4	0.6 0.6	4.7 6.3	93.2 92.3	0.6 0.4	528 522	38.6 38.2	1.1 1.1
	女子	前期課程 後期課程	1.8 0.7	1.8 2.7	6.5 7.5	89.3 89.0	0.6 —	169 146	12.4 10.7	1.2 1.2
	男子	文 科 系 理 科 系	0.7 0.6	0.7 0.5	5.6 5.4	92.5 93.0	0.5 0.5	425 625	31.1 45.7	1.1 1.1
	女子	文 科 系 理 科 系	2.0 —	2.0 2.7	7.9 5.3	87.6 92.0	0.5 —	202 113	14.8 8.3	1.2 1.1
	男子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	0.4 0.9 —	0.2 0.9 —	4.7 6.3 —	94.0 91.6 100.0	0.6 0.4 —	487 558 5	35.6 40.8 0.4	1.1 1.1 1.0
	女子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	— 2.9 —	1.7 2.9 —	6.3 8.0 —	92.0 85.5 100.0	— 0.7 —	176 138 1	12.9 10.1 0.1	1.1 1.2 1.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
大 学 の 教 職 員	2001年調査 (51回)	% (0.3)	% (1.5)	% (8.5)	% (89.3)	% (0.4)	人 (942)	% (100.0)	(1.1)	
	全 体	0.2	2.2	12.7	84.3	0.6	1,367	100.0	1.2	
	男 子	0.2	2.2	12.8	84.2	0.7	1,050	76.8	1.2	
	女 子	0.3	2.2	12.4	84.8	0.3	315	23.0	1.2	
	男子	前期課程 後期課程	0.2 0.2	0.4 4.0	5.9 19.7	92.8 75.5	0.8 0.6	528 522	38.6 38.2	1.1 1.3
	女子	前期課程 後期課程	— 0.7	0.6 4.1	7.7 17.8	91.1 77.4	0.6 —	169 146	12.4 10.7	1.1 1.3
	男子	文 科 系 理 科 系	— 0.3	1.6 2.6	11.8 13.4	85.9 83.0	0.7 0.6	425 625	31.1 45.7	1.2 1.2
	女子	文 科 系 理 科 系	— 0.9	2.0 2.7	11.4 14.2	86.1 82.3	0.5 —	202 113	14.8 8.3	1.2 1.2
	男子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	0.2 0.2 —	1.4 2.9 —	11.9 13.4 20.0	85.6 83.0 80.0	0.8 0.5 —	487 558 5	35.6 40.8 0.4	1.2 1.2 1.2
	女子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	0.6 — —	2.8 1.4 —	14.8 9.4 —	81.8 88.4 100.0	— 0.7 —	176 138 1	12.9 10.1 0.1	1.2 1.1 1.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
大学内の同じ学科や研究室の友人	2001年調査 (51回)	% (9.4)	% (21.7)	% (33.0)	% (35.4)	% (0.5)	人 (942)	% (100.0)	(2.1)	
	全 体	10.9	27.8	31.9	28.9	0.5	1,367	100.0	2.2	
	男 子	9.4	26.3	32.5	31.2	0.6	1,050	76.8	2.1	
	女 子	15.6	33.0	30.2	21.0	0.3	315	23.0	2.4	
	男子	前期課程	7.2	22.7	34.5	35.0	0.6	528	38.6	2.0
		後期課程	11.7	29.9	30.5	27.4	0.6	522	38.2	2.3
	女子	前期課程	16.6	30.2	30.8	21.9	0.6	169	12.4	2.4
		後期課程	14.4	36.3	29.5	19.9	—	146	10.7	2.5
	男子	文 科 系	10.6	29.2	28.9	30.4	0.9	425	31.1	2.2
		理 科 系	8.6	24.3	34.9	31.8	0.3	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	15.3	32.7	29.2	22.3	0.5	202	14.8	2.4
		理 科 系	15.9	33.6	31.9	18.6	—	113	8.3	2.5
	男子	自 宅	7.4	25.1	33.9	32.4	1.2	487	35.6	2.1
		自 宅 外 無 回 答	11.3 —	27.6 —	31.4 20.0	29.7 80.0	— —	558 5	40.8 0.4	2.2 1.2
女子	自 宅	14.2	30.7	33.5	21.6	—	176	12.9	2.4	
	自 宅 外 無 回 答	17.4 —	36.2 —	25.4 100.0	20.3 —	0.7 —	138 1	10.1 0.1	2.5 2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
大学内のサークルや団体の友人	2001年調査 (51回)	% (15.1)	% (23.0)	% (26.6)	% (34.8)	% (0.4)	人 (942)	% (100.0)	(2.2)	
	全 体	15.3	24.9	28.7	30.4	0.6	1,367	100.0	2.3	
	男 子	14.2	25.5	29.3	30.3	0.7	1,050	76.8	2.2	
	女 子	19.0	23.2	26.7	30.8	0.3	315	23.0	2.3	
	男子	前期課程	11.4	25.9	31.3	30.9	0.6	528	38.6	2.2
		後期課程	17.0	25.1	27.4	29.7	0.8	522	38.2	2.3
	女子	前期課程	18.9	21.9	29.0	29.6	0.6	169	12.4	2.3
		後期課程	19.2	24.7	24.0	32.2	—	146	10.7	2.3
	男子	文 科 系	16.7	25.4	31.3	26.4	0.2	425	31.1	2.3
		理 科 系	12.5	25.6	28.0	33.0	1.0	625	45.7	2.2
	女子	文 科 系	22.3	21.8	24.8	30.7	0.5	202	14.8	2.4
		理 科 系	13.3	25.7	30.1	31.0	—	113	8.3	2.2
	男子	自 宅	13.6	25.7	28.5	31.2	1.0	487	35.6	2.2
		自 宅 外 無 回 答	14.9 —	25.4 20.0	29.9 40.0	29.4 40.0	0.4 —	558 5	40.8 0.4	2.3 1.8
女子	自 宅	16.5	25.6	29.0	29.0	—	176	12.9	2.3	
	自 宅 外 無 回 答	22.5 —	20.3 —	23.2 100.0	33.3 —	0.7 —	138 1	10.1 0.1	2.3 2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分		よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
大 学 外 の 友 人	2001年調査 (51回)	% (15.1)	% (27.8)	% (31.2)	% (25.5)	% (0.4)	人 (942)	% (100.0)	(2.3)	
	全 体	14.0	26.5	32.9	26.1	0.4	1,367	100.0	2.3	
	男 子	13.3	26.1	33.2	27.0	0.4	1,050	76.8	2.3	
	女 子	16.5	27.6	32.1	23.2	0.6	315	23.0	2.4	
	男子	前期課程	12.5	27.3	35.2	24.8	0.2	528	38.6	2.3
		後期課程	14.2	24.9	31.2	29.1	0.6	522	38.2	2.2
	女子	前期課程	16.0	26.0	34.3	22.5	1.2	169	12.4	2.4
		後期課程	17.1	29.5	29.5	24.0	—	146	10.7	2.4
	男子	文 科 系	14.8	25.6	34.1	24.7	0.7	425	31.1	2.3
		理 科 系	12.3	26.4	32.6	28.5	0.2	625	45.7	2.2
	女子	文 科 系	15.8	29.2	32.2	21.8	1.0	202	14.8	2.4
		理 科 系	17.7	24.8	31.9	25.7	—	113	8.3	2.3
	男子	自 宅	12.3	25.9	33.3	27.9	0.6	487	35.6	2.2
自 宅 外		14.3	26.3	33.0	26.2	0.2	558	40.8	2.3	
無 回 答		—	20.0	60.0	20.0	—	5	0.4	2.0	
女子	自 宅	15.3	27.8	33.0	23.9	—	176	12.9	2.3	
	自 宅 外	18.1	26.8	31.2	22.5	1.4	138	10.1	2.4	
	無 回 答	—	100.0	—	—	—	1	0.1	3.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分		よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
先 輩	2001年調査 (51回)	% (3.9)	% (13.1)	% (26.6)	% (55.8)	% (0.5)	人 (942)	% (100.0)	(1.6)	
	全 体	7.4	18.0	31.2	42.5	0.9	1,367	100.0	1.9	
	男 子	6.2	18.3	31.8	42.8	1.0	1,050	76.8	1.9	
	女 子	11.4	17.1	29.2	41.6	0.6	315	23.0	2.0	
	男子	前期課程	5.7	17.8	30.3	45.5	0.8	528	38.6	1.8
		後期課程	6.7	18.8	33.3	40.0	1.1	522	38.2	1.9
	女子	前期課程	11.2	15.4	27.2	45.0	1.2	169	12.4	1.9
		後期課程	11.6	19.2	31.5	37.7	—	146	10.7	2.0
	男子	文 科 系	7.8	17.4	31.5	42.6	0.7	425	31.1	1.9
		理 科 系	5.1	18.9	32.0	42.9	1.1	625	45.7	1.9
	女子	文 科 系	12.9	16.8	30.2	39.1	1.0	202	14.8	2.0
		理 科 系	8.8	17.7	27.4	46.0	—	113	8.3	1.9
	男子	自 宅	5.5	18.1	30.2	45.2	1.0	487	35.6	1.8
自 宅 外		6.8	18.5	33.0	40.9	0.9	558	40.8	1.9	
無 回 答		—	20.0	60.0	20.0	—	5	0.4	2.0	
女子	自 宅	10.8	17.0	27.3	44.3	0.6	176	12.9	1.9	
	自 宅 外	12.3	17.4	31.9	37.7	0.7	138	10.1	2.0	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 相談する	ときどき 相談する	たまに 相談する	全く 相談しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
恋 人	2001年調査 (51回)	% (18.0)	% (13.5)	% (15.3)	% (51.7)	% (1.5)	人 (942)	% (100.0)	(2.0)	
	全 体	15.5	13.5	14.0	54.1	2.9	1,367	100.0	1.9	
	男 子	11.2	13.0	14.2	59.0	2.6	1,050	76.8	1.8	
	女 子	29.5	15.2	13.3	37.8	4.1	315	23.0	2.4	
	男子	前期課程 後期課程	8.7 13.8	12.5 13.4	13.1 15.3	62.9 55.2	2.8 2.3	528 522	38.6 38.2	1.7 1.9
	女子	前期課程 後期課程	24.3 35.6	10.7 20.5	13.6 13.0	46.7 27.4	4.7 3.4	169 146	12.4 10.7	2.1 2.7
	男子	文 科 系 理 科 系	11.8 10.9	13.9 12.3	15.3 13.4	57.9 59.8	1.2 3.5	425 625	31.1 45.7	1.8 1.7
	女子	文 科 系 理 科 系	32.2 24.8	13.9 17.7	12.4 15.0	38.6 36.3	3.0 6.2	202 113	14.8 8.3	2.4 2.3
	男子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	7.6 14.5 —	10.1 15.4 20.0	13.6 14.7 20.0	65.5 53.4 60.0	3.3 2.0 —	487 558 5	35.6 40.8 0.4	1.6 1.9 1.6
	女子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	22.7 38.4 —	16.5 13.8 —	15.3 10.9 —	39.2 35.5 100.0	6.3 1.4 —	176 138 1	12.9 10.1 0.1	2.2 2.6 1.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

III-3表 最近6ヶ月の間に、次の項目について、体験したり悩んだりしましたか。

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
強 い 不 安 に 襲 わ れ た	2001年調査 (51回)	% (14.5)	% (33.2)	% (24.0)	% (27.9)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.3)	
	全 体	17.6	33.9	27.1	21.3	0.2	1,367	100.0	2.5	
	男 子	15.8	32.4	27.7	23.9	0.2	1,050	76.8	2.4	
	女 子	23.2	39.0	24.8	12.7	0.3	315	23.0	2.7	
	男子	前期課程 後期課程	15.9 15.7	31.6 33.1	25.4 30.1	26.9 20.9	0.2 0.2	528 522	38.6 38.2	2.4 2.4
	女子	前期課程 後期課程	23.7 22.6	39.6 38.4	21.9 28.1	14.2 11.0	0.6 —	169 146	12.4 10.7	2.7 2.7
	男子	文 科 系 理 科 系	16.9 15.0	32.9 32.0	26.8 28.3	23.3 24.3	— 0.3	425 625	31.1 45.7	2.4 2.4
	女子	文 科 系 理 科 系	25.2 19.5	44.1 30.1	18.3 36.3	11.9 14.2	0.5 —	202 113	14.8 8.3	2.8 2.5
	男子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	14.6 17.0 —	30.4 34.1 40.0	28.7 26.7 40.0	25.9 22.2 20.0	0.4 — —	487 558 5	35.6 40.8 0.4	2.3 2.5 2.2
	女子	自 宅 自 宅 外 無 回 答	19.9 27.5 —	37.5 41.3 —	27.3 21.7 —	15.3 8.7 100.0	— 0.7 —	176 138 1	12.9 10.1 0.1	2.6 2.9 1.0

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
自分でバカらしいと思う考えが浮かんだり、自分のすることを何度も確かめてみなければならなかった	2001年調査 (51回)	% (9.4)	% (21.8)	% (28.6)	% (40.0)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(2.0)	
	全 体	11.1	23.3	30.1	35.3	0.1	1,367	100.0	2.1	
	男 子	10.0	23.9	29.6	36.4	0.1	1,050	76.8	2.1	
	女 子	14.9	21.3	32.1	31.4	0.3	315	23.0	2.2	
	男子	前期課程	11.4	23.7	30.7	34.1	0.2	528	38.6	2.1
		後期課程	8.6	24.1	28.5	38.7	—	522	38.2	2.0
	女子	前期課程	15.4	21.9	29.6	32.5	0.6	169	12.4	2.2
		後期課程	14.4	20.5	34.9	30.1	—	146	10.7	2.2
	男子	文 科 系	10.1	23.8	29.9	36.2	—	425	31.1	2.1
		理 科 系	9.9	24.0	29.4	36.5	0.2	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	18.3	21.8	27.7	31.7	0.5	202	14.8	2.3
		理 科 系	8.8	20.4	39.8	31.0	—	113	8.3	2.1
	男子	自 宅	8.8	22.4	29.0	39.6	0.2	487	35.6	2.0
		自 宅 外	10.9	25.1	30.1	33.9	—	558	40.8	2.1
	無 回 答	20.0	40.0	40.0	—	—	5	0.4	2.8	
女子	自 宅	11.4	19.3	30.7	38.6	—	176	12.9	2.0	
	自 宅 外	19.6	23.9	34.1	21.7	0.7	138	10.1	2.4	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
人と話していても緊張したり、不安を感じた	2001年調査 (51回)	% (8.5)	% (24.9)	% (30.9)	% (35.5)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(2.1)	
	全 体	9.1	27.1	32.6	30.9	0.2	1,367	100.0	2.1	
	男 子	8.5	26.7	31.4	33.2	0.2	1,050	76.8	2.1	
	女 子	11.4	28.3	36.8	23.2	0.3	315	23.0	2.3	
	男子	前期課程	9.3	25.8	33.0	31.8	0.2	528	38.6	2.1
		後期課程	7.7	27.6	29.9	34.7	0.2	522	38.2	2.1
	女子	前期課程	11.8	26.0	38.5	23.1	0.6	169	12.4	2.3
		後期課程	11.0	30.8	34.9	23.3	—	146	10.7	2.3
	男子	文 科 系	7.3	28.9	31.8	32.0	—	425	31.1	2.1
		理 科 系	9.3	25.1	31.2	34.1	0.3	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	11.9	28.7	36.6	22.3	0.5	202	14.8	2.3
		理 科 系	10.6	27.4	37.2	24.8	—	113	8.3	2.2
	男子	自 宅	7.6	25.1	32.9	34.1	0.4	487	35.6	2.1
		自 宅 外	9.3	28.1	30.3	32.3	—	558	40.8	2.1
	無 回 答	—	20.0	20.0	60.0	—	5	0.4	1.6	
女子	自 宅	9.1	27.3	37.5	26.1	—	176	12.9	2.2	
	自 宅 外	14.5	29.0	36.2	19.6	0.7	138	10.1	2.4	
	無 回 答	—	100.0	—	—	—	1	0.1	3.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
他の人が自分に敵意を持っている、 人から監視されていると感じた	2001年調査 (51回)	% (3.7)	% (14.3)	% (22.1)	% (59.7)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(1.6)	
	全 体	4.5	14.8	27.1	53.5	0.2	1,367	100.0	1.7	
	男 子	4.0	14.9	26.7	54.3	0.2	1,050	76.8	1.7	
	女 子	6.0	14.6	28.3	50.8	0.3	315	23.0	1.8	
	男子	前期課程	5.1	17.0	27.8	49.8	0.2	528	38.6	1.8
		後期課程	2.9	12.6	25.5	58.8	0.2	522	38.2	1.6
	女子	前期課程	4.7	13.6	30.2	50.9	0.6	169	12.4	1.7
		後期課程	7.5	15.8	26.0	50.7	—	146	10.7	1.8
	男子	文 科 系	3.8	15.3	26.6	54.4	—	425	31.1	1.7
		理 科 系	4.2	14.6	26.7	54.2	0.3	625	45.7	1.7
	女子	文 科 系	6.9	14.4	26.2	52.0	0.5	202	14.8	1.8
		理 科 系	4.4	15.0	31.9	48.7	—	113	8.3	1.8
	男子	自 宅	3.3	13.6	26.1	56.7	0.4	487	35.6	1.6
		自 宅 外 無 回 答	4.7 —	15.9 20.0	27.2 20.0	52.2 60.0	— —	558 5	40.8 0.4	1.7 1.6
女子	自 宅	5.1	14.2	29.5	51.1	—	176	12.9	1.7	
	自 宅 外 無 回 答	7.2 —	15.2 —	26.8 —	50.0 100.0	0.7 —	138 1	10.1 0.1	1.8 1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
バス・地下鉄・電車などの乗り物に 乗るのがこわかった	2001年調査 (51回)	% (1.1)	% (1.6)	% (8.5)	% (88.6)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(1.1)	
	全 体	1.4	3.7	11.4	83.4	0.1	1,367	100.0	1.2	
	男 子	1.0	3.3	11.0	84.6	0.1	1,050	76.8	1.2	
	女 子	2.9	4.4	12.7	79.7	0.3	315	23.0	1.3	
	男子	前期課程	0.2	4.0	11.4	84.3	0.2	528	38.6	1.2
		後期課程	1.7	2.7	10.7	84.9	—	522	38.2	1.2
	女子	前期課程	3.0	4.1	13.0	79.3	0.6	169	12.4	1.3
		後期課程	2.7	4.8	12.3	80.1	—	146	10.7	1.3
	男子	文 科 系	1.2	3.3	13.9	81.6	—	425	31.1	1.2
		理 科 系	0.8	3.4	9.1	86.6	0.2	625	45.7	1.2
	女子	文 科 系	3.5	5.4	13.4	77.2	0.5	202	14.8	1.3
		理 科 系	1.8	2.7	11.5	84.1	—	113	8.3	1.2
	男子	自 宅	1.2	2.1	10.3	86.2	0.2	487	35.6	1.2
		自 宅 外 無 回 答	0.7 —	4.5 —	11.6 20.0	83.2 80.0	— —	558 5	40.8 0.4	1.2 1.2
女子	自 宅	2.8	3.4	13.1	80.7	—	176	12.9	1.3	
	自 宅 外 無 回 答	2.9 —	5.8 —	12.3 —	78.3 100.0	0.7 —	138 1	10.1 0.1	1.3 1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった	2001年調査 (51回)	% (10.5)	% (25.9)	% (28.7)	% (34.7)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(2.1)	
	全 体	12.9	30.4	25.3	31.0	0.3	1,367	100.0	2.3	
	男 子	10.9	28.1	25.1	35.6	0.3	1,050	76.8	2.1	
	女 子	20.0	38.1	26.0	15.6	0.3	315	23.0	2.6	
	男子	前期課程	11.2	30.5	24.4	33.5	0.4	528	38.6	2.2
		後期課程	10.5	25.7	25.9	37.7	0.2	522	38.2	2.1
	女子	前期課程	20.1	37.9	26.0	15.4	0.6	169	12.4	2.6
		後期課程	19.9	38.4	26.0	15.8	—	146	10.7	2.6
	男子	文 科 系	12.0	26.1	25.9	35.8	0.2	425	31.1	2.1
		理 科 系	10.1	29.4	24.6	35.5	0.3	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	21.8	35.6	26.7	15.3	0.5	202	14.8	2.6
		理 科 系	16.8	42.5	24.8	15.9	—	113	8.3	2.6
	男子	自 宅	9.2	27.3	24.0	39.0	0.4	487	35.6	2.1
	自 宅 外	12.4	28.7	26.0	32.8	0.2	558	40.8	2.2	
	無 回 答	—	40.0	40.0	20.0	—	5	0.4	2.2	
女子	自 宅	16.5	35.8	26.7	21.0	—	176	12.9	2.5	
	自 宅 外	24.6	41.3	25.4	8.0	0.7	138	10.1	2.8	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
人と一緒にいてもさびしい感じがした	2001年調査 (51回)	% (7.9)	% (24.3)	% (27.1)	% (40.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.0)	
	全 体	8.7	27.4	27.6	36.1	0.2	1,367	100.0	2.1	
	男 子	6.9	25.5	26.4	41.0	0.2	1,050	76.8	2.0	
	女 子	14.9	33.7	31.7	19.4	0.3	315	23.0	2.4	
	男子	前期課程	6.6	25.6	28.8	38.8	0.2	528	38.6	2.0
		後期課程	7.1	25.5	23.9	43.3	0.2	522	38.2	2.0
	女子	前期課程	14.2	36.7	30.2	18.3	0.6	169	12.4	2.5
		後期課程	15.8	30.1	33.6	20.5	—	146	10.7	2.4
	男子	文 科 系	7.3	26.8	26.1	39.8	—	425	31.1	2.0
		理 科 系	6.6	24.6	26.6	41.9	0.3	625	45.7	2.0
	女子	文 科 系	18.8	30.7	32.2	17.8	0.5	202	14.8	2.5
		理 科 系	8.0	38.9	31.0	22.1	—	113	8.3	2.3
	男子	自 宅	5.5	25.1	25.9	43.1	0.4	487	35.6	1.9
	自 宅 外	8.1	25.8	26.9	39.2	—	558	40.8	2.0	
	無 回 答	—	40.0	20.0	40.0	—	5	0.4	2.0	
女子	自 宅	10.8	33.5	33.5	22.2	—	176	12.9	2.3	
	自 宅 外	20.3	34.1	29.0	15.9	0.7	138	10.1	2.6	
	無 回 答	—	—	100.0	—	—	1	0.1	2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
体の病気でもないのに、息切れ・めまい・動悸などがした	2001年調査 (51回)	% (1.9)	% (8.7)	% (14.0)	% (75.2)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(1.4)	
	全 体	2.6	9.5	17.9	69.6	0.3	1,367	100.0	1.4	
	男 子	2.0	8.5	16.5	72.8	0.3	1,050	76.8	1.4	
	女 子	4.8	12.4	22.9	59.7	0.3	315	23.0	1.6	
	男子	前期課程	2.1	8.7	16.9	72.2	0.2	528	38.6	1.4
		後期課程	1.9	8.2	16.1	73.4	0.4	522	38.2	1.4
	女子	前期課程	4.7	10.7	21.3	62.7	0.6	169	12.4	1.6
		後期課程	4.8	14.4	24.7	56.2	—	146	10.7	1.7
	男子	文 科 系	2.1	8.0	16.2	73.4	0.2	425	31.1	1.4
		理 科 系	1.9	8.8	16.6	72.3	0.3	625	45.7	1.4
	女子	文 科 系	5.0	13.9	24.8	55.9	0.5	202	14.8	1.7
		理 科 系	4.4	9.7	19.5	66.4	—	113	8.3	1.5
	男子	自 宅	2.3	8.6	15.8	72.9	0.4	487	35.6	1.4
		自 宅 外 無 回 答	1.8 —	8.4 —	17.0 20.0	72.6 80.0	0.2 —	558 5	40.8 0.4	1.4 1.2
女子	自 宅	5.7	13.1	22.7	58.5	—	176	12.9	1.7	
	自 宅 外 無 回 答	3.6 —	11.6 —	23.2 —	60.9 100.0	0.7 —	138 1	10.1 0.1	1.6 1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
イライラしたり、物を壊したり人を傷つけたりしたい 衝動にかられた	2001年調査 (51回)	% (5.6)	% (15.1)	% (25.2)	% (53.9)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(1.7)	
	全 体	7.0	18.9	24.8	49.1	0.2	1,367	100.0	1.8	
	男 子	6.3	17.5	23.6	52.4	0.2	1,050	76.8	1.8	
	女 子	9.5	23.2	28.6	38.4	0.3	315	23.0	2.0	
	男子	前期課程	6.3	18.0	25.0	50.6	0.2	528	38.6	1.8
		後期課程	6.3	17.0	22.2	54.2	0.2	522	38.2	1.8
	女子	前期課程	9.5	24.9	27.2	37.9	0.6	169	12.4	2.1
		後期課程	9.6	21.2	30.1	39.0	—	146	10.7	2.0
	男子	文 科 系	4.9	18.1	25.2	51.8	—	425	31.1	1.8
		理 科 系	7.2	17.1	22.6	52.8	0.3	625	45.7	1.8
	女子	文 科 系	9.9	22.3	30.7	36.6	0.5	202	14.8	2.1
		理 科 系	8.8	24.8	24.8	41.6	—	113	8.3	2.0
	男子	自 宅	5.5	18.9	20.3	54.8	0.4	487	35.6	1.8
		自 宅 外 無 回 答	7.0 —	16.1 40.0	26.3 40.0	50.5 20.0	— —	558 5	40.8 0.4	1.8 2.2
女子	自 宅	11.4	19.9	28.4	40.3	—	176	12.9	2.0	
	自 宅 外 無 回 答	7.2 —	27.5 —	29.0 —	35.5 100.0	0.7 —	138 1	10.1 0.1	2.1 1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった	2001年調査 (51回)	% (10.9)	% (24.5)	% (28.9)	% (35.5)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(2.1)	
	全 体	12.2	27.1	26.6	33.9	0.1	1,367	100.0	2.2	
	男 子	10.5	25.0	27.1	37.2	0.1	1,050	76.8	2.1	
	女 子	18.1	34.0	25.1	22.5	0.3	315	23.0	2.5	
	男子	前期課程	11.7	26.1	26.1	35.8	0.2	528	38.6	2.1
		後期課程	9.2	23.9	28.2	38.7	—	522	38.2	2.0
	女子	前期課程	18.3	33.7	23.1	24.3	0.6	169	12.4	2.5
		後期課程	17.8	34.2	27.4	20.5	—	146	10.7	2.5
	男子	文 科 系	9.4	27.3	26.6	36.7	—	425	31.1	2.1
		理 科 系	11.2	23.5	27.5	37.6	0.2	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	17.8	33.7	28.7	19.3	0.5	202	14.8	2.5
		理 科 系	18.6	34.5	18.6	28.3	—	113	8.3	2.4
	男子	自 宅	9.2	22.4	28.1	40.0	0.2	487	35.6	2.0
		自 宅 外	11.5	27.2	26.3	34.9	—	558	40.8	2.2
	無 回 答	20.0	40.0	20.0	20.0	—	5	0.4	2.6	
女子	自 宅	15.3	34.1	25.0	25.6	—	176	12.9	2.4	
	自 宅 外	21.7	34.1	25.4	18.1	0.7	138	10.1	2.6	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
つつい過食してしまう傾向があった	2001年調査 (51回)	% (7.0)	% (18.3)	% (21.2)	% (53.3)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(1.8)	
	全 体	8.3	18.2	20.7	52.5	0.2	1,367	100.0	1.8	
	男 子	6.0	14.9	20.8	58.2	0.2	1,050	76.8	1.7	
	女 子	15.6	29.5	20.6	34.0	0.3	315	23.0	2.3	
	男子	前期課程	5.3	14.8	23.3	56.4	0.2	528	38.6	1.7
		後期課程	6.7	14.9	18.2	60.0	0.2	522	38.2	1.7
	女子	前期課程	18.3	30.2	18.3	32.5	0.6	169	12.4	2.3
		後期課程	12.3	28.8	23.3	35.6	—	146	10.7	2.2
	男子	文 科 系	6.4	14.8	18.8	60.0	—	425	31.1	1.7
		理 科 系	5.8	14.9	22.1	57.0	0.3	625	45.7	1.7
	女子	文 科 系	15.3	29.2	21.8	33.2	0.5	202	14.8	2.3
		理 科 系	15.9	30.1	18.6	35.4	—	113	8.3	2.3
	男子	自 宅	3.7	13.6	18.9	63.4	0.4	487	35.6	1.6
		自 宅 外	8.1	15.9	22.2	53.8	—	558	40.8	1.8
	無 回 答	—	20.0	40.0	40.0	—	5	0.4	1.8	
女子	自 宅	8.0	30.1	18.8	43.2	—	176	12.9	2.0	
	自 宅 外	25.4	29.0	22.5	22.5	0.7	138	10.1	2.6	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	2.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	よく 体験する	ときに 体験する	あまり 体験しない	全く 体験しない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
食欲がなくなり、 食べ物を口にしたくないと思った	2001年調査 (51回)	% (2.5)	% (8.0)	% (18.0)	% (71.2)	% (0.2)	人 (942)	% (100.0)	(1.4)	
	全 体	2.9	9.3	20.0	67.5	0.3	1,367	100.0	1.5	
	男 子	2.3	7.1	17.8	72.6	0.2	1,050	76.8	1.4	
	女 子	4.4	16.5	27.6	50.8	0.6	315	23.0	1.7	
	男子	前期課程	2.3	7.0	18.8	71.8	0.2	528	38.6	1.4
		後期課程	2.3	7.3	16.9	73.4	0.2	522	38.2	1.4
	女子	前期課程	4.7	16.0	26.0	52.1	1.2	169	12.4	1.7
		後期課程	4.1	17.1	29.5	49.3	—	146	10.7	1.8
	男子	文 科 系	2.6	6.1	17.2	74.1	—	425	31.1	1.4
		理 科 系	2.1	7.8	18.2	71.5	0.3	625	45.7	1.4
	女子	文 科 系	4.5	17.8	29.2	47.5	1.0	202	14.8	1.8
		理 科 系	4.4	14.2	24.8	56.6	—	113	8.3	1.7
	男子	自 宅	2.3	5.1	13.1	79.1	0.4	487	35.6	1.3
		自 宅 外 無 回 答	2.3 —	8.8 20.0	21.7 40.0	67.2 40.0	— —	558 5	40.8 0.4	1.5 1.8
女子	自 宅	0.6	17.0	26.1	55.7	0.6	176	12.9	1.6	
	自 宅 外 無 回 答	9.4 —	15.9 —	29.7 —	44.2 100.0	0.7 —	138 1	10.1 0.1	1.9 1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

III-4表 悩みや不安を解消するために、大学にどのような対応があればよいと思いますか。

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
学生が教員や職員と 接触する機会を増やす	2001年調査 (51回)	% (10.2)	% (34.5)	% (29.0)	% (26.0)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.3)	
	全 体	10.0	35.6	31.8	22.1	0.4	1,367	100.0	2.3	
	男 子	9.9	33.7	31.1	24.8	0.5	1,050	76.8	2.3	
	女 子	10.2	42.2	34.0	13.3	0.3	315	23.0	2.5	
	男子	前期課程	8.9	30.3	34.1	26.3	0.4	528	38.6	2.2
		後期課程	10.9	37.2	28.2	23.2	0.6	522	38.2	2.4
	女子	前期課程	11.2	38.5	34.9	15.4	—	169	12.4	2.5
		後期課程	8.9	46.6	32.9	11.0	0.7	146	10.7	2.5
	男子	文 科 系	10.1	34.4	31.3	24.0	0.2	425	31.1	2.3
		理 科 系	9.8	33.3	31.0	25.3	0.6	625	45.7	2.3
	女子	文 科 系	10.4	44.6	31.7	12.9	0.5	202	14.8	2.5
		理 科 系	9.7	38.1	38.1	14.2	—	113	8.3	2.4
	男子	自 宅	9.4	32.4	30.2	27.5	0.4	487	35.6	2.2
		自 宅 外 無 回 答	10.4 —	34.6 60.0	32.3 —	22.4 20.0	0.4 20.0	558 5	40.8 0.4	2.3 2.5
女子	自 宅	10.8	40.9	33.5	14.2	0.6	176	12.9	2.5	
	自 宅 外 無 回 答	9.4 —	44.2 —	34.8 —	11.6 100.0	— —	138 1	10.1 0.1	2.5 1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
教務課や学生課などの事務機能を充実させる	2001年調査 (51回)	% (6.4)	% (22.7)	% (36.8)	% (33.8)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.0)	
	全 体	7.9	25.7	38.5	27.4	0.5	1,367	100.0	2.1	
	男 子	7.6	25.8	35.3	30.7	0.6	1,050	76.8	2.1	
	女 子	8.9	25.7	48.6	16.5	0.3	315	23.0	2.3	
	男子	前期課程	7.4	25.4	34.7	32.2	0.4	528	38.6	2.1
		後期課程	7.9	26.2	36.0	29.1	0.8	522	38.2	2.1
	女子	前期課程	8.9	26.0	44.4	20.7	—	169	12.4	2.2
		後期課程	8.9	25.3	53.4	11.6	0.7	146	10.7	2.3
	男子	文 科 系	9.4	23.8	37.2	29.2	0.5	425	31.1	2.1
		理 科 系	6.4	27.2	34.1	31.7	0.6	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	9.9	28.7	44.6	16.3	0.5	202	14.8	2.3
		理 科 系	7.1	20.4	55.8	16.8	—	113	8.3	2.2
	男子	自 宅	7.6	26.5	33.3	32.0	0.6	487	35.6	2.1
	自 宅 外	7.5	25.3	37.3	29.6	0.4	558	40.8	2.1	
	無 回 答	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	5	0.4	2.5	
女子	自 宅	9.7	23.9	47.7	18.2	0.6	176	12.9	2.3	
	自 宅 外	8.0	28.3	50.0	13.8	—	138	10.1	2.3	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
クラス担任制度やチューター制度を充実させる	2001年調査 (51回)	% (6.4)	% (22.1)	% (34.2)	% (37.0)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.0)	
	全 体	8.0	24.7	35.5	31.2	0.6	1,367	100.0	2.1	
	男 子	7.8	23.7	34.1	33.7	0.7	1,050	76.8	2.1	
	女 子	8.6	27.9	40.0	23.2	0.3	315	23.0	2.2	
	男子	前期課程	7.0	23.5	33.1	36.0	0.4	528	38.6	2.0
		後期課程	8.6	23.9	35.1	31.4	1.0	522	38.2	2.1
	女子	前期課程	10.1	26.0	33.7	30.2	—	169	12.4	2.2
		後期課程	6.8	30.1	47.3	15.1	0.7	146	10.7	2.3
	男子	文 科 系	8.0	22.6	33.4	35.3	0.7	425	31.1	2.0
		理 科 系	7.7	24.5	34.6	32.6	0.6	625	45.7	2.1
	女子	文 科 系	9.9	30.7	36.1	22.8	0.5	202	14.8	2.3
		理 科 系	6.2	23.0	46.9	23.9	—	113	8.3	2.1
	男子	自 宅	6.8	21.1	33.9	37.6	0.6	487	35.6	2.0
	自 宅 外	8.4	26.0	34.6	30.5	0.5	558	40.8	2.1	
	無 回 答	40.0	20.0		20.0	20.0	5	0.4	3.0	
女子	自 宅	8.0	26.1	41.5	23.9	0.6	176	12.9	2.2	
	自 宅 外	9.4	30.4	38.4	21.7	—	138	10.1	2.3	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
学習方法や学習内容について相談機能を充実させる	2001年調査 (51回)	% (13.7)	% (33.1)	% (28.1)	% (24.7)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.4)	
	全 体	11.7	37.4	29.0	21.4	0.5	1,367	100.0	2.4	
	男 子	10.1	35.5	29.6	24.2	0.6	1,050	76.8	2.3	
	女 子	16.8	43.8	26.7	12.4	0.3	315	23.0	2.7	
	男子	前期課程	11.0	36.0	26.7	25.9	0.4	528	38.6	2.3
		後期課程	9.2	35.1	32.6	22.4	0.8	522	38.2	2.3
	女子	前期課程	18.9	37.3	27.2	16.6	—	169	12.4	2.6
		後期課程	14.4	51.4	26.0	7.5	0.7	146	10.7	2.7
	男子	文 科 系	10.6	34.1	32.2	22.6	0.5	425	31.1	2.3
		理 科 系	9.8	36.5	27.8	25.3	0.6	625	45.7	2.3
	女子	文 科 系	17.8	41.6	28.2	11.9	0.5	202	14.8	2.7
		理 科 系	15.0	47.8	23.9	13.3	—	113	8.3	2.6
	男子	自 宅	10.1	33.5	29.2	26.7	0.6	487	35.6	2.3
	自 宅 外	10.2	37.1	30.1	22.2	0.4	558	40.8	2.4	
	無 回 答	—	60.0	20.0	—	20.0	5	0.4	2.8	
女子	自 宅	14.8	46.0	25.6	13.1	0.6	176	12.9	2.6	
	自 宅 外	19.6	41.3	28.3	10.9	—	138	10.1	2.7	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる	2001年調査 (51回)	% (22.3)	% (40.2)	% (18.8)	% (18.3)	% (0.4)	人 (942)	% (100.0)	(2.7)	
	全 体	21.2	43.5	20.0	14.9	0.5	1,367	100.0	2.7	
	男 子	19.7	41.2	21.7	16.8	0.6	1,050	76.8	2.6	
	女 子	26.0	50.8	14.3	8.6	0.3	315	23.0	2.9	
	男子	前期課程	20.6	39.6	22.0	17.4	0.4	528	38.6	2.6
		後期課程	18.8	42.9	21.5	16.1	0.8	522	38.2	2.6
	女子	前期課程	30.8	43.8	13.0	12.4	—	169	12.4	2.9
		後期課程	20.5	58.9	15.8	4.1	0.7	146	10.7	3.0
	男子	文 科 系	18.8	40.2	23.3	17.2	0.5	425	31.1	2.6
		理 科 系	20.3	41.9	20.6	16.5	0.6	625	45.7	2.7
	女子	文 科 系	28.2	48.0	14.9	8.4	0.5	202	14.8	3.0
		理 科 系	22.1	55.8	13.3	8.8	—	113	8.3	2.9
	男子	自 宅	19.3	40.2	21.8	18.1	0.6	487	35.6	2.6
	自 宅 外	20.3	42.1	21.5	15.8	0.4	558	40.8	2.7	
	無 回 答	—	40.0	40.0	—	20.0	5	0.4	2.5	
女子	自 宅	23.3	53.4	13.1	9.7	0.6	176	12.9	2.9	
	自 宅 外	29.7	47.8	15.9	6.5	—	138	10.1	3.0	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
就職指導や進路相談の機能を充実させる	2001年調査 (51回)	% (25.7)	% (38.7)	% (20.1)	% (15.2)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.8)	
	全 体	27.4	40.8	17.3	13.9	0.6	1,367	100.0	2.8	
	男 子	23.9	41.0	18.5	16.0	0.6	1,050	76.8	2.7	
	女 子	38.7	40.0	13.7	7.0	0.6	315	23.0	3.1	
	男子	前期課程	22.0	38.4	20.6	18.6	0.4	528	38.6	2.6
		後期課程	25.9	43.7	16.3	13.4	0.8	522	38.2	2.8
	女子	前期課程	41.4	33.1	15.4	9.5	0.6	169	12.4	3.1
		後期課程	35.6	47.9	11.6	4.1	0.7	146	10.7	3.2
	男子	文 科 系	28.5	35.5	19.8	15.8	0.5	425	31.1	2.8
		理 科 系	20.8	44.8	17.6	16.2	0.6	625	45.7	2.7
	女子	文 科 系	43.6	35.6	12.4	7.4	1.0	202	14.8	3.2
		理 科 系	30.1	47.8	15.9	6.2	—	113	8.3	3.0
	男子	自 宅	24.4	42.1	16.6	16.2	0.6	487	35.6	2.8
	自 宅 外	23.7	40.0	20.1	15.9	0.4	558	40.8	2.7	
	無 回 答	—	60.0	20.0	—	20.0	5	0.4	2.8	
女子	自 宅	35.2	40.9	13.1	9.7	1.1	176	12.9	3.0	
	自 宅 外	43.5	39.1	14.5	2.9	—	138	10.1	3.2	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1					
健康相談や保健センターの機能を充実させる	2001年調査 (51回)	% (20.3)	% (34.5)	% (26.8)	% (18.2)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.6)	
	全 体	14.2	36.6	30.4	18.2	0.5	1,367	100.0	2.5	
	男 子	12.7	35.1	31.0	20.7	0.6	1,050	76.8	2.4	
	女 子	19.0	41.6	28.9	10.2	0.3	315	23.0	2.7	
	男子	前期課程	13.4	32.0	30.3	23.9	0.4	528	38.6	2.4
		後期課程	11.9	38.3	31.6	17.4	0.8	522	38.2	2.4
	女子	前期課程	24.3	35.5	27.2	13.0	—	169	12.4	2.7
		後期課程	13.0	48.6	30.8	6.8	0.7	146	10.7	2.7
	男子	文 科 系	12.2	36.2	31.8	19.3	0.5	425	31.1	2.4
		理 科 系	13.0	34.4	30.4	21.6	0.6	625	45.7	2.4
	女子	文 科 系	22.3	41.6	25.2	10.4	0.5	202	14.8	2.8
		理 科 系	13.3	41.6	35.4	9.7	—	113	8.3	2.6
	男子	自 宅	11.1	35.9	29.8	22.6	0.6	487	35.6	2.4
	自 宅 外	14.2	34.6	31.9	19.0	0.4	558	40.8	2.4	
	無 回 答	—	20.0	40.0	20.0	20.0	5	0.4	2.0	
女子	自 宅	14.2	42.6	28.4	14.2	0.6	176	12.9	2.6	
	自 宅 外	25.4	40.6	29.7	4.3	—	138	10.1	2.9	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
個人的な悩みの学生相談やカウンセリング機能を充実させる	2001年調査 (51回)	% (17.0)	% (32.9)	% (29.1)	% (20.7)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.5)	
	全 体	12.3	34.9	31.5	20.6	0.7	1,367	100.0	2.4	
	男 子	11.1	34.2	31.9	22.1	0.7	1,050	76.8	2.3	
	女 子	16.2	37.5	29.8	15.9	0.6	315	23.0	2.5	
	男子	前期課程	10.6	32.0	31.1	25.8	0.6	528	38.6	2.3
		後期課程	11.7	36.4	32.8	18.4	0.8	522	38.2	2.4
	女子	前期課程	18.3	33.1	29.0	18.9	0.6	169	12.4	2.5
		後期課程	13.7	42.5	30.8	12.3	0.7	146	10.7	2.6
	男子	文 科 系	10.6	33.4	34.6	20.7	0.7	425	31.1	2.3
		理 科 系	11.5	34.7	30.1	23.0	0.6	625	45.7	2.3
	女子	文 科 系	17.8	34.7	32.2	14.9	0.5	202	14.8	2.6
		理 科 系	13.3	42.5	25.7	17.7	0.9	113	8.3	2.5
	男子	自 宅	10.7	34.1	30.6	23.8	0.8	487	35.6	2.3
		自 宅 外	11.6	34.4	33.2	20.4	0.4	558	40.8	2.4
無 回 答		—	20.0	20.0	40.0	20.0	5	0.4	1.8	
女子	自 宅	12.5	40.3	27.3	18.8	1.1	176	12.9	2.5	
	自 宅 外	21.0	34.1	33.3	11.6	—	138	10.1	2.6	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
奨学金の充実や、授業料免除など、 経済的支援を強化する	2001年調査 (51回)	% (28.0)	% (30.0)	% (23.2)	% (18.4)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.7)	
	全 体	33.7	33.4	20.6	11.9	0.6	1,367	100.0	2.9	
	男 子	33.0	33.2	19.8	13.4	0.6	1,050	76.8	2.9	
	女 子	35.9	34.0	22.9	6.7	0.6	315	23.0	3.0	
	男子	前期課程	33.0	31.3	20.5	15.0	0.4	528	38.6	2.8
		後期課程	33.0	35.2	19.2	11.9	0.8	522	38.2	2.9
	女子	前期課程	39.6	30.8	20.1	8.9	0.6	169	12.4	3.0
		後期課程	31.5	37.7	26.0	4.1	0.7	146	10.7	3.0
	男子	文 科 系	32.5	33.4	20.2	13.4	0.5	425	31.1	2.9
		理 科 系	33.3	33.1	19.5	13.4	0.6	625	45.7	2.9
	女子	文 科 系	36.6	35.1	21.8	5.9	0.5	202	14.8	3.0
		理 科 系	34.5	31.9	24.8	8.0	0.9	113	8.3	2.9
	男子	自 宅	26.9	34.7	22.2	15.6	0.6	487	35.6	2.7
		自 宅 外	38.2	31.9	17.9	11.6	0.4	558	40.8	3.0
無 回 答		40.0	40.0	—	—	20.0	5	0.4	3.5	
女子	自 宅	29.0	36.4	24.4	9.1	1.1	176	12.9	2.9	
	自 宅 外	44.9	31.2	21.0	2.9	—	138	10.1	3.2	
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分		全く そう思う	まあ そう思う	あまりそうは 思わない	全くそう思わ ない	無回答	事 例 数		平均値	
		4	3	2	1		人	%		
学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	2001年調査 (51回)	% (13.8)	% (30.7)	% (32.1)	% (23.1)	% (0.3)	人 (942)	% (100.0)	(2.4)	
	全 体	15.0	34.7	30.1	19.7	0.5	1,367	100.0	2.5	
	男 子	15.0	34.8	28.8	21.0	0.5	1,050	76.8	2.4	
	女 子	14.9	34.9	34.3	15.2	0.6	315	23.0	2.5	
	男子	前期課程	14.4	32.2	29.4	23.7	0.4	528	38.6	2.4
		後期課程	15.5	37.4	28.2	18.4	0.6	522	38.2	2.5
	女子	前期課程	14.2	33.1	34.3	17.8	0.6	169	12.4	2.4
		後期課程	15.8	37.0	34.2	12.3	0.7	146	10.7	2.6
	男子	文科系	15.8	33.6	28.9	21.2	0.5	425	31.1	2.4
		理科系	14.4	35.5	28.6	21.0	0.5	625	45.7	2.4
	女子	文科系	17.3	31.7	34.2	16.3	0.5	202	14.8	2.5
		理科系	10.6	40.7	34.5	13.3	0.9	113	8.3	2.5
	男子	自宅	12.5	34.3	29.2	23.6	0.4	487	35.6	2.4
自宅外		17.0	34.9	28.7	19.0	0.4	558	40.8	2.5	
無回答		20.0	60.0	—	—	20.0	5	0.4	3.3	
女子	自宅	11.9	35.8	34.1	17.0	1.1	176	12.9	2.4	
	自宅外	18.8	34.1	34.8	12.3	—	138	10.1	2.6	
	無回答	—	—	—	100.0	—	1	0.1	1.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

IV-1表 大学への要望や期待

(3つまで選択)

区分	カリキュラムの改革	教室の充実	実験室や実習室の充実	教育スタッフの充実	進学振分け制度の改善	小人数教育の実施	授業の方法の工夫・改善	単やかに単位認定や学生試験を緩	単位認定や学生試験を厳	キャンパスの拡大・移	図書館の充実	制カ の充 実	助成と助言	学生自治の尊重	額 英 貸 付 金 な ど の 拡 充 や 増 育	就職 対 策 の 充 実	そ の 他	無 回 答	事 例 数
2003年調査 (53回)	% (30.8)	% (19.4)	% (10.9)	% (20.3)	% (23.6)	% (25.2)	% (41.1)	% (13.8)	% (5.7)	% (5.5)	% (21.2)	% (-)	% (3.7)	% (3.7)	% (19.9)	% (21.1)	% (4.2)	% (1.9)	人 (1,501)
全	31.4	26.0	9.4	15.9	17.9	19.5	38.4	18.4	4.5	4.3	21.0	5.0	1.8	2.1	31.0	24.8	4.2	2.0	1,367
男	33.5	26.2	9.8	15.8	17.0	19.1	38.5	19.9	4.8	5.0	19.5	4.2	1.9	2.3	31.0	22.9	3.4	2.0	1,050
女	23.8	25.1	8.3	16.5	21.3	21.0	37.8	13.7	3.5	1.9	25.7	7.9	1.3	1.6	31.1	31.4	6.7	1.9	315
文	30.5	26.7	2.9	12.9	15.1	25.8	35.9	20.3	4.0	4.0	26.4	5.2	1.6	1.6	28.0	29.7	4.5	1.7	629
系	32.1	25.3	15.0	18.6	20.3	14.2	40.5	16.8	4.9	4.6	16.4	4.9	1.9	2.6	33.6	20.6	3.9	2.2	738
理	33.0	28.8	8.8	17.1	24.4	16.6	38.3	22.1	3.9	4.9	17.1	4.3	2.0	2.3	30.8	19.8	4.9	1.7	697
前	29.7	23.0	10.1	14.8	11.2	22.5	38.5	14.6	5.1	3.7	25.1	5.8	1.5	1.9	31.2	30.0	3.4	2.2	670
後	34.8	30.4	2.7	14.3	6.3	30.4	41.1	19.6	7.1	6.3	18.8	3.6	2.7	0.9	32.1	17.0	4.5	2.7	112
文	27.9	32.4	-	17.6	11.8	23.5	38.2	32.4	-	8.8	25.0	8.8	1.5	1.5	19.1	36.8	2.9	-	68
科	31.1	27.0	0.8	10.7	42.6	14.8	31.1	14.8	4.1	4.1	27.0	2.5	2.5	2.5	32.8	24.6	4.9	2.5	122
三	35.5	28.5	12.5	20.7	23.4	11.7	42.2	24.6	2.7	3.9	11.3	3.9	2.3	2.0	32.8	14.5	5.1	2.0	256
理	29.5	28.7	18.0	19.7	35.2	12.3	32.8	22.1	5.7	3.3	11.5	5.7	0.8	4.9	31.1	21.3	4.1	0.8	122
科	41.2	23.5	17.6	5.9	-	17.6	52.9	11.8	-	11.8	29.4	-	-	-	23.5	5.9	17.6	-	17
理	32.8	30.6	4.5	6.0	2.2	41.8	34.3	26.1	2.2	4.5	26.1	7.5	0.7	0.7	27.6	25.4	3.7	0.7	134
学	29.0	15.9	-	14.5	4.3	24.6	49.3	27.5	4.3	1.4	18.8	5.8	-	1.4	18.8	46.4	4.3	2.9	69
部	19.7	15.5	5.6	22.5	16.9	12.7	29.6	11.3	2.8	-	40.8	5.6	1.4	2.8	33.8	36.6	8.5	1.4	71
後	30.0	26.7	10.0	16.7	13.3	26.7	40.0	3.3	10.0	-	30.0	-	-	3.3	13.3	46.7	3.3	-	30
期	39.1	34.8	4.3	4.3	26.1	17.4	13.0	13.0	4.3	-	39.1	8.7	4.3	-	39.1	30.4	-	4.3	23
教	21.4	14.3	21.4	7.1	35.7	21.4	28.6	14.3	21.4	-	28.6	7.1	-	-	35.7	7.1	-	-	14
養	29.4	25.5	9.8	21.6	13.7	11.8	35.3	5.9	11.8	3.9	31.4	7.8	-	3.9	43.1	15.7	2.0	3.9	51
学	25.2	25.2	17.9	13.2	8.6	17.2	45.0	12.6	4.6	7.3	17.2	6.0	2.6	1.3	34.4	30.5	2.6	2.6	151
部	33.9	16.1	17.7	19.4	29.0	17.7	41.9	3.2	3.2	-	11.3	6.5	1.6	3.2	38.7	35.5	1.6	1.6	62
程	22.2	16.7	16.7	27.8	5.6	5.6	27.8	-	16.7	5.6	5.6	2.1	5.6	5.6	55.6	22.2	5.6	11.1	18
学	46.8	19.1	10.6	21.3	6.4	21.3	44.7	12.8	2.1	8.5	40.4	2.1	2.1	2.1	19.1	14.9	2.1	2.1	47

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅳ-2表 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	2003年調査(53回)	% (9.9)	% (16.1)	% (33.0)	% (32.7)	% (7.1)	% (1.1)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (2.9)	
	全 体	6.3	11.1	33.8	37.4	11.3	0.1	1,367	100.0	2.6	
	男 子	7.0	11.1	32.0	38.0	11.6	0.2	1,050	76.8	2.6	
	女 子	3.8	10.8	40.0	35.2	10.2	—	315	23.0	2.6	
	男子	前期課程	6.8	11.0	31.8	36.7	13.4	0.2	528	38.6	2.6
		後期課程	7.3	11.3	32.2	39.3	9.8	0.2	522	38.2	2.7
	女子	前期課程	3.0	11.8	43.8	30.8	10.7	—	169	12.4	2.7
		後期課程	4.8	9.6	35.6	40.4	9.6	—	146	10.7	2.6
	男子	文科系	7.5	12.7	34.1	34.4	10.8	0.5	425	31.1	2.7
		理科系	6.7	10.1	30.6	40.5	12.2	—	625	45.7	2.6
女子	文科系	4.5	12.4	41.6	31.7	9.9	—	202	14.8	2.7	
	理科系	2.7	8.0	37.2	41.6	10.6	—	113	8.3	2.5	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
産学協同をより推進するために、社会的貢献を促進する	2003年調査(53回)	% (17.0)	% (29.9)	% (32.8)	% (15.1)	% (3.6)	% (1.6)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (3.4)	
	全 体	17.4	27.4	34.4	15.9	4.8	0.1	1,367	100.0	3.4	
	男 子	19.5	29.0	31.0	15.1	5.1	0.2	1,050	76.8	3.4	
	女 子	10.2	22.2	45.7	18.4	3.5	—	315	23.0	3.2	
	男子	前期課程	17.8	26.5	34.1	17.4	4.0	0.2	528	38.6	3.4
		後期課程	21.3	31.4	28.0	12.8	6.3	0.2	522	38.2	3.5
	女子	前期課程	10.7	19.5	46.2	19.5	4.1	—	169	12.4	3.1
		後期課程	9.6	25.3	45.2	17.1	2.7	—	146	10.7	3.2
	男子	文科系	16.7	29.4	28.7	18.8	5.9	0.5	425	31.1	3.3
		理科系	21.4	28.6	32.6	12.6	4.6	—	625	45.7	3.5
女子	文科系	7.9	25.7	45.5	16.3	4.5	—	202	14.8	3.2	
	理科系	14.2	15.9	46.0	22.1	1.8	—	113	8.3	3.2	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	2003年調査(53回)	% (10.2)	% (19.8)	% (33.2)	% (26.7)	% (8.7)	% (1.4)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (3.0)	
	全 体	8.9	18.9	32.7	28.2	10.9	0.4	1,367	100.0	2.9	
	男 子	9.2	18.3	33.0	27.2	11.8	0.5	1,050	76.8	2.9	
	女 子	7.3	21.0	32.1	31.7	7.6	0.3	315	23.0	2.9	
	男子	前期課程	9.8	21.4	31.4	26.5	10.4	0.4	528	38.6	2.9
		後期課程	8.6	15.1	34.5	28.0	13.2	0.6	522	38.2	2.8
	女子	前期課程	7.1	21.3	29.6	32.5	8.9	0.6	169	12.4	2.9
		後期課程	7.5	20.5	34.9	30.8	6.2	—	146	10.7	2.9
	男子	文科系	8.5	16.9	32.0	27.5	14.1	0.9	425	31.1	2.8
		理科系	9.8	19.2	33.6	27.0	10.2	0.2	625	45.7	2.9
女子	文科系	5.4	20.8	35.1	29.2	8.9	0.5	202	14.8	2.8	
	理科系	10.6	21.2	26.5	36.3	5.3	—	113	8.3	3.0	

注)2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
(むしろ) 社会的貢献を推進するために、基礎研究を充実させる	2003年調査(53回)	% (18.3)	% (25.5)	% (44.2)	% (9.3)	% (1.4)	% (1.2)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (3.5)	
	全 体	16.8	25.3	42.4	12.6	2.6	0.2	1,367	100.0	3.4	
	男 子	18.4	25.1	39.9	13.0	3.2	0.3	1,050	76.8	3.4	
	女 子	11.4	25.7	51.1	11.1	0.6	—	315	23.0	3.4	
	男子	前期課程	14.2	24.2	43.8	14.6	3.0	0.2	528	38.6	3.3
		後期課程	22.6	26.1	36.0	11.5	3.4	0.4	522	38.2	3.5
	女子	前期課程	10.1	23.1	52.7	13.6	0.6	—	169	12.4	3.3
		後期課程	13.0	28.8	49.3	8.2	0.7	—	146	10.7	3.5
	男子	文科系	16.7	25.6	40.9	12.9	3.1	0.7	425	31.1	3.4
		理科系	19.5	24.8	39.2	13.1	3.4	—	625	45.7	3.4
女子	文科系	10.4	24.8	53.5	10.9	0.5	—	202	14.8	3.3	
	理科系	13.3	27.4	46.9	11.5	0.9	—	113	8.3	3.4	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	2003年調査(53回)	% (37.5)	% (36.2)	% (21.7)	% (2.5)	% (0.9)	% (1.2)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (4.1)	
	全 体	31.2	37.1	25.8	3.9	1.7	0.3	1,367	100.0	3.9	
	男 子	31.0	36.6	25.5	4.4	2.1	0.4	1,050	76.8	3.9	
	女 子	31.7	39.0	26.7	2.2	0.3	—	315	23.0	4.0	
	男子	前期課程	29.5	36.9	25.9	4.7	2.5	0.4	528	38.6	3.9
		後期課程	32.6	36.2	25.1	4.0	1.7	0.4	522	38.2	3.9
	女子	前期課程	31.4	37.9	27.8	3.0	—	—	169	12.4	4.0
		後期課程	32.2	40.4	25.3	1.4	0.7	—	146	10.7	4.0
	男子	文科系	27.8	39.3	24.5	5.2	2.6	0.7	425	31.1	3.9
		理科系	33.3	34.7	26.2	3.8	1.8	0.2	625	45.7	3.9
女子	文科系	30.7	38.1	28.2	2.5	0.5	—	202	14.8	4.0	
	理科系	33.6	40.7	23.9	1.8	—	—	113	8.3	4.1	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推進する	2003年調査(53回)	% (30.9)	% (35.2)	% (26.7)	% (4.9)	% (0.9)	% (1.3)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (3.9)	
	全 体	25.1	35.8	29.7	7.1	2.0	0.3	1,367	100.0	3.7	
	男 子	25.6	35.0	28.8	8.0	2.3	0.4	1,050	76.8	3.7	
	女 子	23.2	38.7	32.7	4.1	1.3	—	315	23.0	3.8	
	男子	前期課程	26.7	34.1	29.2	7.4	2.3	0.4	528	38.6	3.8
		後期課程	24.5	35.8	28.4	8.6	2.3	0.4	522	38.2	3.7
	女子	前期課程	25.4	36.1	32.5	5.3	0.6	—	169	12.4	3.8
		後期課程	20.5	41.8	32.9	2.7	2.1	—	146	10.7	3.8
	男子	文科系	24.0	37.4	27.5	7.8	2.8	0.5	425	31.1	3.7
		理科系	26.7	33.3	29.6	8.2	1.9	0.3	625	45.7	3.7
女子	文科系	21.3	37.1	36.1	3.5	2.0	—	202	14.8	3.7	
	理科系	26.5	41.6	26.5	5.3	—	—	113	8.3	3.9	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
外国へ留学する機会をもっと拡大するため、日本から教育の国際化を推進する	2003年調査(53回)	% (40.6)	% (30.0)	% (21.6)	% (5.9)	% (0.8)	% (1.1)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (4.0)	
	全 体	35.2	32.0	23.4	7.1	2.2	0.1	1,367	100.0	3.9	
	男 子	34.7	32.4	22.5	7.8	2.5	0.2	1,050	76.8	3.9	
	女 子	36.8	30.8	26.7	4.8	1.0	—	315	23.0	4.0	
	男子	前期課程 後期課程	34.8 34.5	31.6 33.1	21.8 23.2	9.5 6.1	2.1 2.9	0.2 0.2	528 522	38.6 38.2	3.9 3.9
	女子	前期課程 後期課程	38.5 34.9	29.6 32.2	25.4 28.1	5.3 4.1	1.2 0.7	— —	169 146	12.4 10.7	4.0 4.0
	男子	文 科 系 理 科 系	36.2 33.6	33.2 31.8	20.9 23.5	6.6 8.6	2.6 2.4	0.5 —	425 625	31.1 45.7	3.9 3.9
	女子	文 科 系 理 科 系	37.6 35.4	30.7 31.0	24.8 30.1	5.9 2.7	1.0 0.9	— —	202 113	14.8 8.3	4.0 4.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

区	分	非常に重要	かなり重要	重 要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事 例 数		平均値	
		5	4	3	2	1		人	%		
教育の国際化をより一層受け入れるための留学生を	2003年調査(53回)	% (25.6)	% (30.2)	% (29.8)	% (11.0)	% (2.3)	% (1.1)	人 (1,501)	% (100.0)	平均値 (3.7)	
	全 体	24.7	30.3	30.5	11.0	3.1	0.3	1,367	100.0	3.6	
	男 子	23.9	30.7	29.5	12.1	3.4	0.4	1,050	76.8	3.6	
	女 子	27.3	29.2	34.0	7.6	1.9	—	315	23.0	3.7	
	男子	前期課程 後期課程	23.5 24.3	30.5 30.8	28.8 30.3	13.4 10.7	3.4 3.4	0.4 0.4	528 522	38.6 38.2	3.6 3.6
	女子	前期課程 後期課程	27.2 27.4	27.8 30.8	36.7 30.8	7.7 7.5	0.6 3.4	— —	169 146	12.4 10.7	3.7 3.7
	男子	文 科 系 理 科 系	28.9 20.5	30.6 30.7	24.9 32.6	11.8 12.3	3.3 3.5	0.5 0.3	425 625	31.1 45.7	3.7 3.5
	女子	文 科 系 理 科 系	27.7 26.5	28.7 30.1	34.7 32.7	5.9 10.6	3.0 —	— —	202 113	14.8 8.3	3.7 3.7

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

V-1表 いままでに海外渡航の経験がありますか。

(3つまで選択)

区 分		留 学	語学研修	研究・調査 旅行	ホームステイ	家族の海外 赴任に同行	海外旅行	その他	無回答	事 例 数	
1996年調査 (46回)		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全	体	(2.5)	(6.8)	(0.9)	(14.4)	(12.4)	(45.2)	(3.4)	(-)	(1,220)	(100.0)
男	子	2.5	8.0	2.0	17.8	11.4	56.3	5.3	29.8	1,367	100.0
女	子	2.3	6.7	2.2	15.9	10.6	54.1	5.5	32.2	1,050	76.8
文	科	3.2	12.7	1.3	24.4	14.3	63.2	4.8	22.2	315	23.0
理	科	3.0	10.7	1.9	21.3	11.4	60.1	4.5	26.4	629	46.0
文	科	2.0	5.8	2.0	14.9	11.4	53.0	6.1	32.8	738	54.0
理	科	2.6	9.2	2.1	18.8	9.6	57.9	4.9	29.2	425	31.1
男子	理 科 系	2.1	5.0	2.2	13.9	11.2	51.5	5.9	34.2	625	45.7
女子	文 科 系	4.0	13.9	1.5	26.7	15.3	64.4	3.5	20.8	202	14.8
女子	理 科 系	1.8	10.6	0.9	20.4	12.4	61.1	7.1	24.8	113	8.3
前	期	2.4	6.5	1.1	16.4	10.5	53.1	6.0	32.0	697	51.0
後	期	2.5	9.7	2.8	19.4	12.4	59.6	4.6	27.6	670	49.0
男子	前期課程	2.3	6.1	1.1	15.3	9.7	51.3	6.1	33.5	528	38.6
男子	後期課程	2.3	7.3	3.3	16.5	11.5	56.9	5.0	30.8	522	38.2
女子	前期課程	3.0	7.7	1.2	19.5	13.0	58.6	5.9	27.2	169	12.4
女子	後期課程	3.4	18.5	1.4	30.1	15.8	68.5	3.4	16.4	146	10.7
前期課程	文科一類	—	8.9	0.9	15.2	9.8	57.1	4.5	32.1	112	8.2
	文科二類	4.4	8.8	1.5	23.5	7.4	60.3	5.9	26.5	68	5.0
	文科三類	4.9	9.0	3.3	24.6	9.8	53.3	4.9	27.0	122	8.9
	理科一類	1.2	3.9	0.8	11.7	10.2	48.4	7.0	37.1	256	18.7
	理科二類	4.1	6.6	—	17.2	14.8	51.6	4.9	32.8	122	8.9
	理科三類	—	—	—	—	5.9	76.5	17.6	5.9	17	1.2
後期課程	法学部	1.5	11.2	0.7	18.7	12.7	62.7	5.2	25.4	134	9.8
	経済学部	2.9	8.7	1.4	23.2	14.5	65.2	1.4	27.5	69	5.0
	文学部	2.8	19.7	2.8	25.4	14.1	67.6	4.2	18.3	71	5.2
	教育学部	3.3	6.7	3.3	23.3	20.0	63.3	3.3	20.0	30	2.2
	教養(文系)	13.0	13.0	4.3	21.7	4.3	52.2	4.3	30.4	23	1.7
	教養(理系)	—	7.1	—	28.6	14.3	57.1	7.1	21.4	14	1.0
	理学部	2.0	5.9	3.9	19.6	5.9	49.0	7.8	35.3	51	3.7
	工学部	1.3	6.6	4.0	13.2	12.6	49.7	6.0	36.4	151	11.0
	農学部	3.2	9.7	4.8	16.1	11.3	58.1	3.2	32.3	62	4.5
	薬学部	11.1	11.1	—	33.3	11.1	55.6	5.6	22.2	18	1.3
	医学部	—	6.4	4.3	19.1	12.8	78.7	2.1	12.8	47	3.4

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

V-2表 いままでに外国人とのつきあいをしたことがありますか。
(日本国内のことについて)
(3つまで選択)

区 分	外国人留学生の 友人がいる (い た)	留学生以外に外 国人の友人がい る (いた)	手紙、電子メール、電 話などで連絡をとりあ う外国人がいる(いた)	通訳、相談などで外 国人の手助けをした ことがある	ホームステイの受 け入れをしたこと がある	その他	無回答	事 例 数	
								人	%
1996年調査 (46回)	% (28.9)	% (21.7)	% (8.9)	% (2.6)	% (4.0)	% (7.7)	% (-)	人 (1,220)	% (100.0)
全 体	43.0	21.0	24.4	7.5	6.2	3.2	36.6	1,367	100.0
男 子	39.6	18.8	20.7	7.5	5.8	3.6	40.3	1,050	76.8
女 子	54.0	28.3	36.8	7.3	7.6	1.9	24.8	315	23.0
文 科 系	47.2	25.0	29.4	8.9	6.4	2.7	32.8	629	46.0
理 科 系	39.4	17.6	20.1	6.4	6.1	3.7	40.0	738	54.0
男子	文 科 系	41.4	22.1	24.5	9.2	5.9	38.6	425	31.1
	理 科 系	38.4	16.5	18.1	6.4	5.8	41.4	625	45.7
女子	文 科 系	58.9	30.7	40.1	7.9	7.4	20.8	202	14.8
	理 科 系	45.1	23.9	31.0	6.2	8.0	31.9	113	8.3
前 期 課 程	37.7	21.5	23.8	6.3	5.5	4.0	39.2	697	51.0
後 期 課 程	48.5	20.4	24.9	8.8	7.0	2.4	34.0	670	49.0
男子	前期課程	33.1	19.5	21.0	6.6	5.1	43.4	528	38.6
	後期課程	46.2	18.0	20.3	8.4	6.5	2.7	37.2	522
女子	前期課程	52.1	27.8	32.5	5.3	6.5	2.4	169	12.4
	後期課程	56.2	28.8	41.8	9.6	8.9	1.4	146	10.7
前 期 課 程	文科一類	42.9	29.5	29.5	5.4	7.1	0.9	112	8.2
	文科二類	47.1	25.0	27.9	10.3	8.8	1.5	68	5.0
	文科三類	49.2	23.8	30.3	6.6	4.1	3.3	122	8.9
	理科一類	34.4	18.0	17.6	5.9	6.6	5.5	256	18.7
	理科二類	27.0	19.7	24.6	4.9	1.6	4.1	122	8.9
	理科三類	11.8	5.9	11.8	11.8	—	17.6	52.9	17
後 期 課 程	法 学 部	46.3	22.4	24.6	8.2	5.2	5.2	134	9.8
	経 済 学 部	42.0	27.5	33.3	10.1	7.2	—	69	5.0
	文 学 部	49.3	26.8	32.4	14.1	9.9	2.8	71	5.2
	教 育 学 部	50.0	20.0	30.0	6.7	3.3	—	30	2.2
	教養(文系)	69.6	17.4	34.8	21.7	4.3	8.7	23	1.7
	教養(理系)	28.6	7.1	28.6	14.3	14.3	7.1	14	1.0
	理 学 部	37.3	17.6	15.7	7.8	3.9	2.0	51	3.7
	工 学 部	58.3	13.2	18.5	5.3	6.6	1.3	151	11.0
	農 学 部	41.9	17.7	16.1	8.1	12.9	—	62	4.5
	薬 学 部	66.7	44.4	50.0	—	—	—	18	1.3
	医 学 部	40.4	21.3	25.5	10.6	8.5	2.1	36.2	47

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

V-3表 いままでに国際交流の経験をしたことがありますか。

(3つまで選択)

区 分		異文化理解、国際交流を目的とした授業にでたことがある	異文化理解、国際交流を目的とするサークルなどに加入している (いた)	国際ボランティア活動、NGO・NPO活動に参加したことがある	その他	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	人	%
全 体		20.8	5.3	4.8	5.1	69.6	1,367	100.0
男 子		17.1	4.5	3.9	5.5	73.6	1,050	76.8
女 子		32.7	8.3	7.9	3.8	56.5	315	23.0
文 科 系		27.7	7.8	6.0	3.7	63.8	629	46.0
理 科 系		15.0	3.3	3.8	6.4	74.5	738	54.0
男子	文 科 系	21.6	7.1	5.4	4.0	69.9	425	31.1
	理 科 系	14.1	2.7	2.9	6.6	76.2	625	45.7
女子	文 科 系	39.6	9.4	7.4	3.0	51.5	202	14.8
	理 科 系	20.4	6.2	8.8	5.3	65.5	113	8.3
前 期 課 程		21.5	6.2	5.5	5.5	68.1	697	51.0
後 期 課 程		20.1	4.5	4.2	4.8	71.0	670	49.0
男子	前期課程	19.1	5.1	4.9	5.9	71.2	528	38.6
	後期課程	15.1	3.8	2.9	5.2	76.1	522	38.2
女子	前期課程	29.0	9.5	7.1	4.1	58.6	169	12.4
	後期課程	37.0	6.8	8.9	3.4	54.1	146	10.7
前期課程	文科一類	33.0	8.9	7.1	2.7	59.8	112	8.2
	文科二類	26.5	8.8	10.3	4.4	66.2	68	5.0
	文科三類	28.7	10.7	4.9	4.1	58.2	122	8.9
	理科一類	14.8	2.7	3.5	6.6	75.4	256	18.7
	理科二類	14.8	4.1	4.9	6.6	73.0	122	8.9
	理科三類	23.5	11.8	11.8	11.8	58.8	17	1.2
後期課程	法 学 部	23.1	6.0	3.0	5.2	69.4	134	9.8
	経 済 学 部	20.3	8.7	10.1	—	72.5	69	5.0
	文 学 部	23.9	4.2	4.2	1.4	69.0	71	5.2
	教 育 学 部	26.7	3.3	3.3	3.3	70.0	30	2.2
	教養(文系)	60.9	8.7	8.7	13.0	21.7	23	1.7
	教養(理系)	50.0	—	—	7.1	42.9	14	1.0
	理 学 部	13.7	—	2.0	5.9	78.4	51	3.7
	工 学 部	11.9	0.7	1.3	6.0	81.5	151	11.0
	農 学 部	11.3	8.1	8.1	1.6	75.8	62	4.5
	薬 学 部	16.7	11.1	—	11.1	61.1	18	1.3
	医 学 部	19.1	4.3	6.4	8.5	66.0	47	3.4

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

V-4表 就職の希望先として外資系企業・国際機関などへの就職を希望したいと思いますか。

区 分		希望する	希望しない	無回答	事 例 数	
全 体		% 37.1	% 61.8	% 1.1	人 1,367	% 100.0
男 子		34.7	64.2	1.1	1,050	76.8
女 子		45.1	54.0	1.0	315	23.0
文 科 系		38.5	60.6	1.0	629	46.0
理 科 系		35.9	62.9	1.2	738	54.0
男子	文 科 系	35.5	63.8	0.7	425	31.1
	理 科 系	34.1	64.5	1.4	625	45.7
女子	文 科 系	44.6	54.0	1.5	202	14.8
	理 科 系	46.0	54.0	—	113	8.3
前 期 課 程		37.9	60.8	1.3	697	51.0
後 期 課 程		36.3	62.8	0.9	670	49.0
男子	前期課程	34.8	63.8	1.3	528	38.6
	後期課程	34.5	64.6	1.0	522	38.2
女子	前期課程	47.3	51.5	1.2	169	12.4
	後期課程	42.5	56.8	0.7	146	10.7
前期課程	文科一類	36.6	62.5	0.9	112	8.2
	文科二類	45.6	54.4	—	68	5.0
	文科三類	39.3	58.2	2.5	122	8.9
	理科一類	34.8	64.5	0.8	256	18.7
	理科二類	41.8	55.7	2.5	122	8.9
	理科三類	23.5	76.5	—	17	1.2
後期課程	法 学 部	39.6	60.4	—	134	9.8
	経 済 学 部	43.5	56.5	—	69	5.0
	文 学 部	32.4	64.8	2.8	71	5.2
	教 育 学 部	26.7	73.3	—	30	2.2
	教 養 (文 系)	34.8	65.2	—	23	1.7
	教 養 (理 系)	50.0	42.9	7.1	14	1.0
	理 学 部	39.2	60.8	—	51	3.7
	工 学 部	30.5	68.2	1.3	151	11.0
	農 学 部	38.7	61.3	—	62	4.5
	薬 学 部	50.0	44.4	5.6	18	1.3
	医 学 部	31.9	68.1	—	47	3.4

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

V-5表 あなたは将来、海外留学の機会があれば希望しますか。

区 分		留学したい	どちらかといえ ば留学したい	どちらとも いえ	どちらかといえ ば留学したくない	留学 したくない	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	人	%
全 体		38.6	27.1	17.3	9.2	7.4	0.4	1,367	100.0
男 子		38.1	25.3	19.0	9.3	7.9	0.3	1,050	76.8
女 子		40.0	33.3	11.4	8.6	5.7	1.0	315	23.0
文 科 系		41.7	28.5	14.1	8.6	6.4	0.8	629	46.0
理 科 系		35.9	26.0	19.9	9.8	8.3	0.1	738	54.0
男子	文 科 系	41.9	26.6	16.5	8.2	6.4	0.5	425	31.1
	理 科 系	35.5	24.5	20.8	10.1	9.0	0.2	625	45.7
女子	文 科 系	41.1	32.7	9.4	8.9	6.4	1.5	202	14.8
	理 科 系	38.1	34.5	15.0	8.0	4.4	—	113	8.3
前 期 課 程		37.4	26.8	18.2	9.8	7.3	0.4	697	51.0
後 期 課 程		39.7	27.5	16.3	8.7	7.5	0.4	670	49.0
男子	前期課程	36.4	25.2	21.0	9.5	7.8	0.2	528	38.6
	後期課程	39.8	25.5	17.0	9.2	8.0	0.4	522	38.2
女子	前期課程	40.8	32.0	9.5	10.7	5.9	1.2	169	12.4
	後期課程	39.0	34.9	13.7	6.2	5.5	0.7	146	10.7
前期課程	文科一類	42.0	27.7	13.4	8.9	8.0	—	112	8.2
	文科二類	42.6	32.4	7.4	11.8	5.9	—	68	5.0
	文科三類	36.9	32.0	16.4	9.0	4.1	1.6	122	8.9
	理科一類	33.6	22.3	24.2	9.0	10.5	0.4	256	18.7
	理科二類	36.9	28.7	18.9	10.7	4.9	—	122	8.9
	理科三類	52.9	17.6	11.8	17.6	—	—	17	1.2
後期課程	法 学 部	47.0	26.9	18.7	4.5	3.0	—	134	9.8
	経 済 学 部	33.3	30.4	15.9	7.2	11.6	1.4	69	5.0
	文 学 部	39.4	29.6	11.3	9.9	7.0	2.8	71	5.2
	教 育 学 部	43.3	20.0	6.7	16.7	13.3	—	30	2.2
	教養(文系)	60.9	13.0	13.0	8.7	4.3	—	23	1.7
	教養(理系)	50.0	21.4	7.1	14.3	7.1	—	14	1.0
	理 学 部	37.3	27.5	9.8	15.7	9.8	—	51	3.7
	工 学 部	28.5	33.8	19.9	7.3	10.6	—	151	11.0
	農 学 部	35.5	22.6	25.8	8.1	8.1	—	62	4.5
	薬 学 部	50.0	27.8	5.6	16.7	—	—	18	1.3
医 学 部	53.2	21.3	14.9	8.5	2.1	—	47	3.4	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

V-6表 あなたは将来、海外留学の機会があればどの段階で希望しますか。

区 分		学部（前期課程） 在籍中	学部（後期課程） 在籍中	大学院（専門 職学位課程） 在籍中	大学院（修士課 程）在籍中	大学院（博士 課程）在籍中	就職後	無回答	事 例 数	
		%	%	%	%	%	%	%	人	%
全 体		5.7	15.4	6.1	23.2	13.1	36.4	0.1	898	100.0
男 子		6.5	13.8	6.0	24.6	13.8	35.3	—	666	74.2
女 子		3.5	19.9	6.5	19.0	11.3	39.4	0.4	231	25.7
文 科 系		7.0	17.7	5.0	11.8	6.6	51.7	0.2	441	49.1
理 科 系		4.4	13.1	7.2	34.1	19.5	21.7	—	457	50.9
男子	文 科 系	8.6	14.1	5.8	10.3	6.2	55.0	—	291	32.4
	理 科 系	4.8	13.6	6.1	35.7	19.7	20.0	—	375	41.8
女子	文 科 系	4.0	24.8	3.4	14.8	7.4	45.0	0.7	149	16.6
	理 科 系	2.4	11.0	12.2	26.8	18.3	29.3	—	82	9.1
前 期 課 程		7.8	24.6	9.6	25.0	9.4	23.7	—	448	49.9
後 期 課 程		3.6	6.2	2.7	21.3	16.9	49.1	0.2	450	50.1
男子	前 期 課 程	9.5	22.5	8.9	26.2	9.2	23.7	—	325	36.2
	後 期 課 程	3.5	5.6	3.2	23.2	18.2	46.3	—	341	38.0
女子	前 期 課 程	3.3	30.1	11.4	22.0	9.8	23.6	—	123	13.7
	後 期 課 程	3.7	8.3	0.9	15.7	13.0	57.4	0.9	108	12.0
前 期 課 程	文 科 一 類	14.1	19.2	11.5	3.8	3.8	47.4	—	78	8.7
	文 科 二 類	11.8	21.6	3.9	11.8	—	51.0	—	51	5.7
	文 科 三 類	6.0	40.5	4.8	22.6	10.7	15.5	—	84	9.4
	理 科 一 類	8.4	18.2	11.2	39.9	10.5	11.9	—	143	15.9
	理 科 二 類	1.3	27.5	13.8	31.3	15.0	11.3	—	80	8.9
	理 科 三 類	—	16.7	8.3	16.7	25.0	33.3	—	12	1.3
後 期 課 程	法 学 部	3.0	7.1	5.1	4.0	3.0	76.8	1.0	99	11.0
	経 済 学 部	4.5	9.1	—	2.3	—	84.1	—	44	4.9
	文 学 部	8.2	6.1	4.1	28.6	18.4	34.7	—	49	5.5
	教 育 学 部	—	5.3	—	21.1	15.8	57.9	—	19	2.1
	教 養 (文 系)	—	17.6	—	5.9	11.8	64.7	—	17	1.9
	教 養 (理 系)	—	—	—	30.0	50.0	20.0	—	10	1.1
	理 学 部	3.0	3.0	—	30.3	42.4	21.2	—	33	3.7
	工 学 部	2.1	5.3	4.3	48.9	11.7	27.7	—	94	10.5
	農 学 部	2.8	—	2.8	19.4	27.8	47.2	—	36	4.0
	薬 学 部	7.1	—	—	21.4	57.1	14.3	—	14	1.6
医 学 部	5.7	11.4	—	8.6	31.4	42.9	—	35	3.9	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VI-1表 課程

区 分		前期課程		後期課程		合 計	
		人	%	人	%	人	%
2003年調査 (53回)		(742)	(49.4)	(759)	(50.6)	(1,501)	(100.0)
全 体		697	51.0	670	49.0	1,367	100.0
男 子		528	50.3	522	49.7	1,050	76.8
女 子		169	53.7	146	46.3	315	23.0
男 子	文科系	194	45.6	231	54.4	425	31.1
	理科系	334	53.4	291	46.6	625	45.7
女 子	文科系	108	53.5	94	46.5	202	14.8
	理科系	61	54.0	52	46.0	113	8.3

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VI-2表 出身高校

区 分	国立 (大学附属)	公 立	中高一貫型 の私立	その他 の私立	大学入学 資格検定	外国学校	その他	無回答	事例数	
	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)	(9.0)	(40.3)	(46.8)	(2.9)	(0.1)	(0.6)	(0.3)	—	(1,501)	(100.0)
全 体	8.4	36.1	50.3	3.4	0.3	1.0	0.4	0.1	1,367	100.0
男 子	8.2	35.6	51.3	3.2	0.4	0.6	0.6	0.1	1,050	76.8
女 子	9.2	37.8	47.0	3.5	—	2.5	—	—	315	23.0
現 役	8.8	33.5	53.7	2.7	0.2	1.1	0.1	—	937	68.5
1 浪	8.1	41.2	46.5	3.6	—	0.6	—	—	357	26.1
2 浪 以上	8.1	54.1	24.3	10.8	2.7	—	—	—	37	2.7
学士入学	—	15.4	46.2	23.1	7.7	—	—	7.7	13	1.0
そ の 他	4.3	43.5	17.4	4.3	—	8.7	21.7	—	23	1.7

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VI-3表 現役・浪人等

区 分	現 役		1 浪		2 浪 以上		学士入学		そ の 他		無 回 答		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
2003年調査 (53回)	(1,053)	(70.2)	(362)	(24.1)	(51)	(3.4)	(21)	(1.4)	(13)	(0.9)	(1)	(0.1)	(1,051)	(100.0)
全 体	937	68.5	357	26.1	37	2.7	13	1.0	23	1.7	—	—	1,367	100.0
男 子	712	67.8	288	27.4	27	2.6	8	0.8	15	1.4	—	—	1,050	76.8
女 子	224	71.1	68	21.6	10	3.2	5	1.6	8	2.5	—	—	315	23.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅶ－1表 家庭の所在地（A. 地区）

区 分	東京都	関 東	北海道	東 北	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州 沖 縄	その他	無回答	事 例 数	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)	(22.7)	(32.7)	(1.4)	(3.1)	(13.5)	(11.1)	(4.5)	(2.7)	(8.1)	(0.1)	(0.1)	(1,501)	(100.0)
全 体	25.5	32.3	1.0	3.5	11.9	9.6	4.1	2.3	8.9	0.5	0.4	1,367	100.0
男 子	24.4	32.3	1.2	3.9	11.4	10.8	4.0	2.3	9.2	0.3	0.2	1,050	76.8
女 子	29.5	32.1	0.3	2.2	13.3	5.4	4.4	2.5	7.9	1.3	1.0	315	23.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅶ－2表 家庭の所在地（B. 都市規模）

区 分	大都市＝ 人口100 万人以上	中都市＝ 人口10 万人以上	小都市＝ 人口10 万人未満	郡 部	無回答	事 例 数	
	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)	(36.2)	(42.8)	(11.2)	(8.6)	(1.3)	(1,501)	(100.0)
全 体	36.4	36.9	12.1	4.8	9.7	1,367	100.0
男 子	36.3	37.5	13.0	5.0	8.1	1,050	76.8
女 子	37.1	34.6	9.2	4.1	14.9	315	23.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅶ－3表 主たる家計支持者

区 分	父	母	本人	兄弟 姉妹	祖 父母	配 偶者	はだ れと 一口 に い え な い	そ の 他	無 回 答	事 例 数	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)	(88.9)	(6.5)	(0.3)	(0.1)	(0.4)	(0.1)	(2.7)	(0.9)	(—)	(1,501)	(100.0)
全 体	88.5	6.6	0.2	—	0.7	0.1	2.9	0.5	0.4	1,367	100.0
男 子	88.8	6.5	0.3	—	0.8	—	2.9	0.6	0.3	1,050	76.8
女 子	87.6	7.0	—	—	0.3	0.6	3.2	0.3	1.0	315	23.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅶ-4表 主たる家計支持者の職業

区	分	専門的、 技術的 職業	教育的 職業	管理的 職業	事務	販売	農・ 林・ 漁業	生産工程 ・ 採掘作業	運輸・ 通信・ 保安・ サービス	無職	その他	無回答	事例数	
2003年調査 (53回)		% (17.6)	% (12.8)	% (42.8)	% (7.2)	% (4.0)	% (0.5)	% (3.9)	% (5.4)	% (3.3)	% (1.3)	% (1.3)	人	%
全	体	27.2	11.5	26.8	9.5	5.0	1.0	1.8	9.9	2.6	2.0	2.5	1,367	100.0
男	子	25.8	11.6	26.8	10.2	5.2	1.0	1.9	10.4	3.0	2.0	2.0	1,050	76.8
女	子	32.1	11.1	27.0	7.3	4.4	0.6	1.6	8.6	1.3	1.9	4.1	315	23.0
男子	文	21.6	12.5	29.6	12.0	6.4	0.7	1.6	9.4	3.1	1.9	1.2	425	31.1
	理	28.6	11.0	24.8	9.0	4.5	1.3	2.1	11.0	3.0	2.1	2.6	625	45.7
女子	文	26.7	11.9	31.2	7.4	5.4	0.5	1.5	6.4	1.0	2.0	5.9	202	14.8
	理	41.6	9.7	19.5	7.1	2.7	0.9	1.8	12.4	1.8	1.8	0.9	113	8.3
男子	自	26.5	6.8	32.4	9.2	4.3	—	1.2	11.7	3.1	2.3	2.5	487	35.6
	分	34.6	30.8	15.4	11.5	—	—	—	3.8	—	—	3.8	26	1.9
	賃	27.1	15.4	22.9	10.9	7.0	1.0	2.0	9.2	2.0	1.2	1.2	402	29.4
	下	20.0	6.7	20.0	13.3	—	—	6.7	13.3	6.7	6.7	6.7	15	1.1
	東	25.0	10.0	7.5	7.5	2.5	10.0	5.0	17.5	7.5	5.0	2.5	40	2.9
	そ	13.6	16.7	25.8	12.1	6.1	3.0	4.5	7.6	6.1	3.0	1.5	66	4.8
	無	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	—	—	—	14.3	—	—	7	0.5
無	14.3	14.3	42.9	14.3	—	14.3	—	—	—	—	—	7	0.5	
女子	自	31.8	8.0	30.1	6.3	5.7	0.6	—	10.2	1.1	1.7	4.5	176	12.9
	分	42.9	14.3	42.9	—	—	—	—	—	—	—	—	7	0.5
	賃	34.5	16.1	21.8	6.9	3.4	1.1	4.6	4.6	1.1	2.3	3.4	87	6.4
	下	—	33.3	66.7	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.2
	東	37.5	6.3	—	12.5	—	—	6.3	25.0	—	6.3	6.3	16	1.2
	そ	27.8	16.7	27.8	16.7	—	—	—	5.6	—	—	5.6	18	1.3
	無	—	14.3	42.9	14.3	14.3	—	—	—	14.3	—	—	7	0.5
無	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VII-5 表 主たる家計支持者の年収分布

(無回答を除く)

区 分	350万円	350万円	450万円	450万円	550万円	550万円	650万円	650万円	750万円	750万円	850万円	850万円	950万円	950万円	1050万円	1050万円	1150万円	1150万円	1250万円	1250万円	1350万円	1350万円	1450万円	1450万円	1550万円	事 例 数		
	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	未 満	%	人	%
全	(9.5)	4.4	(5.5)	5.6	(7.1)	8.0	(7.8)	6.8	(9.7)	9.5	(6.8)	5.7	(21.9)	21.8	(2.5)	2.6	(6.0)	6.9	(3.1)	2.3	(1.6)	1.5	(4.5)	5.1	(9.6)	10.5	(1,300)	(100.0)
男	9.4	4.3	6.2	5.3	8.7	7.1	7.1	10.1	10.1	5.7	5.7	20.7	20.7	3.0	3.0	6.9	6.9	2.2	2.2	1.1	1.1	4.8	4.8	9.8	875	78.1		
女	7.8	5.3	3.7	4.5	5.8	5.8	5.8	7.4	7.4	5.8	5.8	25.1	25.1	1.2	1.2	7.0	7.0	2.9	2.9	2.9	2.9	6.2	6.2	13.2	243	21.7		
自 宅	6.7	3.2	4.5	4.7	4.7	4.7	4.7	7.9	7.9	5.2	5.2	23.3	23.3	3.5	3.5	9.4	9.4	2.5	2.5	1.5	1.5	8.2	8.2	14.6	403	36.0		
分 譲 マンション	—	4.3	8.7	8.7	13.0	8.7	8.7	4.3	4.3	4.3	4.3	21.7	21.7	4.3	4.3	13.0	13.0	—	—	—	—	4.3	4.3	13.0	23	2.1		
賃 貸 マンション・アパート	7.2	4.3	7.0	10.0	11.3	10.1	10.1	13.0	13.0	7.2	7.2	20.0	20.0	2.9	2.9	4.9	4.9	2.0	2.0	0.9	0.9	2.0	2.0	7.0	345	30.8		
宿 舎	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	—	—	10.0	10.0	—	—	20.0	20.0	10.0	10.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	0.9	
東 大 学 寮・三 鷹 国 際 学 生 宿 舎	58.3	8.3	11.1	5.6	5.6	2.8	2.8	5.6	5.6	2.8	2.8	5.6	5.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36	3.2	
そ の 他 の 寮	21.3	4.3	10.6	25.5	6.4	6.4	6.4	12.8	12.8	4.3	4.3	8.5	8.5	—	—	2.1	2.1	4.3	4.3	—	—	—	—	—	—	47	4.2	
そ の 他	16.7	—	—	—	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	—	—	33.3	33.3	—	—	16.7	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—	6	0.5	
無 回 答	—	—	—	—	20.0	20.0	20.0	—	—	—	—	60.0	60.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20.0	20.0	—	5	0.4	
自 宅	6.0	4.5	3.0	2.2	2.2	2.2	2.2	4.5	4.5	5.2	5.2	24.6	24.6	2.2	2.2	11.2	11.2	5.2	5.2	4.5	4.5	9.0	9.0	15.7	134	12.0		
分 譲 マンション	—	—	—	20.0	20.0	—	—	—	—	—	—	20.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	0.4	
賃 貸 マンション・アパート	4.2	4.2	2.8	50.0	11.3	11.3	11.3	12.7	12.7	7.0	7.0	29.6	29.6	—	—	2.8	2.8	—	—	—	—	4.2	4.2	9.9	71	6.3		
宿 舎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.2	
東 大 学 寮・三 鷹 国 際 学 生 宿 舎	50.0	16.7	8.3	8.3	8.3	—	—	—	—	—	—	16.7	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	1.1	
そ の 他 の 寮	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	14.3	14.3	14.3	7.1	7.1	21.4	21.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14.3	14	1.3	
そ の 他	—	—	—	—	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	0.4	
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅶ-6表 世帯の年収分布

(無回答を除く)

区	分	350万円	450万円	550万円	650万円	750万円	850万円	950万円	1050万円	1150万円	1250万円	1350万円	1450万円	1550万円	事例数		
		未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	以上	人	%
全	2003年調査 (53回)	350万円	450万円	550万円	650万円	750万円	850万円	950万円	1050万円	1150万円	1250万円	1350万円	1450万円	1550万円			
		未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	以上		
		(7.0)	(4.4)	(4.8)	(6.2)	(8.2)	(7.0)	(17.5)	(5.2)	(7.9)	(4.1)	(3.0)	(6.6)	(14.7)	(1.285)	(100.0)	
		6.4	3.2	5.7	7.1	6.3	6.6	18.7	4.7	7.6	3.4	3.4	6.5	16.3	1,111	100.0	
		6.0	3.5	6.2	7.5	6.8	6.6	18.5	4.6	8.4	3.1	3.0	6.8	14.6	869	78.2	
		7.9	2.1	3.3	5.8	4.6	6.7	19.6	5.0	4.2	4.6	5.0	5.0	22.5	240	21.6	
		3.8	2.5	4.0	5.5	4.8	6.0	21.3	4.5	9.0	3.5	3.3	7.8	21.0	400	36.0	
		—	—	9.1	4.5	4.5	4.5	31.8	4.5	9.1	—	9.1	—	—	18.2	22	2.0
		3.8	2.9	4.4	10.2	9.6	7.6	16.9	5.8	8.4	3.2	2.6	7.3	10.8	344	31.0	
		27.3	—	18.2	9.1	9.1	—	18.2	—	9.1	—	9.1	—	—	11	1.0	
		38.9	19.4	16.7	—	2.8	—	8.3	—	2.8	—	—	—	—	36	3.2	
		13.3	6.7	—	8.9	6.7	15.6	8.9	—	8.9	2.2	2.2	—	—	45	4.1	
		16.7	—	—	16.7	16.7	—	16.7	—	—	—	—	—	33.3	6	0.5	
—	—	—	20.0	—	—	20.0	—	20.0	20.0	—	20.0	20.0	5	0.5			
6.8	1.5	3.0	1.5	—	—	6.8	6.8	21.1	4.5	4.5	6.0	7.5	133	12.0			
—	—	—	—	—	—	—	—	40.0	—	—	—	20.0	5	0.5			
2.9	1.4	7.1	12.9	11.4	8.6	17.1	7.1	17.1	1.4	1.4	4.3	1.4	70	6.3			
—	50.0	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	2	0.2			
50.0	8.3	—	8.3	8.3	—	8.3	—	8.3	8.3	—	—	—	12	1.1			
15.4	7.7	—	7.7	15.4	—	23.1	—	—	—	—	—	—	13	1.2			
—	—	—	20.0	—	20.0	—	20.0	—	40.0	—	—	—	5	0.5			
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VII-7 表 主たる家計支持者の職業別にみた年収平均（単位：十万円）

（無回答を除く）

区分	専門的技術的職業		教育的職業		管理的職業		事業		販売		農・林・漁業		生産工程採掘作業		運輸・通信・保安・サービス		無職		その他		分類不能		事例数	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2003年調査(53回)	(119.48)	(232)	(95.54)	(160)	(114.55)	(563)	(64.89)	(100)	(55.22)	(55)	(67.14)	(7)	(51.39)	(51)	(56.88)	(76)	(48.92)	(39)	(-)	(-)	(43.29)	(17)	(97.76)	(1300)
全体	123.77	306	84.87	135	123.39	310	75.41	108	98.02	60	64.27	11	67.46	22	81.52	114	37.85	20	72.76	21	72.69	13	103.86	1,120
男子	121.93	225	85.02	108	117.64	241	77.96	88	99.83	46	62.70	10	70.78	18	80.46	94	32.39	18	70.18	17	70.50	10	100.99	875
女子	128.86	81	84.26	27	144.09	68	64.20	20	92.07	14	80.00	1	52.50	4	86.50	20	87.00	2	78.3	3	80.0	3	114.21	243

区分	主たる家計支持者の年収中央値	
2003年調査(53回)	(950)	
全体	1,000	
男子	900	
女子	1,000	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VII-8 表 世帯の職業別にみた年収平均（単位：十万円）

（無回答を除く）

区分	専門的技術的職業		教育的職業		管理的職業		事業		販売		農・林・漁業		生産工程採掘作業		運輸・通信・保安・サービス		無職		その他		分類不能		事例数	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2003年調査(53回)	(134.03)	(230)	(112.52)	(158)	(127.82)	(553)	(79.85)	(99)	(64.45)	(55)	(85.00)	(7)	(62.90)	(51)	(69.16)	(74)	(57.41)	(39)	(-)	(-)	(62.37)	(19)	(111.35)	(1285)
全体	135.42	303	107.06	134	139.04	305	88.76	107	110.58	60	76.36	11	79.86	22	94.09	115	42.48	21	83.00	21	83.25	12	117.88	1,111
男子	131.71	224	105.39	107	133.76	236	92.61	88	113.72	46	76.00	10	85.17	18	92.47	95	37.79	19	78.71	17	84.33	9	114.64	869
女子	145.91	79	113.67	27	157.19	68	70.90	19	100.29	14	80.00	1	56.00	4	101.75	20	87.00	2	95.0	3	80.0	3	129.48	240

区分	世帯年収の中央値	
2003年調査(53回)	(950)	
全体	1,000	
男子	1,000	
女子	1,100	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

VIII-1表 支出額（1ヶ月平均、単位：千円）

区	分	衣料費		食費		住居費		勉学費		教養・娯楽費		通学費		通信費		雑費		支出額合計	
		平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
全	2003年調査 (53回)	(10.71)	(1,253)	(26.56)	(1,444)	(67.00)	(790)	(10.17)	(1,398)	(14.99)	(1,427)	(7.76)	(1,165)	(—)	(—)	(11.93)	(1,361)	(113.93)	(1,443)
男	体	12.36	1,081	26.06	1,261	67.43	645	9.32	1,197	14.44	1,222	7.99	955	7.18	1,027	10.36	1,159	113.60	1,281
女	子	11.42	812	27.39	976	66.99	514	9.28	923	14.70	946	7.99	725	7.14	794	9.97	892	114.64	988
自	子	15.20	267	21.50	283	68.90	129	9.48	272	13.55	274	7.99	230	7.34	231	11.68	265	109.79	291
自	宅	13.20	508	18.70	591	—	—	9.29	563	15.02	575	10.29	516	6.69	450	8.56	530	73.53	605
自	外	11.60	572	32.56	668	67.48	643	9.32	633	13.90	646	5.27	438	7.56	575	11.87	628	149.50	674
無	答	20.00	1	35.00	2	50.00	2	30.00	1	30.00	1	10.00	1	6.00	2	10.00	1	141.00	2
男	自	11.67	364	19.63	440	—	—	9.15	415	15.24	427	10.28	384	6.65	332	8.14	389	72.57	448
自	宅	11.20	447	33.75	534	67.05	512	9.35	507	14.22	518	5.40	340	7.49	460	11.39	502	149.58	538
無	答	20.00	1	35.00	2	50.00	2	30.00	1	30.00	1	10.00	1	6.00	2	10.00	1	141.00	2
子	分	9.04	23	34.04	26	59.33	18	10.09	23	12.17	24	6.47	15	7.29	24	12.38	24	125.15	26
自	賃	11.96	316	34.54	385	76.25	381	9.52	366	14.70	375	5.22	222	7.85	336	12.53	366	163.68	388
下	宿	7.45	11	33.29	14	58.83	12	12.79	14	15.62	13	6.50	8	8.73	11	12.00	14	139.43	14
東	大	8.36	33	31.21	39	10.58	38	7.33	39	15.24	37	4.68	34	4.67	33	7.13	38	85.36	39
大	学	9.95	55	30.00	61	48.95	58	8.39	57	11.70	61	5.11	54	5.69	49	6.37	51	117.55	62
寮	の	12.14	7	37.14	7	48.75	4	9.50	6	10.83	6	14.00	5	15.60	5	8.14	7	123.86	7
そ	の	15.00	2	35.00	2	70.00	1	12.50	2	7.50	2	11.50	2	12.50	2	7.50	2	136.50	2
無	答	17.07	144	15.97	151	—	—	9.68	148	14.38	148	10.34	132	6.81	118	9.74	141	76.25	157
女	自	13.01	123	27.82	132	68.90	129	9.24	124	12.59	126	4.82	98	7.88	113	13.88	124	149.07	134
自	宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無	答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子	分	7.33	6	29.17	6	85.00	3	14.60	5	11.83	6	8.75	4	9.00	5	13.80	5	127.83	6
自	賃	14.21	76	29.55	82	78.63	84	9.52	77	13.60	80	4.91	54	8.58	69	14.63	79	165.98	84
下	宿	7.67	3	21.33	3	62.00	3	7.33	3	18.00	3	3.50	2	5.33	3	24.33	3	148.33	3
東	大	10.81	16	26.06	16	9.56	16	7.93	15	11.81	16	3.19	16	6.29	14	14.60	15	88.06	16
大	学	9.73	15	23.94	18	72.59	17	8.29	17	8.80	15	4.75	16	6.60	15	9.60	15	133.50	18
寮	の	19.14	7	23.14	7	75.83	6	8.29	7	8.67	6	6.33	6	7.29	7	8.57	7	144.29	7
そ	の	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無	答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

注）2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅷ-2表 収入額（1ヶ月平均、単位：千円）

区	分	家庭からの仕送り・小遣い		奨学金		アルバイト・雑収入		収入額合計													
		平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数												
2003年調査（53回）		(83.46)	(1,319)	(57.72)	(321)	(43.47)	(974)	(117.71)	(1,451)												
全	体	77.96	1,142	58.83	284	46.26	895	110.41	1,291												
男	子	78.14	890	59.21	231	47.96	677	112.27	996												
女	子	76.75	250	57.15	53	41.07	217	103.73	293												
自	宅	34.02	505	52.76	58	45.64	456	66.23	606												
自	宅	112.78	636	60.38	226	46.98	438	149.52	684												
無	回	120.00	1	—	—	10.00	1	130.00	1												
男	自	宅	32.96	378	53.76	42	46.28	331	65.65	447											
	自	宅	111.48	511	60.42	189	49.68	345	150.26	548											
	無	回	120.00	1	—	—	10.00	1	130.00	1											
	分	譲	マ	ン	シ	ョ	ン	91.43	23	54.57	7	42.82	22	115.92	26						
	賃	貸	マ	ン	シ	ョ	ン	・	ア	パ	ー	ト	122.22	378	62.12	114	52.91	238	161.28	394	
	下	宿	88.38	13	61.60	5	45.50	10	126.93	14											
	東	大	学	寮	・	三	鷹	国	際	学	生	宿	舎	51.29	34	58.10	30	35.12	25	109.13	40
	そ	の	他	の	寮	92.57	56	55.23	31	43.82	44	132.61	65								
そ	の	他	81.00	5	96.50	2	43.75	4	110.43	7											
無	回	答	90.00	2	—	—	85.00	2	125.50	2											
女	自	宅	37.17	127	50.13	16	43.95	125	67.86	159											
	自	宅	117.62	123	60.19	37	37.16	92	146.30	134											
	無	回	—	—	—	—	—	—	—	—											
	分	譲	マ	ン	シ	ョ	ン	95.71	7	100.00	1	29.17	6	135.00	7						
	賃	貸	マ	ン	シ	ョ	ン	・	ア	パ	ー	ト	133.76	79	54.65	17	39.35	57	160.38	83	
	下	宿	120.00	3	37.50	2	16.00	1	150.33	3											
	東	大	学	寮	・	三	鷹	国	際	学	生	宿	舎	62.27	11	58.73	11	42.73	11	112.56	16
	そ	の	他	の	寮	98.13	16	79.50	6	29.42	12	128.83	18								
そ	の	他	87.86	7	—	—	32.40	5	111.00	7											
無	回	答	—	—	—	—	—	—	—												

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

注）2005年調査では、性別不明者が2名います。

IX-1 表 現在の居住地

区分	東京都 (23区内)	東京都 (23区外)	横浜市	川崎市	神奈川県 〔「横浜市」・ 「川崎市」を 除く〕	さいたま 川口 蕨の各市	埼玉県 〔「さいたま 市」・「川口・蕨の 各市」を除く〕	千葉・船橋・市 川・習志野の各 市	千葉県 〔「千葉・ 船橋・市川・習 志野の各市」を 除く〕	その他の県	無回答		事例数
											%	%	
2003年調査 (53回)	(57.7)	(16.5)	(7.5)	(2.9)	(3.3)	(1.5)	(3.0)	(3.2)	(3.3)	(1.1)	(0.1)	(100.0)	
全体	59.6	12.1	8.0	3.7	3.1	2.2	4.0	2.6	3.4	1.0	0.3	1,367	100.0
男子	59.9	12.1	8.3	3.4	2.9	2.3	4.1	2.3	3.5	1.0	0.3	1,050	76.8
女子	58.4	12.4	7.0	4.4	4.1	1.9	3.8	3.5	2.9	1.3	0.3	315	23.0
自宅	36.0	11.6	14.8	5.9	6.2	4.1	7.4	5.1	6.8	2.1	—	663	48.5
自宅外	82.2	12.8	1.6	1.6	0.3	0.4	0.9	0.1	0.1	—	—	698	51.1
無回答	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	66.7	6	0.4
自宅	34.5	12.3	15.6	5.5	5.7	4.5	7.6	4.7	7.4	2.1	—	487	35.6
自宅外	82.3	12.0	2.0	1.6	0.4	0.4	1.1	0.2	0.2	—	—	558	40.8
無回答	40.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60.0	5	0.4
女子	40.3	9.7	12.5	6.8	7.4	2.8	6.8	6.3	5.1	2.3	—	176	12.9
女子	81.9	15.9	—	1.4	—	0.7	—	—	—	—	—	138	10.1
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	1	0.1
前期課程	34.7	12.0	15.7	7.6	6.7	4.1	7.3	4.1	6.1	1.7	—	343	25.1
自宅外	70.2	22.7	2.3	3.1	0.3	—	1.1	0.3	—	—	—	352	25.7
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	2	0.1
自宅	37.5	11.3	13.8	4.1	5.6	4.1	7.5	6.3	7.5	2.5	—	320	23.4
自宅外	94.5	2.6	0.9	—	0.3	0.9	0.6	—	0.3	—	—	346	25.3
無回答	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	4	0.3

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

IX-2表 現在の住居区分

(自宅外のみ)

区分	分	分譲マンション	賃貸マンション・アパート	下宿	東大寮・三鷹国際学生宿舎	その他の寮	その他	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	人	%
全	体	4.7	70.2	2.7	8.0	12.0	2.0	0.3	698	100.0
男	子	4.7	72.0	2.7	7.2	11.8	1.3	0.4	558	79.9
女	子	5.1	63.0	2.2	11.6	13.0	5.1	—	138	19.8
	前期課程	2.6	65.9	2.6	11.0	16.5	1.1	0.4	273	39.1
	後期課程	6.7	77.9	2.8	3.5	7.4	1.4	0.4	285	40.8
	前期課程	5.1	54.4	2.5	13.9	16.5	7.6	—	79	11.3
	後期課程	5.1	74.6	1.7	8.5	8.5	1.7	—	59	8.5
	文科系	4.2	66.2	3.3	7.0	16.9	1.4	0.9	213	30.5
	理科系	4.9	75.7	2.3	7.2	8.7	1.2	—	345	49.4
	文科系	5.0	65.0	2.0	12.0	11.0	5.0	—	100	14.3
	理科系	5.3	57.9	2.6	10.5	18.4	5.3	—	38	5.4

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

(自宅外のみ)

区分	分	分譲マンション	賃貸マンション・アパート(バスつき)	アパート(バスなし)	下宿	東大寮・三鷹国際学生宿舎	その他の寮	その他	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査(53回)		2.1	70.6	5.5	2.9	6.2	10.8	1.5	0.5	824	100.0

IX-3表 通学に利用している交通機関

区 分	電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	事 例 数		
2003年調査 (53回)	% (77.5)	% (0.3)	% (0.2)	% (1.1)	% (16.5)	% (4.3)	% (0.1)	% (—)	人 (1,501)	% (100.0)	
全 体	74.3	0.2	0.1	1.2	18.2	5.6	—	0.4	1,367	100.0	
男 子	71.4	0.2	0.1	1.5	20.8	5.5	—	0.5	1,050	76.8	
女 子	84.1	0.3	—	—	9.5	5.7	—	0.3	315	23.0	
男子	前期課程	85.4	0.2	—	0.2	10.6	3.4	—	0.2	528	38.6
	後期課程	57.3	0.2	0.2	2.9	31.0	7.7	—	0.8	522	38.2
女子	前期課程	89.9	0.6	—	—	4.1	4.7	—	0.6	169	12.4
	後期課程	77.4	—	—	—	15.8	6.8	—	—	146	10.7

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

IX-4表 通学所要時間

区 分	平均時間	事例数	
2003年調査 (53回)	分 (48.7)	人 (1,499)	
全 体	47.0	1,361	
男 子	45.9	1,045	
女 子	50.9	314	
自 宅	65.3	663	
自 宅 外	29.7	698	
男子	自 宅	65.4	487
	自 宅 外	28.9	558
女子	自 宅	65.0	176
	自 宅 外	32.8	138

片道、単位：分

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

X-1表 奨学金を受けていますか

区 分	受けている	受けたいが 受けられな かった	受けたく ない	受ける 必要がない	無回答	事 例 数	
2003年調査 (53回)	% (21.9)	% (15.1)	% (6.2)	% (54.6)	% (2.1)	人 (1,501)	% (100.0)
全 体	22.2	14.9	4.3	57.8	0.9	1,367	100.0
男 子	23.3	14.6	4.3	57.0	0.9	1,050	76.8
女 子	18.4	15.6	4.4	60.6	1.0	315	23.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

X-2表 「奨学金を受けたが受けられなかった」又は「奨学金を受けたくないと答えた理由

区分	出願はしたが採用されなかった	書類を期限までに整えられなかった	貸与なので申請しなかった	事務手続が煩雑だから	掲示等に気がつかなかった	資格がない	その他	無回答	事例数	
									人	%
2003年調査(53回)	% (14.1)	% (4.4)	% (28.8)	% (17.5)	% (10.9)	% (20.9)	% (3.1)	% (0.3)	人 (320)	% (100.0)
全体	19.1	8.8	26.0	13.0	10.3	18.7	3.8	0.4	262	100.0
男子	20.2	9.6	25.8	13.6	9.6	16.7	4.0	0.5	198	100.0
女子	15.9	6.3	27.0	11.1	12.7	23.8	3.2	—	63	100.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

X-3表 これから受けたいと思えますか。

区分	受けたい	受けたくない	無回答	事例数	
				人	%
全体	% 62.6	% 23.3	% 14.1	262	100.0
男子	65.2	21.7	13.1	198	75.6
女子	54.0	28.6	17.5	63	24.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

X-4表 受領している奨学金の内訳

区 分	日本育英会 第一種奨学金	日本育英会 第二種奨学金・ きぼう21プラン 奨学金	日本育英会第一 種と二種の併用 又は きぼう21プラン 奨学金の併用	育英会と財団・ 地方公共団体 の併用	財団・地方公共 団体等 の奨学金	無回答	事 例 数	
							人	%
2003年調査 (53回)	% (32.2)	% (30.4)	% (5.2)	% (15.2)	% (15.2)	% (1.8)	人 (329)	% (100.0)
全 体	33.7	30.7	5.6	13.9	14.9	1.3	303	100.0
男 子	35.1	31.8	5.3	13.1	14.3	4.0	245	80.9
女 子	27.6	25.9	6.9	17.2	17.2	5.2	58	19.1

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

X-5表 奨学金はどんな面で役立っていますか

(2つまで選択)

区 分	家庭の経済的負 担が軽減される	多少ともゆとり のある生活がで きる	アルバイト が軽減される	奨学金がある ので生活が成 り立っている	定期的な収入 があるので 助かる	その他	無回答	事例数
								人
2003年調査 (53回)	% (79.6)	% (25.2)	% (21.3)	% (41.3)	% (13.7)	% (0.6)	% (1.8)	人 (329)
全 体	77.9	27.7	17.8	31.4	17.8	2.0	1.3	303
男 子	76.7	29.4	17.6	31.8	17.6	2.0	0.8	245
女 子	82.8	20.7	19.0	29.3	19.0	1.7	3.4	58

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

X-6表 奨学金の主たる支出目的 (用途)

(3つまで選択)

区 分	生活費 (衣・食・ 住居費)	授業料	勉学費	教養・ 娯楽費	旅行 (帰省旅行 も含む)	技術・資 格等取得 の費用	耐久消費 財購入 費用	貯 金	その他	無回答	事例数
											人
2003年調査 (53回)	% (78.1)	% (35.3)	% (55.6)	% (40.4)	% (5.8)	% (5.5)	% (3.6)	% (14.3)	% (2.4)	% (1.8)	人 (329)
全 体	77.2	32.3	46.9	34.3	7.9	3.3	3.0	14.2	1.0	1.0	303
男 子	80.8	29.0	46.5	34.7	6.9	3.7	3.7	14.3	1.2	0.4	245
女 子	62.1	46.6	48.3	32.8	12.1	1.7	—	13.8	—	3.4	58

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XI-1表 過去一年間にアルバイトをしましたか

区		分	継続的 (1ヶ月以上) アルバイト をした	臨時的 (1ヶ月未満) アルバイト をした	継続的+ 臨時的 アルバイト をした	しなかった	無回答	事 例 数	
2003年調査 (53回)			% (50.8)	% (9.5)	% (15.7)	% (23.2)	% (0.8)	人 (1,501)	% (100.0)
全	体		54.3	11.9	14.0	19.5	0.4	1,367	100.0
男	子		53.9	12.1	12.3	21.3	0.4	1,050	76.8
女	子		55.6	11.1	19.7	13.3	0.3	315	23.0
男子	前	期	51.5	11.9	13.3	22.7	0.6	528	38.6
	後	期	56.3	12.3	11.3	19.9	0.2	522	38.2
女子	前	期	50.9	10.7	22.5	15.4	0.6	169	12.4
	後	期	61.0	11.6	16.4	11.0	—	146	10.7
男子	自	宅	58.3	10.1	12.1	19.3	0.2	487	35.6
	分	マ	57.7	7.7	15.4	19.2	—	26	1.9
	賃	ン	50.0	12.7	12.4	24.6	0.2	402	29.4
	貸	シ	26.7	26.7	33.3	13.3	—	15	1.1
	マ	ョ	60.0	15.0	7.5	17.5	—	40	2.9
	ン	ン	48.5	18.2	10.6	22.7	—	66	4.8
	シ	シ	57.1	14.3	14.3	14.3	—	7	0.5
ョ	ョ	28.6	28.6	—	14.3	28.6	7	0.5	
女子	自	宅	58.0	8.0	19.9	13.6	0.6	176	12.9
	分	マ	57.1	—	28.6	14.3	—	7	0.5
	賃	ン	52.9	18.4	17.2	11.5	—	87	6.4
	貸	シ	—	66.7	33.3	—	—	3	0.2
	マ	ョ	68.8	6.3	12.5	12.5	—	16	1.2
	ン	ン	38.9	11.1	22.2	27.8	—	18	1.3
	シ	シ	71.4	—	28.6	—	—	7	0.5
ョ	ョ	—	—	100.0	—	—	1	0.1	

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XI-2表 アルバイトの種類

(2つまで選択)

区分	家庭教師	塾講師	試験監督・採点	特殊技術を要すること	一般事務	販売・セールス・サービス業	肉体労働	宿直・警備	その他	無回答	事例数
	% (47.1)	% (31.2)	% (10.3)	% (5.6)	% (10.3)	% (27.0)	% (12.9)	% (1.2)	% (5.0)	% (0.4)	人 (1,141)
2003年調査 (53回)	45.3	31.1	12.7	4.5	9.9	26.2	11.5	1.6	7.0	0.1	1,096
全体	42.5	32.6	11.4	5.1	8.8	23.0	14.5	1.9	7.2	0.1	822
男子	54.0	26.5	16.5	2.6	13.2	35.7	2.6	0.4	6.6	—	272
女子											

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XI-3表 アルバイト所要時間と収入金額

区分	アルバイト所要時間		アルバイト収入金額	
	1週間当りの平均時間	人数	1ヶ月当りの平均収入	人数
2003年調査 (53回)	時間 (11.39)	人 (1,141)	千円 (45.81)	人 (1,141)
全体	11.03	1,096	47.19	1,096
男子	11.26	822	49.02	822
女子	10.40	272	41.88	272

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XI-4表 アルバイトの紹介者

(2つまで選択)

区 分	大学の担 当事務	指導教員	内外学生 センター	新聞広告・ アルバイト 広告誌	インター ネットで	友人・ 知人等	アルバイト 先と直接	スーパー・ 銀行等の 伝言板	その他	無回答	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全 体	11.2	1.3	5.7	18.0	27.0	40.5	25.2	1.2	5.5	0.5	1,096
男 子	11.7	1.2	6.0	18.7	25.5	40.1	23.6	1.2	5.1	0.6	822
女 子	9.9	1.5	5.1	15.8	31.3	41.5	30.1	1.1	6.6	—	272

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分	大学の担 当事務	大学の 研究室	内外学生 センター	新聞広告・ アルバイト 広告誌	インター ネットで	友人・ 知人等	アルバイト 先と直接	スーパー・ 銀行等の 伝言板	その他	無回答	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
2003年調査 (53回)	9.9	0.9	7.5	24.5	16.9	42.9	30.1	1.1	5.1	0.5	1,141

XI-5表 アルバイトの目的

区 分	生活費を 稼ぐため	勉学費を 稼ぐため	学生生活を 楽しむため	社会経験 のため	その他	無回答	事 例 数	
	%	%	%	%	%	%	人	%
全 体	33.0	4.7	33.9	24.6	3.3	0.4	1,096	100.0
男 子	34.3	4.3	33.6	24	3.5	0.4	822	75.0
女 子	29.4	6.3	35.3	26.1	2.6	0.4	272	24.8

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

区 分	家庭の経済的負担を軽減するため	学生生活を 楽しむため	社会経験 のため	その他	無回答	事 例 数	
	%	%	%	%	%	人	%
2003年調査 (53回)	28.0	38.2	28.8	4.5	0.4	1,141	100.0

XI-6表 アルバイト収入の主たる使途

(2つまで選択)

区 分	生活費 (衣・食・ 住居費)	授業料	勉学費	教養・ 娯楽費	旅行 (帰省旅行 も含む)	技術・資 格等取得 の費用	耐久消費 財購入 費用	貯 金	その他	無回答	事例数
2003年調査 (53回)	% (53.1)	% (2.6)	% (12.2)	% (69.5)	% (18.2)	% (1.9)	% (3.9)	% (21.3)	% (1.1)	% (0.4)	人 (1,141)
全 体	51.7	2.3	10.9	67.9	18.4	1.4	2.7	23.5	0.9	0.5	1,096
男 子	52.8	2.3	10.9	67.9	17.2	1.3	2.8	22.7	1.1	0.7	822
女 子	48.5	2.2	11.0	67.6	22.4	1.5	2.6	26.1	0.4	—	272

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XI-7表 継続的アルバイトは勉強の妨げになりませんでしたか

区 分	かなり妨げになった	多少妨げになった	妨げにならなかった	無回答	事例数	
2003年調査 (53回)	% (8.5)	% (44.6)	% (43.1)	% (3.8)	人 (998)	% (100.0)
全 体	9.5	46.3	37.6	6.5	933	100.0
男 子	10.4	45.5	39.0	5.2	695	74.5
女 子	7.2	48.5	33.8	10.5	237	25.4

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XI-8表 現在の暮らし向きについてどうお考えですか

区 分	かなり 楽な方	やや 楽な方	普 通	やや 苦しい方	大 変 苦しい方	分からない	無回答	事 例 数	
2003年調査 (53回)	% (21.7)	% (19.0)	% (37.6)	% (16.4)	% (3.0)	% (1.1)	% (1.3)	人 (1,501)	% (100.0)
全 体	25.7	20.9	34.5	14.1	3.1	0.7	0.9	1,367	100.0
男 子	24.8	22.9	33.5	14.5	3.1	0.5	0.8	1,050	76.8
女 子	28.6	14.6	37.8	13.0	3.2	1.6	1.3	315	23.0

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

Ⅻ-1 表 生活時間

(単位：分)

区分	睡眠		食事・団らん		身のまわりの用事		アルバイト		大学での学習		自宅・図書館等での学習		大学以外の教育機関での学習		課外活動		家事		通学(往復)	
	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数
2000年調査(50回)	405.2	(1,020)	93.9	(1,014)	65.0	(1,010)	110.4	(561)	276.1	(963)	98.8	(819)	122.0	(109)	100.5	(489)	41.2	(667)	98.5	(1,006)
全体	394.8	1,337	88.7	1,323	62.8	1,326	96.6	696	290.3	1,280	111.1	1,123	117.1	130	97.2	663	44.4	881	92.6	1,316
男子	396.5	1,025	85.5	1,014	55.8	1,015	97.4	530	291.2	981	110.4	853	115.9	95	101.1	517	43.3	645	90.4	1,006
女子	389.2	310	99.2	307	85.4	309	94.0	166	288.1	297	113.7	268	120.5	35	83.3	145	47.4	234	100.1	308
自宅	384.5	646	94.6	641	63.6	641	88.8	364	278.4	620	106.9	551	127.3	59	99.3	326	33.0	284	126.5	638
自宅外	404.5	689	83.2	681	61.9	683	105.1	332	300.2	658	115.3	571	108.6	71	95.3	336	49.8	596	60.7	676
無回答	390.0	2	60.0	1	75.0	2	—	—	720.0	2	60.0	1	—	—	30.0	1	60.0	1	45.0	2
前期課程	391.2	686	87.6	676	62.6	678	94.7	377	280.1	669	93.8	612	89.2	60	97.6	433	45.3	444	97.8	676
後期課程	398.7	651	90.0	647	62.9	648	98.9	319	301.5	611	131.8	511	141.0	70	96.2	230	43.5	437	87.1	640
文科系	399.5	611	91.0	604	67.9	603	102.7	326	227.0	578	128.5	524	128.9	100	91.5	297	46.5	421	94.7	598
理科系	390.9	726	86.9	719	58.5	723	91.2	370	342.4	702	95.9	599	77.8	30	101.7	366	42.5	460	90.8	718

区分	電話(携帯電話を含む)		会話・交際		レジャー・スポーツ		テレビ・ラジオ		新聞・雑誌		読書		CD・ビデオ・映画など		インターネットやゲーム		その他	
	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数	平均値	事例数
2000年調査(50回)	24.0	(653)	60.5	(812)	40.3	(311)	68.3	(801)	30.6	(813)	43.1	(662)	40.3	(580)	58.0	(827)	95.7	(427)
全体	25.2	1,008	55.4	1,106	45.8	374	65.8	999	29.0	836	44.1	779	39.2	600	69.3	1,115	96.1	663
男子	24.1	758	53.7	845	47.0	316	67.3	775	29.2	646	44.9	585	39.7	475	73.3	881	97.6	546
女子	28.6	249	61.2	259	38.9	57	59.6	222	28.4	189	41.5	193	36.8	123	53.6	233	88.2	116
自宅	25.8	472	55.2	539	49.2	201	60.5	504	28.3	473	43.8	376	38.6	287	66.3	531	97.5	289
自宅外	24.7	535	55.7	567	42.0	173	71.1	495	30.0	363	44.3	403	39.7	313	72.1	582	94.9	373
無回答	20.0	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35.0	2	120.0	1
前期課程	26.0	528	56.4	580	44.7	206	66.3	514	26.0	414	43.7	411	40.8	323	68.4	574	97.3	335
後期課程	24.3	480	54.4	526	47.2	168	65.2	485	32.0	422	44.6	368	37.3	277	70.1	541	94.8	328
文科系	26.7	463	60.4	517	46.0	189	71.3	460	31.7	412	47.8	393	39.5	288	68.1	505	99.6	289
理科系	23.9	545	51.0	589	45.7	185	61.1	539	26.4	424	40.3	386	38.9	312	70.2	610	93.4	374

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XII-2表 どのくらい外食をしていますか。

区 分		平日で一日 2回以上	平日で一日 1回	週に 3、4回	週に 1、2回	ほとんど 外食しない	無 回 答	事 例 数
全	体	% 15.1	% 32.7	% 18.7	% 19.3	% 11.2	% 3.1	人 1,367
男	子	16.6	35.1	18.2	17.1	10.0	3.0	1,050
女	子	10.2	24.8	20.0	26.3	15.2	3.5	315
自	宅	8.4	35.0	19.2	22.2	12.2	3.0	663
自	宅 外	21.5	30.8	18.1	16.6	10.3	2.7	698
無	回 答	—	—	33.3	16.7	—	50.0	6
男	自 宅	9.0	38.8	18.7	20.1	10.9	2.5	487
	自 宅 外	23.3	32.3	17.6	14.7	9.3	2.9	558
	無 回 答	—	—	40.0	—	—	60.0	5
女	自 宅	6.8	24.4	20.5	27.8	15.9	4.5	176
	自 宅 外	14.5	25.4	19.6	23.9	14.5	2.2	138
	無 回 答	—	—	—	100.0	—	—	1
前	期 課 程	12.1	31.6	19.1	21.4	12.6	3.3	697
後	期 課 程	18.2	33.9	18.2	17.2	9.7	2.8	670
男	前 期 課 程	12.9	34.5	18.9	18.9	11.6	3.2	528
	後 期 課 程	20.3	35.8	17.4	15.3	8.4	2.7	522
女	前 期 課 程	9.5	22.5	19.5	29.0	16.0	3.6	169
	後 期 課 程	11.0	27.4	20.5	23.3	14.4	3.4	146
文	科 系	14.5	30.8	19.9	20.7	10.2	4.0	629
	理 科 系	15.6	34.3	17.6	18.2	12.1	2.3	738
男	文 科 系	16.0	33.6	19.5	17.4	8.9	4.5	425
	理 科 系	17.0	36.2	17.3	17.0	10.7	1.9	625
女	文 科 系	11.4	25.2	20.3	27.2	12.9	3.0	202
	理 科 系	8.0	23.9	19.5	24.8	19.5	4.4	113

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

XII-3表 あなたの平均的な下校時間は何時位ですか。

区 分		平均的な 下校時間	事 例 数	
			人	%
全 体		17時55分	1,339	100.0
男 子	女 子	17時50分	1,025	76.5
	女 子	18時14分	312	23.3
自 宅 自 宅 無 回 答	自 宅	18時01分	649	48.5
	自 宅 外	17時51分	687	51.3
	無 回 答	12時00分	3	0.2
男 子	自 宅	17時53分	476	35.5
	自 宅 外	17時50分	547	40.9
	無 回 答	08時00分	2	0.1
女 子	自 宅	18時25分	173	12.9
	自 宅 外	17時59分	138	10.3
	無 回 答	20時00分	1	0.1
前 期 課 程	17時56分	687	51.3	
後 期 課 程	17時55分	652	48.7	
男 子	前 期 課 程	17時50分	520	38.8
	後 期 課 程	17時50分	505	37.7
女 子	前 期 課 程	18時15分	167	12.5
	後 期 課 程	18時12分	145	10.8
文 理 科 系	文 科 系	17時33分	610	45.6
	理 科 系	18時15分	729	54.4
男 子	文 科 系	17時22分	408	30.5
	理 科 系	18時09分	617	46.1
女 子	文 科 系	17時55分	200	14.9
	理 科 系	18時48分	112	8.4

注) 2005年調査では、性別不明者が2名います。

具体的記述（抜粋）その1

世界の中の日本の立場や位置づけについて

〔文一男子〕

- 日本独自の明確な立場が存在せず、常に他者との相対関係の中に存在している。（国民性の現れ）世界的な貢献の度合に対し、評価が低いのはこうした「ブレ」に原因があるのではないか。また、単なる「経済国」として見られがちである。
- 世界第2位の経済大国として、多額の国連分担金を負担し、自衛隊の海外での活動を展開しているが、安全保障上の理由で日米同盟に頼らざるをえないため、世界で十分なリーダーシップをとることができない。中国政府や韓国政府には、政権の求心力を高めるための仮想敵に仕立てられ、困難な近隣外交を強いられている。文化的、工業的には、アジア・旧東欧地域の経済成長を背景に、日本は「量より質」の追求に向かわざるを得なくなり、日本製品のシェアの低下や、アニメ文化等への特化が顕著な文化輸出という現象が見られるようになった。
- 国境を超えるつながりがこれからますます多くなると思います。そして、アメリカや中国を筆頭に、「他者」と接触する機会が増えることで、より「日本」とか「自己」を考えるようになると思います。「日本人の自分」を他人に説明する形、客観的な視点から考えることになると思います。そういった現象が色んな所で見られて、ボーダレスが進むでしょうが、それで日本が世界の中での立場を変えるとは思いません。
- 世界の中心が欧米である現代において、そもそもアジアがどれほど重要な位置を占めているのか疑問です。欧米から見れば日本はアジアの一つの国に過ぎないわけですから、日本が世界の中心的役割を担うということではなく、どんなに優れた国だとしても、欧米にとって役に立つ国であり続けるしかないと思います。昨今では、日本はアメリカの言いなりであるという批判がありますが、それは国際社会の中で日本が生き残るために仕方のないことであり、批判するべきことではないと思います。
- 法学部に進むはずの文科I類の学生として憲法を学んで感じたことです。前文の「平和を維持し、国際社会において名誉ある地位を占めたいと思ふ。」には悲惨な戦争を経験した日本だからこそ語ることでできる崇高な決意が述べられています。日本は戦争をする国になり、戦争によって国際貢献を目指すべきではありません。自らが世界の手本となるような平和国家であり続けることにより世界の中で信用を獲得し、その上でリーダーシップを発揮すべきと考えます。
- スポーツ選手や一部の文化人の活躍によって日本人として誇らしい気分になれることはありますが、外交や国政などの面では日本という国に失望することばかりです。政治家に限らず、誰もがはっきりと意見を述

べることを避け、物事を他人任せにしその場をなんとなくやり過ごそうとする。そうやってきたツケが現在の諸問題につながっているように思います。問題点がわかっているならそれに向きあい解決への行動をとってほしいです。口で威勢のいいことを言うのは簡単ですが、それを実行しやりきることが重要です。そういった姿勢になれば、もしかしたら“経済力だけが取り柄の日本”から脱却し、他国の模範となれると思います。

- 先日、中国へ行って感じた事は、反日感情はちょっと余裕のある階級の人間が騒いでるだけにすぎないという事。中国には、昭和30年代の日本にあった活気であふれ、みんなしこしこ頑張ってる。靖国とかねちねち考えてるような政治家、知識人はもう興味ない。僕らも、一回、昭和に帰って頑張るべきなんじゃないだろうか。ありきたりな相対主義は捨てて、道徳とかじゃない、ポリシーとかじゃない本当の善なる事だけやってれば、全部丸く収まると思う。日本が平成の今のままだったら、もうどうしようもない。
- アメリカに対する関係とアジアに対する関係の維持・改善などバランスのとれた振まいを要求され、大変難しい状況にあると思う。アメリカの独善的な行動をいかに関係の悪化を招くことなく抑えられるかが重要だと思う（ムリだと思うが）。
- 学生のやる気というか、モチベーションが低い。特に勉学に対して、故につまらないことを人生の目標としている。また、生きていく方法が自己完結していて、他への配慮がない。あまりにも自己中心的。資本主義の奴隷となっていて（つまり、金銭的価値で物事をはかり、それが満たされると、何もしなくなる）思考が停止している。動物化が進んだ結果だ。
- 国際的に、多分野でイニシアチブをとれるような潜在的にはある（と思いたい）が、現実的には上手く立ち回れていないのが現状。
- 世界的に見て圧倒的に豊か（経済的な意味）だけど、豊かだからどうしたという部分が欠けていると思う。日本が豊かなのは、国（＝統治機構、制度）のお陰なのか、国内の企業（ないしは人）のお陰なのか。両者は絡み合うものだけれど、あまりに国側が経営能力不足にて不安。常任理事国入りしたいと思ってる割に動機が不純に感じる。施策も。日本という「国」はルールでしかない。ゆえに特に愛着はない。
- 自信と勢いに欠けると思う。

〔文一女子〕

- 中国等のアジア社会が台頭してくる今の時代、日本は人材育成を進めないと、今のままの地位を維持できないと思います。理由は振興のアジア諸国には安い労働力と安価な資源があるからです。それらの国に対して先進国としてのリーダーシップを取る為には、多く

の人材を育ててそれらを各国に派遣して技術を広めていくべきだと思います。これからは日本だけの利益にこだわるのではなく、“世界の中の日本”“世界をひっぱる”日本としてのふるまいが重要だと思います。

〔文二男子〕

- 確かに経済的には大国だろうが、政軍事については三流。軍事力を強化することが好ましいとは思えないが、中国の台頭など、激変する国際環境に対処するためには、ある程度の決断は必要なのかもしれない。経済面でも国の戦略が後年に回っている印象は否めず、特に知財戦略については、再検討、強化が求められるだろう。
- デフレだの不況だのと言っても、やはり経済大国であり、アジアで唯一欧米諸国に対抗しうる経済的影響力を持っている。それを考えると、国連常任理事国入りも、必然的であるように思われる。ただ、問題なのは、太平洋戦争で迷惑をかけた周辺諸国が、日本の戦後補償（に相当する資金援助）をそれと感じていないこと。アメリカとの安全保障条約に乗ったまま戦後60年甘い汁を吸ってきた（もちろんその間の日本人は努力したのだが）のだから、それは致し方ないが、今後の対応で、対アジア、対米の関係をとりもっていかねばなるまい。
- 日本という国が、どのような理念に基づいて動いてきた国なのかは現在あいまいになっていると思う。そのため、外交のスタンスにしても国内で常に賛否が真っ二つになるし、そもそも「外交」という概念がはっきりしていないのではないかと思う。世界からどのように日本が見られているかはわからないが、少なくとも日本は、自らを世界の中において客観視できていないのでは、と思う。
- 物的資源の少ない日本にとって人的資源の育成、すなわち教育は非常に大切であるが、最近の子供の学力低下は不安である。最近のこの傾向は小中学校の機能の低下というよりはむしろ、家庭における子供の教育に問題があると思う。子供を教育すべき母親や父親の子育てに関わるスキルが低下してきているのだと思う。人的資源が枯渇すれば世界において日本は現在の地位を保てなくなると思う。
- これほど経済発展をとげた国は世界にもまれであるので、この貴重な経験に基づいて、世界の他の国が経済発展をとげ豊かな生活がおくれるように何らかの形で貢献すべきであると思う。
- 世界における日本の「特徴」とは何か。これは人によって多少の認識の違いはあるだろうが、私はやはり国民性としての「勤勉さ」とシステムとしての「平均的教育水準の高さ」であると思う。現在日本人のノーベル賞受賞者が相対的に少ないことなどから「エリート養成システム」の必要性などが議論されたり、総合

学習などによる多様性を目指す教育が推し進められている。ただしそのようなことを重視しながらもこの日本の高い教育水準を見失ってはいけない。高度経済成長期に完成されたマスプロ的な教育は限界にきている。ただだからと言ってこれまでの長所まで全て捨て去る必要はない。日本の最高学府として、東大はそれを忘れてはならない。

- アメリカの言いなりというレッテルを外せるように、日本のオリジナリティーをもっと世界に押し出していくべきだ。
- もっとアジアと協調すべきだと思う。

〔文三男子〕

- 外交の能力が必要。国民レベルで、自国文化の再認識が必要。ナショナリズムではなく、素直に自国文化を誇れる国民が増えることが世界的視野で見て望ましいのではないか。さらに、昨今大学生の中にも将来、大学院進学を視野に入れている者も多々いる。研究が活発になるのは学術面でも好ましいことであるが、教官の負担が増える点では若干の危惧もある。とは言え、先代の知恵を後世にバトンとして継承する上で全体としては望ましい状況ではないか。今後の日本は変化するだろうから、見守っていききたい。
- 世界の中でとても重要な役割を果たすようになってきたと思うが、日常生活でそれを実感する機会はかなり少ないと思う。
- まだ大した知識がないため、評論することはできないが、日本があらゆる場面で世界を引っ張っていけるような国になることを望む。
- 「アメリカの犬」発言（メキシコに対して？）があったばかりだが、日本もやはり、アメリカ偏重の政治・外交・文化という観が強い。日米関係は一番重要であるに違いないが、独自の外国との関係をもつべき。アジアの中の日本。そのアジアを代表する立場としての世界の中の日本という捉え方が必要ではないか。
- 中国共産党や韓国への土下座外交を改め、台湾や東南アジアと連携し、かつ米露に接近し大陸中国を包囲する旗手として活躍できるような日本であってほしい。この布陣を強化する為にも私はインドとの交流を活性化させ、且つトルコやイランなど親日的傾向の強化地域の友人となり、ODA外交の強化によって、大陸中国を第三世界の代表にさせないよう努めることが肝要だと考える。
- 日本人論に近くなってしまうが、諸外国に比べて日本は自らの伝統や文化に背を向けて対話をしたがない、という風潮があるように思える。今度の女性天皇制ですら、日本の中の一部の人だけで結論が出てしまうようだ。天皇がどうあるべきかという論ではない。日本文化に脈々と受けつがれてきた伝統を変えるのだ。国内でそんな状況が続くのであるから、日本は次

第に経済活力もなくなり、何も言うことができなくなってしまうのではないだろうか？

- 先の国連やAPECでも話題になったが、アジアの中で日本は孤立していると思う。多くの資金援助をした国からも好感を持たれていないことが現状だろう。また、自分がヨーロッパを旅行して感じたことだが、ヨーロッパでも日本はあまり評価されていない。日本人と名乗ると嫌な顔をされることが多々あった。スポーツなどの面でいくら日本人が活躍しても、やはり政治面で日本の外交手腕が発揮できねば国際的地位は上昇しないのではないか。
- かつては経済的な力を背景に、少なくともアジアの中では大国であった日本も韓国や中国、インドなどの経済的成長の結果、今やアジアの1国に過ぎなくなりつつある、というのが私の日本像です。世界的に見ても、どちらかと言えば、アメリカに追従的であった日本の色は薄く、これから先進国として世界のリーダーの一角となる要素は乏しいのではないのでしょうか。かつての大国、イギリスやドイツがEUの中に組み込まれていったように、日本もアジアの一部分としてその存在を意味付けられていく気がします。

〔文三女子〕

- これからの世界の中である程度の軍事力は必要だと思ふ。
- 昨今、日米同盟が確認され、対中構想が明確になったとの報道があったが、テロや仏暴動、戦後補償や反日運動など、多面的な外交が必要とされていると思う。対中構想を打ち出したそうだが東アジア共同体には中国抜き、日本抜きで臨むことは出来ない。また、国家と個人の関係も、国内のみに留まるのではなく、靖国問題や戦後補償、憲法問題などで国外との関係を考慮しながら考え直さねばならない。国連への拠出金が突出している日本は、日本の存在を世界的に認めさせるために、旧植民地との関係をもう一度見直し、発展途上国への援助を強化していくべきだと思う。
- 具体的事実即ち意見ではありませんが、印象として、日本は今、とても中途半端な位置にあると思います。即ち政治面での合衆国への従属、学問でも他の東アジア諸国の躍進に比してあまり目立ちません。その上、かつて日本人の代名詞であった勤勉さ・器用さは失われつつあり、ともあれ資金は出すと言い切れる財政状況でもありません。どの分野においても、すぐれた指針も核もなく、エネルギーを欠いてわだかまっているように感じられます。
- 国際社会や、そういった場に興味があると言っている割に、私自身は日本の立場や位置づけを考えていません。こういう日本人が多いのかもしれない、という現実が、日本が今いる場だと思ふ。
- どうしてもアメリカの追従者のイメージがぬぐえな

い。政治・金融・文化全ての面においてアメリカの成功した部分も失敗した部分も真似しようとしているように思えてならない。治安や風紀の乱れもとても気になる。世界の中で権力を持つことが良いことだとは決して思わないが、自分の国に誇りを持って固有の意志を主張して欲しい。

- “国際化”を叫ぶ前に、“教養人”として身につけるべきは、国語力、日本人として誇りをもつこと、だと思ふ。欧米かぶれや卑屈になった日本人では、世界の中で確かな評価は得られないと思ふ。

〔理一男子〕

- 日本は、国民の愛国心が他国と比べて低く、また歴史教育も十分でないので、諸外国からバッシングされるのも無理はない。高い技術力は誇れると思う。また、唯一の被爆国であり、“戦力”とは別の形で世界平和へ貢献したい。
- 政治的に孤立化を深めている現状には失望している。特にアジア外交はひどすぎる。今、テロ対策というが、平和を追求する態度こそが最良の対策であるということが政治家には分からないらしい。
 - ・ もっと開かれた国を目指すべき。難民認定者数が1桁というのは国際的な恥である。
- 政治に関してだが、学術的な研究成果を多く取りこみ、世界をリードするような先進的な取り組みをすべきだ。
- 歴史の中で全ての国がそうであったように、日本は遠からず、あるいは既に斜陽の日をむかえるのでしょう。世界トップであるというおごりをすてなければ、単独では生きてゆけないのに世界から見捨てられる国になってしまいかねません。
- 「物質的繁栄だけが真の幸福か？」などという疑問を抱けるのもつきる所、日本がある水準で物質的繁栄を達成したればこそだと思ふ。私は精神の豊かさと物質的豊かさはある程度比例するものと考えている。イスラム原理主義の背景には貧困がある。カルトと貧困は共依存関係にあるといえる。今後まず日本がすべき事は「物質的繁栄だけが・・・」などと言う前に世界の貧困に目を向け、共存共栄の道を探っていく事だと思ふ。
- アメリカに対抗することも、屈することもなく、日本としての主張をしていかなければいけない。どの国よりも、環境、平和について真剣にとりくむようになってほしい。
- 世界のおたくには神の国かつ聖地。
- 日本は、国際社会において信用を勝ち取っているのか、疑問である。日中・日韓関係を考えると、首をかしげざるを得ない。また、日米関係も「米国が日本の国連安保理常任理事国入りに反対した」ことから、真の友好ではないのだな、と感じた。また、以前までは

良かったとされていたアラブ世界の対日感情はイラク戦争後どうなったのか。日本が米国支持一点張りですすむ限り、その先行きも不安である。こんな情勢の中、「日米同盟と国連を共に重視する」などと叫ぶだけの政府は、あまりにも頼るに足りない。

- 経済的な先進国として、発展途上国の支援はもちろんのこと、災害時に先頭に立って救助活動や復興支援をする等、“困った時に助けてくれる国”として認識されるような国であって欲しい。
- 教育という観点から見ると、世界最低とは言わないまでも、先進国にはあるまじきレベルの低さであると思う。“ゆとり教育”などと言った甘い教育が浸透しつつある今、日本の最高学府である東京大学が何らかのメッセージを世に対して発信すべきであると考ええる。特に英語教育にもっと力を入れるべきだと思う。
- 唯一の被爆国である日本は平和のための活動を率先して行うべきであると思いますがね・・・。
- 日本の持つ知や技術は世界の先端をいくものも多いが、それをうまく活用して新しいものを作り出していく力に欠ける所があると思います。様々な分野間で連携、協力するシステムがもっと発達したら良いと考えています。
- 環境問題などで日本の果たす役割が大きくなっていると思う。「アジアの中の日本」としてアジア圏の世界への影響力が高まっていく中で、日本の重要性は増していると思う。
- 最近では日本のことが昔よりも世界に発信されるようになり、日本人たちも「世界の中に日本がある」ということを意識し始めたので嬉しい。特に今の「文化が面白い国」という見られ方はたいへん良いと思う。この平和な状態が今後も維持されていけば、日本は世界で最も住みやすい国になれると思う。また、そうなるべきだと思う。
- 東大生である自分のまわりだけかもしれないが、日本人は外国人に比べてちゃんとした仕事（“ちゃんとした”って言葉自体ちゃんとしてないが）についていないと社会的に良く見られないという傾向がやはり強いように思う。もっと周りを見渡せばその辺のサラリーマンなんかより、ずっと自立して人の役に立っている人がたくさんいるのに・・・。
- 日本は資源を援助してもらわなければやっていけない。その代わりに日本は知的財産を蓄えていくことによって世界に貢献しなければならない。
- 日本は、外国の技術を応用するのは得意だが、自ら新技術を開発するのは苦手なようである。この背景には日本の教育が知識の詰め込みに偏りすぎていて、自ら研究する時間が短いということがある。特に、東京大学では教養の期間が長いので、専門課程が短期間の詰め込み教育となり、十分な研究ができないのが現状である。研究に最低限度の知識が必要なことも確か

であるが、自ら研究する時間を増やし、世界をリードする日本を目指すべきである。

- オタク文化で世界をリードしてほしい。
- 正直言って全体的に馬鹿にされている、というか恐れられていないと思う。軍事力がないというのもその理由の一つだし、資源がないのもその理由の一つだと思う。それは、留学生の意見を聞くと良く分かる。ある程度仕方ない面もあるが、基本的には日本一国で世界と対等以上に渡りあえるようになって欲しい。
- 経済的には豊かだが、文化的に貧しい、アメリカばかり見直うのも悪くはないが、もっと日本という国に日本人が誇りを持てるような、そんな政治なり文化なり教育なりを目指して行かなければ、今後衰退すると思う。
- 今現在、景気が悪いと叫ばれていますが、それでも衣食住に困っている人々は、数としては、世界的に見て圧倒的に少ないと思います。これほどまでに豊かな社会を作り上げる事ができたのはもちろん、我々の先代の方々の努力もあります。それと共に諸外国からの資源供給があったのも事実です。日本国内の発展のため諸外国が国内の政治的、物質的犠牲を払う事もありました。日本はその責任の一部を負っているのであり、その問題の解決に協力すべきだと思います。
- 日本はアメリカの属国。
- 日本は過小評価されすぎている。
- 技術や経済が「進んでいる」からではなく、経験のある（良い歴史、悪い歴史）国として、自国だけでなく、アジア各国、世界の国々と協力できるリーダーシップをとるべき。
- 位置づけ、現状では資源は無い、あるいは開発には適さず、農業も輸出産業に出来る程は望むべくもない。人口減少を指向する現在でも、日本の武器は人材であろう。それも、天才的な一人の人間ではなく、日本人という一個集団の勤勉で支えられてこれまで来たのだと思う。不器用でも着実に一步一步進めるべきである。しかし、大事なことは、世界の中で負けないこと。集団でなく、個人の力を發揮して集団の利益とする道も探らなくてはならない。それは、個人の満足のためでなく、世界という枠組みの中で日本が勝つためであり、国際化の中での帰属意識の重要性は再認識されるだろう。
- 最近医学部の授業で色んなことを聞く。放射線医、腫瘍内科医、小児科医が全然足りない。インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンが無視されてきたということ。近年の医療不信だって背景には大学病院への「信仰」があるそう。大学病院は、研修医の訓練の場であり、新しい技術の実験の場であるということに認識していない。アメリカでは大学病院での診療は安い。（訓練、実験をさせてあげるかわりに、ということ）一言でいうならば、日本は「非合理」の国と

思われていると思う。

- 中国の存在感に、最近目立たなくなってきたアジアのかつての主役。
- これまで日本が享受してきた繁栄なり恩恵なりというものを、世界的に広げる必要があると思います。また、世界の様々な問題の解決に向けて、世界の国々とよく検討し、解決に努力すべきだと思います。そのために、まず大学のときから世界の大学生の様子を知れるように、また学術的な意味以外でも、より積極的な国際交流ができるような状況にすべきだと思います。また、大学に入ってから学ぶモチベーションが向上した、という人の話も多いですので、日本の最高学府としてもっと学生のポテンシャルを生かすような教育を模索していただきたいです。
- 日本の製造業のもつ技術力や多くの知的財産は世界においても秀でたものがある。日本は組織の大きさなどで劣点が多いため、上のような面で世界を下支えする立場にあるのではないだろうか。

〔理一女子〕

- 最近、重要度が下がっている。もっとアジア外交に力を入れるべきだ。

〔理二男子〕

- 日本は韓国をはじめ、中国、北朝鮮等になめられている。過去のことを気にしすぎていて正常といえる外交ができていない。それはおいて、日本は世界でも高いレベルの技術力を持っているのだから、他の国にそれを還元すべきである。将来、世界が同生活水準の時代が来たときに報われる日が来るであろう。
- 中途半端だと思う。海外への資金負担額は相当高いのに、それを生かしきれていないようにみえる。それは外国への“押し”の弱さに起因しているかもしれないが、国民が納めている税金を政府が使っている以上そんな言い訳は許されない。
- 自分が興味を持っている異常心理学の分野では、日本の文化的な特徴から社会性神経症（対人恐怖）が多く、その研究に日本は適しているだろう。その他の分野でも日本で発達させ易い学問の領域があると考えられるため、そのような日本が「特異」な研究の推進を図るとともに他の分野でも他国間との協力的関係を築き上げ、国際貢献を積極的に進めていくべきだと思う。
- 経済的には既に十分に高い位置を世界の中で示していると思うが、アジアの中の代表と自ら自認したいという思惑とはうらはらに国際社会（特にアジア）の日本に対する評価はそれ程高くはないと感じる。中国、韓国は日本をパートナーとして積極的に認めようとする気はあまり無く、戦前から続く日本への不信感を払しょくできていないと思う。日本は国際社会への積極的な貢献をしているが、それは日米同盟の良好な関係の

維持を目的の1つとしているものとして捉えられても仕方がない。良く言われることだが、経済的には一流だが、どこか世界になめられているように感じる。

- 大国ではなくて普通の国を目指して欲しい。というか、軍事大国ではなく文化大国を目指してほしい。
 - ・アメリカではなく東アジアと仲良くするべき。
- 右翼思想が勢力を増しており、対中・韓国交に支障をきたしている。プライドだけは高く、日本はアジアでトップだと考える風潮があるが、実際は全くの逆。日本人は皆、早急に気付くことが望まれる。
- 何が“正義”か考えて動いたほうがいいと思う。（政治）経済的には豊かで、独自の文化は非常に良いものがあり、守らなければならないと思う。日本人はもしかしたら、豊かであることを忘れていないかもしれない。
- 世界有数の経済国であるが故に、もっと国際貢献をすべきだ、という論調が多く見られるが、その貢献のウエイトを軍事による平和貢献に置くべきではない。それは日本もテロに巻きこまれるリスクを負うことになるのだから、例え他国の批難（非難）に会おうとも小国として今後やっていくのが、国民感情にもあるし、世界を混乱させずにすむのではないか。（中国の膨張に危機感はあるが）
- 現在は、実質アメリカに従っている感じがする。アメリカを敵にした時を恐れているようだ。国際関係上、アメリカの影響力は大きすぎるため、仕方ないところがあるかもしれないが、日本は日本らしくあってほしいと思う。憲法改悪など言われる中で平和、非軍事力を守ってほしいし、その重要性を世界に伝えるのも、日本の役目ではないかと思う。
- 技術的な面で世界をリードしていくべきであり、そのためにも知的産業をのばすべきであり、もっとそういう分野にたずさわる人々を増やし、育成する環境を整える必要があると思う。
- 世界のレベルから見て、決して低くない水準で生活をし、教育を施すことができる日本はそれだけで、まだまだ多くのことが求められていると思う。最近流れるニュースを見ている限りでは、問題意識は全て内側に向いていて、国際的な視野を持てている人は少ない。今後は一般人の単位から、世界の中にある日本があるべき姿を意識するようになることが、日本の国際化の重要な要素になるだろうと思われる。

〔理二女子〕

- 日本にはすごい職人技をもつ人がたくさんいて、その人たちによって支えられている部分はとても大きいのに、表にあまり現れず、近年では韓国・中国から軽視されつつあると思う。自国の立場をはっきり言わない外交はよくないと思う。
- アメリカにしっぽをふりすぎだと思う。政治できる人がいない。学問面はまあまあ良いと思うが、大学の

法人化で退化しないか心配。国の文化をもっと大切にすべきだ。教育の方法に問題があると思う。特に小中高では塾が活躍しすぎて学校の意味があるのかと感じる。

- 食料自給率が低くかなり不安定な位置にいると思う。強がったりいばったりできる立場ではない。
- 昨今の日本では、簡潔で結論を先に述べる英語がもてはやされ、多くの人がある習得に躍起になっている。しかし、この英語の長所は同時に、理由の後付けや思考の一本化といった事態も招き得る。先のイラク戦争の一因も、この英語的思考法に求められるのではなからうか。日本語は、とかく煩雑になりがちな要点が見えづらいとされるが、人の思考法や本来の自然の実態に沿っているとも言える。決して排除されるべき代物などではない。世界にはさまざまな考え方の持ち主が必要なのである。日本人は盲目的な英語賛美を見直し、他の考え方に理解を示しつつも、日本語とそこに基づく思考法を世界に呈示していくべきではないだろうか。
- ・ゆとり教育によって低下した日本の学術レベルをもう一度向上させるべきだと思う
・日本の戦争放棄の憲法はすばらしいものであると思うのに、それを外交的に利用しないのが不思議でならない。この憲法を足枷としてしか扱わないのはおかしい。
- 日本は平和憲法を持つ国として、もっと世界に貢献していくべきだと思う。

〔理三男子〕

- 先端技術や産業、医療といった面で日本はアメリカに次ぐ先進国であると思う。しかし現在の日本を作ってきたのは私達の上の世代の方々であり、彼らの勤勉さやバイタリティが私達の世代にもあるかと問われれば答に詰まる。貧しい時代の苦勞を知らずに育ってきた私達には、その無知を助長するかのよう近年「ゆとり教育」がなされ、学校でも塾でも、生徒に「分かり易い説明」を施すことのできない教師は苦境に立たされている。古文書を読み解く苦勞とそれを経なければ経験しない喜びといったものは悪しき過去の伝統として忘れられていくような気がする。教育のグローバル化や世界的なスタンダードを考えるとこれは確かに避けられないのかもしれないが、日本の独自性を保つことができなくなっていることに危惧を抱く。
- 国際協調そのものは非常に大切であるが、こればかりが強調され、日本、あるいは東洋古来の良い物（伝統）を軽視して失いつつあるように思う。外国（特に米国）に追随するのではなく、日本の歴史、文化などをもう一度見直し、個人レベルでも国家レベルでも日本（人）としてのプライドを持って国際関係を築いていくことが大切であると思う。グローバル化の危険性に対する認識が、日本（日本人）は足りないように思

う。

〔法学部男子〕

- まず、高い技術水準・教育水準、そして強力な経済力を持つ国であると考えられるが、まず経済の面で国境がなくなりつつあるように、今後は先進国間を中心にそもそも国の存在が希薄化していく可能性がある。今後とも高い教育水準を維持しつつ、外国のよい面を受け入れつつ日本のよい面を輸出していくような、世界全体を良い方向へもっていくプレイヤーとして活躍すべきだと考える。
- 存在感、地位ともに低下してきている。途上国の発展等に鑑みるに、ある程度仕方の無いことではある。しかし、それでも尚、実際の活動・貢献に見合っているとは言えない。いい加減、戦争責任の影響を切り離す（手段として、一層の補償をする等も含めて）ことを目指さないとだめだろう。
- 金銭的貢献の大きさに比べて政治的発言力が小さいのは中途半端なアジア政策にあるのでは。現在はまだ経済的に優位に相対的にはあるものの長期的に見ると不安。将来的に負荷が大きくなるばかりで長期的な投資対象としてはあまり魅力的とも言えない。文化的にも文化保護政策が不十分では。（これは国内問題ですね。）日本単独での行動というものがないように見られ、ある意味好ましいが分野によってはもっとあってよいと思う。
- 小泉政権における外交に関して不満と不安を感じている。東アジア首脳サミットという「東アジア」という地域を各国が観念し、地域主義を深化させていこうとする画期にあるにも関わらず、その直前の日米首脳会談で日米同盟をさらに強化していくことが決定した。これでサミットの意義が没却されてしまうことになる。憲法改正、防衛庁の「省昇格」も含め、このままでは日本の「戦後」からの脱却は難しいだろう。
- 国際貢献やら国際競争やら国際社会を強調し、その中で日本の役割の重要性を説くことをよく聞かすが、背伸びせずやるべきこと、やれることを適宜行っていけばよいと思う。逆にそのように強調することは、人々の国際社会への劣等感を表すものかもしれない。だが、一律にこれがよいと決めつけるのではなく、場面に応じた自らの役割を果たし、結果として相互に助け、助けられる関係が築けていけばよいと思う。
- メディアや交通の発達で、我々は日常生活においても世界というものの存在を認識するようになった。そして、日本は経済・政治・文化などあらゆる面で、世界の中で重要な役割を担うべき立場であることを、世界の人々は感じている。しかし、日本人の意識では、単一民族「的」な歴史の故か、身近な生活空間レベルでは世界と日本を切り離して考える傾向にあるように私は思う。言語の問題にも見られるように、日本社会

の中だけに通用するウチの文化と、世界で通用しているヨソの文化を二項対立的にとらえ、「世界の中の日本」という視点に欠けているのではないか。

- 日本の国際貢献に比べて、世界の評価が低いように考える。例えば、国連安保理常任理事国入りを未だに果たせていない点だ。国連に対する貢献度から観れば、当然入ってもいいと考える。
- 日本の防衛が現在アメリカ合衆国の軍事力に依存しているという現実を認めなければならないが、外交面においては他のアジア諸国との関係も深化させなければ、21世紀のアジア国際関係において、日本は孤立してしまうと思う。
- 他国と比較して日本の特徴を挙げるとするならば、世界第2位の経済規模を挙げることになろう。実際、地球温暖化とその影響による自然災害の激甚化、SARSや鳥インフルエンザに代表される伝染病の蔓延など、様々な局面で国際社会に日本の資金力が頼りにされているのは疑いないことであろう。一方で、日本は前代未聞の借金大国となっている。国民も増税の報に敏感に反応し、決して自国が「豊か」だとは思っていない状況である。日本が国際社会の“要求”に沿うことは、今後一層難しくなってゆくだろう。日本が国際社会において身の丈に合った形で存在感を示すには、ジャパンマネー以外の特徴を持つことが不可欠である。その最有力候補が高度経済成長をなしえた「人材力」だ。人材の海外派遣と言うと、自衛隊ばかりが話題になる印象があるが、もちろんそれに留まるものではない。途上国や被災国への人的援助の拡大は、接受国での評価も高いようである。日本が今後、国際社会で確固たる地位を築くには、軍事以上に能力の高い人材を世界に向けて供給してゆく必要があると考える。
- 日本は、世界第2位の経済力、優れた技術力、比較的大きな軍事力を有する安定的な民主主義国として、国際社会の安定と発展に寄与することができると思います。
- 高度成長を終え、製造業は弱体化し、ニートの急増している今の日本は、他の欧米諸国と同様、政治的、経済的影響力を弱めていくと思われます。中国やインドと張り合っても勝てないでしょう。東京大学が日本の学術・教育・文化の中心として、世界を見据えているというつもりなのでしょうが、思い上がりも甚だしいです。学内を歩いている学生にでも聞いてみてください。学術・研究分野はともかくとして、教育・文化水準において、この大学が世界レベルにあるなどとは、誰も答えられないでしょう。
- 米国よりになりすぎているので、よりアジアよりになったほうがよい。理由は、一つにはアジア各国が発展しており、その国々と協力していかなければならないからであり、もう一つは米国に従いすぎるとアジアとの歩調が乱れかねないためである。

- 21世紀に入り、文化・社会の面では全世界的な、とくにアジア諸国との交流が活発になってきていますが、他方で法・政治・経済の面では急速に欧米化、というかむしろアメリカ化が進行しているように感じます。もちろんそれでも構わないのかもしれませんが、アジアの政治経済的リーダーである日本は、アメリカ的価値観だけでなく、ヨーロッパの伝統やアジア的伝統もそれに融合させた独自の価値観を今後より主張し、欧米とアジアの結節点としての存在感をより増していく方が、日本の立場の確立と地位向上につながると思います。
- 人口が減少に転じる日本は、今後経済的豊かさから人間の内面、精神的豊かさを重視するようにシフトすべきであると考えます。社会保障の拡充を実施し、北欧的国家を目指すことが望ましい、国際社会の中では、一応の成熟を果たした国家として人的交流を促進し、世界全体の発展に貢献するのが良いと考える。
- 現在の政治課題や関心が国内の事項に集中し過ぎているように感じる。国連の常任理事国入りが事実上暗礁に乗り上げるのも、その現れだと思ふ。これから間違いなくアメリカを超える大国になるであろう中国に対しての日本の態度は、とても“国益”というものを考慮しているとは思えない。今のように世界、特にアジアの中で一人よがりな態度を取り続ける限り、日本に対する信頼というものは生まれてこないように感じる。

〔法学部女子〕

- 日本は欧米だけでなく、アジアにも目をむけた外交・経済・国際交流をしていくべきではないかと思ふます。
- 日本文化は伝統的なものは勿論、最近ではアニメ等コンテンツ産業の発展ぶりがすばらしい。そういった強みを軸にしながら世界に対して発信する姿勢はもっと強めてよいと思う。
 - ・ 経済は財政面から見ても非常に不安だが、不良債権処理が一段落して、金融業界の今後の再編に注目したい。
 - ・ 政治は国際社会においては、もっと強いプレゼンスをとれるようになるべきだと思う。
- 目まぐるしく世界情勢が変化する中で、日々の生活を営むことに忙殺され、将来へのビジョンや先見性が欠けているように思う。好奇心や前向きな気持ちで新しいことに挑戦するエネルギーが社会の中で不足し、特に若い世代（20代後半）において著しく低下しているように感じる。夢を持って勉学に励み、努力する爽やかなエネルギーが日本の社会に生まれて広がらない限り、世界の中で日本の地位が低くなり、存在が希薄になるのではないだろうか。
- きわめて「中世」的な宗教観etcでもっと世界に役

立てることも多いと思います。欧米でもアジアでもない宙ブラリンの立場であるとも言えますが、その分独自のスタンスをとれるはず。ただし、周りの国から尊敬されるような国になってはじめて独自のスタンスを論ずるイミがあると思います。今のところ、どこでもない中途半端にいるおどおどしているけど、かなり能力のある子供、みたいな感じです。早く成長して！！

〔経済学部男子〕

- 世界の中で日本はあまりにも存在感がなさすぎる。私は日本という国が世界にもっと注目され評価されてもいいし、それに値する立派な国だと思っているが、種々の要因から不当に低くみられているように思う。日本は江戸時代末期以降、世界の帝国化に抗うべく自ら明治維新も成し遂げ近代化に成功し、ほんの40年たらずで大国、清、露に打ち勝ち、非白人でも白人に勝利することが可能であることを世に知らしめた。そして第2次大戦では驕れる列強諸国に勇敢に立ち向かい大東亜共栄圏建設という崇高な理念を掲げた。戦後は世界GDP 2位と経済大国の道を歩み、世界平和に貢献もしている。こんな稀有な国はない。政府がもっと外に訴えかけるべきだ。
 - 経済については依然、重要な地位にあり、日本一国の浮沈が世界に大きな影響をもたらす立場にある。政治については東アジアの弧に存右し、政治的緊張の近辺にあると言え、米中との関係が極めて重要であると思う。文化、国民性については歴史的に平和な時代を過ごしてきており、素晴らしいものだとは思いますが、それが特異なものであることは意識すべきだと考える。戦力を持つにしろ、無為に参加すべきではないが、自国の文化、経済を守る国となるべきだと感じている。
 - 具体的に言えば、国際連合職員の数も日本はもっと増やすべきと考えます。広く抽象的な意見はあまりありませんが、自らの国力に見合うような役割を果たすことに積極的になれば良いかなと思っています。もっと具体的なトピックについてならば様々な意見が出てくるのではないかと思います。
 - 日本人って思っていたよりも勤勉だった。けれど、将来の日本の立場を考えると心配である。与えられた問題・課題に対する処理能力には長けているけれど、創造的・長期的な構想とか理念をかかえるのが苦手なのだと思う。人口の減少ははじまり、いよいよ国民一人の意識と努力が必要だと思う。
 - 世界が日本に期待する所と、日本が世界から期待されていると感じている所に温度差があるように感じる。日本は市場も成熟し超高齢化社会に突入するなど経済的な発展がますます減っていくであろうことに危機感を持った方がいいのではないだろうか。いつのまにか世界から見捨てられてしまったということのないよう、緊張感をもって行動していくことが望ましいと思う。
- 思う。
- 内閣府「日本21世紀ビジョン」に著されている「避けるべきシナリオ」、端的には経済・政治の停滞と国際的影響力の低下が実現する確率が高いと考える。我々はそのことにより自覚的になった上で対策を考え実行に移すべきである。日本は豊かで平和であり、そのこと自体は望ましいことであるが、反面社会や世界について考える必要性に迫られていないため、より有能な市民たることを達成できていない。強制すべきことではないが望ましい姿としては、新聞もテレビ、インターネット等でよく多くの議論が生産的に行われ、対面でも聞きかじった情報だけでなく意見を交わし合うべきであろう。物言わぬ国日本とやゆされることを嘆きはするが、何をどう言うべきか分からない状態では改善は見込めない。
 - 経済面でのインパクトは弱まりつつあるとは言え、未だビッグカンントリーにあることに変わりはない。単純労働を必要とする産業では、国際的に競争できないので、高度技術やサービス業に特化するべきであろう。他国との関係については、長期的な視野で米国とアジア各国のバランスを取っていくべきだと考えられる。アジア各国とのFTAは優先度の高い課題だろう。
 - 日本のメディアからしか情報が入ってこないのが、客観的な判断ができないが、日本国民が思っている程世界での影響力はないと思う。基本的にはアメリカに依存しすぎており、自活していないのではとさえ思う。常任理事国になれないのは、そういうのが理由ではないだろうか。文化的には、誇るべきものもある。そのような印象を受ける。
 - 米国一極支配の構造から中印露の台頭・復活で多極の不安定な構造にシフトする中で、米国の衛星国家の観を呈しているのが日本であると思う。一方で経済的な繁りは対米より対中にシフトしている。領土・貿易面でのあつれきは一層大きくなると予想される中で、いつまでも米国の力を盾に乗りきるのが注目される。凡庸な意見ではあるが、使える「カード」を増やす為にも、中国等「新興」超大国との紐帯をつくる必要がある。
 - 今後、政治・経済における地位は相対的に下がってゆくと思われる。ただ、技術的な分野では先進国であるし、国家財政から考えて適正な範囲で様々な国際貢献をすべきだと思う。国際的な貢献も大切だが、まず国内の政治・経済の健全な運営をしっかりとすべきとも思う。財政破綻してしまっただけでは国際貢献も無理であるからである。
 - 一般的に言われる通り、ややアメリカ偏重な気がします。私の就職先もアメリカでの売上に依存しているのですが、アメリカが倒れたときのリスクが大きすぎます。アジアの国をはじめ、世界とバランスよくつき合う関係を構築すべきです。また、アジア唯一の先進

国である点や、戦争での経験など日本の特徴を活かした行動ができるようになればいいかなとも思います。

- 度の過ぎた親中、親韓、親米といった立場はこの国としては非常にリスクが高いと思っているので、その辺りのバランス感覚をこの国の主導者達は身につける必要があると思っています。(あくまでも一つの例ですが、台湾との関係強化を推進するなど) また、国際的に見て競争力のない組織、産業の改善も進める必要があるのではと思っています。例えば農業について生産効率、高価格といった問題を持つ商品については輸入自由化を進めるといったことも一つの方策であるのかもしれませんが。その改善により達成された競争力をもって世界の経済面をはじめとする様々な面で主導権を握っていくのも日本の戦略としては最適なものの一つでは、と考えています。
- アメリカ追従政策をとり続ける以上、日本は経済力をいくら磨いても軽視されてしまうだろう。アメリカと一線を画すイギリスに世界から一応の敬意が払われていることから私はそう思う。その中で、日本を変えていくエリートを生み出していくのが東大であってほしいと思います。

〔経済学部女子〕

- 先進国だがかなり特殊な文化を持っている。熱しやすく冷めやすい国民性。幼稚である。経済は比較的安定している。消費者としての商品の目利きのレベルは高い。そういった意味でチャレンジングな市場を持っている。外国人に対して敷居が高い(冷たい)。
- 外国の人と話していると、やはり技術力の面で日本は非常に尊敬されているのだなあと感じることが多々あります。そこは純粹に誇らしく思える側面なので、これからも技術力の面でプレゼンスを示していきたいものだと思います。(同じ知的創造社会といってもオタク・萌え文化で生きていく道は個人的には何か悲しく嫌なのですが)、政治的な面では、リーダーであるよりも、リーダーに諫言できる冷静でキレる頭を持った穏和で成熟した国であってほしいものです。今は全くそういう方向に進んでいないように見えますが・・・。
- もっと日本は日本の国益を考えて行動してもよいと思う。「他国と歩調を合わせよう」という面が多すぎる。国際協調も大事なことだが、後手後手に回ると日本の存在感は薄れてゆくばかり、中国の力がますます大きくなり、中国・アメリカの2大国が世界の中心となった場合、日本はあつてないような国になってしまうのではないかな。
- 日本独自の考え方を主張することが少ないように感じる。米国に追従しているように見える。今後は日本が自らリーダーシップをとっていくことが必要ではないか。これは、政治的なものだけでなく、研究などでも言えるように思う。日本が新たな分野で研究を進め、

それを実用化するなどして、研究の面でもビジネスの面でも他国をリードしていく立場を目指すことを考えるべき。

- 憲法九条改正などで「普通の国」を目指すのではなく、九条を活かして「日本ならではの」「平和推進国」を目指すべき。理想主義に聞こえるかもしれないが、ソフトパワーの力は強いように思える。今の日本は、更にアジアに目を向けるべき。戦争被害者のみならず、加害者としての認識を強める教育が必要。東アジア諸国の人々と、もう少し親近感が生まれてくればいいなと思う。

〔文学部男子〕

- 日本は今以上大きく発展する望みは薄く、今後、中国やインドの台頭でアジアでの影響力も低下する恐れがある。従って、周辺諸国との関係を強固にし、アメリカ一辺倒になってはならない。島国であるために外交には特に気を付けるべきである。
- 日本は世界の中で特異かつ貴重な立ち位置にいてるのに気が入っている。ともすれば欧米中心に回ってしまいそうな現在の世界で、何だかんだ言われてもやはり欧米ではない(欧米になれない)国が経済力を持ち文化的にもカウンターとして機能していることは、世界全体にとって良い方向に働いていると思う。世の中ではあまり言われぬ事であるけれども。政治分野でも現在の憲法9条は決定的に貴重なので護っていきたい。軍事問題のほぼ最終解決案である平和憲法が主要国に於いて存続しているなんてこんなに素晴らしい事はない。「自衛隊」という名でごまかしたまま、このままのらくらく巧く立ち回り続けて欲しい。名より実を取れ、だ。
- 安保理、常任理事国に固執する意味が分からない。現実的なメリットを考え、もっと実利的な外交を進めるべきである。良質な文化やコンテンツ産業の積極的な発信により、日本の存在感を世界に示して行く方法もあるのではないかな。もっとソフトパワーを重視すべきである。
- 国全体がミドルエイジ・クライシスだと思う。
- 日本人は外国人の意見を気にしすぎる。外国人に合わせて「国際化」するよりも、日本人がよりよく生きられる社会を作ることの方が重要である。そうすれば結果的に外国人も日本のよさを理解して魅力を感じるようになるはず。
- 十分な実力を持った国なのだから、他国の追従をせずとも“日本らしく”あつてよいのではないかな。日本という国のこの独特すぎる個性は世界でやっていくに値する力を秘めているはず。いわゆる国際社会における「不思議ちゃん」でいいと思う。

〔教育学部男子〕

- 日本は世界の中で最も豊かな国の1つだ。しかし、

その立場も中国やインドなどの経済的発展によって相対的に地位が下がっていくと思われる。しかし、それは嘆くべき類いのことではなく、世界が経済発展をし、物質的豊かさを望む人々が多くいる以上、当然起こるべきことだと考える。流れに抗うのではなく、その流れの中で何をすべきか考えるということを日本はしないといけないだろう。

- 経済的にも発展しており、様々な技術や伝統を持って大変恵まれている国であると同時に、敗戦国で原爆も体験していることを考え、世界の貧富差の解消や平和のために率先して取り組み、他国の手本となるようにならなければならない。
- 日本はいろいろな面で世界の中心をになう存在であると思うので、そのことを自覚し、譲るべきところは譲り、主張すべきところはしっかりと主張して、自国の安定した外交はもちろんのこと、世界の安定(平和)に貢献していかなければならない存在であると思います。
- 日本という国レベルでは、経済水準の高さが認められているように思う。しかし、他の国に対する経済支援の認知度はそれほど高くはないようで(特に中国、北朝鮮などでは)、その点は残念に思う。逆に、日本が他の国からどれだけの援助を受けているのかを日本人はほとんど認識できていないが、日本人という国民レベルでは、依然として欧米コンプレックスが根強いというか欧米好きな人が多いように思う。もっと世界の様々な国・地域に目を向けて理解に努めるべきではないか。

〔教養学部(文系)男子〕

- これからの日本は経済的に下降線を辿る。政治的には米中のバランスとしてある程度のプレゼンスは保つだろうが、但、日本国内を見ていると日本人全体の知的レベルが他の先進国に比べても低下してゆく傾向にあると感じざるをえない。私は外国の事情に詳しいわけではないが、それにしても日本のテレビ番組や雑誌、週刊誌の類にはろくなものがないように思う。まともな情報源を持たない国民の判断力は鈍り、国力もまた落ちてゆくのは致し方ない。書籍はまともだが、売れないらしいし・・・。
- 靖国の問題や「日米同盟」が目立って世界的にあまりよいイメージではないのだろうと思うが、これらが国民の総意であるにとらえられてしまうのは残念なことで、それを思うと改めて「リーダー」の存在の大きさを思い知らされる。この歯がゆさを解消するには若年層の「世界に対する関心」を高めることが不可欠だろうが、そのためには一度それを強いるような切実な事態が起きなければならないのかもしれない。本末転倒だ。
- アジアでさえ、国家間関係がぎくしゃくしており、

全世界的視野で見ればなおさら日本のプレゼンスはとるに足りないものだと思う。もっと外国人を受け入れ、異文化交流すべき。キャンパス内の留学生もごくマイノリティにすぎない。

- ジャパニメーションに代表されるようなソフト・コンテンツの世界への発信は日本の世界におけるプレゼンスを示す上でも重要だと考える。また世界的に見ても素晴らしい日本の「食」もより世界に知らしめていきたい。日本の誇りを世界に見て欲しい。

〔教養学部(理系)男子〕

- 何をすることもアメリカに追従しすぎな気がする。もっとアジア圏に目を向けるべきだと思う。
- 日本は科学創造立国を目指すべき。そのために大学は主要な役割りをになう。大学は独立行政法人化したのだから、独自の運営ができるはず。例えば、大学学部生の授業料を高くし、その分大学院の研究費にまわす、入学試験の成績によって授業料を安くしたり高くしたり幅をもたせる。大学院生に給料を出し、研究を活性化させる(欧米化)など、独自の経営ができるはずである。
- 日本では国際化とは英語を話せるようになることだと思われているが、私は英語学習と国際化は全く関係ないと思う。国際化するとは自分たちとは違うものを知ることであり、同時に自分たちを知ることもあるだろう。しかし、英語学習に熱中するもの(カルチャー・スクール的に)の多くにあるのは単なる偶像化された欧米の姿しかない。……………東大においても大きなグループを日本人と成しているのは白人系が多い。このような現象は枚挙にいとまがないが、我々の育った文化を考れば仕方の無い側面もあろう。だが問題なのが、それに無自覚であって、その行為が反国際的であると気付いているものがないことだ。

〔教養学部(文系)女子〕

- 自国の安全保障を独力で確保することができないために、自国の国益を実現するための戦略をたててそれを世界の舞台で実行してゆくことができないことは問題である。

〔理学部男子〕

- 日本は憲法で戦争放棄している国として、先頭に立って世界平和につとめるべきであると思う。
- なぜこのようなことをここで聞くのか理解に苦しむが、私は日本の立場を語れるほどの立場にないためここでは書かない。自分が自分に課したことをこなすのに力をそそげば、そんな大局的な視点を持つことはできないと思う、理系は。でなければ手をぬいているんではなからうか。大局的な意見を自分の中に持つことは大事だが、それを声高に叫ぶのは必要ないことだ。

- 社会、文化がゆがんでいる。明治以降、何を目標にアホみたいに頑張ったのか？結局、中国、韓国とかに追いつかれている。しかも、向こうには活気があるのに、日本はみんな暗〜い顔している。いやな国だ。
- 国や社会に対して声高に物を言うのは好きではありません。私は自分の周囲、家族、友人あるいは自分の意識、言動、身のふり方などを反省し、管理する事で精一杯です。未知の世界（外国はもちろん国内でも自分から遠いところ）に対する実感は薄く、そういう世界を自分の事のように話す人々を（否定はしませんが）手放しに賛同する事は今のところありません。
- 日本は軍隊を持つことなしに、平和維持活動やその他可能な限りの国際協力に積極的に参加すべきです。日本の平和（安全保障の面でも経済の面でも）が、問題を抱えた国も存在する現在の国際情勢、社会・経済構造と無関係ではない以上、問題を抱えた国・地域の人々の努力を支援することは日本の義務だと考えるべきです。そして必要とされる活動の中には、軍隊級の重装備を必要としないものも数多くあります。更に究極的には、軍事的な冒険をしないことは日本の国益にもつながるはずです。

〔理学部女子〕

- 先端技術や文化など、独自のものについては世界に誇れる点が少なからずある。しかし外交や政治に関しては、アジア諸国や米国などとの関係に問題がある。もっと日本ならではの役割をもち、諸外国とわだかまりなく付き合っていけるようにならなくてはいけない。そのために、広い視野・多彩な見識・誠実さを兼ね備えた指導者が必要だ。今のままだと日本は構造改革の名の下で崩れてしまうだろう。
- 東アジア地域の経済発展を促すには地域内各国が経済活動におけるかきねを取り払い制度を統一し、標準的な慣行を普及させることだ。東アジアで経済統合の先行するASEANにおいて、日系企業の進出を通し、日本型の慣行が浸透している。日本はそれを東アジア全体に適した形に整え提案し普及に努めることで、自国の利益を計ると共に、東アジアの発展の一助となれるよう目指すべきである。

〔工学部男子〕

- 自国の欠点は自国にいるほど見える部分もあるので、よく言われるほど日本に直接悪い印象を持っている国はないと思うし、実際経済、技術面での貢献ではずいぶん高く、国全体の知的レベルが高いからこそ様々な問題が表面化してくるのだと思う。ただ、宗教的なバックが薄いので、実際に戦争に出て体を張った人が死ぬことについて等の、考えても解決しない問題にはとても弱い。
- 国益を守るために中国や韓国・朝鮮との外交では、

もう少し強硬に出ればよいと思う。国連などの海外支援も、対価に見合うだけの発言力や権限が得られないなら減らしても構わない。国の政策がお人好しすぎて他国にうまく利用されている。

- 弱い。日本国民という事に明確な誇りを持ってない。
- アメリカに依存しすぎている気がする。自分は特に軍反対なのでリスクは大きいですが、日本から世界に向けて軍事力縮小をやってほしい。このままいくとどの国も軍事力を強め、いつか戦争が起きる気がしてならない。
- 政治面においては戦後以来、米国への追従が避けられないような状況にあると思われる。自主的な行政を求める。技術的側面に関しては、近年、中国・韓国等の発展が著しく、日本の技術力が衰退しているような感じを受ける。
- 日本は今までに国際社会に大きく貢献してきたにも拘らず、あまり顧られない。欧米にとって日本はどうでもいい国なので無視されている。現在あまりにも欧米の価値観が横行してしまっているので、それを直すためにも今度の日本の進出は重要になってくる。
- 日本は無気力であるような気がします。フリーター、ニートが増え、増税はいやだと口では言っても、行動に移す人はほとんどいない。政治でも米国の走狗となり、はいはいと従う。なにか意欲や情熱に欠ける気がします。
- アメリカの言いなりになっている。国連や政府開発援助に多額の税金を投入している割には、国際舞台における発言力に乏しい。中国や韓国から根拠のない嫌がらせを受けている。途上国に対する技術支援や先進国との共同研究において成果を挙げており、科学技術力は高く評価されていると同時に、世界をリードするレベルにある。
- ・多くの面での独自性は残していくべき。そうすると、ある時代にはそれが本質的に重要なことになってくる時がいずれ訪れる。
・日本的な協調性と欧米的な競争主義・個人主義との融合、最善な妥協点を見出していけると良い。
- 非常に優れていて恵まれている国ではあるが、世界に胸を張って誇れるアイデンティティーがないような気がする。少なくとも自分がこれといって何か感じることはない。自虐的な歴史教育などが背景にあるのではないかと思う。
- 良くもなく、悪くもない。教育レベルは最低（先進国中）。海外に対して何も力を持たないが、かまわないと思う。治安はいいので住むにはいい。変な平等主義が強過ぎて良くない。
- 日本はもっと影響力を持つべき。アメリカへの依存、西欧文化への劣等感、他アジア諸国への蔑み。これらは一刻も早く捨て去るべき悪習と思う。勿論これらは日本のみが原因ではない。しかし自ら変わらねば何も

始まらない。

- 世界は成長し続けてきて、近年では日本は世界を牽引していると思っている。しかし安易な開発を続ける時代はそろそろ終わる。中国や他の国が発展してくるのに対して、同じ方面で逃げているだけではない。方向を転換して、維持を目的とした発展を目指すべきであると考えている。
- 日本はアメリカの言いなり。そして、中国や韓国などのアジア諸国に対しては靖国神社問題をはじめとして無神経な態度が目立つ。挙げ句の果てには憲法を改正して、日本を戦争のできる国にしようとしている。日本は「戦争をせず、平和である国」を維持すべきである。
- グローバル化に適應する能力は重要だが、決して世界に流される必要はない。長らく大陸と隔離されていた間に育った日本ならではの良所を捨て去ってしまわないようにすることも大切と思う。
- 欧米的な価値観の流入、というよりは、米資本主義の価値観に猜疑心なく盲従した結果により、価値観があらゆる世代にまたがり混乱している。そんな中育った子供は何を規範とすれば良いのかわからないため、インターネット等の他の価値観との競合を避けることのできる情報源に固執し、それが一般的に認められないものであれば、その行動は「非行」となり犯罪にもなり得る。今や自分がどんなものをどこで見聞したか証明しないことには、何らかの疑いを持たづにはいられない社会になりつつある。

〔工学部女子〕

- 政治的には歴史上の理由があるといえ、外交を重視し過ぎである。日本の内部事情の改善（教育・雇用機会の促進、福利厚生の実施等）に力を入れてもっと安定した国にならないと、アメリカや中国に弱みにつけ込まれて利用され続けることになると思う。文化的には、映画アニメやファッションの分野で活躍できて良いと思う。日本食や茶道、武道などで世界的に有名なものが多いのも嬉しい。科学の分野でもっと頑張りたい。

〔農学部男子〕

- 自分のことで精一杯で考えたことはありません。
- 日本は海外において信用は大きいし、伝統文化も特異的なものとして欧米などを中心として注目されているが、日本独得な考え方をそのまま国際的な場でも通用するものと考えている人が多く、多くの場合、その考え方は物質的には不利益をもたらしていると感じるので、もっと合理的で強引な振る舞いをした方がいいと思う。
- 日本は大変豊かな国となってきているが、少年犯罪や社会人のモラルを欠いた行動が目立ち、日本人

の精神的教養レベルの低さが目立つ。メディアなどのマスコミでも道徳的示標もなく、精神的な貧しさが日本の問題であると思う。様々な社会問題も多く、今後日本の世界的立場は低くなっていくと思う。

- 「世界の中の日本の立場や位置づけについて」という問題に対する視点が日常的に欠如していることこそが、日本の現在のありかたの問題の本質であると思う。すなわち、他国が日本についてどう思っているか、あるいはどういう言動をとったら諸外国はどう受け止めるだろうか、ということに全く意識していないために生じている亀裂が対アジアのみならず数多く見られる。そして「意識されていない」ということを感じている国々は少なからず存在し、半ば諦められている。言語の精通上、韓国メディアに接する機会が多いのだが、相互理解が程遠いことは日本メディアを見るより明らかに表れている。島国文化と言いはることは容易であるが、客観的に外から日本を眺める視点をもつことが必要であり、また教育可能であると思う。
- 強い経済に支えられているために経済理論が幅を利かせ、娯楽においても欲望を経済が利用しているような赤裸々なものが多く、文化的に墮落の一途をたどっている。国民全体としての成熟が止まって退化しているので、他国から見れば好かれも嫌われもするだろうが、尊敬はされないように思う。
- 独善的な傾向の見られる東大生が多く中核を任ている日本は良くないと思う。設問に「将来日本を動かす東大生」に対する意識が見えるが、そういう意識があるなら大学のカリキュラムとして人格教育をする、等あっても良いのではないだろうか。思想統制と評される恐れもあるが。
- 全体的に情熱やハングリー精神に乏しい人が多い。

〔農学部女子〕

- 日本人はアメリカナイズされすぎだと思う。横文字や大量消費、大量生産のライフスタイル等々。政治においても牛肉輸入再開、米軍の駐留などアメリカに支配されているのではないかと疑いたくなる。世界はアメリカだけではない。アジア、ロシア、ヨーロッパ、アフリカ諸国とも協力していくべきだ。

〔薬学部男子〕

- 欧米に追従しているイメージが強く、世界の中でインパクトが弱いと思う。政府は諸外国に対して弱腰の体勢であり、しかし一部ではタカ派の強い主張も見られ、両極端と感じられる。

〔医学部男子〕

- いろいろと批判されるべき点や迂余曲折はあると思うが、技術的にも経済的にも世界でトップクラスにあることは厳然たる事実である以上、世界を牽引して

行く立場の国であると思うし、十分に誇るに足る母国であると思う。近年、他の国からの言葉や他の国とくらべて日本に幻滅する向きがある様だが、隣の芝生は青いとの言葉もある通り、他国のことは（特に欧米）良い部分、優れた部分のみが強調されて伝わりがちである（一部そうでない国もあるようだが）。日本国民にはもう少し日本という国のことをきちんと考えてもらいたいものである。さもないと、今現在の日本の位置を保つことは到底無理なことであるように感じる。

- 日本は60年間にわたって平和に恵まれた、世界でも珍しい国ではないかと思う。バブル崩壊後の不況などもあったが、近年は景気も回復しつつあり、国民の生活水準は極めて高いレベルにあると思う。その一方で、少子高齢化が進みつつあり、社会保障や医療制度の改革が大きく問われている。日本がこの問題に対して良い解決策を提示できれば、これから高齢化が本格化する諸外国に対して一つの見本を示すことができるのではないだろうか。
- スポーツの世界に代表されるように、日本人が海外で能力を発揮するという話も珍しくなくなってきた。誰もが世界の一線で勝負したい、自分を磨きたいと思うだろうし、我々学生も留学や研修という形で広くそういった経験をする機会に触れられるようになってきた。日本は今後しばらく世界一線への人材供給源となるだろうが、東大はじめ日本の各教育・研究機関はそれだけでなく、直接世界をリードするレベルにあってほしいものだと思う。

〔医学部女子〕

- アメリカに従いすぎて、日本の意思が感じられない。近隣諸国との関係を軽く見ている感じがして、ぎくしゃくしている状況が不安である。戦後、平和憲法があるために世界から信用を得てきていたのに、それが崩れそうなことが心配。もっと平和を主導する国として胸を張っていれば良いと思う。
- “世界の中の日本の立場や位置づけ”について東大は考えなくともよいと思う。日本の中で最高学府だからではなく、東大だからという理由で世界から学生を集めてくれる様な競争力を持たなければいけないのでは？それには一人一人の学生の努力も必要だろうし、私も頑張ります。

具体的記述（抜粋）その2

その他特に大学への要望やこの調査に対する自由な意見

〔文一男子〕

- 奨学金制度の充実が達成されないのに授業料を上げるのはよくないと思う。
- 教える側のモチベーションに疑問を感じます。大学に入れば生徒側の自主的な姿勢が求められる、という点はもっともですが、一方で教える側のやり方、意識が重要になります。両方が歩み寄らなければ授業が良いものにはならないと思います。僕は教授が「教える」役割に対して、プロフェSSIONALな態度を示しているとは思えません。生徒を引きつける、生徒に伝わる授業の展開があるはずです。そのような点を教える側はもっと真剣に考えるべきです。
- 私は、東京大学は最高の大学であると思います。レベルの高い学友に囲まれて勉強することは、この上ない幸せです。世間では偏差値偏重教育などといい、東京大学を批判する者が散見されますが、今後とも東京大学は「最難関」であり続けてほしいと思います。また、奨学金制度をさらに充実させ、優秀であれば誰でも東京大学で学べるような体制を整備していただきたいと思っています。これからも東京大学が学生のレベル、教育環境等の面で最高の存在であり続けてほしいと思います。
- 東京大学はお金がなくても能力さえあれば入学できる学校だと思っていたが、ほとんどの人が私立中高一貫校卒で、塾や通信教材を使っていたという事実を聞くと、ある程度の収入のある家でなければ目指すこと自体が難しいのではないかと考えさせられる。もっと給与の奨学金を増やしてほしい。でないと日本は完全に豊かな人々と日々の生活にも苦しむ貧しい人々に二分されてしまうと思う。全ての人に東大合格の道がひらかれているべきだ。
- 教務課の手続がオンラインになってよかったです。特に法学部の専門科目の先生方、話す速度を少しおとして、聴き手のことを意識していただきたいです。工夫をこらしていただく必要はないのですが、普通に聴いて分かるようにしていただきたいと思っています。
- 1限開始を遅くすればもっと授業参加者は増えると思われる。
- 900番講堂の設備改善（冷暖房、黒板を見易く）、食堂の改善、教官の授業姿勢の改善（黄ばんだ何年も使っているらしき同じノートの読み上げ、板書・プリント等使わず、ひたすら単調に読み上げる授業、薄く見辛い字etc・・・）。
- 英語Ⅰの授業、とくに通常クラスの改善が必要だと思います。私はEnglish Only、listening重視、通常のすべてを受けてみましたが（全員が受講する以上仕方ないことかもしれませんが）、現在の通常クラスの内

容ではとても英語の諸技能の向上が望めるとは思えません。具体的には、授業で配られるプリントの質問は考えさせるものではなく、単なる「本文のどこに書いてあるか調べ」でしかありません。英Ⅰの出席率が低いのは、単にサボりたいだけの人と内容のヒドさにイヤ気がさしている人の2種類がいるからです。授業の改善は学期末のアンケートよりも、欠席者になぜ休むのかをアンケートする方がいいのでは。

- もっと学生に厳しくしてもよいのではないのでしょうか。シケプリ制度などを暗黙のうちに容認したり、一度も出席していない学生でも“優”がとれてしまうなど、どう考えてもおかしいです。学生にどんなことを望んでいるのかわかりません。偏差値の高さだけが売りの学生を社会に送り出して「東大卒です」なんて大きな顔をされてもよいのですか。もちろんすばらしい学生もたくさんいます。でもそれと同じくらい「何のために大学に進学したのか」と思いたくなる学生にもこれまで出逢いました。東大の掲げる学生像があるのなら、それを実現する努力が必要だと思うし、その実現のためならば学生にこびる必要はありません。
- 法学部の教授（ごく一部）の中に教える気が全くないのでは、と疑われても仕方がない程、低質な授業を行う先生がいる。ただ100分間ノートを読み上げることしかしない。→授業評価アンケートが機能しているか甚だ疑問。授業名、教授の実名を明らかにした形での調査結果発表を望みます。
- 大学への要望・・・実質的に単位認定基準のゆるすぎる前期課程は、その分後期課程の内容がタイトになる分も合わせて、もっと改善すべきだと思う。学生の側にも講座を受け持つ側にも、授業の質を高めようという意識が例外こそあれ一般に欠けていると感じる。この調査に対して・・・調査の存在や大学の行う公的なものであることをもっとアピールしてもらえないと、突然封筒が送られてきても昨今の悪質な欺偽などを考えると多少不信感が残ってしまう気がします。
- 奨学金の対象枠増大。少人数制授業の拡大。第2外国語の廃止。
- 学費安くして下さい。高すぎます。授業料に見合った教育を提供できているとは思わないです。

〔文一女子〕

- 今の状態で私は十分だと思います。
- 総合科目の講義の質を上げてほしい。法学部の専門科目試験が通年ですべて2月にあるので、負担が重い。半期ごとに試験をしてほしい。特に夏学期のみの科目を2月に試験するのはよくない。

〔文二男子〕

- 大学は満足です。ただ、汚いトイレなどを改善してほしいです。

- 質問が受験生に対するものかと思うほど、学問がマニュアルとして捉えられている傾向がこの調査も含め(32.等)大学全体に見受けられる。大衆教育を受けるために金と労力を費やして東大に入ったのではないのだから。1学年3000人以上もいて難しいとは思いますが、生徒と教員との双方向のコミュニケーションを実現する施策を行ってほしい。本当の学問とは、師匠と弟子の信頼関係に基づき、心構えと技術が伝承されたものだと思う。
- 情報処理のテストがむちゃくちゃでした。なぜあんなものが進フりに深く関係するのでしょうか。せめて点数ぬりかえの機会を下さい。
- 徹底的な情報開示である。何も難しいことをしろというのではない。私の友達は授業料減免の制度を知らない人がいた。経済的に困難な学生(私もそうだが)のためには、奨学金制度の充実をはかることが必要だと思う。そしてその情報をもっと広く、極端な例を言えば、全員に郵送するなどのことをしてもよいと思う。今日は2/19です。アンケートへの回答が遅れて大変申しわけありませんでした。
- 本郷の掲示板と駒場の掲示板との間に、掲示物の内容・掲示時期において差が出るのは良くないと思う。(特に3・4学期の専門科目に関する掲示)
- これからの大学は研究機関としての役割もさらに重要になるであろうが、一部の私立大学のように学生の就職支援も充実させてほしい。
- 東京大学はせっかく日本一の大学であるのだから、もう少し「格式」高い雰囲気があってもよい気がする。東大生が東大生たることに對してもっと誇りが持てるようになればよいのに、と思う。
- 質問数が多い。まじめに回答しようと思えない。
- 1、2年次は「教養」という位置付けになっているが、つまらない授業で生徒の意欲を失わせないようにし、また専門教育が社会でより求められていることに對処するために、1年次からすぐに専門課程の教育を開始すべきである。
- 事務手続きの簡素化や成績制度の透明化は、これからも取り組んで頂きたい課題だと思います。
- 大学の勉強が難しく、相談相手が欲しいです。同級生ではなく、院生や教授が望ましいです。そのへんのシステムをもっと良くしてほしい。教授は授業が終わればさっさと帰るし、なんか相談とかしづらい。あと、教え方が下手すぎる。まだ大学入試予備校の方が「教えよう!!」という意欲があってわかりやすかった。

〔文二女子〕

- 留学制度の充実力を入れて欲しい。
- ・お手洗いはじめ、キャンパスが汚いので、衛生面の強化をして下さい。
- ・進学振り分け制度において、傍系進学がきつすぎま

す。たとえば法学部でいうならば、文二・文三からの内定者と文一からの内定者の最低点のひらきが30~40点あるのはいかがなものか。単純平均点のみを指標とするならば、前者の方が後者より法学部進学に適していると思われる。なのに、前者の最低点にわずかに数点たらずに泣く者がいる一方で、それより30~40点低い文一の者が楽々と法学部への進学をはたしているのは好ましい状態ではない。この現状に對処するため、前者の最低点の引き下げ、もしくは単純平均点以外の評価方法(法I・IIなど法律科目の成績を考慮する)の導入をお願いしたい。

- ・キャリアカウンセリングを充実させてほしい。キャリアサポートセンターのようなものを駒場にも作ってもらい、1、2年のうちから就職意識を高めるようにしてほしい。
- ・学習相談を充実させてほしい。理系はあるようだが、文系にも對応してほしい。(駒場)

〔文三男子〕

- 教務課(教養学部)の對対応が冷たい気がします。事務的なのは悪いことではないですが、もう少し親身になってくれてもいいと思います。
- ・進振りのために、2年生が国コミで第2外国語の初級を取っていたりするのは納得が行かない。
- ・教室が狭い(人が多い)、国コミの授業の集中。
- ・パンシヨップが大混雑する。
- ・英語IIで希望通りに行かないことが多すぎる。
- ・英Iの授業があまりにも役に立たなすぎる。大学の怠慢。
- ・「担任」という制度はいったい何の役に立っているのですか?
- 進振りというのは東大の大きな特徴なのだから、もっと有効にしては。たとえば、各学部の各科類ごとに3年生以上の相談可能な学生のメールアドレスのリストなどをWeb上に設置し、1、2年生の進学上での疑問などに気軽に応じられる仕組みを作るなどしてはどうか。
- 学生でも支払える程度の授業料にしてほしい。親から一銭ももらわずにバイトと奨学金で生活費と授業料を払おうとしているが、結果的に学習する時間が十分に確保できなくなっている。親から経済的に自立しようとするほど学習時間は少なくなってしまう。この閉塞感を何とかしてほしい。
- 合格発表後の健康診断は地方在住の者にとっては上京する際の交通費を一度分多く払う機会となり、不都合が生じている。合格発表の直後にはまだまだ地方にも用事が沢山あるので、三月の末くらいに健康診断があるとよい。
- 教養学部といふところは「自由」であって、自己責任の下二年間それが許されている。小生は天下国家の

こと、政治のこと、哲学のこと、歴史のことなどについて学び、考え、友と語り、また旅をし、感じ、非常に有意義な二年間であった。だが上記のことは大学で学んだといふよりも寧ろ自ら学んだ事の方が多かった。後期課程といふ専門に行くのは大ひに楽しみであるが、前期の教養課程は学校に行くこと自体さほど意味はなかったよう思はれるのが残念ではある。

- おそらく文3の生徒の3～4割は希望通りの進学振分けをされていないと思います。点数が悪かったと言えばそれまでですが、そのあたりの改善をお願いしたいです。
- 理系からの文転は広く認められているのに、文系からの理転の道は非常に限定されている。全科類枠の設置で状況は改善されたが、要望科目の設定が厳しすぎるという声も聞かれる。もっと広く理転を認め、進学後も理系出身者と同じレベルの授業についていけるように、学業の面でのバックアップを充実させてほしい。
- 進学振分けを現行制度のまま行うのなら、高校生への情報開示をするべき。例えばある学科への進学は実は文Ⅲからより文Ⅱからのほうが点数が低いなどの“抜け穴”を知っていれば、受験段階でよりよい選択ができる。そうでなければ制度見直しを。希望通りの進学ができない人は多いはず。今のままでは、今後もまた進学がうまくいかない学生を生みつづける。
- 文系学生の学費はもっと安くてもよいのではないのでしょうか。留学をもっと支援する制度を作って欲しい。
- 多くの授業は簡単すぎて出席する気にならない。誰の為に程度を下げて行っているのか分からないような授業は廃止すべきだと思う。このままでは大学の授業を聴く人間の多くが単位を取る為だけに来る者となり、本来中心たるべき学問的好奇心の高い人間は読書に精を出すことになり、本学の講義からますます遠ざかっていくだろう。
- もっと大学は東大のもつ潜在的可能性に敏感になるべきだ。潜在的、というのは日本最高の総合大学であり、文Ⅰから理Ⅲまで、それこそ世界のほぼ全てをカバーし得る可能性を東大は秘めているにもかかわらず、学生（将来の研究者etc.）相互の絡み合い、切磋琢磨の場の創出といった基本的な事柄には現在ほぼ何もなされていないと言ってよい。必修としてあるべき事項、選択として準備されるべき事柄の精査と、学生の意見反映も考えてほしい。

【文三女子】

- 国コミや英Ⅱの抽選で落ちると学びたいものが学べないので、枠を大きくしてほしい。
- 自分もそのような選抜入試で入ってきた身ですが、東大入試の方法を変更すべきだと思います。今では塾や中高一貫校でペーパーテストしか出来ないという事務処理能力だけは高くせに問題意識も思考能力も無

い低能な学生ばかりが作りだされ、そっくりそのまま東大生になっています。実際、事務処理能力だけは高く自分で思考することを放棄する姿勢は、シケプリ制度や出席を重視し冗長な話をえんえんと聞かせる講義体勢により更に助重されています。馬鹿を作りだしてどうするのでしょうか？学費を上げるならどうか奨学金枠を増やして下さい。ウォシュレットはいりませんから。

- 「進振り」という制度自体は良いと思う。しかし振り分け方に問題がある。努力よりも要領の良さを測るものになってしまっている。これはセンター試験についても言えることだが、もう少し努力や教養・知識（実力）が反映されるものにして欲しい。
- 自分が文系であるのに理系の授業を選択しなければならないことに当初抵抗を覚えたのですが、この頃はそれは本当に必要なことなのだと実感し、教養学部の存在の必要性を改めて知りました。しかしカリキュラム上で一つ不満な点は、同じ名前の講義を内容がいくら違っていても複数回選択出来ないことです。教官もテーマも違えば、何度同じ名前の科目を履修してもよいことにしてほしいと思います。
- 大学の教員の中には素晴らしい先生方もいらっしゃるが、多くの授業は工夫がなく、学生にとって非常に不満なものであるのが現状である。ただいざアンケートなどで満足度を聞かれると、多くの学生は苦勞してまで入った東京大学に不満であると自ら認めたくない気持ちから、なんとなく「満足・まあ満足」と答えてしまうのではないか。大学側はこのようなアンケート結果だけを信用せずに、一つ一つの授業に対して学生が本当はどう思っているのかを調査すべきだと思う。
- 教務課・学生課の事務員の対応があまりに悪すぎる。まだ窓口にいるのに窓を閉められたり、無言で対応されたり。サービス業でないのはわかるが、いくら何でももう少し改善して欲しい。生活時間についての問いでは、毎日それぞれに使う時間にばらつきがあったり答えにくかった。
- 進学振分け制度についてですが、1・2年生が本郷と分断されており、教養以外の教授と知り合う機会が少なく、じっさいに何を学ぶのか明確にしばらくころがあります。教養にしても本郷にしてももっと1・2年生にひらかれてもいい。そうして点数だけで決めるのはやはり無理があると思う。それまでどういう論文をやったか、何をしたいのかなど、もっときめこまかく見てもよいのでは。そのための担任制度は賛成。単位の取り方への制約（同じ名前は×）が多く、なかなか好きなものに走れない・・・それも駒場的ではありますが。
- A I KOM以外の留学制度を増やして欲しいと思います。

- 各学科の定員が実情にそぐわないと思う。特に文Ⅲから進学する場合、教養の人气が高く85点程度でも進学できない一方で、文学部の多くの学科が定員割れを起こしている状態は明らかにおかしい。他大ならともかく、進振り制度を有する本学では学生の一生を左右する問題であり、早急に改善するべきであると思う。あと、この調査は所要時間が長すぎると思う。
- 現在、単位取得等の関係で留年となるかどうか、非常に危うい状況にあるのですが、私は方法論基礎の単位が不足しているため進学できるか否かが判明するのが、3/23であると教務課に言われました。どう考えても遅すぎると思います。引越す等々、色々準備があるのですから、3月の認定試験発表の際に、発表しても早すぎるといえることはないと思います。教務課のもっと充実し、かつ人道的な対応を切に願ってやみません。

【理一男子】

- 第二外国語の学習は全学生に必要なものではない、と思う。進学振分けの際の各学科の定員は、希望する学生の数や成績に応じて可変的であるべきだ、と思う。
- 各教室へのピラ配りに対して規制を行ってほしい。資源の無駄が多すぎる。
- ・むしろこの欄こそ最も大きくするべき。大学に要望を出せる場所があまりにも無さすぎる。
 - ・授業のひどさはもはや言うまでもない。学生が授業に来るように出席させる教員もいるが、何故学生が来なくなるのか内省したことはあるのか。
 - ・研究者用の施設のみがどんどん新しくなっていていて感がある。はっきりいって早・慶と比べてよい点がない。ネームブランドくらいだろうか。この大学はここが優れている、と自慢できるものはあるのか？こんな大学が日本で一番、と留学生に見られて恥ずかしくないのか？
- 文一・文二・理三の進振りについて、明らかに勉強する意欲がない学生でも単位さえ取れば、それぞれ法学部、経済学部、医学部に進学できるのに対し、傍系進学者のハードルが高すぎると思う。この格差は緩和すべきである。この調査はアンケート欄が多いのでは？ちょっとやる気を失いました。
- キャリアサポート室や学生相談所など、進学や就職の場面で学生を支援していくという姿勢はあるというのは分かるが、それが学生側に周知させきれていないように感じられる。それぞれの制度の充実も良いが、具体的に東大にどんなサポート体制があるのかを宣伝し周知の度合いを深めるべき。今回のようなアンケートだけでなく、大学側が学生側の意見をより多く聞けるようなシステム（かつその中で実現すべきものは実現するシステム）を作っていくと良いと思う。
- 基礎科学、応用科学などという区別以前に、先を急ぐ余りに基礎学力を身に付ける場として大学が機能していない様に思われる。例えば数学の内容が、どう見ても薄っぺらで慌ただしいカリキュラムに埋もれてしまっていたり、基礎実験と言いながらそこで用いられる知識、機材等に脈絡が無さ過ぎるように感じられたりする。つまり、あまりにヴァラエティーに富み過ぎているように思われるのだが、逆に学部・学科を撤廃して全部教養学部にしたら面白いかもしれない。
- 大学側はもっと学生側の意見に耳を傾けるべきだ。カリキュラムの改正などはもっと早急に（例えば、時間割における総合科目の偏り）行なわれるべきだ。
- 基礎実験に地学系の実験をふやしてください。
- 身の回りでのむだ使いが多いように思う。独立行政法人化、またカリキュラム改革に際して、見直す所は見直して欲しいと思う。個人を特定しないで調査をするのなら、封筒に番号を付けるのはやめてほしい。抵抗がある。
- 進振りってどうなのでしょう。成績で将来が決まってしまうのはちょっと・・・しかも必修は先生を選べないじゃないですか。先生によってわかりやすい、にくいってあると思うんです。勉強以外にしたいこともたくさんあるのに、勉強に追われてしまいます。
- 現在、本年度からのカリキュラム改革についての話を時々耳にします。理科では初修・既修外国語を減らして数学・物理学の必修を増やすそうですが、現在のカリキュラムで学ぶ者としては、前者はもったいないことに思えます。教養教育を1年半行って幅広い視野を身につけ、同時に基礎もしっかり学ぶことができるのが本学の最も素晴らしい点の一つと考えています。履習コマ数は増えますが、外国語・数学・物理・化学・生物を必修とした上で、総合科目を充実していただければと思います。
- 進学振り分け制度に問題点があるように感じる。入学以前、数式に埋もれ、大変ながらもやりがいがあり、また楽しい専門的な勉強を思い描いていたが、実際は進度の速いドイツ語に多くの時間を割りあてている。ドイツ語に限ったことではないが、第二外国語を学ぶことが無意味とは思わないものの、現実には使う機会が多くない言語をただ単に進振りのためだけに勉強している自分に嫌悪感を覚える。進振りにおける点数配分を見直した方が良いと思う。
- 本郷の空気に憧れて入学したのに、駒場のみすぼらしさや学生のやる気のなさには入学早々がっかりさせられました。やはり1・2年生を3年になってから行くことになる本郷の学部から、制度的にも物理的にも切り離してしまうのはやめるべきではないでしょうか。教養学部改革の一層の推進をお願いします。
- 椅子のすわりごちがとても悪い（特に駒場の1号館）。なんとかして下さい。
- 大人数の授業は効率は良いと思うが、生徒側として

は嫌。少人数制授業の充実を望みます。

○ 数学科が駒場にある為、理学部に在籍しているのに、本郷進学後は必要な数学の授業を受けられないように思う。駒場から教員を派遣するなどして数学教育をもっと充実させて欲しい。・教員の授業に対する不真面目さが目立つことがある。下調べが不十分だったり、声が小さかったり、パワーポイントでろくに説明もせずに図だけを見せて済ませたり。生徒も真剣に受講しているのでそれに十分に答えて欲しい。・教養での“英語Ⅰ”の授業を改善して欲しい。テキストであれだけ難しいことをやっているのに、ろくな解説もなしに一時限の授業のみでリスニングも済まそうとしていて、生徒のほとんどが消化不良になっている。・教員は現在、研究者も兼ねているが、生徒側から見れば“教育専門”の教員がいた方がありがたい。

○ 喫煙所がほしい。

○ 大学のトイレをきれいにして下さい。もっと改修を。

○ 大学入学以来、非常に腹立たしくまた非常に困惑したことは、事務局の事務処理能力の低さと対応の悪さ、不親切さである。横柄で不親切、無責任この上ない。利用せねばならない学生ばかりでなく、保護者や外部からの問い合わせ等、どれに対しても不親切・不便・非能率的・時代遅れの対応であることに心底驚いている。強く改善を望むところである。

○ 英語の授業方法の改善（少人数のWritingのクラスを増やすetc.）。文科生向けのscienceの講義のように、理科生向けの哲学、文学などの入門的な講義を充実させてほしい。

○ 資格やその他のキャリアアップのためのもう少し実用的な授業も開講してほしいです。例えばTOEICの対策や会計士試験の対策、司法試験の対策等です。そんな俗な授業は開けないとおっしゃる方々も多々おられるでしょうが、ニーズは莫大にある事柄であり、もう少し実践的授業を開講すべきだと考えます。

○ 教員について、教え方も良く、学生に配慮した先生もいるが、ひどい先生は本当にひどい。学生のことは全く考えず、難解なことを分かりにくく教える先生もいる。そこのところを何とかして。先生によって授業の大変さや単位の取り易さが全然ちがう。ほんとにひどいですよ。

○ 本郷にドトールつくったり、駒場にイタトマつくったりしてますが、せっかく東大なんだからチェーン店じゃないほうが嬉しいですよ。

○ 教員の中で書道や書写、国語など小学生からやり直すべき人が沢山いる。おごっている人が多い。都市（東京）出身者と地方出身者で、教員に格差（東京出身者の授業は下らない傾向がある）。人間味のない大学で、地元の大学に行けばよかったとしみじみ感じている。

○ 英Ⅰの授業を何とかして下さい。教員のやる気がなさすぎる。

○ 5号館の2階の1番大きな教室は座るとひざが前の壁に当たってつらいです。教養学部は1年間で十分だと思います。進振り制度に文句を言う人も多いけど、やっぱり高校生（実際僕もここ2年間で進路を大きく転換しました。）に学部を決めさせるのはあまりよくないと思うので、Late Specializationの精神をぜひ守ってください。

○ 理系から経済学部への進学枠を増やして下さい。経済はもはや理系の学問ですよ。時代の流れを読んでいなさすぎ。経済学部行けなくて東大来た意味半減です。

○ リベラルアーツの重要性をもっと訴えてほしい。またそれに伴い、駒場で授業の質を向上させてほしい。様々な分野にふれやすくするために、授業内容への動機づけなど教師としての力量をつけてほしい。とくに駒場にはこういった生徒へ教養を教えたい講師の配置が望ましいと思う。また、自分は課外活動として運動会に所属しているが、今後独立行政法人化に伴い、こういった直接利益に直結しない活動を縮小する動きが想定されるが、学生の成長の場という意味での大学の在り方から、こういった課外活動への支援などは慎重に考えて下さい。

○ 教材代に対する補助制度を作して下さい。負担が重過ぎます。

○ 大学は授業の情報を学期が始まる前にもっと公開すべきだと思う。シラバスの短い説明や人から聞いた話だけをもとに授業を選ぶとどうしても「アタリ・ハズレ」が出る。授業アンケートの結果の公開、授業内容の公開等を十分に行なって欲しい。また、その様な不完全な情報はそのままに、カリキュラム改革で授業を「切り」にくくしたのは良くないと思う。学生が多く総合科目（選択科目）を聞きにくい（テストはともかく）機会が失われるように感じる。（←大学について）以上）このアンケートは「?.生活時間について」が答えにくい。入浴しながら読書をして、通学しながら勉強して、テレビ見ながら団らんしているetc. ので足して24時間にするためにテキストに書かざるを得なかった。

○ 何も望みません。東大に栄光あれ、以上です。

○ 新入生の健康診断や諸手続でのサークルの勧誘を禁止していただきたい。大学入学に関する厳粛な手続の後で強引な勧誘をされるのは、新入生に混乱と恐怖を与えるだけである。入試当日のように新入生以外はキャンパス立入禁止にすべきである。また、オリ合宿での未成年者の飲酒の取り締まりを強化させるべきである。オリ合宿が学生自らの手で行われているとはいえ、教養学部には学生の非行を監視して止めさせる義務がある。

○ 必修科目の重みに理系と文系とで不均衡がある。理系は理系科目だけでも山のように学ぶべきことがあるのに、その上、語学まで必修を課されている。教養科

目としての語学の有益さは理解できるし、個人的にも韓国朝鮮語を学べて楽しかったが、理系の全員に将来使うようなことはまずない科目を押しつけるのは負担である。ちょうど文系に教養科目としての数学を必修として課すようなものである。・英Iには構造的に欠陥がある。学生の学びたいこと、教師の個性を無視して画一的に協議を行おうとすることは無理である。英IIのように、少人数で分野を絞った講義を発展させるべきである。・問23の4と23の違いが不明。

- 1年理系の試験を7月と9月にわけると意味はない。7月にまとめて行った方が助かる。
- 本郷に変なビル建設しない方がいいと思う。せっかくあれだけ伝統のある美しい建築があるのだから、新しい建物をつくる時はそこに調和する外観にするべきだ。中身は最先端にすれば良いでしょう。
- 課題を出すならば、模範解答を課題提出後などには用意してほしい。教養課程が長過ぎて、3年になるのに自分の将来がはっきりしなくて心配になる人は多いと思います。
- 自分は法転したかったのに進振り制度によってできなかったのが一番後悔する点なので、進振り制度の改善を望みます。

〔理一女子〕

- 学生相談センターの相談員の数を増やして欲しいです。予約しないと相談できないのがつらいです。(特に)理系の教官が教え方が非常に分かりにくいことが多いです。自分の研究で忙しかつたりするのですが、教壇に立つ以上、生徒のことを考えた講義をしてほしいと思います。

〔理二男子〕

- 大学もまた就職の通過点に過ぎないような場と化していることが多い。高校までとはレベルが大きく異なるにも拘わらず、教科書も授業も難解で、とりあえず進学・卒業するために単位は取得するが、結局学習すべき内容が身につかないまま終わってしまう。成績評価も採点された答案が返却されることなく、評価が「優」「良」といった大雑把なものでは、反省の余地すら残されないであろう。実際、学習は授業ではなく、教科書とは別の本を用意して独学し、大学には単位を取得するためだけに来るという場合も少なくない。出席自体が重要とは思わないが、大学という場を活かした教育を望む。また図書館での本(特に新しい本)の少なさなど、設備も不十分である。改善を求めたい。
- 進学振り分けで、もっと科類の枠を超えて進学できるようにしてほしい。来年度入学者から多少改善されるようですが、なぜもっと早くにそうしてくれなかったのか残念です。ダブルメジャーやトリプルメジャーができないのが残念です。

- 第二外国語や物理など選択することができない教員の単位に対する厳しさと得点のとりやすさを統一してほしい。クラス間で点数のとりやすさに格差がありすぎると思う。進振りに不利な人がでてきてしまう。
- ものすごく努力をして入ったはいいが、入った後に失望させるような大学にはしないで下さい。少なからずそのような人はいるわけで、入学者の期待に沿うような大学を目指して欲しいです。個人的には、もっと各学生の状況に沿った柔らかな性に富んだカリキュラムなどを全国に先がけて導入したら面白いと思います。
- カリキュラムがひどい。3学期までに化学もやろうとするからおかしくなる。数学→物理→化学ってやったほうが楽なのは分かりきったことなから、頭つかってほしい。1、2学期数学、2、3学期物理とか。進振り前に化学もやらないと化学系に興味を持たれず、化学系に進む人が減る、なんてことを主張してる人でもいるんでしょうか?実際には順をおってきちんと化学をやらないから化学がわけがわからなくて、化学系に進もうという人が減ってるだけです。
- 学生の意見の大学への反映については、ユネスコ高等教育宣言第十条一(c)のように高等教育機関は学生を主要なパートナーかつ責任ある当事者とし、よく学生間の議論を尊重し、議論の結果としての学生の総意を大学運営に反映させていく姿勢を保ちさらに進めるべきである。この観点からは、東大確認書は高等教育宣言を先取りしていたとも言え、これらの精神に基いた大学運営を進めることが重要である。大学法人化など激動の時代なればこそ、東大が日本の中で権威を保つにはこのような施策が必要ではないか。
- 授業料免除がここ数年でほとんど廃止状態になり、大変困っている。親が無職なので、卒業できるか謎である。奨学金を受けると、授業料免除の選考で不利になるとのうわさであるが、奨学金の方は利息が付くようであり、アルバイトするにしてもそれが原因で留年すると授業料が1年分増えるというトラップがあり、とくに私の学科は実習に要する時間が過大であるので上のことはエスカレートする。概に留年連鎖に入っている人も周りにおり、大変恐ろしい話である。理学部では院進学が暗黙の前提となっており、就職するにしても、文系の人のように就職活動するヒマが無く、そもそも卒業できる保証もないのでどうしたものか。とまことにニート的であるが、上記の人の場合はフリーターが片手間にときどき学校に来る感じで有る。多くの外国人留学生も同様なようだ。→最近では無利子の奨学融資制度のある慶応大の方が待遇が良いかもしれない。
- 進振り制度の見直しをしていただきたい。大学入学後に点数の取り合いで必死になっている姿というのは実に見苦しいものである。しかし競争のない所に成長がないのも事実であるので、選別方法に新しい判断要

素を加える、または希望者の多い所に多くの教員を増やし環境をととのえるなど新たな制度によって進学先を決めていただきたい。

〔理二女子〕

- 授業料をもっと安くしてほしい。自分は院に行きたいが、その分の学費は休学して稼ぐことを考えている。1年間かけて昔捕鯨船のアルバイトをした人がいたとかきいたことがある。しかもそのつては大学からもらったとか。ウワサですが。もし本当ならもっと大きく募集してほしい。
- サークル活動においても野放図にせず、ある程度規制をもうけて大学側が監視してほしいと思います。私は現在自分の意志とは無関係にあるサークルの代表に無理やり就任させられ、生活がメチャクチャになってしまい、勉学の時間が全くとれません。その仕事をやめると私は駒場には行けなくなってしまいます。また、代をかわる時も次の代の人をだまして代表につけるのも心苦しい事です。1日でもサークルを休むと何十人もの先輩から非難のメールが来て、かなり追いつめられ、そういったシステムが改善できないものかと思っています。
- 大学の学費が高すぎる。親に大きな負担をかけていて申し訳ないと感じる。どんどん上げていくのはやめてほしい。
- 教室移動の多い割に休み時間が短いのでギリギリしなく、人数が多いため次の授業の席取りなどもしなければならぬため、授業後すぐに教員に質問したりする時間がありません。何か対策をとっていただければありがたいと思います。

〔理三男子〕

- 大学運営や教育カリキュラムがかなり良くなっているのを感じます。教務などの窓口の対応も以前と比べて良くなりました。私が東大にこだわって再受験したのは、教養課程でもう一度しっかり勉強したかったからです。以前よりも選択できる科目が格段に増え、大変満足しています。敢えて苦情を言うならば、理系の必修科目(数学、理科)の教官の当たりはずれがかなり大きいような気がします。改善の余地はないものでしょうか。
- 本質を見極めることができる人材を育ててほしい。子供っぽい思考しかできない人が多すぎる。

〔法学部男子〕

- 大学が社会において重要な役割を果たすことは重要だが、一方で大学は専門学校ではないのだから前期課程における教養科目の役割は非常に大きいと思う。のみならず、前期課程に学校外活動(部活、サークル)が盛んであり、その人間形成に対する役割も非常に意

義あるものだと思うので、なるべくこうした活動を大学は支援し、徒らに進振りの強化等による学生の成績向上など“目に見える結果”にカリキュラム構成の際など捉われないようにしてほしい。

- ・ゼミ数を増やすなど法学部砂漠にオアシスをもっと作ってほしい。
 - ・法学部大教室の暖房機がパチパチと騒さいので撤去してほしい。
 - ・学部ごとに昼休みの時間をずらすなど、食堂等の混雑を緩和してほしい。
 - ・講堂前の中庭に住みついている猫の病気を治してほしい。かわいそう。
 - ・大学施設を使った講演会などの情報をもっと事前にほしい。
 - ・1回の講義の情報量が多すぎる講義もあり、それらについてはむしろ補講数を増やした方がよい。
- アンケートの作り方が下手だと思った。用意された項目では回答が見つけられない問題が多かった。また、手書きでこの項目数を集計すること大変お疲れ様です。ただ、デジタルにして早めに大学の施策に反映する方がよいと思う。
- 教養学部では留学制度が充実しているのに、私のいる法学部ではないに等しいことが不満です。あとテストの時に隣の人との間をあけないと受けなければならぬ場合には2つの教室を使うなどして改善して頂きたいです。
- 法人化され悪い意味での伝統にとらわれることなく新しい東大を探る動きがなされていることは非常に素晴らしいと思うし、結果が少しずつ目に見えるようになってきていると思う。法曹を目指す法学部生としては、法科大学院構想に関してもっと資金的援助をしていただければと思う。誰でも法曹になれるというコンセプトが形骸化し、富者のみに許された地位とならないかが心配。また、卒業しても新司法試験に合格する確証がなく、それを考えると非常に不安に思うことがある。
- 大学の職員は学生に対する態度が悪い。様々な手続(特に教務)で非常に非効率なやり方が行われている。履修登録や試験登録など、全てインターネット上でやれば効率がよい。休講情報などの掲示板に載っている情報はインターネットで見られるようにすべき。学生の授業評価の制度を本郷の専門課程でも導入すべきで、評価の低い教官への減給・停職・解雇などの処分がなされるべきだ。
- 法学部の話ですが、司法試験や公務員試験を目指す学生の多くが予備校に通っているという事実は、大学のあり方というもの根本から問われているのではないのでしょうか。学生には意欲のある者もいればない者もいる、などと澄ましている時期は終わったように思います。

- 法学部ですが、ゼミの数があまりにも少なすぎます。又これは学生側の責任もあるでしょうが、教授との距離を感じます。サークルのOB・OGに伺うところによりますと、昔はもっと近かったとのこと。法曹を目指しておりますが、東大ローは他大に比べて施設実務家教員が貧相に思います。友人のレベル・東大への愛着・学者教員の観点から、尚目指したいとは思いますが、実務家養成機関なのか学者養成機関なのか、少々疑問符がつきます。
- 法学部でも少人数授業を実施すべきだと思う。ゼミは授業後しかないためアルバイト・司法試験予備校があるため行くことができず、大教室の授業はモチベーションが上がらず、緊張感もない。有名な教授が適切な教師といえないという状況があり、教育にもっと重点を置いて欲しい。自習を重視する傾向は効率性が悪いと思う。
- 図書館の空調。夏に冷房をもっと早く入れないと勉強がはかどらないと考えます。
- OB・OGとのネットワーク強化（就活でOB訪問ができるように）。学生以外にも開放した教養講義・講座の設置。教員と学外からの論者を交えた定期的なシンポジウムの開催。
- 法学部の学生ですが、教務課の男性の対応が横柄で、非常に不愉快な印象をうけます。教務課の方々には毎年同じ事務を繰り返し行ってマンネリ化しているかもしれませんが、学生の方はそうではなく、ほんの2年ほどの間でしかないのですから、学生生活・事務的な事項で不明な点も多いと思います。それにもかかわらず、説明される時に横柄な態度をされると学部（大学）への愛着が薄らぎます。ですから、教務課の窓口担当者を定期的に変えるなど、マンネリ化を防ぐ対応を採っていただきたい。また、他学部聴講という制度がありながら、事務上の理由のみで卒業年度の冬学期に他学部聴講できないというのは矛盾しているので、改善してほしい。
- 法学部について法曹人養成という意味合いは極めて重要だと思うが、(Law School設置も含め)担当学業「のみ」で時間を過ごす学生を多く見かける。社会全体の見地から法を司る人材であるべきだが、やや幅の狭い大学生活を送った人への信頼感を持てるとは限らない。本学学生は明らかに潜在力は高いが、今の互換のプログラムは人間性を磨く時間を奪っているとすれば改善が必要ではないか？
- 法学部の授業に関することだが、ゼミをもっと充実させてもらいたい。大教室での講義だけでは「東大に来て何を学んだか」ということに胸をはって答えることが出来ない。

[法学部女子]

- 法学部授業を1年からしてもらえないと、司法試験

で他大学に遅れをとり困る！！

- 大学内の建物を改善してほしい。特に内装で、階段が危険な部分など。
- 職員の教育をもっとすべきだ。他サービスを扱う企業等と比較して著しくレベルが低い。学生や外部者に対しての話し方等、基本的事項についての印象が悪い。職員は管理者ではなく、サービスの提供者であると思う。学生の間でこうした意見は以前からあると思うが、目に見えた変化がないのは大学側が学生に対して丁寧な態度をとる必要がないと思っているからですか。
- 法学部の相対評価はやめてほしい。80点以上取っているのに優がもらえないのはさすがにおかしい。
- 独立行政法人化以降の大学はサービスなどが向上し、新鮮さがあふれている。各学部ごとに隔離されがちな帰属意識を“東大”というひとつのアイデンティティとしてまとめていってほしい。他の私大などに比べ、東大のつながりというのは弱い。東大卒ということを決してエリートイズムとしてではなく、東大で勉学に邁進した結果の誇りとして、共感を持てる意味ある言葉になるようにして欲しい。そういう勉学環境と成果、充実感を得られるカリキュラムが提供され続けることを願ってやまない。

[経済学部男子]

- そもそも東大は授業をする意味がないと思う。東大に入るような学力のもち主なら書物を読んで1人で勉強することができるし、授業で1時間3、40分拘束するくらいなら、その間自習時間を設けて出席だけとり、みっちり自習させる方がずっと効率が良い。そして分らないことだけ教授に質問すればよい。授業というのは勉強が嫌いで苦手な人に強制するためにある強制措置のようなもので、それを東大生に強いるのはナンセンス。定期試験を重くすれば勉強の度合は計れるし、学生も勉強するからそれで十分。そして大学生なんだから、もう授業なんてやめてディベートやプレゼンが身に付くカリキュラムを組むべし。
- 経済学部で勉強しても公認会計士の試験には全く対応できません。ダブルスクールをする人達が多く、そのせいで授業に出席できない状況の友人もいます。中央大学ではそのような学生に対し、安価で資格試験対策カリキュラムを提供していると聞いています。経済的にも時間制約面から考えても、そのようなプログラムが大学で提供されれば、就職を考える学生にとって喜ばしいことと考えます。また学部間において学費の差がないというのは、平等に見えて全くの不平等と考えます。文系理系でやはり費用は違うのではないかと思います。
- 駒場と本郷に分割していることのメリットは周知のことであるので、デメリットについて意見したい。最大のものは、本郷で過ごす期間が短か過ぎることであ

る。学部に入り多少専門的な内容が興味深くなってきた頃には就職を考えなければならない。もし駒場と本郷が隣接していれば、先輩からアドバイスを受けられ、専門科目についての情報も得やすくなるし、将来についてよりよく考え、そのための生産的な大学生活を送り易くなると思われる。印象としては、能力を持って余してしまっている「もったいない」東大生が多いと感じる。頑張らない方が得のように思われる状況は好ましくない。もう一点、教官同士の連絡がなさ過ぎて講義内容が効率的でない。

- 1つの科目(2コマ)が2コマ連続で1日/週で講義されずに、2つの曜日にまたがって1コマずつ講義されていますが、1週間の予定がたてづらく、不便です。2つの曜日にまたがって行う有用性がいまいち感じられないのですが……。
- ・最近資格の専門学校に通い詰めのため、かなり偏った生活をしており、当アンケートの最後の方はかなり極端な回答になっているかもしれません。
- 部活動、特に活躍著しいスポーツ(アメフト、ラグロス、野球等)にはもう少し援助があってもいいのでは、と思う。専用グラウンド、部室はあってもおかしくない戦績をあげている。部員数も多いゆえ、他団体との衝突も多い。そういう所は改善してもいいのではないか。また、学内にローソンやド・トルコーヒーが入ってきたのは非常に好感がもてる。もっとそのような外食産業系の充実を期待したい。
- 教務課が昼休みに開いていなかったり、パソコンのパスワードが浅野で配られたり、図書館のスタッフが横柄だったり、全体的に職員のレベル・意識が低いと思う。一体自分たちの給与がどこからでているのか考え直して欲しい。また、様々な組織の責任者に教員がつくのもおかしい。教員は専門職であって管理職ではない。「管理のプロ」を組織のトップに据えるべき。

[経済学部女子]

- 国際競争が評価を高めるため、授業や単位認定をもっと厳しくした方がよい。駒場のときから少人数のゼミなどの機会を設けてほしい(通年で学年10人ほどのもの)。
- 後期教養以外の学部でも単位互換制のある留学制度が充実したらいいと思います。
- 質問数が多くても、数字記入のみで思ったより記入しやすかったです。色々意見を聞いて下さり、こちら側がお礼を言いたいです。東大前期課程の「教養」はとても大切で、なくなってほしくありません。ただ、今の教養課程の中で「経済コース」「物理コース」など、もう少し体系立てた授業の組合わせを提示してもらえたら、新入生には非常に参考になるかもしれない。せっかくいい教師がたくさんいるのに、情報不足で学生が自分が最も興味をもてるような授業に辿りつけて

ないのが、現状のように思う。

[文学部男子]

- 教養学部のカリキュラム。不十分だと思う。もっと「学問の基礎」としての教育を行うべき。現状では後期課程に進学してからそこを補うようになっていて、前期課程の2年が役に立たないことが多いと感じる。
- 奨学金制度をもっと受けやすくしてほしいと思う。国立なのだから。
- 法人化されて予算をとるためには具体的成果・社会的貢献度を示さなくてはいけないのだろうが、文学部をはじめとして、そのようなことに向いていない学問にも同様の基準を適用しないで、十分な環境(スタッフ・資金・機材など)を準備してほしいと思います。
- 文学部に在学しておりますが、決して研究費等の削減は行なわないでいただきたい。また、人文・基礎科学研究の重要性を社会によりアピールするよう努めることが大事だと思います。アンケート協力者には謝礼を配布すべきです。
- 文学部では所属人数の少ない学科も多いが、できるだけ予算を削らないでほしい。予算が少なくなると活気がなくなり、ますます人が集まらなくなる。全て競争原理にまかせるのではなく、学問を育てていくことを目的として、弱少な学科は保護してほしい。
- 就職支援をした方がよい。
- 教養学部で出来た理系科目の選択が、本郷の文系学部に進学すると事実上不可能になるので詰まらない。本郷にも文系でも受けられる(内容だけでなく時間割・手続等カリキュラム上も受け易い)理系科目を設置して欲しい。
- ・駒場開講の教職科目は、1年次は覆習出来ず、3年次は遠くて通えず、一度取り忘れると二度目の機会が実質無いので改善してほしい。
- ・石鹸の置かれていないトイレが何ヶ所もある。便座を高機能にするよりこちらを改善して欲しい。
- ・アンケート62番「アルバイトの目的」は複数回答させて欲しい。
- 本当に面白い授業をやっているのは、授業評価とかをあまり気にしてない先生だと思います。だから評価制度を整えることが満足度アップには直結しないと思います。
- 進振りには点数以外にも面接などの熱意を測る尺度を設けるべきだと思う。また、文Ⅰ・文Ⅱ・理Ⅲなどから法・経・医にそのまま進学する場合に、一定の点数を満たさなければならないようにすべきだと思う。私は文Ⅲに入学したのだが、駒場時代に文Ⅰ・Ⅱとの差を大きく感じた。
- 就職センターでOB訪問するために名簿を探したが、古すぎて使えなかった。また、大学の教授があま

り就職というものに関心を持っていないように思えたのが不満。

- 基礎的な学問知識を軽視して、自分勝手な授業をする教師が多い。概論や特殊講義で演習のような授業をされても学生は困る。レポートなども何を書けばよいのかわからないことが多いので、具体的に示すようにしてほしい。
- 理系学部の設備はどんどん充実させるのに、文系学部の設備はあまり充実されていないような印象を受ける。OBである野口宇宙飛行士の扱いが軽すぎる。(例：パレード) (人件費の問題はあるだろうが) 教員の数を増やしてほしい。
- 情報告知の方法が未だ古くさすぎます。法人化した今、職員の意識改革を進めていただきたい。授業料も一律に上げるのではなく、親の所得に応じて弾力的に徴収してもらいたい。国にへつらうだけの東大にはなってもらいたくない。
- 先端的な研究に力を入れていることをもって大学の発展としようとする姿勢が大学に感じられ、疑問を持たざるを得ない。「役に立つ」ことに力を入れるのも分からないではないが、「役に立たない」ことを対象に日々研究を重ねている人々が大勢いることを大学は忘れないで欲しい。
- 私は現在28歳なのですが、そのようなある程度年齢を経た人間に対する就職関係の相談所のようなものがあれば嬉しいです。

〔文学部女子〕

- ・ぜんぜん訳がわからないのに必修の授業があって四苦八苦しています。内容がどうこうではなく、単純に教師の技術が低いのだと思う。なんとかならないのかなあと毎回思います。英文の先生です。
 - ・ 総合図書館の品揃えが駒場に比べて、どうしてあんなに悪いのかわかりません。検索するとたいがい駒場にあります。
 - ・ 文学部はうごかない機器 (プロジェクタとか) が多すぎる気がします。こわれると授業がいちいち止まるので困ります。
- 正直言うと、入学当初は自分が大学で何を学びたかったのかが分からなくなり、無為に時間を過ごすことがありました。大学では良い意味でのしほりもなく、何か規律がないように感じられたからです。しかし、講義での疑問を教授に伺った際に詳しく説明していただいたり、駒場時代には教養学部報が大学側が学生と関わることを目指して発行されたという歴史的事実を知り、我々学生は大学という大きな組織の中で、たしかに見守られている存在なのだと実感するようになりました。
- 現在の奨学金制度を緩和してほしい (収入制限)。大学が独立行政法人化して、一層理系へ力が入られ、

文系と設備投資に歴然たる格差が感じられる (自分の学科は何故か経済学部に通借り状態である)。学問に依らず、実績を顧慮してもらえたらと思う。個人的意見だが、理系の新設建築物が大学の景観を著しく損ねている気がしてならない。アメリカやヨーロッパの大学の様な配慮があっても良いのではないか。

- 教員の授業アンケートは本当に反映されているのか、学生にわからせる気がない先生が多すぎる (うちの学科だけかもしれない)。
- P. 3の25の回答の仕方が分かりにくい。教員が働きすぎている。(研究・教育以外で) 法人化して、学生にとってはより充実した環境が与えられているが、それを支えるための会議などで、教員と実際に顔を合わせて会話する時間が取りにくくなっており、その点においては本末転倒。職員の質を向上させ、権限を大きくすることで、現在の未だ公務員的な業務のあり方を改善して欲しい。
- ・ 研究室への適正な配分 (施設・研究費共に) を考えて欲しい。とってきた研究費が再配分で減る側の研究室にエレベーターがないのはおかしい。
 - ・ 昼休みのシフトをずらすなどの工夫で昼休みも事務室系をあけて欲しい。学業の妨げである。

〔教育学部男子〕

- 大学の役割は急速に変化してきている。東大は学生からの要望も社会からの要請にも応えていない。従来のように科学技術や法律といった限られた専門知識が社会に求められているわけではない。もちろん、現在でもその重要性は失われていないが、今最も求められているのは、有能なリーダー、プロデューサーである。東大が現在の地位を維持したいのであれば、このような要請に早く対応すべきだと考える。
- 個人的には東大の伝統ある景観が好きなので、新たな研究棟などを建設する際などは景観に注意を払っていただけるとうれしいです。
- 38や40などは既に就職先が内定している身としては、最初から解答が限定されていた。大学への要望としては、全ての学部・学科でのゼミの実施と就職支援の徹底を挙げておきたい。特に就職支援に関しては、学部・学科レベルでのOB・OGとの交流の場を提供してほしい。他大 (上智) には、学部一年生を対象に様々な業界で活躍するOB・OGが仕事の話をする授業があるが、そういうものも良いと思う。

〔教育学部女子〕

- もし大学が本当に学生の意識・勉学の力の向上を考えるなら、学生が努力しがいのあるカリキュラム、興味を惹く取り組みを考え、また教職員の意識も改めてほしい。同じ授業でも評価が分かれる、選択の余地のない必修なのに教員のやる気がない、・・・そのよう

な状態では学問の府として将来が危ぶまれるのではないか。均質化しろとは言わないが、最低限の習得レベルの基準を設け、それ以上の教育をしたうえで初めて評価が成立するのではないか。ただでさえ「点取り上手」が進学に有利で「志望度」が反古にされつつあるのに、このままでは大学の学生からの信頼度が下がってしまうように思われる。

〔教養学部(文系)男子〕

- 教養学部後期課程はひとつの学部としての機能を果たしていないと思う。シラバス配布予定が知らされないなど教務課の対応も悪いし、レポートの回収も一括してやるべき。就職課や就職ガイダンスもやってほしい。調査について。年収やお金の使い方や時間の使い方は興味があるデータだが、正確に答えるのは難しいので信頼できるデータが集るとは言いにくいのは・・・。
- 教養学部後期課程が忘れられているような気がします。就職支援はすべて本郷ですし、図書館の開館時間も総合図書館に比べて短いと思います（長期休暇中）。特に就職支援の場を小さくてもいいので駒場に求めます。関連社会科学分野の学生室・学生研究室のようなものがほしいです。
- 大学にはとても満足しています。結果が出るのが楽しみです。

〔教養学部(理系)男子〕

- 大学への要望としては、試験問題の解答配布、解答用紙の返却をもっと推進して頂きたいです。場合によっては順位の公表などもして頂きたいです。私自身の性格も良くないと思うのですが、総じて発奮剤となることが少ないように感じます。調査表への要望としては、個人的なことになりますが、国際交流の項目に“経験なし”があると嬉しかったです。また、問66は同時に行っていること（通学しながら読書）もあるため、合計欄はなくてもよいと思いました。
- 教養、基礎講義に対する要望です。理系の基礎講義では、内容を教官の裁量に任せ過ぎて、もっとしっかりした教程を作るべきだと感じました（例えば、数ⅠAの講義では集合論ばかりやって微積分は殆ど扱われませんでした）。教養科目では（止むを得ないかも知れませんが）教官の専門に偏り過ぎたものが多いと思います。大局観ある教養を授け与えるような（「経済理論とその実際の歴史」などといった長く広いスパンから鳥瞰したような）講義があっても良いのではないのでしょうか。

〔理学部男子〕

- 奨学金を充実させてほしい。あと、授業料が高いと思う。どの学部・学科も同じというのはおかしいと思う。明らかに必要のないところからも同じお金をとるのは変だと思う。
- 大学というより図書館への要望になるが、学部生と院生の待遇の差をなくしてほしい。専攻の図書館では学部生はコピーを取ることもできないし、院生からのみのサービスも多い。予算の都合という答はよく耳にするが、こちらも院生に匹敵する学費を納めていることをもっと考慮していただきたい。
- このようなアンケートのフィードバックをもっとしっかりとした形で行ってほしい。授業評価アンケートなども書かされるが、教官の意識が変化しない限り授業は変わらないのだから、現状をよく考えてももっとやるべきことをすべき。アンケートをとって満足してはいけないと思う。
- 後期課程、大学院で会うことになる研究科所属の先生達と前期課程のうちから学生に紹介してほしい。（たとえば全学自由ゼミのようなものをもっと充実させるなど）。能力のある先生と間近に接することは学習意欲を大きくかきたてるので。

〔理学部女子〕

- OBの方々のお話やキャリアプランを考える機会が増えてきてとても良いと思います。これからもこのような機会を作って頂きたいです。

〔工学部男子〕

- 学費を安くしてほしい。近年学費を頻繁にかつ大幅に上げ続けたことにより十年前、二十年前と比べて格段に高くなったし、諸外国と比べても国立大学の学費としては異例の高さにある。このことは、大学への要望というよりは、むしろ国の教育に対する考え方に対しての不満である。憲法違反である私立大学への助成金を支払う一方で、私立大学と国立大学の学費の格差をなくすために学費を値上げするというのは納得できないし、大学に効率的な経営を押しつける形となった法人化も、学問探究の場に負担をかけていると思う。
- インターンシップをもっと重く見たカリキュラムができて良い。
- 真剣に部活動にとり組んでいる人に理解のあるカリキュラムにして欲しい。「～の実験に出れなきゃ、後一年頑張らね（留年しろ）」というのではなくて、もっと選択の幅をひろげて欲しい。確かに自分で選んだ道だが、学生というある程度甘えの利く時代から一つの目標（部活等）を選ぶ為に通常の進学や希望の方面に進む事をあきらめるのは酷だと思う。
- 授業の少人数化・座学以外の授業の増加・週に1度の授業の毎週複数回化・授業科目のしぼり込みを要望

します。

- 調査項目が多過ぎる。
- 学生間の連携、教員との連携が必要で、このしくみを作ることが重要。情報の透明性と伝達システム（全学生に周知）の設備が急がれる。有名講師や教授（実力のある）の能力をもっと内部学生にアプローチしてほしい。テレビや新聞だけでなく。
- 大学に入ったらあとは楽、という日本の大学の実態を改善すべき。授業を理解しなくても過去問をやれば単位は簡単に来るし、文系に至っては必要単位が少ないから大学4年間の半分は遊んでも卒業できる。企業も成績とかの評価はそれほど高くなく入ってから再教育というのもそれを助長している。
- 人事システムを改良し、教授になれば安態というのではなく、どれだけ教育に貢献したか、教え方を考案したかという点でも評価してほしい。また教える専門家としての教授も雇って、研究と二足の草履の教授たちに教え方についてアドバイスしてあげてほしい。
- 集計結果を掲示して下さるのはわかりました。ではこの調査結果を基にどのような改善が行われたのかは示されるのでしょうか？
- 大学1、2年があまりにも自由すぎると感じている。クラスとしてまとまれる場（高校でいうHR的なもの）が必要だと感じた。
- 本郷キャンパスに、駒場における学生会館キャンパスプラザのようなサークル活動の為の建物が欲しい。
- 大学の教授の質が悪すぎる。（まず、授業で学ぶための紙に印刷した教材を配るべきだ。黒板に書いただけの授業や授業に出ていないとテストが解けないような授業は教授の権力が強く、生徒の不安の要因になり、授業の内容も理解しにくい。出席点をつけるような授業はその授業の出席率を授業の良さにかかわらずあげている。）解決方としては、それらの悪い授業を禁止し、それを勉強すれば出席しなくても知識を得られる共通の教科書・問題集をのぞむ。また90分の授業は座っているのには長すぎ、これで体調が悪化する生徒は多い。大切なのは教授の満足でなく、生徒が学ぶ事である。これらが改善しなければ、生徒に精神的被害が多いのも無理はない。

〔工学部女子〕

- 私が所属する学科は、迷惑な程（笑）面倒見がよく、学問・研究に対して熱心で学習環境に恵まれて良かったと思っている。大学への要望・・・深夜に本郷正門を閉めないで欲しい。安全面や警護上ムリかもしれないが。

〔農学部男子〕

- 親の収入に関係なく学費免除や奨学金を受けられるようにしてほしい。学生それぞれに事情はある。無駄

なトコロにばかり金を使わず、研究費や学生への支援に金を使ってほしい。経済的理由で志を断たれる学生は多い。

- 東京大学は研究機関も多岐にわたり、非常に勉強するには申し分ない大学であると思う。しかし教員もまた多く、研究に向くあまり学生への教育に対しては消極的と思う。学生もなかなか意識的に教員に向かう姿勢もとれないのも原因だが、学生の意識を変えるような教員の努力も欲しいと思う。
- 大学は学生に自主性をもたせて勉強させたり、社会に適応したりさせる場所なので、大学側が制度を整えて管理していこうとする考え方では、学生は卒業後伸びないのではないのでしょうか。また、大学側は学生にサービスを提供することを認識して、たかが学生相手と油断せず、社会人とはどんなものか規範となるような態度をとるべきだと思います。一番身近な社会人ですから。
- 進振り制度があるなら、1、2年生は教養、3、4年は専門と明確にカリキュラムを分けてほしい。（2年冬学期に専門科目の基礎的な科目があり、卒業必要条件に含まないでほしい。）この制度により編入した際に、1年多く時間、お金がかかるので、専門と教養をはっきりわけるか一緒にするか、どちらかに一本化してもらいたい。編入生は少数だし、1年余分にかかることを承知で入ってきているので、こういう事を言える立場ではないかもしれないが、やはり他大学と比較した際に1年間、教養科目や専門科目のわずかな単位の為に時間とお金をかけるということは、デメリットと思ってしまう。
- アメリカの大学院のように、大学院の学生に対して教授が研究費から奨学金として経済援助できる制度を作してほしい。特に理系の院生はアルバイトする時間などなく、経済的に苦しい。経済的な部分がネックになって、能力もあり、研究をしたいのに進学をあきらめる人が結構いる。院生に対する支援がうすいために若い才能がすみ取られている。
- 教養時代をもう少し減らして、理系の研究室配属を早くした方がよい。そうしないと、3年の就活時に院に進学するか就活するか決められず、結局院に進むしかなくなる。

〔農学部女子〕

- 進学振り分けで第1希望の学科に行けないのはとても悔しかった。できれば全員希望する所に行ければ良いと思う。全体の成績でなく、進学振り分け用のテストを2回ほど行ってもらえれば、そのための努力なら惜しまないのに、と思う。

〔薬学部男子〕

- 学生証にクレジット機能をつけなければ電子マネー

として生協で使えるカードがない状態だが、多くの知人はクレジット機能は必要なく、また、常に持ち歩く学生証（御殿下使用時にあずけもする）だけに紛失も怖く、むしろクレジット機能はほしくないと言っている。学生証に電子マネー機能のみを付加したのも1つの選択肢として挙げてほしい。キャンパス内にコンビニやカフェが入ったのは良い試みだと思うが、もうすぐ薬学部の近くにできるコンビニも1つ既にあるローソンという噂は本当なのか。選択肢を増やす意味でも競争原理からサービス向上を目指す意味でも次は異なるコンビニを入れるべきである。

- 就職のバックアップやOBとの交流の場をもう少し提供してほしい。また、大学の研究で社会の役に立ちそうなものは世に出しやすいように支援すべきであると思うし、特許の取得に関しても支援すべき。ただ、基礎研究の行ないやすい環境も同時に維持するよう工夫すべき。

〔医学部男子〕

- 近年、独法化に伴い国立大学を取りまく環境は厳しいと思われませんが、授業料の値上げだけはしないで欲しいと思います。経済的に裕福でなくとも大学へ行けるということが国公立大学の大きな利点だと思われるからです。特に私の通う医学部では、私立の授業料は桁違いに高く、とても手が届かないのです。
- 卒業に関する要件はもう少し厳しくしても良いかもしれぬ。東大卒業生の資質（quality）保証がなされている気がしない。
- 専門課程に進学してからの教育には非常に満足している。しかしその分、教養課程での時間が有効に使えなかったことが悔やまれる。駒場にももう少し専門色の強い講義があっても良いと思う。

〔医学部女子〕

- かなり面倒なので、次回からは選ばれたくない。
- 進振り制度に関して文Ⅱ→経や理Ⅲ→医の進学枠を減らす理由が分からない。大学側の権威の誇示の様に感じる。圧倒的自由の中で学生が自らの道を探し、交流し合うことで生まれる新たな潮流が駒場時代の魅力なのに、与えられた課題に対し高得点を出すことを是とする教育を強化してどうするのか？それではSomething Newは生まれ得ないと思う。私は私の同時代人と私に対し、東大が与えた「場」に対し、感謝しているし貴重な物だったと思っている。下の人にも是非与えて下さい。
- 独立行政法人化により大学の経営が厳しくなっていることは察するが、近年の授業料の値上げはあまりにも急激で、これ以上の値上げには賛成できない。より幅広く門戸を開き、多くの学生が貧富にかかわらず教育を受けられるよう、授業料の値下げ、減免や奨学金

制度の充実などを望む。また、単位認定や卒業などのハードルを高く設定し、学生の自主的・積極的な勉学を奨励すべきである。

第55回（2005年）学生生活実態調査票

I. 基本的事項について伺います。

1. 性別	1. 男 無回答	1,050人 2	76.8 % 0.1	2. 女 合計	315人 1,367	23.0 % 100.0
2. 科類・学部 1・2年生の方は右の 01から06までの該当す る番号を記入してくだ さい。	01. 文 I 03. 文 III 05. 理 II 11. 法 13. 文学部 15. 教養(文型) 17. 理 19. 農 21. 医	112人 122 122 134 71 23 51 62 47	8.2 % 8.9 8.9 9.8 % 5.2 1.7 3.7 4.5 3.4	02. 文 II 04. 理 I 06. 理 III 12. 経 済 14. 教 育 16. 教養(理系) 18. 工 20. 薬 合計	68人 256 17 69 30 14 151 18 1,367	5.0 % 18.7 1.2 5.0 % 2.2 1.0 11.0 1.3 100.0
3. あなたの出身高校は、 どれに該当しますか。	1. 国立(大学附属) 3. 中高一貫型の私立 5. 大学入学資格検定 7. その他() 合計	115人 688 4 6 1,367	8.4 % 50.3 0.3 0.4 100.0	2. 公立 4. その他の私立 6. 外国学校 無回答	493人 46 14 1	36.1 % 3.4 1.0 0.1
4. 現役・浪人等	1. 現 役 3. 2浪以上 5. その他()	937人 37 23	68.5 % 2.7 1.7	2. 1 浪 4. 学士入学 合計	357人 13 1,367	26.1 % 1.0 100.0
5. 現在の学年	1. 1 年 3. 3 年 5. 5年(医学・獣医)	297人 334 12	21.7 % 24.4 0.9	2. 2 年 4. 4 年 5. 6年(医学・獣医)	398人 315 11	29.1 % 23.0 0.8
6. 入学年度	①2001年 ③2003年 ⑤2005年	100人 332 281	7.3 % 24.3 20.6	②2002年 ④2004年 無回答	262人 391 1	19.2 % 28.6 0.1
7. 進学年度(後期課程の方 のみ)	①1999年 ③2003年 ⑤2005年 合計	1人 56 325 670	0.1 % 8.4 48.5 100.0	②2002年 ④2004年 無回答	19人 255 15	2.8 % 38.1 2.1

II. 入学・進学・学業について

8. 東大を受験する際に東 大に入学することをど の程度希望してしまし たか。	1. 東大にどうしても入りたかった 2. 東大がだめなら他大学でもよいと思った 3. 他大学がだめなら東大でもよいと思った 無回答 合計	807人 527 28 5 1,367	59.0 % 38.6 2.0 0.4 100.0
--	--	---------------------------------	---------------------------------------

9. 東大入学の動機は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 東大の社会的評価が高いから	718 人	52.5 %
	2. 東大卒ということが就職に有利だから	184	13.5
	3. 受験の難関を突破したことを示したかったから	224	16.4
	4. 家族・親族・先生・先輩・友人などの勧めで	365	26.7
	5. 学びたいことがしっかり学べそうだから	658	48.1
	6. 入学後に専攻分野の選択が可能だから	625	45.7
	7. 経営・運営・制度が優れているから	30	2.2
	8. 伝統や雰囲気は憧れて	387	28.3
	9. 自宅に近いから	141	10.3
	10. 経済的理由で	260	19.0
	11. なんとなく	195	14.3
	12. その他 ()	79	5.8
	合計	1,367	100.0
10. 入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか。	1. 学科等まで決めていた	369 人	27.0 %
	2. 学部のみを決めていた	474	34.7
	3. 学部・学科等は決めていなかった	524	38.3
	合計	1,367	100.0
11. 学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか(しますか)。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 最先端の学問・技術が学べること	231 人	16.9 %
	2. 自分が惹きつけられた分野であること	1,108	81.1
	3. その学部・学科等の教員に魅力を感じる	180	13.2
	4. 社会に役立つ度合いの大きい分野であること	312	22.8
	5. 就職の際に企業等から高く評価されること	101	7.4
	6. 就きたい職業に必要な能力を磨けること	435	31.8
	7. 特に重視した(する)点はない	80	5.9
	無回答	2	0.1
合計	1,367	100.0	
進学内定者及び後期課程学生に伺います。 12. 進学の決定(内定)は、希望通りでしたか。	1. 希望通り決定(内定)した	869 人	81.2 %
	2. ほぼ希望通り決定(内定)した	134	12.5
	3. 希望通りでなかった	47	4.4
	無回答	20	1.9
合計	1,070	100.0	
13. 現在在籍している学部・学科等(科類)に満足していますか。	1. 満足している	493 人	36.1 %
	2. まあ満足している	504 人	36.9 %
	3. どちらとも言えない	191	14.0
	4. やや不満である	108	7.9
	5. 不満である	57	4.2
無回答	14	1.0	
合計	1,367	100.0	
14. 進学振り分け制度についてどのように考えていますか。	1. 特に考えていることはない	419 人	30.7 %
	2. 現行のままでよい	519	38.0
	3. 入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい	137	10.0
	4. 点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい	268	19.6
	無回答	24	1.8
合計	1,367	100.0	
15. 現在のカリキュラムに満足していますか。	1. 満足している	155 人	11.3 %
	2. まあ満足している	602 人	44.0 %
	3. どちらとも言えない	267	19.5
	4. やや不満である	245	17.9
	5. 不満である	91	6.7
無回答	7	0.5	
合計	1,367	100.0	

16. 現在のカリキュラムは消化できますか。	1. できる	560人	41.0%	2. まあできる	521人	38.1%
	3. 多少困難	233	17.0	4. できない	47	3.4
	無回答	6	0.4	合計	1,367	100.0
設問16で「3」または「4」と答えた方に伺います。	1. 進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる	75人	26.8%			
	2. 講義の内容が高度すぎて理解できない科目がある	150	53.6			
	3. カリキュラムの組み方が不適切である	67	23.9			
17. その理由はどれにあたりますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	4. 教育上の指導助言が十分でない	94	33.6			
	5. 入試科目でないので勉強しなかった科目がある	38	13.6			
	6. 高校までの勉強の仕方ではうまく適応できない	53	18.9			
	7. 授業の予習と復習の時間が十分とれない	116	41.4			
	8. 授業への自分の意欲や努力が足りない	131	46.8			
	9. その他 ()	19	6.8			
	無回答	8	2.9			
	合計	280	100.0			
18. 学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	1. 大学院に進学する	690人	50.5%	2. 学士入学をする	6人	0.4%
	3. 就職する	425	31.1	4. 進学も就職もしない	2	0.1
	5. まだ決めていない	206	15.1	6. 起業する	8	0.6
	7. その他 ()	21	1.5	無回答	9	0.7
	合計	1,367	100.0			
設問18で「1」と答えた方に伺います。	1. 大学院修士課程	426人	61.7%			
	2. 大学院博士課程	204	29.6			
19. どこまで進学を予定していますか。	3. 専門職学位課程	56	8.1			
	無回答	4	0.6			
	合計	690	100.0			
設問18で「1」と答えた方に伺います。	1. より高度の知識・技術を身に付けるため	480人	69.6%			
	2. 大学の教育職に就くため	97	14.1			
	3. 大学外で研究職に就くため	101	14.6			
20. その理由は、次のうちどれにあたりますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	4. 必要な資格を得るため	85	12.3			
	5. 良い就職先を得るため	111	16.1			
	6. まだ社会に出たくないから	90	13.0			
	7. 就職先が決まらないから	17	2.5			
	8. 周囲に勧められたから	21	3.0			
	9. 大学院修了ということの社会的評価が高いから	64	9.3			
	10. 学部での進路指導に従って	22	3.2			
	11. その他 ()	24	3.5			
	無回答	63	9.1			
	合計	690	100.0			

Ⅲ. 就職について

21. どのような職業に就きたいと思いますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学・公的機関の教育・研究職	562人	41.1%
	2. 企業等の研究職	536	39.2
	3. 技術職	327	23.9
	4. 事務職	317	23.2
	5. 教育職(大学を除く)	119	8.7
	6. 行政職(公務員)	432	31.6
	7. 専門職(医師、法曹、公認会計士等)	458	33.5
	8. マスコミ(新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等)	225	16.5
	9. その他()	94	6.9
	無回答	15	1.1
	合計	1,367	100.0
22. その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由からですか。 (主なものを3つまで選び、号を記入してください。)	1. 人を助けたり社会に奉仕する	579人	42.4%
	2. 安定した生活が保証されている	420	30.7
	3. 十分な収入が期待できる	406	29.7
	4. 自分の特技・能力や専門知識が活かせる	864	63.2
	5. 華やかで、世間からもてはやされる	50	3.7
	6. 社会的な地位・名声が得られる	175	12.8
	7. 組織にしばられず、自由な活動ができる	286	20.9
	8. 人や組織を動かすことができる	179	13.1
	9. 独創性や創造性を発揮できる	427	31.2
	10. その他()	50	3.7
	無回答	12	0.9
	合計	1,367	100.0

23.仕事や職場を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 給料がよい	497人	36.4%
	2. 休みをとりやすい	121	8.9
	3. 責任が軽い	30	2.2
	4. 失業の心配がない	149	10.9
	5. 福利厚生が充実している	85	6.2
	6. 出世の見込みが多い	44	3.2
	7. 技術や知識を身につけられる	303	22.2
	8. 権限が大きい	36	2.6
	9. やりがいがある	965	70.7
	10. 能力が発揮できる	535	39.1
	11. 人から評価される	112	8.2
	12. 仕事を行う上で男女の差別がない	66	4.8
	13. 将来発展する見込みがある	167	12.2
	14. 職場が都心のオフィス街にある	13	1.0
	15. 職場が自然環境のよい郊外にある	6	0.4
	16. 海外勤務の機会が多い	38	2.8
	17. 転勤が少ない	29	2.1
	18. いろいろな人と知り合える	150	11.0
	19. オフィスが新しくてきれい	4	0.3
	20. 職場の人間関係がよい	181	13.2
	21. 職場が近い	21	1.5
	22. 残業が少ない	33	2.4
	23. 雇用が安定している	101	7.4
	24. 世界的な仕事ができる	163	11.9
	25. 英語(外国語)を使う機会が多い	24	1.8
	26. 公務員である	24	3.1
	27. その他()	19	1.4
無回答	2	0.1	
合計	1,367	100.0	
24. あなたはこれまで就職活動をしたことがありますか。	1. ある	272人	19.9%
	無回答	3	0.2%
設問24で「1」と答えた方に伺います。	2.ない	1,092人	79.9%
合計	1,367	100.0	
25.就職活動として、どのようなことをしていますか(いましたか)。 (該当するすべての項目に「1」を記入してください。)	1. インターネット等で、情報を収集する	260人	95.6%
	2. 企業等のセミナーや説明会に参加する	237	86.8
	3. 就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	53	19.5
	4. 職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	55	20.2
	5. その他()	10	3.7
無回答	2	0.7	
合計	272	100.0	
26.就職する場所はどこを希望しますか。	1. 東京圏(東京近郊)を希望する		54.0%
	2. 東京圏(東京近郊)以外を希望する		1.0
	3. 出身地に近いところを希望する		5.4
	4. 東京圏、東京圏以外どちらでもよい		33.1
	5. 海外を希望する		3.8
	6. その他()		1.8
無回答		0.9	

27. ニート、フリーターに関するあなたの評価をお聞かせください。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. ニートもフリーターも望ましくない	459人	33.6%
	2. ニートは許せないが、フリーターは自分の適切な職が見つかるまでは仕方がない	364	26.6
	3. ニートやフリーターの存在は今の世の中では許容される	329	24.1
	4. ニートやフリーターは本人に責任がある	634	46.4
	5. ニートやフリーターを生む現在の社会に責任がある	478	35.0
	6. その他 ()	91	6.7
	無回答	8	0.6
	合計	1,367	100.0
28. ニート、フリーターに関するあなた自身の関わりをお聞かせください。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 自分は絶対ニートやフリーターにはならないように思う	847人	62.0%
	2. 自分はニートはならないが、フリーターになるかもしれない	286	20.9
	3. 自分はニートやフリーターになるように思う	101	7.4
	4. 自分の周りにニートやフリーターをやっている人がいる	483	35.3
	5. 自分の周りにはニートやフリーターはいない	565	41.3
	6. その他 ()	49	3.6
	無回答	16	1.2
	合計	1,367	100.0

IV. 不安・悩みについて

29. 現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)						平均
	よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	
(上段:人数、下段:%)	4	3	2	1		
1. 勉学 (成績・単位など)	361 26.4	554 40.5	338 24.7	111 8.1	3 0.2	2.9
2. 学部進学や大学院進学	341 24.9	466 34.1	342 25.0	214 15.7	4 0.3	2.7
3. 就 職	416 30.4	500 36.6	311 22.8	135 9.9	5 0.4	2.9
4. 将来の進路や生き方	641 46.9	498 36.4	172 12.6	51 3.7	5 0.4	3.3
5. 友人との対人関係	179 13.9	432 31.6	584 42.7	169 12.4	3 0.2	2.5
6. 性・異性・恋愛・結婚	290 21.2	523 38.3	398 29.1	153 11.2	3 0.2	2.7
7. 経済的なことや経済的自立	308 22.5	516 37.7	416 30.4	124 9.1	3 0.2	2.7
8. 自分の性格	282 20.6	427 31.2	465 34.0	190 13.9	3 0.2	2.6
9. 自分の体調や健康	143 10.5	347 25.4	553 40.5	321 23.5	3 0.2	2.2
10. 人生の意義・目標	355 26.0	484 35.4	361 26.4	164 12.0	3 0.2	2.8

30. あなたは、不安や悩みを感じたとき、だれと相談したり、話し合ったりしますか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	よく相談する	ときどき相談する	たまに相談する	全く相談しない	無回答	平均
(上段:人数、下段:%)	4	3	2	1		
1. 父・母	204	337	527	293	6	
	14.9	24.7	38.6	21.4	0.4	2.3
2. 兄弟・姉妹	59	133	299	849	27	
	4.3	9.7	21.9	62.1	2.0	1.6
3. 学生相談所・保健センター	11	13	80	1,257	6	
	0.8	1.0	5.9	92.0	0.4	1.1
4. 大学の教職員	3	30	173	1,153	8	
	0.2	2.2	12.7	84.3	0.6	1.2
5. 大学内の同じ学科や研究室の友人	149	380	436	395	7	
	10.9	27.8	31.9	28.9	0.5	2.2
6. 大学内のサークルや団体の友人	209	341	393	416	8	
	15.3	24.9	28.7	30.4	0.6	2.3
7. 大学外の友人	192	362	450	357	6	
	14.0	26.5	32.9	26.1	0.4	2.3
8. 先輩	101	246	427	581	12	
	7.4	18.0	31.2	42.5	0.9	1.9
9. 恋人	212	184	191	740	40	
	15.5	13.5	14.0	54.1	2.9	1.9
31. あなたは最近6ヶ月の間に、次の項目について、体験したり悩んだりしましたか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	よく体験する	ときに体験する	あまり体験しない	全く体験しない	無回答	平均
(上段:人数、下段:%)	4	3	2	1		
1. 強い不安に襲われた	240	463	370	291	3	
	17.6	33.9	27.1	21.3	0.2	2.5
2. 自分でもバカらしいと思う考えが浮かんだり、自分のすることを何度も確かめてみなければならなかった	152	319	412	482	2	
	11.1	23.3	30.1	35.3	0.1	2.1
3. 人と話していてもとても緊張したり、不安を感じた	125	370	446	423	3	
	9.1	27.1	32.6	30.9	0.2	2.1
4. 他の人が自分に敵意を持っている、人から監視されていると感じた	61	202	370	731	3	
	4.5	14.8	27.1	53.5	0.2	1.7
5. バス・地下鉄・電車などの乗り物に乗るのがこわかった	19	50	156	1,140	2	
	1.4	3.7	11.4	83.4	0.1	1.2
6. 気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった	177	416	346	424	4	
	12.9	30.4	25.3	31.0	0.3	2.3
7. 人と一緒にいてもさびしい感じがした	119	375	377	493	3	
	8.7	27.4	27.6	36.1	0.2	2.1
8. 体の病気でもないのに、息切れ・めまい・動悸などがした	36	130	245	952	4	
	2.6	9.5	17.9	69.6	0.3	1.4
9. イライラしたり、物を壊したり人を傷つけたりしたい衝動にかられた	96	258	339	671	3	
	7.0	18.9	24.8	49.1	0.2	1.8
10. やる気がなくなり、無気力状態(アパシー)になった	167	371	364	463	2	
	12.2	27.1	26.6	33.9	0.1	2.2
11. ついつい過食してしまう傾向があった	114	249	283	718	3	
	8.3	18.2	20.7	52.5	0.2	1.8
12. 食欲がなくなり、食べ物を口にしたくないと思った	29	93	200	675	0.3	
	2.9	9.3	20.0	67.5	0.3	1.5

32. あなたの悩みや不安を解消するために、大学にどのような対応があればよいと思いますか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	全く そう思う		まあ そう思う		あまりそう 思わない		全くそう 思わない		無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)									
1. 学生が教員や職員と接触する機会を増やす	137 10.0	487 35.6	435 31.8	302 22.1	6 0.4					2.3
2. 教務課や学生課などの事務機能を充実させる	108 7.9	352 25.7	526 38.5	374 37.4	7 0.5					2.1
3. クラス担任制度やチューター制度を充実させる	109 8.0	338 24.7	485 35.5	427 31.2	8 0.6					2.1
4. 学習方法や学習内容について相談機能を充実させる	160 11.7	511 37.4	396 29.0	293 21.4	7 0.5					2.4
5. 学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる	290 21.2	594 43.5	273 20.0	203 14.9	7 0.5					2.7
6. 就職指導や進路相談の機能を充実させる	374 27.4	558 40.8	237 17.3	190 13.9	8 0.6					2.8
7. 健康相談や保健センターの機能を充実させる	194 14.2	501 36.6	416 30.4	249 18.2	7 0.5					2.5
8. 個人的な悩みの学生相談やカウンセリング機能を充実させる	168 12.3	477 34.9	431 31.5	282 20.6	9 0.7					2.4
9. 奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する	460 33.7	456 33.4	281 20.6	162 11.9	8 0.6					2.9
10. 学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	205 15.0	475 34.7	411 30.1	269 19.7	7 0.5					2.5

V. 大学への要望

33. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. カリキュラムの改革	429人	31.4%
	2. 教室の充実	355	26.0
	3. 実験室や実習室の充実	129	9.4
	4. 教育スタッフの充実	218	15.9
	5. 進学振分け制度の改善	245	17.9
	6. 少人数教育の実施	267	19.5
	7. 授業の方法の工夫・改善	525	38.4
	8. 単位認定や学年試験を緩やかに	252	18.4
	9. 単位認定や学年試験を厳しく	61	4.5
	10. キャンパスの拡大・移転・統合	59	4.3
	11. 図書館の充実	287	21.0
	12. カウンセリング・相談体制の充実	69	5.0
	13. 学生自治に対する適切な助成と助言	24	1.8
	14. 学生自治の尊重	29	2.1
	15. 奨学金(育英資金)・育英貸付金などの拡充や増額	424	31.0
	16. 就職対策の充実	339	24.8
	17. その他()	57	4.2
無回答	27	2.0	
合計	1,367	100.0	

34. 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。 (それぞれの項目について、5段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)	5	4	3	2	1	
1. 社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	86 6.3	152 11.1	462 33.8	511 37.4	154 11.3	2 0.1	2.6
2. 社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	238 17.4	374 27.4	470 34.4	218 15.9	65 4.8	2 0.1	3.4
3. 社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	121 8.9	258 18.9	447 32.7	386 28.2	149 10.9	6 0.4	2.9
4. 社会的貢献を促進するために、(むしろ)基礎研究を充実させる	230 16.8	346 25.3	580 42.4	172 12.6	36 2.6	3 0.2	3.4
5. 研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	427 31.2	507 37.1	353 25.8	53 3.9	23 1.7	4 0.3	3.9
6. 研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	343 25.1	489 35.8	406 29.7	97 7.1	28 2.0	4 0.3	3.7
7. 教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する	481 35.2	437 32.0	320 23.4	97 7.1	30 2.2	2 0.1	3.9
8. 教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる	338 24.7	414 30.3	417 30.5	151 11.0	43 3.1	4 0.3	3.6

VI. 国際交流について

35. いままで右に挙げるような海外渡航の経験がありますか。 (主たるものを3つまで選んでください。)	1. 留学	34人	2.5%	2. 語学研修	110人	8.0%	
	3. 研究・調査旅行	27	2.0	4. ホームステイ	244	17.8	
	5. 家族の海外赴任に同行	156	11.4	6. 海外旅行	769	56.3	
	7. その他 ()	73	5.3	無回答	408	29.8	
	合計	1,367	100.0				
	36. いままで右に挙げるような外国人とのつきあいをしたことがありますか。 (主たるものを3つまで選んでください。) 日本国内のことについて伺います。	1. 外国人留学生の友人がいる (いた)				588人	43.0%
	2. 留学生以外に外国人の友人がいる (いた)					287	21.0
3. 手紙、電子メール、電話などで連絡をとりあう外国人がいる (いた)					333	24.4	
4. 通訳、相談などで外国人の手助けをしたことがある					103	7.5	
5. ホームステイの受け入れをしたことがある					85	6.2	
6. その他 ()					44	3.2	
無回答					501	36.5	
合計					1,367	100.0	

37. いままで以上に挙げ るような国際交流の経 験をしたことがありますか。 (主たるものを3つま で選んでください。)	1. 異文化理解、国際交流を目的とした授業にでたことがある	285人	20.8%			
	2. 異文化理解、国際交流を目的とするサークルなどに加入している (いた)	73	5.3			
	3. 国際ボランティア活動、NGO・NPO活動に参加したことがある	66	4.8			
	4. その他 ()	70	5.1			
	無回答	696	69.3			
	合計	1,367	100.0			
38. 就職の希望先として 外資系企業・国際機関 などへの就職を希望し たいと思いますか。	1. 希望する	507人	37.1%	2. 希望しない	845人	61.8%
	無回答	15	1.1	合計	1,367	100.0
39. あなたは将来、海外 留学の機会があれば希 望しますか。	1. 留学したい	527人	38.6%			
	2. どちらかといえば留学したい	371	27.1			
	3. どちらともいえない	236	17.3			
	4. どちらかといえば留学したくない	126	9.2			
	5. 留学したくない	101	7.4			
	無回答	6	0.4			
合計	1,367	100.0				
設問39で「1」または 「2」と答えた方に伺い ます。 40. どの段階で海外留学 を希望しますか。	1. 学部 (前期課程) 在籍中	51人	5.7%			
	2. 学部 (後期課程) 在籍中	138	15.4			
	3. 大学院 (専門職学位課程) 在籍中	55	6.1			
	4. 大学院 (修士課程) 在籍中	208	23.2			
	5. 大学院 (博士課程) 在籍中	118	13.1			
	6. 就職後	321	36.4			
	無回答	1	0.1			
合計	898	100.0				

VII. 家庭の状況について

41. 家庭の所在地はどこ ですか。 都市規模が不明の場合 は具体的に都市名を記 入してください。	A. 地 区					
	1. 東京都	349人	25.5%	2. 関 東	441人	32.3%
	3. 北海道	14	1.0	4. 東 北	48	3.5
	5. 中 部	162	11.9	6. 近 畿	131	9.6
	7. 中 国	56	4.1	8. 四 国	32	2.3
	9. 九州・沖縄	122	8.9	10. その他	7	0.5
	無回答	5	0.4	合計	1,367	100.0
	B. 都市規模					
	1. 大都市=人口100万人以上	498人	36.4%			
	2. 中都市=人口10万人以上	505	36.9			
	3. 小都市=人口10万人未満	166	12.1			
	4. 郡 部	66	4.8			
	無回答	132	9.7			
	合計	1,367	100.0			
	具体的な都市名 _____ 市					
42. 主たる家計支持者は だれですか。	1. 父	1,210人	88.5%	2. 母	90人	6.6%
	3. 本人	3	0.2	4. 兄弟姉妹	0	0.0
	5. 祖父母	9	0.7	6. 配偶者	2	0.1
	7. だれと一口にいえない	40	2.9	8. その他 ()	7	0.5
	無回答	6	0.4	合計	1,367	100.0

43. 主たる家計支持者の職業はどれにあたりますか。	1. 専門的、技術的職業	372人	27.2%
	2. 教育的職業	157	11.5
	3. 管理的職業	367	26.8
	4. 事務	130	9.5
	5. 販売	69	5.0
	6. 農・林・漁業	13	1.0
	7. 生産工程・採掘作業	25	1.8
	8. 運輸・通信・保安・サービス	136	9.9
	9. 無職	36	2.6
	10. その他（ ）	28	2.0
	無回答	34	2.5
	合計	1,367	100.0
44. 主たる家計支持者の年収（税込み）はどれくらいですか。	年収を単位「十万円」で記入してください。 ……………	1,120人	103.9十万円 (十万円未満四捨五入して記入)
45. あなたの家族の世帯年収（税込み）はどれくらいですか。	年収を単位「十万円」で記入してください。 ……………	1,111人	117.9十万円 (十万円未満四捨五入して記入)

VIII. 生活費の状況について

<p>46. 右の各欄に金額を記入してください。 (最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の収支額を記入してください。)</p> <p>(注) 食費 自宅生は外食代(費)を記入する。</p> <p>勉学費 勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具代、実習旅費等 (授業料等の学校納付金を除く。)</p> <p>教養・娯楽費 教養・娯楽費のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の入場料等。</p> <p>雑費 理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、電話代、医療費、水・光熱費等。</p> <p>家庭からの仕送り・小遣い 親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。</p>	<p style="text-align: center;">1ヶ月の支出額を単位「千円」で記入してください。</p> <p>衣料費1,081人 12.36 千円</p> <p>食費1,261 26.06</p> <p>住居費681 68.22</p> <p>勉学費1,197 9.32</p> <p>教養・娯楽費1,222 14.44</p> <p>通学費955 7.99</p> <p>通信費1,027 7.18</p> <p>雑費1,159 10.36</p> <p>支出額合計1,281 98.11</p> <p style="text-align: center;">1ヶ月の収入額を単位「千円」で記入してください。</p> <p>家庭からの仕送り・小遣い1,142 77.96 千円</p> <p>奨学金284 58.83</p> <p>アルバイト・雑収入895 46.26</p> <p>収入額合計1,291 110.41</p>
---	--

IX. 通学・住居について

<p>47. 現在どこに住んでいますか。</p>	<table border="1"> <tr> <td>1. 東京都(23区内)</td> <td>815人</td> <td>59.6%</td> <td>2. 東京都(23区外)</td> <td>166人</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>3. 横浜市</td> <td>109</td> <td>8.0</td> <td>4. 川崎市</td> <td>50</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>5. 神奈川県(「3」・「4」を除く)</td> <td>43</td> <td>3.1</td> <td>6. さいたま・川口・蕨の各市</td> <td>30</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>7. 埼玉県(「6」を除く)</td> <td>55</td> <td>4.0</td> <td>8. 千葉・船橋・市川・習志野の各市</td> <td>35</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>9. 千葉県(「8」を除く)</td> <td>46</td> <td>3.4</td> <td>10. その他の県</td> <td>14</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>4</td> <td>0.3</td> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	1. 東京都(23区内)	815人	59.6%	2. 東京都(23区外)	166人	12.1%	3. 横浜市	109	8.0	4. 川崎市	50	3.7	5. 神奈川県(「3」・「4」を除く)	43	3.1	6. さいたま・川口・蕨の各市	30	2.2	7. 埼玉県(「6」を除く)	55	4.0	8. 千葉・船橋・市川・習志野の各市	35	2.6	9. 千葉県(「8」を除く)	46	3.4	10. その他の県	14	1.0	無回答	4	0.3	合計		
1. 東京都(23区内)	815人	59.6%	2. 東京都(23区外)	166人	12.1%																																
3. 横浜市	109	8.0	4. 川崎市	50	3.7																																
5. 神奈川県(「3」・「4」を除く)	43	3.1	6. さいたま・川口・蕨の各市	30	2.2																																
7. 埼玉県(「6」を除く)	55	4.0	8. 千葉・船橋・市川・習志野の各市	35	2.6																																
9. 千葉県(「8」を除く)	46	3.4	10. その他の県	14	1.0																																
無回答	4	0.3	合計																																		
<p>48. 居住形態はどれにあたりますか。</p>	<table border="1"> <tr> <td>1. 自宅</td> <td>663人</td> <td>48.5%</td> <td>2. 自宅外</td> <td>698人</td> <td>51.1%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>6</td> <td>0.4</td> <td>合計</td> <td>1,367</td> <td>100.0</td> </tr> </table>	1. 自宅	663人	48.5%	2. 自宅外	698人	51.1%	無回答	6	0.4	合計	1,367	100.0																								
1. 自宅	663人	48.5%	2. 自宅外	698人	51.1%																																
無回答	6	0.4	合計	1,367	100.0																																

49. 自宅外の方に伺います。 現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。	1. 分譲マンション			33人	4.7%	
	2. 賃貸マンション・アパート			490	70.2	
	3. 下宿			19	2.7	
	4. 東大学寮・三鷹国際学生宿舎			56	8.0	
	5. その他の寮			84	12.0	
	6. その他 ()			14	2.0	
	無回答			2	0.3	
	合計			698	0.3	
50. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (移動時間の多いものを選び、番号を記入してください。)	1. 電車	1,015人	74.3%	2. バス	3人	0.2%
	3. 自家用車	1	0.1	4. バイク	16	1.2
	5. 自転車	249	18.2	6. 徒歩のみ	77	5.6
	7. その他 ()	0	0.0	無回答	6	0.4
		合計	1,367	100.0		
51. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 (分単位で記入してください。)	所要時間			1,361人	47.0分	

X. 奨学金について

52. 日本学生支援機構又は他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	1. 受けている			303人	22.2%	
	2. 受けたいが受けられなかった			203	14.9	
	3. 受けたくない			59	4.3	
	4. 受ける必要がない			790	57.8	
	無回答			12	0.9	
	合計			1,367	100.0	
設問52で「2」または「3」と答えた方に伺います。 53. その理由はどれにあたりますか。	1. 出願はしたが採用されなかった			50人	19.1%	
	2. 書類を期限までに整えられなかった			23	8.8	
	3. 貸与なので申請しなかった			68	26.0	
	4. 事務手続が煩雑だから			34	13.0	
	5. 掲示等に気がつかなかった			27	10.3	
	6. 資格がない			49	18.7	
	7. その他 ()			10	3.8	
	無回答			1	0.4	
	合計			262	100.0	
設問52で「2」または「3」と答えた方に伺います。 54. これから受けたいと思いますか。	1. 受けたい	164人	62.6%	2. 受けたくない	61人	23.3%
	無回答	37	14.1	合計	262	100.0

奨学金を受けている方に伺います

55. どの奨学金を受けていますか。 (該当する番号を記入してください。)	1. 日本学生支援機構第一種奨学金 (無利息奨学金)	154人	50.8%
	2. 日本学生支援機構第二種奨学金 (利息付奨学金)	123	40.6
	3. 財団・地方公共団体等の奨学金	87	28.7
	無回答	4	1.3
	合計	262	100.0
56. 奨学金はどんな面で役に立っていますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 家庭の経済的負担が軽減される	236人	77.9%
	2. 多少ともゆとりのある生活ができる	84	27.7
	3. アルバイトが軽減される	54	17.8
	4. 奨学金があるので生活が成り立っている	95	31.4
	5. 定期的な収入になるので助かる	54	17.8
	6. その他 ()	6	2.0
	無回答	4	1.3
	合計	262	100.0
57. 奨学金の主たる支出目的 (用途) はどれにあたりますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費 (衣・食・住居費)	234人	77.2%
	2. 授業料	98	32.3
	3. 勉学費	142	46.9
	4. 教養・娯楽費	104	34.3
	5. 旅行 (帰省旅行も含む)	24	7.9
	6. 技術・資格等取得の費用	10	3.3
	7. 耐久消費財購入費用	9	3.0
	8. 貯金	43	14.2
	9. その他 ()	3	1.0
	無回答	3	1.0
	合計	262	100.0

XI. アルバイトについて

アルバイトをした方に伺います

58. 過去一年間にアルバイトをしましたか。	1. 継続的 (1ヶ月以上) アルバイトをした	742人	54.3%
	2. 臨時 (1ヶ月未満) アルバイトをした	163	11.9
	3. 継続的+臨時アルバイトをした	191	14.0
	4. しなかった (「4」を選んだ方は設問65に進んで下さい。)	266	19.5
	無回答	5	0.4
	合計	1,367	100.0
59. そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 家庭教師	497人	45.3%
	2. 塾講師	341	31.1
	3. 試験監督・採点	139	12.7
	4. 特殊技術 (翻訳、通訳、プログラミング等) を要すること	49	4.5
	5. 一般事務	109	9.9
	6. 販売・セールス・サービス業	287	26.2
	7. 肉体労働	126	11.5
	8. 宿直・警備	17	1.6
	9. その他 ()	77	7.0
	無回答	1	0.1
	合計	1,096	100.0

60. アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	A. 時間 (往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。)	1,074人	98.0%	11.03時間
	無回答	22人	2.0%	合計 1,096人 100.0%
63. アルバイトの紹介者はだれでしたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	B. 収入額 (1ヶ月当たりの平均額を単位「千円」で記入してください。)	1,070人	97.6%	47.19千円
	無回答	26人	2.4%	合計 1,070人 100.0%
63. アルバイトの紹介者はだれでしたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学の担当事務	123人	11.5%	
	2. 指導教員	14	1.3	
	3. 内外学生センター	63	5.9	
	4. 新聞広告・アルバイト広告誌	197	18.4	
	5. インターネット	296	27.7	
	6. 友人・知人等	444	41.5	
	7. アルバイト先と直接	276	25.8	
	8. スーパー・銀行等の伝言板	13	1.2	
	9. その他 ()	60	5.6	
	無回答	5	0.5	
合計	1,096	100.0		
64. アルバイトをした理由はどれにありましたか。	1. 生活費を稼ぐため	362人	33.0%	
	2. 勉学費を稼ぐため	52	4.7	
	3. 学生生活を楽しむため	372	33.9	
	4. 社会経験のため	270	24.6	
	5. その他 ()	36	3.3	
	無回答	4	0.4	
合計	1,096	100.0		
65. アルバイトの収入は、何に使っていましたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費 (衣・食・住居費)	567人	51.7%	
	2. 授業料	25	2.3	
	3. 勉学費	120	10.9	
	4. 教養・娯楽費	744	67.9	
	5. 旅行 (帰省旅行も含む)	202	18.4	
	6. 技術・資格等取得の費用	15	1.4	
	7. 耐久消費財購入費用	30	2.7	
	8. 貯金	258	23.5	
	9. その他 ()	10	0.9	
	無回答	6	0.5	
合計	1,096	100.0		
◎設問58で「1」または「3」と答えた方のみ	1. かなり妨げになる (なった)	89人	9.5%	
64. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんか (でした) か。	2. 多少妨げになる (なった)	432	46.3	
	3. 妨げにならない (なかった)	351	37.6	
	無回答	61	6.5	
合計	933	100.0		

65. 現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	1. かなり楽な方	351人	25.7%
	2. やや楽な方	286	20.9
	3. 普通	472	34.5
	4. やや苦しい方	193	14.1
	5. 大変苦しい方	43	3.1
	6. 分からない	10	0.7
	無回答	12	0.9
合計	1,367	100.0	

XII. 生活時間について

66. あなたは、平日（月曜日～金曜日）に、右に挙げたことに、1日平均でどれくらいの時間を使いますか。	1. 睡眠	1,337人	6時間35分			
	2. 食事・団らん	1,323	1時間29分			
	3. 身のまわりの用事（洗顔・化粧・身支度・入浴）	1,326	1時間3分			
	4. アルバイト	696	1時間37分			
	5. 大学での学習	1,280	4時間50分			
	6. 自宅・図書館等での学習	1,123	1時間51分			
	7. 大学以外の教育機関での学習	130	1時間57分			
	8. 課外活動（サークル・部活動）	633	1時間37分			
	9. 家事	881	44分			
	10. 通学（往復）	1,316	1時間32分			
	11. 電話（携帯メールを含む）	1,008	25分			
	12. 会話・交際	1,106	55分			
	13. レジャー・スポーツ	374	46分			
	14. テレビ・ラジオ	999	1時間6分			
	15. 新聞・雑誌	836	29分			
	16. 読書	779	44分			
	17. CD・ビデオ・映画など	600	39分			
	18. インターネットやゲーム	1,115	1時間9分			
	19. その他	663	1時間36分			
67. どのくらい外食をしていますか。	1. 平日で一日2回以上	206人	15.1%	2. 平日で一日1回	447人	32.7%
	3. 週に3、4回	255	18.7	4. 週に1、2回	264	19.3
	5. ほとんど外食しない	153	11.2	無回答	42	3.1
	合計	1,367	100.0			
68. あなたの平均的な下校時間は何時位ですか。		1,339人	17時55分			

学生生活委員会学生生活調査室

平成18年11月現在

調査室長	森 建 資 (大学院経済学研究科・経済学部)
副調査室長	小 川 和 夫 (大学院農学生命科学研究科・農学部)
室 員	高 原 明 生 (大学院法学政治学研究科・法学部)
〃	森 憲 作 (大学院医学系研究科・医学部)
〃	内 藤 廣 (大学院工学系研究科・工学部)
〃	下 田 正 弘 (大学院人文社会系研究科・文学部)
〃	福 山 寛 (大学院理学系研究科・理学部)
〃	有 田 伸 (大学院総合文化研究科・教養学部)
〃	能 智 正 博 (大学院教育学研究科・教育学部)
〃	金 井 求 (大学院薬学系研究科・薬学部)
〃	吉 野 正 巳 (学生部)
〃	丸 山 正 美 (学生部)
調査集計担当	学生部キャリアサポートグループ

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1348 2006年12月7日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO